

小郡市 経営戦略課 御中

第6次小郡市総合振興計画後期基本計画 策定のための市民アンケート調査 結果報告書

Ver1.0

令和8年9月7日

地域創生Coデザイン研究所



➤ 本報告書の構成は以下の通り。

章	内容
はじめに	・ 調査対象・実施概要や設問一覧、標本分布などの基礎情報を掲示する。
第1章：属性設問	・ 回答者の性別・年齢・小学校区・居住年数などの属性を掲示する。
第2章：Well-Being設問（基礎集計【性年代別】）	・ Well-Being設問（51問）の全体スコアおよび性別・年代別のスコアを掲示する。 ・ 設問ごとの傾向をまとめ、簡易な考察を付記する。
第3章：Well-Being設問（属性別集計【性年代別】）	・ 性別×年代の全16セグメントについて、複数設問で共通して表れる特徴を分析する。
第4章：Well-Being設問（基礎集計【小学校区別】）	・ Well-Being設問（51問）の全体スコアおよび小学校区別のスコアを掲示する。
第5章：Well-Being設問（属性別集計【小学校区別】）	・ 小学校区ごとに、Well-Being設問の特徴的なスコアと地域特性を踏まえた考察をまとめる。
第6章：独自設問（基礎集計）	・ 小郡市独自の設問について、全体の回答結果を掲示する。
第7章：独自設問（クロス集計）	・ 独自設問について、年代別・小学校区別のクロス集計およびR1年度調査との経年比較を行う。
第8章：属性・独自設問×Well-Beingの傾向分析	・ 通勤先、居住年数、小学校区、世帯構成等の属性や、地域愛着、住みやすさ、定住意向等の独自設問の結果と、Well-Being指標との関係を分析する。
第9章：Well-Being因子分析	・ Well-Being因子ごとに分析する。 ・ デジタル庁のWell-Beingダッシュボード等から取得した主観偏差値と客観偏差値を用いる。 ・ Well-Being指標分析のフレームワークに沿った分析（一部弊社オリジナル）を実施し、示唆をまとめる。
第10章：因子間相関	・ 因子間の関係の強さを分析する。
第11章：まちづくりの論点	・ 第1章～第10章の結果を踏まえて、まちづくりにおける論点を整理する。
おわりに	・ 集計・分析結果を通して総括するとともに、今後に向けた提言をまとめる。

調査対象・実施概要

項目	内容
調査名称	第6次小郡市総合振興計画後期基本計画策定のための市民アンケート調査
目的	計画の策定にあたり、市民の暮らしの実感やまちへの想いを聞くため
期間	2026/7/13～2026/7/23
対象者	18歳以上の市民2,000人（無作為抽出）
送付方法	アンケート案内文の郵送
回答方法	郵送回答またはインターネット回答 ※インターネット回答は、郵送されたアンケート案内文に印字された二次元コードからWebサイト上で回答可能
設問数	78問 (地域幸福度（Well-Being）調査の規定の設問含む)
回答形式	単純選択/複数選択

はじめに 設問一覧①

設問No.	設問文	回答形式	回答選択肢
A. 属性（フェイスシート）			
A1	あなたの性別をお答えください。	SA	男性=1、女性=2、その他=3
A2	あなたの年齢（回答日現在）をお答えください。	数値	数字記入
A3	あなたの国籍を教えてください。	SA	日本国籍=1、日本国籍以外=2、回答しない=3
A4	あなたのお住まいの郵便番号をお答えください。	数値	数字記入
A5	あなたのお住まいの小学校区はどちらですか。	SA	小郡=1、大原=2、三国=3、立石=4、御原=5、味坂=6、東野=7、のぞみが丘=8
A6	あなたの通勤先・通学先はどちらですか。	SA	小郡市内=1、福岡市=2、久留米市=3、その他の福岡県内=4、鳥栖市（佐賀県）=5、その他の福岡県外=6、自宅（テレワーク・自営業・オンライン授業など）=7、通勤・通学していない=8
A7	あなたの世帯の構成（同居している方）について、どれに当たりますか。	SA	1人世帯=1、夫婦だけの1世代世帯=2、親と子の2世代世帯=3、親と子と孫の3世代世帯=4、その他の世帯=5
A8	あなたには、同居しているお子さんがいらっしゃいますか。	SA	いない=1、18歳未満の子がいる=2、18歳以上の子がいる=3、18歳未満の子と18歳以上の子が両方いる=4
A9	あなたは、小郡市にお住まいになって何年ですか。	SA	1年未満=1、1～4年=2、5～9年=3、10～19年=4、20年以上=5、生まれてからずっと=6
A10 (分岐)	【A9で「1」「2」「3」を選択された方（市にお住まいになって10年未満の方）】 あなた（家族）が、小郡市を転入先に選んだ理由は何ですか。（3つまで）	MA(3つまで)	通勤・通学が便利（公共交通の利便性が高い）=1、こども・子育て支援が充実している=2、教育や文化的な環境が良い=3、医療や福祉が充実している=4、自然環境が良い=5、日頃の買い物が便利=6、良い住宅物件があった（物件・土地の価格など）=7、治安が良く、安全である=8、親や子の家に近かった、あるいは同居することになった=9、その他（ ）=10

はじめに

設問一覧②

設問No.	設問文	回答形式	回答選択肢
B. 幸福度・生活満足度			
B1	現在、あなたはどの程度幸せですか。「とても幸せ」を10点、「とても不幸」を0点とすると、何点くらいになると思いますか。	11段階	とても幸せ=10 ~ とても不幸=0
B2	今から5年後、あなたはどの程度幸せだと思いますか。「とても幸せ」を10点、「とても不幸」を0点とすると、何点くらいになると思いますか。	11段階	とても幸せ=10 ~ とても不幸=0
B3	現在、あなたの住んでいる地域での生活にどの程度満足していますか。「とても満足」を10点、「とても不満足」を0点とすると、何点くらいになると思いますか。	11段階	とても満足=10 ~ とても不満足=0
B4	小都市に住んでいる人は、大体において、どれくらい幸せだと思いますか。「とても幸せ」を10点、「とても不幸」を0点とすると、何点くらいになると思いますか。	11段階	とても幸せ=10 ~ とても不幸=0、分からない=11
B5	自分だけでなく、身近なまわりの人も楽しい気持ちでいると思う	5段階	非常にあてはまる=5 ~ 全くあてはまらない=1

はじめに

設問一覧③

設問No.	設問文	回答形式	回答選択肢
C. 生活環境（16因子）			
C1	住んでいる地域は、医療機関が充実している	5段階	非常にあてはまる=5 ～ 全くあてはまらない=1
C2	住んでいる地域では、介護・福祉施設のサービスが受けやすい	5段階	非常にあてはまる=5 ～ 全くあてはまらない=1
C3	住んでいる地域は、日常の買い物にまったく不便がない	5段階	非常にあてはまる=5 ～ 全くあてはまらない=1
C4	住んでいる地域では、飲食を楽しめる場所が充実している	5段階	非常にあてはまる=5 ～ 全くあてはまらない=1
C5	自宅には、心地のいい居場所がある	5段階	非常にあてはまる=5 ～ 全くあてはまらない=1
C6	【逆転項目】自宅の近辺では、騒音に悩まされている	5段階	非常にあてはまる=1 ～ 全くあてはまらない=5（逆転）
C7	住んでいる地域では、適度な費用で住居を確保できる	5段階	非常にあてはまる=5 ～ 全くあてはまらない=1
C8	住んでいる地域では、公共交通機関で、好きな時に好きなところへ移動ができる	5段階	非常にあてはまる=5 ～ 全くあてはまらない=1
C9	住んでいる地域には、楽しい時間を過ごせる娯楽施設がある	5段階	非常にあてはまる=5 ～ 全くあてはまらない=1
C10	住んでいる地域では、こども・子育て支援・補助が手厚い	5段階	非常にあてはまる=5 ～ 全くあてはまらない=1
C11	住んでいる地域では、こどもたちがいきいきと暮らせる	5段階	非常にあてはまる=5 ～ 全くあてはまらない=1
C12	住んでいる地域では、教育環境（小中高校）が整っている	5段階	非常にあてはまる=5 ～ 全くあてはまらない=1
C13	住んでいる地域では、通学しやすい場所に学校がある	5段階	非常にあてはまる=5 ～ 全くあてはまらない=1
C14	住んでいる地域の行政は、地域のことを真剣に考えていると思う	5段階	非常にあてはまる=5 ～ 全くあてはまらない=1
C15	住んでいる地域の公共施設は使い勝手がよく便利である	5段階	非常にあてはまる=5 ～ 全くあてはまらない=1
C16	住んでいる地域では、行政サービスのデジタル化が進んでいる	5段階	非常にあてはまる=5 ～ 全くあてはまらない=1
C17	住んでいる地域では、仕事や日常生活の場でデジタルサービスを利用しやすい	5段階	非常にあてはまる=5 ～ 全くあてはまらない=1
C18	住んでいる地域の雰囲気は、自分にとって心地よい	5段階	非常にあてはまる=5 ～ 全くあてはまらない=1
C19	住んでいる地域には、まちなか、公園、川沿いなどで、心地よく歩ける場所がある	5段階	非常にあてはまる=5 ～ 全くあてはまらない=1
C20	住んでいる地域には、自慢できる都市景観がある	5段階	非常にあてはまる=5 ～ 全くあてはまらない=1
C21	住んでいる地域には、自慢できる自然景観がある	5段階	非常にあてはまる=5 ～ 全くあてはまらない=1
C22	住んでいる地域では、身近に自然を感じることができる	5段階	非常にあてはまる=5 ～ 全くあてはまらない=1
C23	住んでいる地域の空気や水は澄んでいてきれいだと感じる	5段階	非常にあてはまる=5 ～ 全くあてはまらない=1
C24	住んでいる地域では、リサイクルや再生可能エネルギー活用など、環境への取り組みが盛んである	5段階	非常にあてはまる=5 ～ 全くあてはまらない=1
C25	住んでいる地域では、防災対策がしっかりしている	5段階	非常にあてはまる=5 ～ 全くあてはまらない=1
C26	住んでいる地域は、防犯対策（交番・防犯灯・防犯カメラ・住民の見守りなど）が整っており、治安がよい	5段階	非常にあてはまる=5 ～ 全くあてはまらない=1
C27	住んでいる地域では、歩道や信号機が整備されていて安心である	5段階	非常にあてはまる=5 ～ 全くあてはまらない=1

設問No.	設問文	回答形式	回答選択肢
D. 地域の人間関係（2因子）			
D1	住んでいる地域の人たちを信頼している	5段階	非常にあてはまる=5 ～ 全くあてはまらない=1
D2	住んでいる地域では、地域活動（自治会・地域行事・防災活動など）への市民参加が盛んである	5段階	非常にあてはまる=5 ～ 全くあてはまらない=1
D3	住んでいる地域には、困ったときに相談できる人が身近にいる	5段階	非常にあてはまる=5 ～ 全くあてはまらない=1
D4	住んでいる地域の人困っていたら手助けをする	5段階	非常にあてはまる=5 ～ 全くあてはまらない=1
D5	住んでいる地域に対して愛着を持っている（好きだと思っている）	5段階	非常にあてはまる=5 ～ 全くあてはまらない=1
D6	住んでいる地域には、どんな人の意見でも受け入れる雰囲気がある	5段階	非常にあてはまる=5 ～ 全くあてはまらない=1
D7	あなたは、見知らぬ他者（知らない人）であっても信頼する	5段階	非常にあてはまる=5 ～ 全くあてはまらない=1
D8	住んでいる地域の人自分が自分をどう思っているかが気になる	5段階	非常にあてはまる=5 ～ 全くあてはまらない=1
D9	住んでいる地域には、女性が活躍しやすい雰囲気がある	5段階	非常にあてはまる=5 ～ 全くあてはまらない=1
D10	住んでいる地域には、若者が活躍しやすい雰囲気がある	5段階	非常にあてはまる=5 ～ 全くあてはまらない=1

設問No.	設問文	回答形式	回答選択肢
E. 自分らしい生き方（6因子）			
E1	自分のことを好ましく感じる（好きだと感じる）	5段階	非常にあてはまる=5 ～ 全くあてはまらない=1
E2	身体的に健康な状態である	5段階	非常にあてはまる=5 ～ 全くあてはまらない=1
E3	精神的に健康な状態である	5段階	非常にあてはまる=5 ～ 全くあてはまらない=1
E4	住んでいる地域は、文化・芸術・芸能が盛んで誇らしい	5段階	非常にあてはまる=5 ～ 全くあてはまらない=1
E5	将来生まれてくる世代（こども）のために、良い環境や文化を残したい	5段階	非常にあてはまる=5 ～ 全くあてはまらない=1
E6	住んでいる地域では、学びたいことを学べる機会がある	5段階	非常にあてはまる=5 ～ 全くあてはまらない=1
E7	住んでいる地域では、やりたい仕事を見つけやすい	5段階	非常にあてはまる=5 ～ 全くあてはまらない=1
E8	住んでいる地域では、適切な収入を得るための機会がある	5段階	非常にあてはまる=5 ～ 全くあてはまらない=1
E9	住んでいる地域には、新たな事に挑戦・成長するための機会がある	5段階	非常にあてはまる=5 ～ 全くあてはまらない=1

設問No.	設問文	回答形式	回答選択肢
F. 小郡市独自設問			
F1	あなたは、小郡市にどの程度愛着がありますか（好きだと思いますか）。	SA	とても愛着がある=1、やや愛着がある=2、あまり愛着がない=3、愛着がない=4
F2	あなたが小郡市で自慢できるもの・ひとは何ですか。（3つまで）	MA(3つまで)	将軍藤（大中臣神社）=1、七夕神社=2、城山公園（花立山）=3、宝満川=4、緑豊かな田園風景=5、旅籠油屋（松崎）=6、文化会館・図書館=7、小郡運動公園（陸上競技場など）=8、生涯学習センター=9、埋蔵文化財調査センター=10、あすてらす（満天の湯など）=11、九州歴史資料館=12、遺跡（小郡官衙遺跡他）=13、如意輪寺（かえる寺）=14、小郡市の偉人（高松凌雲、野田宇太郎）=15、ふるさと大使（スポーツ、文化、学術）=16、味坂ポピー祭り=17、小郡市民まつり=18、夢HANABI=19、スプリングフェスタ=20、おごおり冬まつり=21、鴨料理=22、大型ショッピングセンター=23、スイーツ=24、その他（ ）=25
F3	小郡市は「住みやすい」と思いますか。	SA	住みやすい=1、まあまあ住みやすい=2、あまり住みやすくない=3、住みにくい=4
F4	あなたは、これからも小郡市に「住み続けたい」と思いますか。	SA	ずっと住み続けたい=1、当分は住み続けたい=2、将来的に市外へ転居したい=3、すぐに市外へ転居したい=4、分からない=5
F5 (分岐A)	【F4で「1」「2」と回答した方】 住み続けたい理由として最も当てはまるものをお選びください。	SA	長年小郡市に住んでいて、地域になじんでいるから=1、買い物やお出かけなど日常生活に便利だから=2、福岡市や久留米市などに近く、通勤や通学にも便利だから=3、自然豊かで閑静な住環境など周囲の生活環境に満足しているから=4、保育所や学校などの子育て環境に満足しているから=5、その他（ ）=6
F5 (分岐B)	【F4で「3」「4」と回答した方】 転居したい理由として最も当てはまるものをお選びください。	SA	地域になじめないから=1、日常生活が不便だから=2、通勤や通学が不便だから（就職・就学を含む）=3、周囲の生活環境が悪いから=4、就労の場がないから=5、商業や娯楽施設が少ないから=6、その他（ ）=7
F6	今後のまちづくりについて、小郡市をどのような特色のあるまちにすべきたと思いますか。（3つまで）	MA(3つまで)	祭りなどのイベントが多く楽しいまち=1、人に優しい福祉・保健・医療の充実したまち=2、一人ひとりの人権を大切にするまち=3、生涯学習や芸術・文化活動が活発なまち=4、快適な住宅・生活環境のまち=5、農業を中心として発展するまち=6、商工業（企業誘致や地場産業など）を中心として発展するまち=7、水や緑を大切にする自然環境を保全するまち=8、歴史資源なども活用した観光施設が充実した観光のまち=9、防災・交通安全対策が充実した安全・安心なまち=10、こども・子育て支援や学校教育が充実したまち=11、人や地域とつながり支えあうまち=12、ハラスメントのないまち=13、その他（ ）=14

設問No.	設問文	回答形式	回答選択肢
F. 小郡市独自設問			
F7	小郡市の都市機能・都市基盤整備に向けて、今後どのようなことに取り組むべきだと思いますか。（2つまで）	MA(2つまで)	道路、駅前広場、橋など生活基盤の整備=1、歩道やガードレール設置などによる交通安全対策の推進=2、地域住民や団体などによる安心・安全ネットワークの強化（防災防犯、見守り）=3、地域での自主防災組織の整備や防災マップの充実=4、消防体制、消防団活動の充実・強化=5、ICT（情報通信技術）の活用、申請や申込みなどの電子化=6、豪雨などの災害対策の推進=7
F8	小郡市の産業振興に向けて、今後どのようなことに取り組むべきだと思いますか。（2つまで）	MA(2つまで)	農業者の担い手育成などの農業振興の推進=1、安全な農産物の生産と地産地消の促進=2、商工業者への支援と活性化対策=3、企業誘致の推進=4、地場産ブランドの育成などブランディングの推進=5、観光客増加への取組=6、歴史的文化遺産の保存・整備活用の推進=7
F9	小郡市の居住環境の充実に向けて、今後どのようなことに取り組むべきだと思いますか。（2つまで）	MA(2つまで)	地球温暖化対策への積極的な取組=1、資源ごみリサイクルのさらなる推進に向けた取組=2、再生可能エネルギー導入や省エネルギーの推進=3、景観や緑を残すための景観保全活動への取組=4、公園や広場、校区コミュニティセンターなど安心して活動できる場所の整備=5、上下水道の整備・促進=6、空き家の適正な管理と利活用の促進=7、ペットの飼育マナーの向上=8
F10	小郡市の健康・医療の充実に向けて、今後どのようなことに取り組むべきだと思いますか。（2つまで）	MA(2つまで)	生活習慣病の予防に向けた取組やがん検診の受診率向上=1、医療機関などの地域資源を活用した健康づくり=2、食生活の改善などの食育の推進=3、地域医療体制の充実=4、生活弱者に対する医療費公費負担などの経済的支援=5、市民参画による健康づくり活動の充実=6、感染症予防対策の充実=7
F11	小郡市のこども・子育て支援の充実に向けて、今後どのようなことに取り組むべきだと思いますか。（2つまで）	MA(2つまで)	子育て支援センターなどの整備充実=1、児童虐待の防止=2、保育所（園）・幼稚園の充実=3、学童保育所などの放課後児童対策の充実=4、乳幼児健診などの充実=5、妊娠・出産・子育ての切れ目ない相談支援体制（こども家庭支援センター）の充実=6、こどもの貧困対策=7、地域でのこどもの居場所づくりやこども食堂の充実=8

設問No.	設問文	回答形式	回答選択肢
F. 小郡市独自設問			
F12	小郡市の高齢者・障がい者・地域福祉の充実に向けて、今後どのようなことに取り組むべきだと思いますか。（3つまで）	MA(3つまで)	「あすてらす」や校区コミュニティセンターを拠点とした高齢者の健康づくり活動の推進=1、元気に暮らし続けるための地域での介護予防事業の展開=2、身の回りの世話や身体介護が充実した介護施設の整備=3、認知症高齢者などにやさしい地域づくり=4、在宅介護を支える介護保険事業の充実=5、地域社会全体で高齢者を支えるまちづくりの推進=6、高齢者・障がい者虐待の防止=7、障がい者の雇用、就業の促進=8、障がい者に対する理解を促進するための教育、啓発=9、ユニバーサルデザインの促進=10、地域福祉活動の促進や担い手の確保=11
F13	小郡市の学校教育の充実に向けて、今後どのようなことに取り組むべきだと思いますか。（3つまで）	MA(3つまで)	幼稚園・保育所と小学校の連携、小学校と中学校の連携=1、ICT教育の充実=2、小学校の英語活動の充実=3、スクールカウンセラー、スクールソーシャルワーカーの配置の充実=4、いじめ、不登校の早期発見、早期対応、早期解消や未然防止に向けた取組の充実=5、部活動の地域展開の推進=6、学校給食を生かし、家庭・地域と連携した食育の推進=7、登下校を含む安全な学校生活の確保=8、学校と地域との連携強化（小中9年間を一貫させたコミュニティ・スクールの充実や学校支援ボランティアなど）=9、校舎の整備など教育環境の整備=10、小規模校の魅力化など特色ある学校づくりの推進=11、様々な差別をなくすための人権教育・啓発の推進=12
F14	小郡市の生涯学習・地域文化の充実に向けて、今後どのようなことに取り組むべきだと思いますか。（2つまで）	MA(2つまで)	文化会館、運動公園などの既存施設及び新体育館を活用した文化・スポーツ活動の振興=1、市民の生涯学習活動への積極的な支援=2、ニーズや課題に応じた多様な学習機会や成果発表の場の提供=3、人権のまちづくりの推進=4、図書館機能の充実=5、文化財保護活動や活用の推進=6、男女共同参画社会の実現に向けた取組の推進=7、国際交流・多文化共生の推進=8、デジタル・ディバイド解消に資する学習機会の提供=9
F15	小郡市の行財政運営や地方自治体制について、今後どのようなことに取り組むべきだと思いますか。（3つまで）	MA(3つまで)	公共事業を削減し、借金（地方債の発行）を抑制=1、税や使用料など住民負担が増加しても、各種行政サービスを維持・充実強化=2、近隣自治体との連携協力による行政事務の効率化=3、小学校区を単位とした住民の協働のまちづくりの推進=4、NPO・ボランティアとの積極的な協働の推進=5、民間企業との積極的な連携の推進=6、徹底した情報公開と市民の市政への参加機会の拡充=7、広報・広聴の充実=8、職員の意識改革と、意欲と能力にあふれた人材の育成=9、デジタル技術活用や業務改善による効率化=10
F16	あなたは、市内や地域でどのような活動に参加し、協力したいと思いますか。今後参加したいものをお選びください。（当てはまるものすべて）	MA	コミュニティ活動（自治会や地域活動など）=1、防災・防犯活動=2、福祉活動（高齢者、障がい者支援など）=3、女性団体活動=4、人権擁護活動=5、スポーツ活動=6、芸術・文化活動=7、環境美化運動=8、歴史・文化遺産保存活動=9、青少年育成活動=10、まちおこし活動=11、こどもの居場所づくりやこども食堂=12、参加したくない=13、その他=14

設問No.	設問文	回答形式	回答選択肢
G. 自由記述			
G1	小都市の行政やまちづくりに関して、ご意見がありましたらご記入ください。	FA	自由記述

はじめに

標本分布

- アンケートの回答数は803件であり、回収率は40.2%であった。
- 標本分布は以下の通り。

回収率

送付数：2,000通

回答数：803件
(内訳)

郵送：399件

Web：404件

回収率：40.2%

標
本
数

	男性	女性	その他	無回答	合計
10代	4	8	0	0	12
20代	26	29	0	0	55
30代	48	61	0	0	109
40代	58	69	1	0	128
50代	67	85	0	0	152
60代	81	81	0	0	162
70代	48	49	0	0	97
80代以上	38	27	0	0	65
無回答	10	10	0	3	23
合計	380	419	1	3	803

標
本
割
合

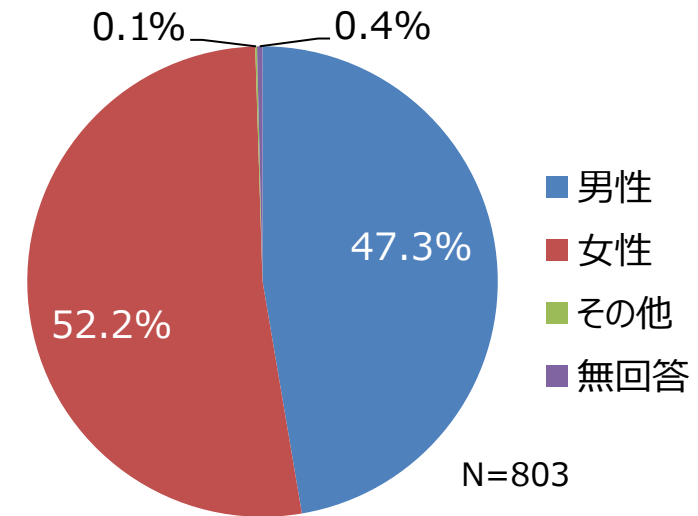
	男性	女性	その他	無回答	合計
10代	0.5%	1.0%	0.0%	0.0%	1.5%
20代	3.2%	3.6%	0.0%	0.0%	6.8%
30代	6.0%	7.6%	0.0%	0.0%	13.6%
40代	7.2%	8.6%	0.1%	0.0%	15.9%
50代	8.3%	10.6%	0.0%	0.0%	18.9%
60代	10.1%	10.1%	0.0%	0.0%	20.2%
70代	6.0%	6.1%	0.0%	0.0%	12.1%
80代以上	4.7%	3.4%	0.0%	0.0%	8.1%
無回答	1.2%	1.2%	0.0%	0.4%	2.9%
合計	47.3%	52.2%	0.1%	0.4%	100.0%

第1章：属性設問

- 回答者の性別は、男性が47.3%、女性が52.2%であり、女性の割合がやや高くなっている。

A1．あなたの性別をお答えください。

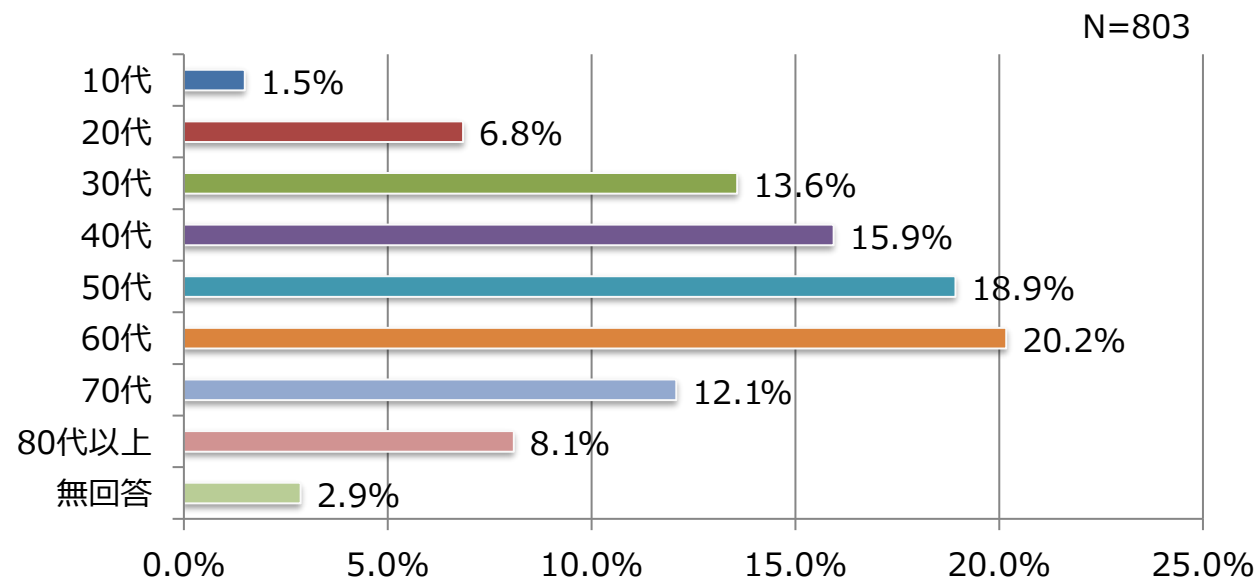
選択肢	件数	割合
男性	380	47.3%
女性	419	52.2%
その他	1	0.1%
無回答	3	0.4%



- 回答者の年齢は、60代の回答者の割合が20.2%と最も高く、次いで50代（18.9%）、40代（15.9%）となっている。

A2. あなたの年齢（回答日現在）をお答えください。

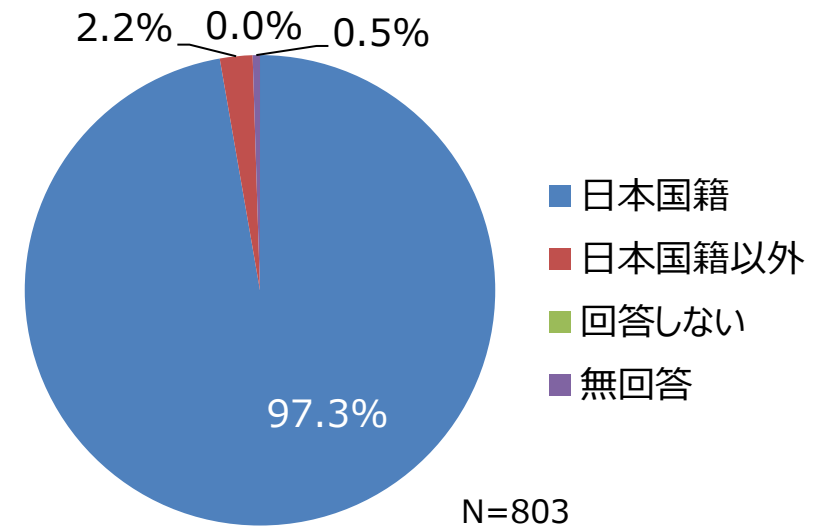
選択肢	件数	割合
10代	12	1.5%
20代	55	6.8%
30代	109	13.6%
40代	128	15.9%
50代	152	18.9%
60代	162	20.2%
70代	97	12.1%
80代以上	65	8.1%
無回答	23	2.9%



- 回答者の国籍は、日本国籍が97.3%、日本国籍以外が2.2%であり、大部分が日本国籍となっている。

A3. あなたの国籍を教えてください。

選択肢	件数	割合
日本国籍	781	97.3%
日本国籍以外	18	2.2%
回答しない	0	0.0%
無回答	4	0.5%



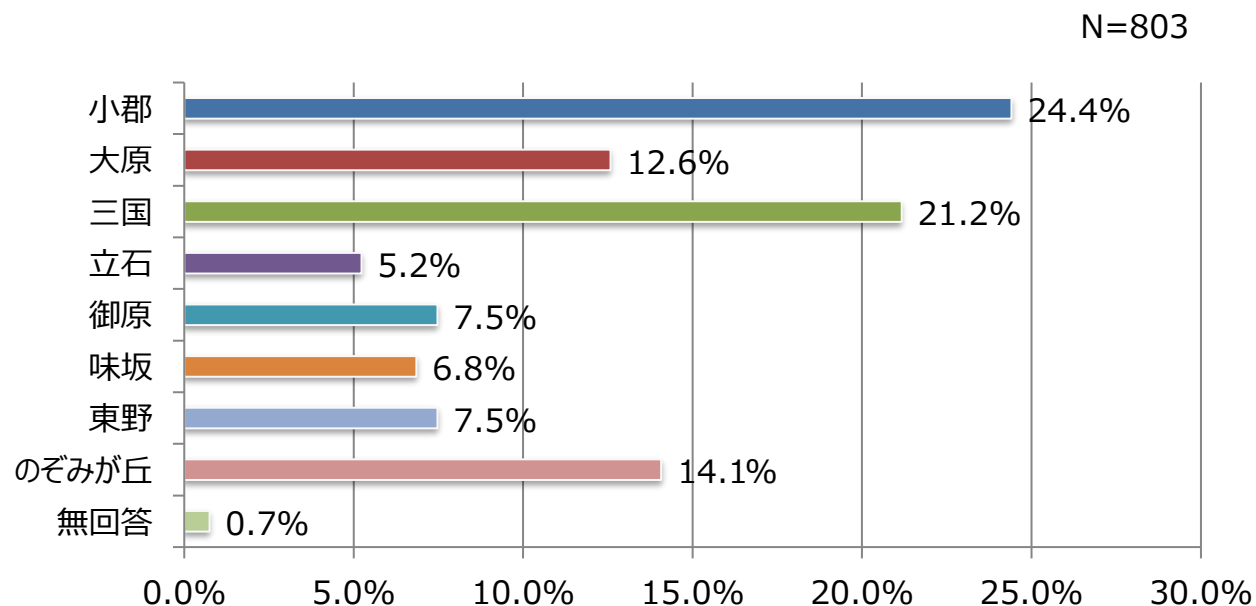
※次の設問「A4. あなたのお住まいの郵便番号をお答えください。」は集計を割愛。

1.4 A5 小学校区

- 回答者の小学校区は、小郡小学校区の割合が24.4%と最も高く、次いで三国小学校区（21.2%）、のぞみが丘小学校区（14.1%）となっている。

A5．あなたのお住まいの小学校区はどちらですか。

選択肢	件数	割合
小郡	196	24.4%
大原	101	12.6%
三国	170	21.2%
立石	42	5.2%
御原	60	7.5%
味坂	55	6.8%
東野	60	7.5%
のぞみが丘	113	14.1%
無回答	6	0.7%

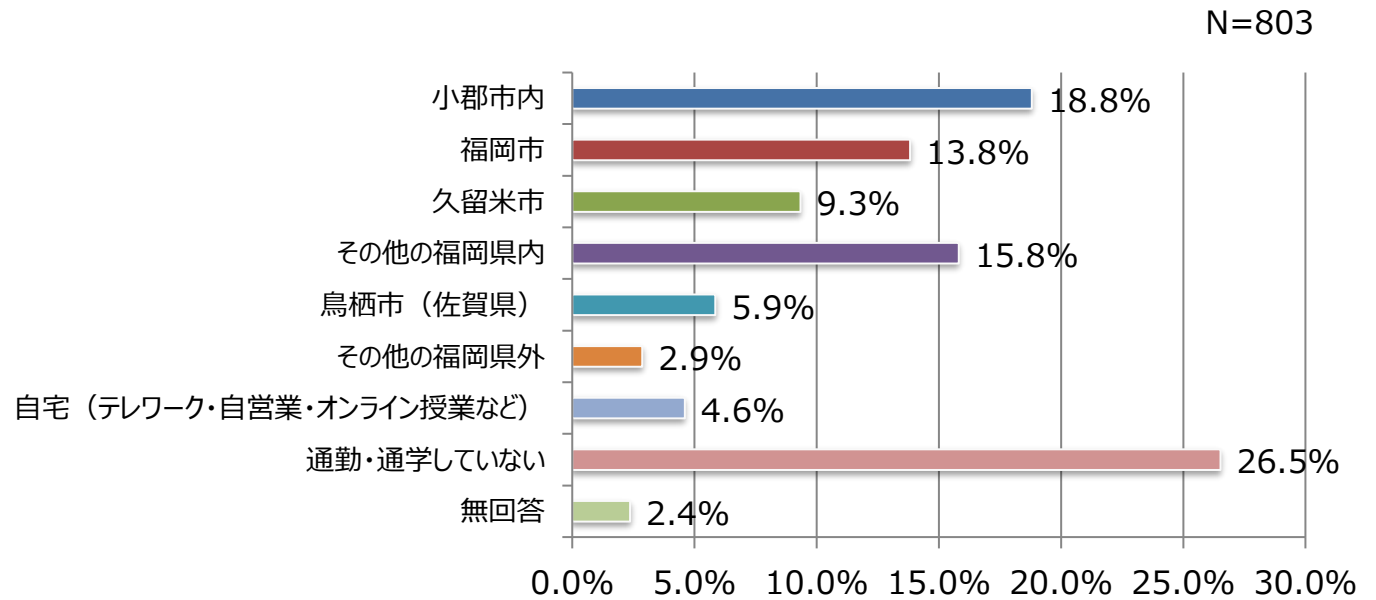


1.5 A6 通勤先・勤務先

- 回答者の通勤先・勤務先は、「通勤・通学していない」の割合が26.5%と最も高く、次いで「小郡市内」(18.8%)、「その他の福岡県内」(15.8%)となっている。

A6. あなたの通勤先・通学先はどちらですか。

選択肢	件数	割合
小郡市内	151	18.8%
福岡市	111	13.8%
久留米市	75	9.3%
その他の福岡県内	127	15.8%
鳥栖市（佐賀県）	47	5.9%
その他の福岡県外	23	2.9%
自宅（テレワーク・自営業・オンライン授業など）	37	4.6%
通勤・通学していない	213	26.5%
無回答	19	2.4%

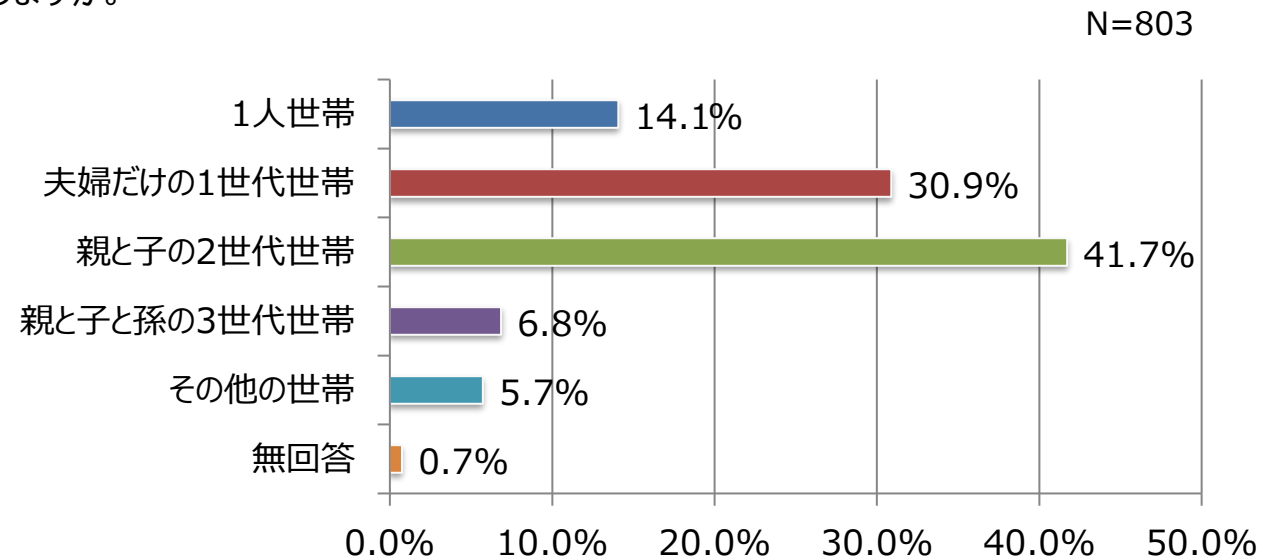


1.6 A7 世帯構成

- 回答者の世帯構成は、「親と子の2世代世帯」の割合が41.7%と最も高く、次いで「夫婦だけの1世代世帯」(30.9%)、「1人世帯」(14.1%)となっている。

A7. あなたの世帯の構成（同居している方）について、どれに当たりますか。

選択肢	件数	割合
1人世帯	113	14.1%
夫婦だけの1世代世帯	248	30.9%
親と子の2世代世帯	335	41.7%
親と子と孫の3世代世帯	55	6.8%
その他の世帯	46	5.7%
無回答	6	0.7%

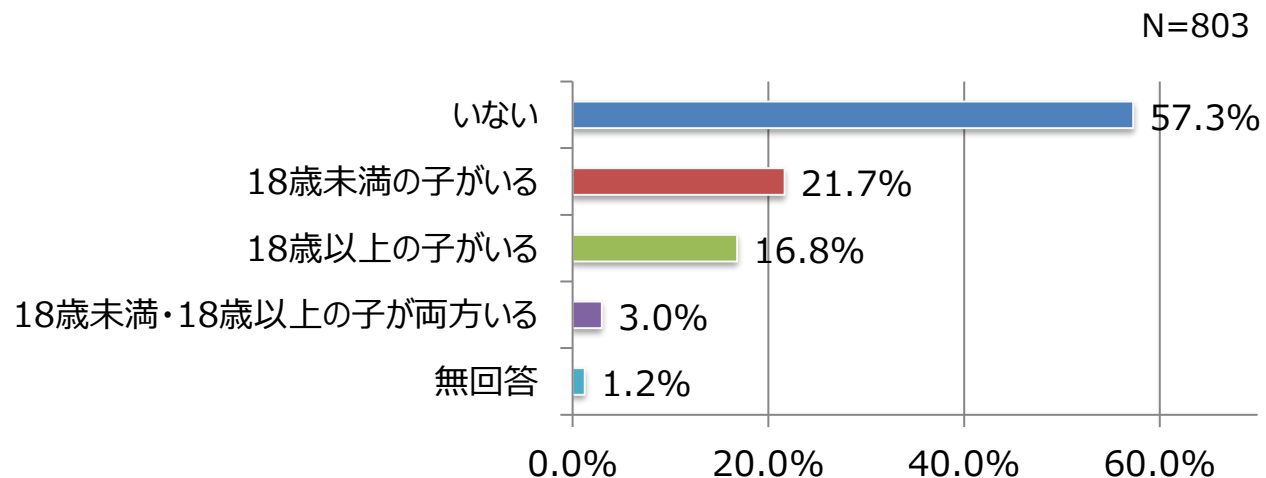


1.7 A8 同居している子ども

- 回答者と同居している子どもについては、「いない」の割合が57.3%と最も高く、半数以上を占めている。次いで「18歳未満の子がいる」（21.7%）、「18歳以上の子がいる」（16.8%）となっている。

A8．あなたには、同居しているお子さんがいらっしゃいますか。

選択肢	件数	割合
いない	460	57.3%
18歳未満の子がいる	174	21.7%
18歳以上の子がいる	135	16.8%
18歳未満・18歳以上の子が両方いる	24	3.0%
無回答	10	1.2%

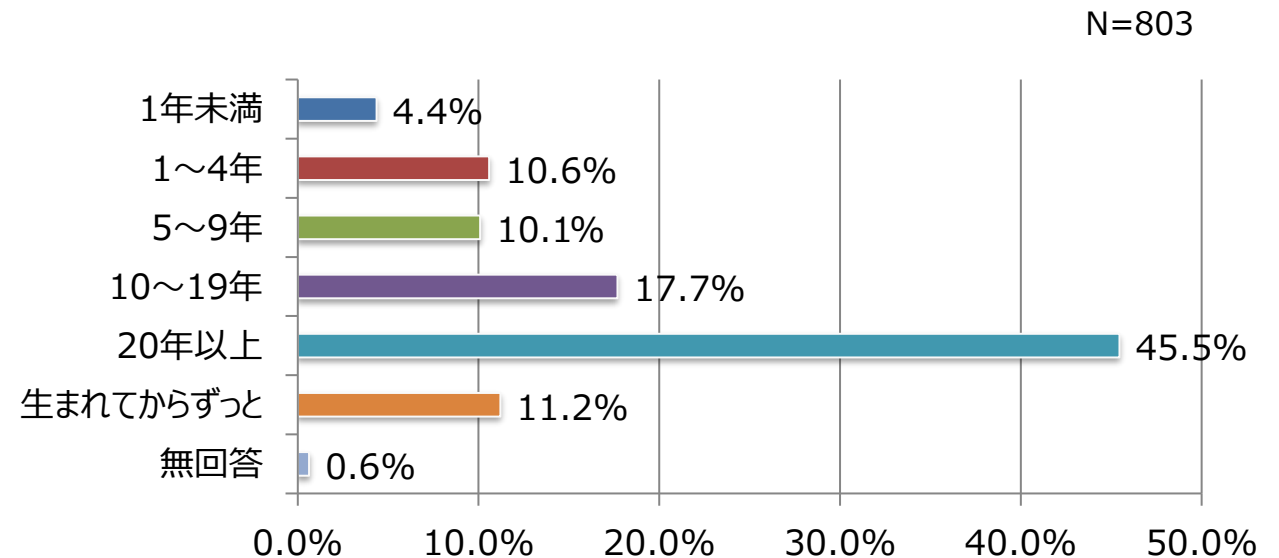


1.8 A9 居住年数

- 回答者の居住年数は、「20年以上」が45.5%と最も高く、次いで「10～19年」（17.7%）、「生まれてからずっと」（11.2%）となっている。
- 「生まれてからずっと」を含め、10年以上小郡市に住んでいる人の割合は74.3%である。

A9. あなたは、小郡市にお住まいになって何年ですか。

選択肢	件数	割合
1年未満	35	4.4%
1～4年	85	10.6%
5～9年	81	10.1%
10～19年	142	17.7%
20年以上	365	45.5%
生まれてからずっと	90	11.2%
無回答	5	0.6%



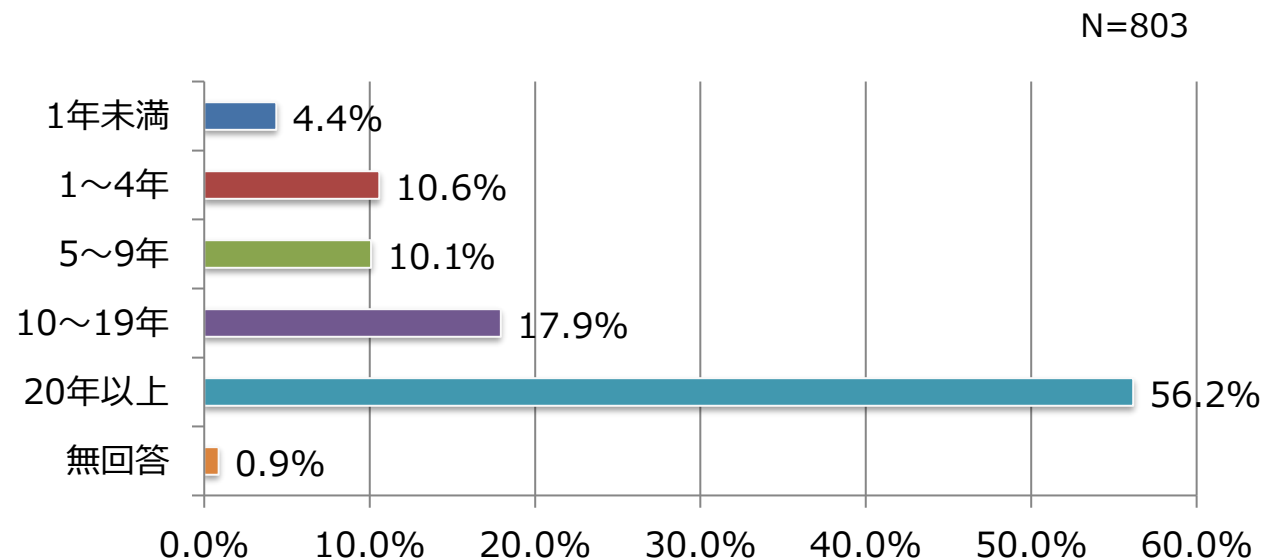
(参考) A9 居住年数

- 「生まれてからずっと」と回答した方について、年齢から居住年数を算出し集計した結果は以下の通り。
- 「20年以上」の割合は56.2%であり、過半数を占めている。

A9. あなたは、小郡市にお住まいになって何年ですか。

選択肢	件数	割合
1年未満	35	4.4%
1～4年	85	10.6%
5～9年	81	10.1%
10～19年	144	17.9%
20年以上	451	56.2%
無回答	7	0.9%

※「生まれてからずっと」を回答した者のうち、年齢が無回答である回答者は、無回答として分類している。



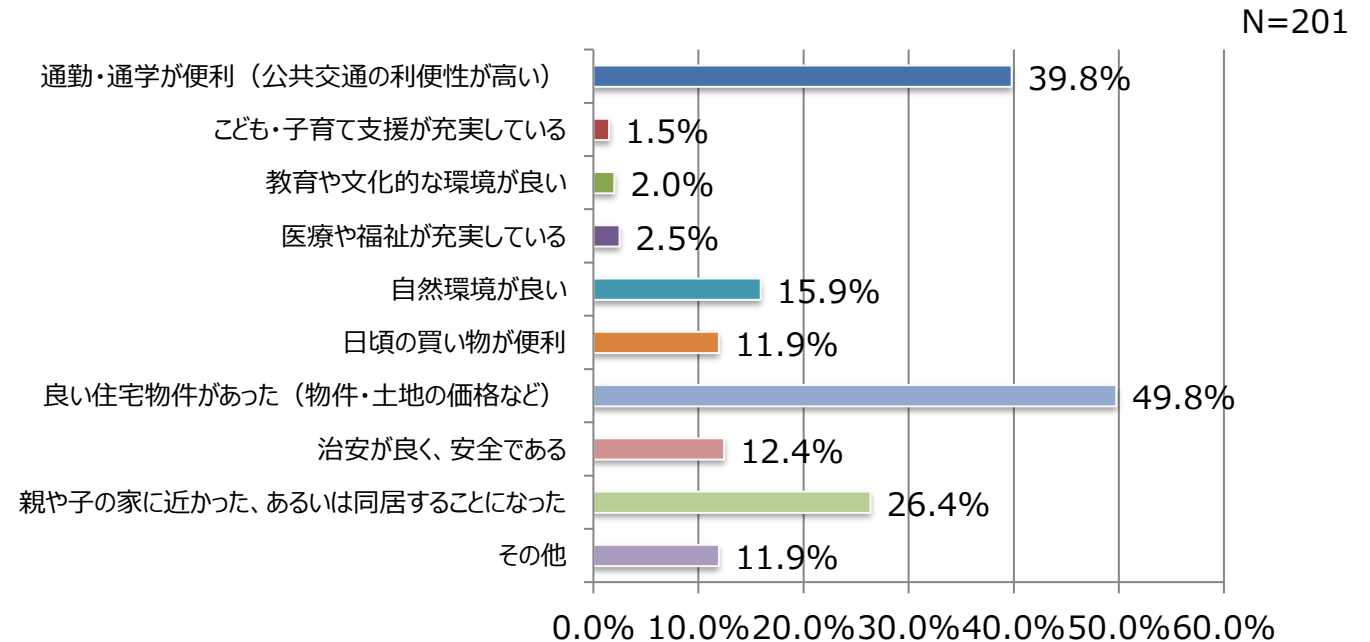
1.9 A10 転入理由（分岐設問）

- 転入者が小郡市を転入先に選んだ理由は、「良い住宅物件があった」の割合が49.8%と最も高く、次いで「通勤・通学が便利」（39.8%）、「親や子の家に近かった、あるいは同居することになった」（26.4%）となっている。

A10. 【A9で①②③を選択された方（市にお住まいになって10年未満の方）】あなた（家族）が、小郡市を転入先に選んだ理由は何ですか。（3つまで）

選択肢	件数	割合
通勤・通学が便利（公共交通の利便性が高い）	80	39.8%
こども・子育て支援が充実している	3	1.5%
教育や文化的な環境が良い	4	2.0%
医療や福祉が充実している	5	2.5%
自然環境が良い	32	15.9%
日頃の買い物が便利	24	11.9%
良い住宅物件があった（物件・土地の価格など）	100	49.8%
治安が良く、安全である	25	12.4%
親や子の家に近かった、あるいは同居することになった	53	26.4%
その他	24	11.9%

※「その他」の回答：「転勤のため」「実家の管理のため」など



第2章：Well-Being設問（基礎集計【性年代別】）

2.1 設問別スコア：総合指標

- B1（幸福度）は全体7.00点、B3（生活満足度）は6.42点、B4（地域幸福感）は6.19点である。
- 性別による差はほとんどなく（女性が全設問でわずかに上回る程度）、年代別では若年層（10代～20代）が高く、高齢層（70代）で低い傾向にあり、B4（地域幸福感）では10代と70代で1.72ptの開きがある。

赤枠：高い値
青枠：低い値

設問番号	カテゴリ	Well-Being因子	設問文	全体	属性別(性別)			属性別(年代)								無回答
					男性	女性	その他	10代	20代	30代	40代	50代	60代	70代	80代以上	
B1	幸福度・満足度		現在、あなたはどの程度幸せですか。「とても幸せ」を10点、「とても不幸」を0点とすると、何点くらいになると思いますか。	7.00	6.98	7.01	7.00	7.42	7.56	7.02	6.98	6.90	7.10	6.31	7.25	8件 (1%)
B2	幸福度・満足度		今から5年後、あなたはどの程度幸せだと思いますか。「とても幸せ」を10点、「とても不幸」を0点とすると、何点くらいになると思いますか。	6.74	6.70	6.77	7.00	6.42	6.98	7.29	6.87	6.69	6.76	6.00	6.45	8件 (1%)
B3	幸福度・満足度		現在、あなたの住んでいる地域での生活にどの程度満足していますか。「とても満足」を10点、「とても不満足」を0点とすると、何点くらいになると思いますか。	6.42	6.36	6.46	8.00	6.83	7.09	6.10	6.27	6.36	6.55	6.08	6.86	8件 (1%)
B4	幸福度・満足度		小郡市に住んでいる人は、大体において、どれくらい幸せだと思いますか。「とても幸せ」を10点、「とても不幸」を0点とすると、何点くらいになると思いますか。	6.19	6.15	6.22	データなし	7.50	6.87	6.24	5.94	6.20	6.15	5.78	6.43	7件 (1%)
B5	幸福度・満足度		自分だけでなく、身近なまわりの人も楽しい気持ちでいると思う	3.33	3.30	3.35	3.00	3.75	3.67	3.49	3.24	3.27	3.22	3.16	3.47	12件 (1%)

※B4（地域幸福感）において、「わからない」を選んだ回答は89件（11.1%）

2.2.1 設問別スコア：生活環境①

- C5～C6（住宅環境）は相対的に高いスコアを示す一方、C4（買物・飲食）は低位に留まる。
- 医療・福祉は高齢層で高く30～50代の現役世代で低いため、現役・子育て世代の生活実感の課題として表れている。

赤枠：高い値
青枠：低い値

設問番号	カテゴリ	Well-Being因子	設問文	全体	属性別(性別)			属性別(年代)								無回答
					男性	女性	その他	10代	20代	30代	40代	50代	60代	70代	80代以上	
C1	生活環境	医療・福祉	住んでいる地域は、医療機関が充実している	3.15	3.20	3.11	4.00	3.75	3.18	2.94	3.05	2.97	3.12	3.32	3.73	9件 (1%)
C2	生活環境	医療・福祉	住んでいる地域では、介護・福祉施設のサービスが受けやすい	2.92	2.89	2.94	4.00	3.42	3.17	2.82	2.86	2.74	2.84	2.87	3.48	19件 (2%)
C3	生活環境	買物・飲食	住んでいる地域は、日常の買い物にまったく不便がない	3.31	3.38	3.24	5.00	3.67	3.38	3.28	3.37	3.17	3.33	3.26	3.42	6件 (1%)
C4	生活環境	買物・飲食	住んでいる地域では、飲食を楽しめる場所が充実している	2.34	2.40	2.27	3.00	2.83	2.58	2.44	2.28	2.19	2.22	2.43	2.44	6件 (1%)
C5	生活環境	住宅環境	自宅には、心地のいい居場所がある	3.84	3.81	3.88	3.00	4.08	4.13	3.90	4.09	3.81	3.68	3.55	3.86	7件 (1%)
C6	生活環境	住宅環境	【逆転項目】自宅の近辺では、騒音に悩まされている	3.76	3.69	3.82	4.00	4.00	3.91	3.75	3.64	3.75	3.80	3.69	3.80	8件 (1%)
C7	生活環境	住宅環境	住んでいる地域では、適度な費用で住居を確保できる	3.10	3.12	3.08	3.00	3.33	3.27	3.25	3.17	2.98	2.97	2.85	3.38	21件 (3%)

2.2.2 設問別スコア：生活環境②

- C12～C13（初等・中等教育）は相対的に高いスコアを示す一方、C9（遊び・娯楽）は全設問中でも最低水準にあり、日常的な余暇・娯楽環境の不足が顕著。
- C10（子育て）は当事者である30代で最低であり、支援を必要とする世代の満足度が低い。

赤枠：高い値
青枠：低い値

設問番号	カテゴリ	Well-Being因子	設問文	全体	属性別(性別)			属性別(年代)								無回答
					男性	女性	その他	10代	20代	30代	40代	50代	60代	70代	80代以上	
C8	生活環境	移動・交通	住んでいる地域では、公共交通機関で、好きな時に好きなところへ移動ができる	3.01	3.00	3.02	4.00	3.83	3.45	3.31	3.09	2.86	2.82	2.75	3.06	9件 (1%)
C9	生活環境	遊び・娯楽	住んでいる地域には、楽しい時間を過ごせる娯楽施設がある	1.99	1.98	2.00	2.00	2.92	1.96	2.10	1.94	1.86	1.91	2.01	2.16	10件 (1%)
C10	生活環境	子育て	住んでいる地域では、こども・子育て支援・補助が手厚い	2.65	2.65	2.65	3.00	3.17	2.87	2.38	2.67	2.60	2.72	2.59	2.96	28件 (3%)
C11	生活環境	子育て	住んでいる地域では、こどもたちがいきいきと暮らせる	3.11	3.09	3.12	3.00	3.67	3.35	3.11	3.09	3.13	3.04	2.86	3.19	21件 (3%)
C12	生活環境	初等・中等教育	住んでいる地域では、教育環境(小中高校)が整っている	3.30	3.29	3.30	2.00	3.67	3.60	3.20	3.23	3.28	3.19	3.28	3.53	17件 (2%)
C13	生活環境	初等・中等教育	住んでいる地域では、通学しやすい場所に学校がある	3.42	3.38	3.45	5.00	4.00	3.53	3.39	3.34	3.49	3.24	3.49	3.62	14件 (2%)

2.2.3 設問別スコア：生活環境③

- C18～C19（公共空間）は相対的に高く、身近な生活空間の快適性は支持されている。
- 一方、C20（都市景観）やC16～C17（デジタル生活）が低位で、地域の都市景観や行政・生活のデジタル化に課題感がある。

 赤枠：高い値
 青枠：低い値

設問番号	カテゴリ	Well-Being因子	設問文	全体	属性別(性別)			属性別(年代)								無回答
					男性	女性	その他	10代	20代	30代	40代	50代	60代	70代	80代以上	
C14	生活環境	地域行政	住んでいる地域の行政は、地域のことを真剣に考えていると思う	2.88	2.78	2.96	3.00	3.33	3.05	2.77	2.92	2.81	2.74	2.87	3.23	10件 (1%)
C15	生活環境	地域行政	住んでいる地域の公共施設は使い勝手がよく便利である	2.72	2.62	2.82	2.00	3.33	3.00	2.75	2.74	2.67	2.54	2.75	2.87	14件 (2%)
C16	生活環境	デジタル生活	住んでいる地域では、行政サービスのデジタル化が進んでいる	2.64	2.59	2.68	3.00	3.50	2.84	2.56	2.55	2.53	2.61	2.62	2.94	23件 (3%)
C17	生活環境	デジタル生活	住んでいる地域では、仕事や日常生活の場でデジタルサービスを利用しやすい	2.57	2.51	2.62	3.00	3.50	2.85	2.54	2.55	2.45	2.46	2.60	2.75	27件 (3%)
C18	生活環境	公共空間	住んでいる地域の雰囲気は、自分にとって心地よい	3.47	3.45	3.49	4.00	4.00	3.75	3.56	3.50	3.50	3.37	3.14	3.59	11件 (1%)
C19	生活環境	公共空間	住んでいる地域には、まちなか、公園、川沿いなどで、心地よく歩ける場所がある	3.31	3.28	3.33	2.00	4.00	3.62	3.37	3.23	3.39	3.04	3.17	3.58	8件 (1%)
C20	生活環境	都市景観	住んでいる地域には、自慢できる都市景観がある	2.38	2.33	2.42	5.00	2.83	2.36	2.39	2.28	2.40	2.26	2.41	2.60	14件 (2%)

2.2.4 設問別スコア：生活環境④

- C22～C23（自然の恵み）は相対的に高く、自然環境が強みとなっている。
- 一方、C21（自然景観）やC26（事故・犯罪）はやや低く、景観の誇りや体感治安に改善余地がある。

赤枠：高い値
青枠：低い値

設問番号	カテゴリ	Well-Being因子	設問文	全体	属性別(性別)			属性別(年代)								無回答
					男性	女性	その他	10代	20代	30代	40代	50代	60代	70代	80代以上	
C21	生活環境	自然景観	住んでいる地域には、自慢できる自然景観がある	2.76	2.63	2.86	4.00	3.25	2.69	2.78	2.69	2.92	2.67	2.59	2.88	12件 (1%)
C22	生活環境	自然の恵み	住んでいる地域では、身近に自然を感じることができる	3.44	3.36	3.51	3.00	3.92	3.78	3.57	3.46	3.51	3.27	3.24	3.35	11件 (1%)
C23	生活環境	自然の恵み	住んでいる地域の空気や水は澄んでいてきれいだと感じる	3.19	3.19	3.17	4.00	3.75	3.31	3.05	3.09	3.26	3.10	3.14	3.41	9件 (1%)
C24	生活環境	環境共生	住んでいる地域では、リサイクルや再生可能エネルギー活用など、環境への取組みが盛んである	3.01	2.94	3.07	3.00	3.50	3.09	2.91	2.93	3.06	2.87	3.01	3.40	10件 (1%)
C25	生活環境	自然災害	住んでいる地域では、防災対策がしっかりしている	2.93	2.87	2.99	2.00	3.67	3.04	2.84	2.88	2.93	2.79	2.93	3.27	5件 (1%)
C26	生活環境	事故・犯罪	住んでいる地域は、防犯対策(交番・防犯灯・防犯カメラ・住民の見守りなど)が整っており、治安がよい	2.79	2.77	2.80	1.00	3.42	3.00	2.78	2.69	2.80	2.61	2.77	3.03	6件 (1%)
C27	生活環境	事故・犯罪	住んでいる地域では、歩道や信号機が整備されていて安心である	2.98	2.93	3.01	3.00	4.17	3.42	3.01	2.77	2.88	2.84	2.92	3.33	5件 (1%)

2.3.1 設問別スコア：地域の人間関係①

- D1（住民同士の信頼） D4（互助意識）、D5（地域への愛着）はいずれも高く、地域コミュニティの結束や愛着は比較的強い。一方、D3（相談相手の存在）が最も低く、いざというときの身近な支え合いには課題が残る。
- 地域とのつながり関連は80代以上が高く、D3では60代が最低で、80代以上と0.63ptの開きがある。

赤枠：高い値
青枠：低い値

設問番号	カテゴリ	Well-Being因子	設問文	全体	属性別(性別)			属性別(年代)								無回答
					男性	女性	その他	10代	20代	30代	40代	50代	60代	70代	80代以上	
D1	地域の人間関係	地域とのつながり	住んでいる地域の人たちを信頼している	3.25	3.23	3.26	4.00	3.83	3.36	3.21	3.11	3.23	3.30	3.09	3.52	4件 (0%)
D2	地域の人間関係	地域とのつながり	住んでいる地域では、地域活動(自治会・地域行事・防災活動など)への市民参加が盛んである	3.08	3.04	3.10	2.00	3.42	3.07	3.17	3.10	3.11	2.90	2.94	3.28	6件 (1%)
D3	地域の人間関係	地域とのつながり	住んでいる地域には、困ったときに相談できる人が身近にいる	2.72	2.62	2.82	2.00	3.58	2.82	2.91	2.62	2.66	2.56	2.59	3.19	4件 (0%)
D4	地域の人間関係	地域とのつながり	住んでいる地域の人困っていたら手助けをする	3.33	3.30	3.34	2.00	3.92	3.31	3.42	3.32	3.31	3.32	3.20	3.34	3件 (0%)
D5	地域の人間関係	地域とのつながり	住んでいる地域に対して愛着を持っている(好きだと思っている)	3.30	3.31	3.29	4.00	3.83	3.44	3.27	3.32	3.31	3.20	3.13	3.61	5件 (1%)

2.3.2 設問別スコア：地域の人間関係②

- 多様性と寛容性は「地域とのつながり」と対照的に全般に低く、D7（見知らぬ他者への信頼）が最も低く全設問中でも最低水準である。
- いずれの設問も男性が女性をやや上回り、年代別では40代（特にD6～D8）が低い傾向にある。

赤枠：高い値
青枠：低い値

設問番号	カテゴリ	Well-Being因子	設問文	全体	属性別(性別)			属性別(年代)								無回答
					男性	女性	その他	10代	20代	30代	40代	50代	60代	70代	80代以上	
D6	地域の人間関係	多様性と寛容性	住んでいる地域には、どんな人の意見でも受け入れる雰囲気がある	2.68	2.68	2.67	4.00	3.58	2.84	2.77	2.54	2.67	2.59	2.59	2.85	7件 (1%)
D7	地域の人間関係	多様性と寛容性	あなたは、見知らぬ他者(知らない人)であっても信頼する	1.97	2.03	1.91	2.00	2.17	1.93	1.92	1.77	1.91	2.05	2.00	2.38	8件 (1%)
D8	地域の人間関係	多様性と寛容性	住んでいる地域の人が自分をどう思っているかが気になる	2.33	2.36	2.31	2.00	2.75	2.33	2.38	2.05	2.16	2.51	2.39	2.56	6件 (1%)
D9	地域の人間関係	多様性と寛容性	住んでいる地域には、女性が活躍しやすい雰囲気がある	2.53	2.56	2.50	3.00	3.08	2.71	2.46	2.51	2.53	2.44	2.52	2.77	9件 (1%)
D10	地域の人間関係	多様性と寛容性	住んでいる地域には、若者が活躍しやすい雰囲気がある	2.36	2.37	2.34	2.00	3.00	2.45	2.43	2.38	2.37	2.12	2.31	2.62	10件 (1%)

2.4.1 設問別スコア：自分らしい生き方①

- E5（良い環境・文化を残したい）が全設問中でも高水準にあり、E2～E3（健康状態）も比較的高い。
- 一方、E4（文化・芸能が盛んで誇らしい）は突出して低く、「良いものを残したい」意識と「今それが誇れるか」という実態の間に乖離がある。

赤枠：高い値
青枠：低い値

設問番号	カテゴリ	Well-Being因子	設問文	全体	属性別(性別)			属性別(年代)								無回答
					男性	女性	その他	10代	20代	30代	40代	50代	60代	70代	80代以上	
E1	自分らしい生き方	自己効力感	自分のことを好ましく感じる(好きだと感じる)	3.31	3.33	3.29	4.00	3.33	3.69	3.31	3.35	3.28	3.27	3.00	3.52	9件 (1%)
E2	自分らしい生き方	健康状態	身体的に健康な状態である	3.42	3.44	3.39	4.00	4.42	3.82	3.57	3.47	3.37	3.40	2.99	3.30	3件 (0%)
E3	自分らしい生き方	健康状態	精神的に健康な状態である	3.51	3.51	3.49	4.00	3.92	3.84	3.58	3.52	3.39	3.47	3.33	3.66	3件 (0%)
E4	自分らしい生き方	文化・芸術	住んでいる地域は、文化・芸術・芸能が盛んで誇らしい	2.45	2.39	2.49	3.00	3.25	2.84	2.50	2.22	2.42	2.36	2.38	2.59	6件 (1%)
E5	自分らしい生き方	文化・芸術	将来生まれてくる世代(こども)のために、良い環境や文化を残したい	3.90	3.91	3.89	4.00	3.67	3.76	4.08	4.08	3.83	3.86	3.61	3.97	8件 (1%)

2.4.2 設問別スコア：自分らしい生き方②

- いずれも自分らしい生き方カテゴリ内では低く、特にE7～E8（雇用・所得）、E9（事業創造）はいずれも全設問中でも低い水準にあり、市内での就労・経済的な自己実現の場の不足が顕著な課題。
- 雇用・所得や事業創造は10～20代でやや高く、働き盛り世代である40～50代や60代で低い。

 赤枠：高い値
 青枠：低い値

設問番号	カテゴリ	Well-Being因子	設問文	全体	属性別(性別)			属性別(年代)								無回答
					男性	女性	その他	10代	20代	30代	40代	50代	60代	70代	80代以上	
E6	自分らしい生き方	教育機会の豊かさ	住んでいる地域では、学びたいことを学べる機会がある	2.78	2.76	2.78	3.00	3.50	2.91	2.99	2.64	2.72	2.67	2.70	2.93	8件 (1%)
E7	自分らしい生き方	雇用・所得	住んでいる地域では、やりたい仕事を見つけやすい	2.10	2.08	2.12	2.00	3.33	2.27	2.19	1.94	2.01	1.97	2.14	2.33	15件 (2%)
E8	自分らしい生き方	雇用・所得	住んでいる地域では、適切な収入を得るための機会がある	2.14	2.15	2.14	1.00	3.58	2.51	2.22	2.06	2.07	1.99	2.10	2.11	15件 (2%)
E9	自分らしい生き方	事業創造	住んでいる地域には、新たな事に挑戦・成長するための機会がある	2.21	2.21	2.20	1.00	3.50	2.60	2.28	2.19	2.07	2.07	2.10	2.30	13件 (2%)

第3章：Well-Being設問（属性別集計【性年代別】）

本章では性別（男性・女性）×年代（10代～80代以上）で16種類の属性（以下、セグメントと呼ぶ）で分析を実施。
性別×年代の16セグメントのうち、一部（10代）は標本数が少ないため、傾向の読み取りには留意が必要である。
そのため、本章の属性分析では標本数の少ない10代を除き、複数設問で共通して表れる構造的なパターンに着目して分析する。

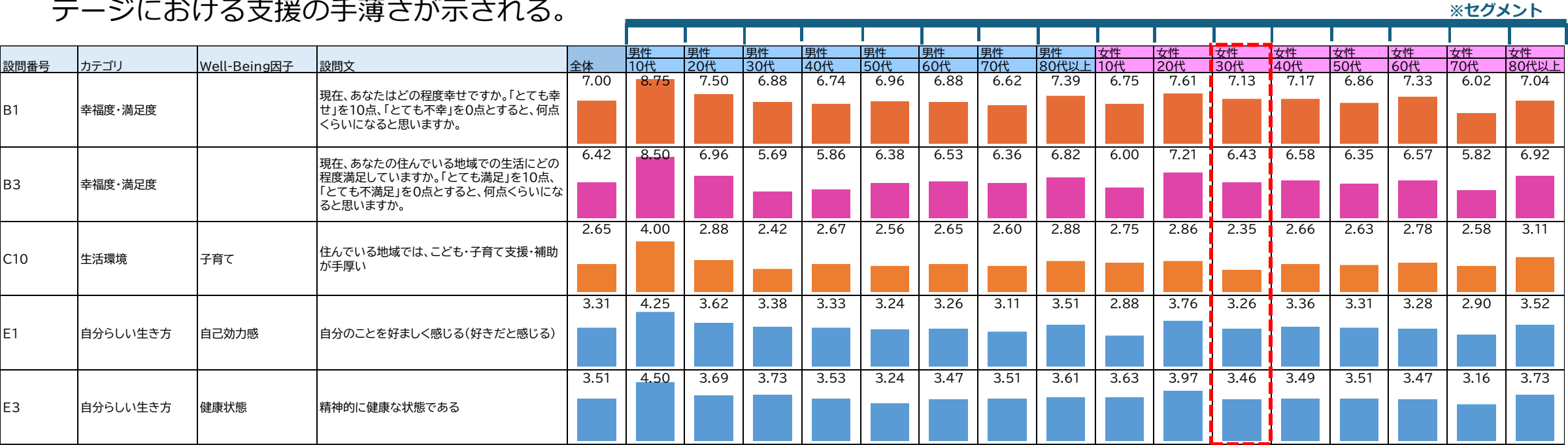
3.1 女性20代の「生活実感の高さ」

- 女性20代は、全51設問中16設問でセグメント中最高を記録し、最も多い。現在の幸福度（B1 7.61）、生活満足度（B3 7.21）、住宅環境（C5 4.28）、公共空間（C18 3.97）、自己効力感（E1 3.76）、健康状態（E2 3.83／E3 3.97）など、暮らしの現在の充足感が広範に高い。
- 特に、現在の幸福度（B1）・生活満足度（B3）でセグメント中最高を占めており、若い女性層が小都市での暮らしを最も肯定的に捉えている構図が鮮明。この層の実感をいかに定住・参画へつなげるかが論点となる。

				※セグメント																
設問番号	カテゴリ	Well-Being因子	設問文	全体	男性10代	男性20代	男性30代	男性40代	男性50代	男性60代	男性70代	男性80代以上	女性10代	女性20代	女性30代	女性40代	女性50代	女性60代	女性70代	女性80代以上
B1	幸福度・満足度		現在、あなたはどの程度幸せですか。「とても幸せ」を10点、「とても不幸」を0点とすると、何点くらいになると思いますか。	7.00	8.75	7.50	6.88	6.74	6.96	6.88	6.62	7.39	6.75	7.61	7.13	7.17	6.86	7.33	6.02	7.04
B3	幸福度・満足度		現在、あなたの住んでいる地域での生活にどの程度満足していますか。「とても満足」を10点、「とても不満足」を0点とすると、何点くらいになると思いますか。	6.42	8.50	6.96	5.69	5.86	6.38	6.53	6.36	6.82	6.00	7.21	6.43	6.58	6.35	6.57	5.82	6.92
C5	生活環境	住宅環境	自宅には、心地のいい居場所がある	3.84	4.00	3.96	3.77	4.12	3.84	3.56	3.70	3.84	4.13	4.28	4.00	4.07	3.80	3.80	3.41	3.88
C18	生活環境	公共空間	住んでいる地域の雰囲気は、自分にとって心地よい	3.47	4.25	3.50	3.44	3.54	3.57	3.29	3.30	3.53	3.88	3.97	3.65	3.46	3.44	3.46	2.98	3.68
E1	自分らしい生き方	自己効力感	自分のことを好ましく感じる(好きだと感じる)	3.31	4.25	3.62	3.38	3.33	3.24	3.26	3.11	3.51	2.88	3.76	3.26	3.36	3.31	3.28	2.90	3.52
E2	自分らしい生き方	健康状態	身体的に健康な状態である	3.42	4.75	3.81	3.60	3.55	3.39	3.40	3.04	3.29	4.25	3.83	3.54	3.39	3.35	3.41	2.94	3.31
E3	自分らしい生き方	健康状態	精神的に健康な状態である	3.51	4.50	3.69	3.73	3.53	3.24	3.47	3.51	3.61	3.63	3.97	3.46	3.49	3.51	3.47	3.16	3.73

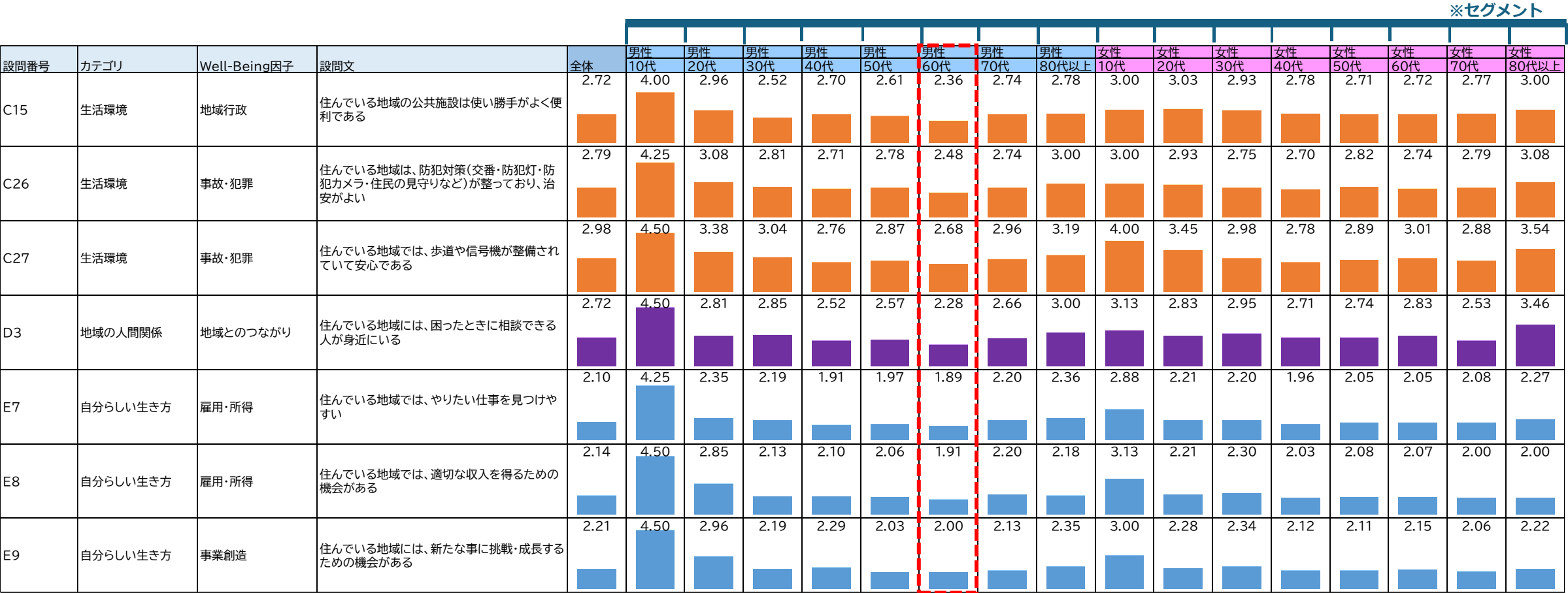
3.2 女性30代の「子育て期における生活満足度の落ち込み」

- 女性20代で高かったスコアが、女性30代にかけて広範に急落する。現在の幸福度（B1 7.61→7.13、▲0.48）、生活満足度（B3 7.21→6.43、▲0.78）、子育て支援（C10 2.85→2.34、▲0.51）など、落差が大きい。男性においても20代から30代にかけてスコアの低下が見られ、子育て期における課題感が表れている。
- 特に子育て当事者世代であるにもかかわらず、C10（子育て支援、2.35）を女性30代がセグメント中で最も低く評価している点は示唆的である。子育て期への移行とともに生活実感が一斉に沈む構造がうかがえ、このライフステージにおける支援の手薄さが示される。



3.3 男性60代の「まちとの接点の希薄さ」

- 男性60代は、全51設問中17設問でセグメント中最低となり、最も多い。公共施設の使い勝手（C15 2.36）、事故・犯罪（C26 2.48／C27 2.68）、相談相手の身近さ（D3 2.28）、雇用・所得（E7 1.89／E8 1.91）、事業創造（E9 2.00）など、行政・つながり・経済の広い範囲で最も厳しく評価している。
- 共通するのは「地域の制度・関係性・機会に触れる実感の乏しさ」であり、就労リタイア期に差しかかる壮年後期の男性層とまちとの接点の希薄さが浮かび上がる。地域活動や相談機会への再接続が論点となる。



3.4 女性70代の「谷」と80代以上（男女）の「逆転的高評価」

- 70代は評価が落ち込む谷となり、特に女性70代は全51設問中14設問でセグメント中最低となる（男性60代に次ぐ多さ）。現在の幸福度（B1 6.02）、相談相手の身近さ（D3 2.53）、健康状態、地域とのつながりなど広範に沈む。
- 一方、その先の80代以上（男女）は多くの設問で最高に転じる。女性80代以上は13設問（介護・福祉C2、相談相手D3、地域への愛着D5など）、男性80代以上も7設問（見知らぬ他者への信頼D7、やりたい仕事E7など）で最高を記録。女性は70代→80代で19設問が+0.5pt以上回復し（B3で+1.11、B1で+1.02、相談相手D3で+0.93）、70代を谷とする非線形構造が明確である。



3.5 男性20代の「まちへの期待」

- 男性20代は全51設問中8設問でセグメント中最高となり、女性20代・80代以上に次ぐ多さ。市民全体の幸福観（B4 6.95、全体6.19）、周囲の幸福感（B5 3.69）、教育環境（C12 3.62）に加え、市全体では低位の多様性と寛容性（D9 2.85・D10 2.73）や経済系（E8 2.85・E9 2.96）でも最高を記録している。
- 注目すべきは、市全体で最も低い水準にある多様性・経済系因子で、男性20代だけが突出して高い点である。まちの可能性を最も広く肯定的に捉えている層であり、この期待をいかに地域への定着・参画に接続するかが問われる。

※セグメント

設問番号	カテゴリ	Well-Being因子	設問文	全体	男性10代	男性20代	男性30代	男性40代	男性50代	男性60代	男性70代	男性80代以上	女性10代	女性20代	女性30代	女性40代	女性50代	女性60代	女性70代	女性80代以上
B4	幸福度・満足度		小都市に住んでいる人は、大体において、どれくらい幸せだと思いますか。「とても幸せ」を10点、「とても不幸」を0点とすると、何点くらいになるとと思いますか。	6.19	8.25	6.95	6.16	5.90	6.21	6.03	5.79	6.49	7.13	6.81	6.30	5.97	6.19	6.28	5.78	6.35
B5	幸福度・満足度		自分だけでなく、身近なまわりの人も楽しい気持ちでいると思う	3.33	4.25	3.69	3.42	3.14	3.24	3.14	3.26	3.47	3.50	3.64	3.55	3.32	3.30	3.31	3.06	3.46
C12	生活環境	初等・中等教育	住んでいる地域では、教育環境（小中高校）が整っている	3.30	3.75	3.62	3.17	3.19	3.36	3.06	3.33	3.58	3.63	3.59	3.23	3.28	3.21	3.31	3.24	3.46
D9	地域の人間関係	多様性と寛容性	住んでいる地域には、女性が活躍しやすい雰囲気がある	2.53	3.50	2.85	2.54	2.52	2.55	2.38	2.63	2.81	2.88	2.59	2.39	2.49	2.52	2.51	2.41	2.72
D10	地域の人間関係	多様性と寛容性	住んでいる地域には、若者が活躍しやすい雰囲気がある	2.36	3.50	2.73	2.50	2.33	2.39	2.07	2.40	2.58	2.75	2.21	2.38	2.43	2.35	2.17	2.23	2.68
E8	自分らしい生き方	雇用・所得	住んでいる地域では、適切な収入を得るための機会がある	2.14	4.50	2.85	2.13	2.10	2.06	1.91	2.20	2.18	3.13	2.21	2.30	2.03	2.08	2.07	2.00	2.00
E9	自分らしい生き方	事業創造	住んでいる地域には、新たな事に挑戦・成長するための機会がある	2.21	4.50	2.96	2.19	2.29	2.03	2.00	2.13	2.35	3.00	2.28	2.34	2.12	2.11	2.15	2.06	2.22

第4章：Well-Being設問（基礎集計【小学校区別】）

4.1 設問別スコア：総合指標

- B1（幸福度）は御原（7.27）・のぞみが丘（7.21）が高く、大原（6.55）が最も低い。
- B3（生活満足度）は味坂が5.67と全体（6.42）を0.75ポイント下回り、8校区中で最も低い。
- 立石は8校区で唯一5年後の幸福度が現在の幸福度を上回っており、将来への期待が見られる。

赤枠：高い値
青枠：低い値

設問番号	カテゴリ	Well-Being因子	設問文	全体	小学校区別							
					小郡	大原	三国	立石	御原	味坂	東野	のぞみが丘
B1	幸福度・満足度		現在、あなたはどの程度幸せですか。「とても幸せ」を10点、「とても不幸」を0点とすると、何点くらいになると思いますか。	7.00 	7.12 	6.55 	6.95 	6.93 	7.27 	6.75 	7.15 	7.21
B2	幸福度・満足度		今から5年後、あなたはどの程度幸せだと思いますか。「とても幸せ」を10点、「とても不幸」を0点とすると、何点くらいになると思いますか。	6.74 	6.79 	6.18 	6.72 	7.26 	7.03 	6.56 	7.02 	6.79
B3	幸福度・満足度		現在、あなたの住んでいる地域での生活にどの程度満足していますか。「とても満足」を10点、「とても不満足」を0点とすると、何点くらいになると思いますか。	6.42 	6.60 	6.52 	6.42 	6.05 	6.45 	5.67 	6.28 	6.65
B4	幸福度・満足度		小郡市に住んでいる人は、大体において、どれくらい幸せだと思いますか。「とても幸せ」を10点、「とても不幸」を0点とすると、何点くらいになると思いますか。	6.19 	6.25 	5.89 	6.21 	6.13 	6.49 	5.96 	5.92 	6.50
B5	幸福度・満足度		自分だけでなく、身近なまわりの人も楽しい気持ちでいると思う	3.33 	3.31 	3.19 	3.35 	3.26 	3.52 	3.30 	3.28 	3.43

無回答

8件
(1%)

8件
(1%)

8件
(1%)

7件
(1%)

12件
(1%)

※B4（地域幸福感）において、「わからない」を選んだ回答は89件（11.1%）

4.2.1 設問別スコア：生活環境①

- C3（買物・飲食）は大原（3.89）・小郡（3.64）と味坂（1.96）で1.6ポイント超の差があり、校区間の差が最も大きい設問となっている。
- C6（住宅環境）は立石（3.07）が最も低く、他校区（3.58～4.07）と比べて騒音の悩みを抱える層が多い。

赤枠：高い値
青枠：低い値

無回答

設問番号	カテゴリ	Well-Being因子	設問文	全体	小学校区別							
					小郡	大原	三国	立石	御原	味坂	東野	のぞみが丘
C1	生活環境	医療・福祉	住んでいる地域は、医療機関が充実している	3.15	3.49	3.31	3.14	2.79	3.00	2.29	2.86	3.28
C2	生活環境	医療・福祉	住んでいる地域では、介護・福祉施設のサービスが受けやすい	2.92	3.11	2.87	2.89	2.95	2.78	2.65	2.93	2.88
C3	生活環境	買物・飲食	住んでいる地域は、日常の買い物にまったく不便がない	3.31	3.64	3.89	3.28	3.19	2.62	1.96	3.47	3.31
C4	生活環境	買物・飲食	住んでいる地域では、飲食を楽しめる場所が充実している	2.34	2.58	2.44	2.50	2.38	1.97	1.65	2.00	2.29
C5	生活環境	住宅環境	自宅には、心地のいい居場所がある	3.84	3.79	3.80	3.87	4.00	3.93	3.55	3.83	4.01
C6	生活環境	住宅環境	【逆転項目】自宅の近辺では、騒音に悩まされている	3.76	3.59	3.58	4.00	3.07	3.86	3.93	3.62	4.07
C7	生活環境	住宅環境	住んでいる地域では、適度な費用で住居を確保できる	3.10	3.08	3.02	3.13	3.29	3.14	2.70	3.27	3.19

9件
(1%)

19件
(2%)

6件
(1%)

6件
(1%)

7件
(1%)

8件
(1%)

21件
(3%)

4.2.2 設問別スコア：生活環境②

- C8（移動・交通）は味坂（2.00）・御原（2.37）・立石（2.53）が低く、小郡・大原・三国（3.30前後）と1ポイントほどの差がある。
- C12・C13（初等・中等教育）はのぞみが丘が突出して高い一方、味坂・立石が低い。

赤枠：高い値
青枠：低い値

設問番号	カテゴリ	Well-Being因子	設問文	全体	小学校区別							
					小郡	大原	三国	立石	御原	味坂	東野	のぞみが丘
C8	生活環境	移動・交通	住んでいる地域では、公共交通機関で、好きな時に好きなところへ移動ができる	3.01	3.31	3.30	3.32	2.53	2.37	2.00	2.93	2.85
C9	生活環境	遊び・娯楽	住んでいる地域には、楽しい時間を過ごせる娯楽施設がある	1.99	2.09	2.13	2.15	1.76	1.71	1.55	1.90	1.95
C10	生活環境	子育て	住んでいる地域では、こども・子育て支援・補助が手厚い	2.65	2.76	2.66	2.71	2.38	2.61	2.32	2.60	2.70
C11	生活環境	子育て	住んでいる地域では、こどもたちがいきいきと暮らせる	3.11	3.15	2.98	3.12	3.22	3.10	2.85	3.00	3.29
C12	生活環境	初等・中等教育	住んでいる地域では、教育環境(小中高校)が整っている	3.30	3.34	3.34	3.36	3.24	2.97	2.67	3.08	3.71
C13	生活環境	初等・中等教育	住んでいる地域では、通学しやすい場所に学校がある	3.42	3.53	3.52	3.28	2.78	3.20	3.06	3.45	3.90

無回答

9件
(1%)

10件
(1%)

28件
(3%)

21件
(3%)

17件
(2%)

14件
(2%)

4.2.3 設問別スコア：生活環境③

- 東野はC18・C19（公共空間）が8校区中最も低く、心地よく過ごせる場所への評価が課題となっている。
- C16・C17（デジタル生活）は全校区で2.0～2.8にとどまり、特に立石・東野・味坂では2.3前後と低い。

赤枠：高い値
青枠：低い値

無回答

設問番号	カテゴリ	Well-Being因子	設問文	全体	小学校区別							
					小郡	大原	三国	立石	御原	味坂	東野	のぞみが丘
C14	生活環境	地域行政	住んでいる地域の行政は、地域のことを真剣に考えていると思う	2.88	2.92	2.70	2.95	2.98	2.93	2.67	2.80	2.95
C15	生活環境	地域行政	住んでいる地域の公共施設は使い勝手がよく便利である	2.72	2.84	2.79	2.79	2.66	2.83	2.37	2.62	2.58
C16	生活環境	デジタル生活	住んでいる地域では、行政サービスのデジタル化が進んでいる	2.64	2.83	2.67	2.68	2.26	2.66	2.28	2.33	2.68
C17	生活環境	デジタル生活	住んでいる地域では、仕事や日常生活の場でデジタルサービスを利用しやすい	2.57	2.78	2.52	2.65	2.32	2.59	2.04	2.31	2.59
C18	生活環境	公共空間	住んでいる地域の雰囲気は、自分にとって心地よい	3.47	3.49	3.39	3.55	3.32	3.63	3.25	3.12	3.68
C19	生活環境	公共空間	住んでいる地域には、まちなか、公園、川沿いなどで、心地よく歩ける場所がある	3.31	3.22	3.19	3.48	3.24	3.38	3.06	2.77	3.71
C20	生活環境	都市景観	住んでいる地域には、自慢できる都市景観がある	2.38	2.37	2.32	2.60	2.46	2.31	1.72	2.10	2.59

10件
(1%)

14件
(2%)

23件
(3%)

27件
(3%)

11件
(1%)

8件
(1%)

14件
(2%)

4.2.4 設問別スコア：生活環境④

- C22（自然の恵み）は立石（4.10）・味坂（3.91）・三国（3.72）が高く、東野（2.92）・大原（3.00）と1ポイントほどの差がある。
- のぞみが丘はC27・C26（事故・犯罪）が8校区中最も高い。

 赤枠：高い値
 青枠：低い値

設問番号	カテゴリ	Well-Being因子	設問文	全体	小学校区別								
					小郡	大原	三国	立石	御原	味坂	東野	のぞみが丘	
C21	生活環境	自然景観	住んでいる地域には、自慢できる自然景観がある	2.76	2.61	2.53	3.01	3.22	2.70	2.78	2.25	2.96	12件 (1%)
C22	生活環境	自然の恵み	住んでいる地域では、身近に自然を感じることができる	3.44	3.19	3.00	3.72	4.10	3.55	3.91	2.92	3.59	11件 (1%)
C23	生活環境	自然の恵み	住んでいる地域の空気や水は澄んでいてきれいだと感じる	3.19	3.09	2.94	3.36	3.41	3.20	3.15	2.92	3.38	9件 (1%)
C24	生活環境	環境共生	住んでいる地域では、リサイクルや再生可能エネルギー活用など、環境への取組みが盛んである	3.01	3.06	2.95	3.05	2.93	2.98	2.69	3.07	3.10	10件 (1%)
C25	生活環境	自然災害	住んでいる地域では、防災対策がしっかりしている	2.93	3.02	2.88	2.99	2.90	2.97	2.55	2.80	3.03	5件 (1%)
C26	生活環境	事故・犯罪	住んでいる地域は、防犯対策（交番・防犯灯・防犯カメラ・住民の見守りなど）が整っており、治安がよい	2.79	2.78	2.68	2.89	2.81	2.76	2.46	2.48	3.10	6件 (1%)
C27	生活環境	事故・犯罪	住んでいる地域では、歩道や信号機が整備されていて安心である	2.98	3.13	2.76	3.08	2.69	2.97	2.31	2.38	3.50	5件 (1%)

4.3.1 設問別スコア：地域の人間関係①

- 立石はD1～D5（地域とのつながり）の全設問で上位にあり、特にD1（3.43）・D4（3.50）が高い。
- 東野はD1～D5（地域とのつながり）の5設問すべてで最下位圏にあり、特にD5（地域への愛着：2.93）は全体（3.30）を0.37ポイント下回る。

赤枠：高い値

青枠：低い値

無回答

設問番号	カテゴリ	Well-Being因子	設問文	全体	小学校区別							
					小郡	大原	三国	立石	御原	味坂	東野	のぞみが丘
D1	地域の人間関係	地域とのつながり	住んでいる地域の人たちを信頼している	3.25	3.20	3.18	3.29	3.43	3.27	3.16	3.14	3.40
D2	地域の人間関係	地域とのつながり	住んでいる地域では、地域活動（自治会・地域行事・防災活動など）への市民参加が盛んである	3.08	2.99	2.95	3.19	3.19	3.15	3.00	2.97	3.15
D3	地域の人間関係	地域とのつながり	住んでいる地域には、困ったときに相談できる人が身近にいる	2.72	2.70	2.59	2.74	2.95	2.80	2.84	2.47	2.83
D4	地域の人間関係	地域とのつながり	住んでいる地域の人困っていたら手助けをする	3.33	3.31	3.30	3.27	3.50	3.50	3.40	3.18	3.36
D5	地域の人間関係	地域とのつながり	住んでいる地域に対して愛着を持っている（好きだと思っている）	3.30	3.27	3.22	3.35	3.40	3.35	3.31	2.93	3.49

4件
(0%)

6件
(1%)

4件
(0%)

3件
(0%)

5件
(1%)

4.3.2 設問別スコア：地域の人間関係②

- D6～D10（多様性と寛容性）は小学校区による違いはあまり見られず、全校区で2.0～2.8と低い。
- 味坂はD6（2.43）・D9（2.26）が最も低い一方、D8（他人の目が気になる：2.56）は最も高い。

設問番号	カテゴリ	Well-Being因子	設問文	全体	小学校区別							
					小郡	大原	三国	立石	御原	味坂	東野	のぞみが丘
D6	地域の人間関係	多様性と寛容性	住んでいる地域には、どんな人の意見でも受け入れる雰囲気がある	2.68	2.67	2.66	2.74	2.81	2.62	2.43	2.51	2.82
D7	地域の人間関係	多様性と寛容性	あなたは、見知らぬ他者（知らない人）であっても信頼する	1.97	1.97	1.95	1.92	2.05	1.95	2.07	1.81	2.09
D8	地域の人間関係	多様性と寛容性	住んでいる地域の人が自分をどう思っているかが気になる	2.33	2.33	2.32	2.44	2.19	2.18	2.56	2.27	2.26
D9	地域の人間関係	多様性と寛容性	住んでいる地域には、女性が活躍しやすい雰囲気がある	2.53	2.54	2.56	2.68	2.38	2.45	2.26	2.44	2.58
D10	地域の人間関係	多様性と寛容性	住んでいる地域には、若者が活躍しやすい雰囲気がある	2.36	2.42	2.41	2.41	2.21	2.14	2.15	2.33	2.42

赤枠：高い値

青枠：低い値

無回答

7件
(1%)

8件
(1%)

6件
(1%)

9件
(1%)

10件
(1%)

4.4.1 設問別スコア：自分らしい生き方①

- E5（文化・芸術：全体3.90）は全設問中で最も高く、特に立石（4.21）で強い。
- 大原はE1（自己効力感：3.22）・E2（健康状態：3.20）・E3（健康状態：3.29）のいずれも最下位圏にあり、個人の状態に関する評価が低い。

赤枠：高い値

青枠：低い値

設問番号	カテゴリ	Well-Being因子	設問文	全体	小学校区別							
					小郡	大原	三国	立石	御原	味坂	東野	のぞみが丘
E1	自分らしい生き方	自己効力感	自分のことを好ましく感じる(好きだと感じる)	3.31	3.29	3.22	3.35	3.40	3.25	3.24	3.20	3.46
E2	自分らしい生き方	健康状態	身体的に健康な状態である	3.42	3.43	3.20	3.51	3.40	3.37	3.42	3.33	3.53
E3	自分らしい生き方	健康状態	精神的に健康な状態である	3.51	3.56	3.29	3.54	3.52	3.55	3.53	3.47	3.57
E4	自分らしい生き方	文化・芸術	住んでいる地域は、文化・芸術・芸能が盛んで誇らしい	2.45	2.45	2.43	2.53	2.62	2.30	1.94	2.30	2.68
E5	自分らしい生き方	文化・芸術	将来生まれてくる世代(こども)のために、良い環境や文化を残したい	3.90	3.92	3.66	3.94	4.21	3.97	3.74	3.83	3.95

無回答

9件
(1%)

3件
(0%)

3件
(0%)

6件
(1%)

8件
(1%)

4.4.2 設問別スコア：自分らしい生き方②

- 味坂はE7（1.59）・E8（1.81）・E9（1.83）のいずれも最下位で、全体を0.3～0.5ポイント下回る。
- E6（教育機会の豊かさ）は立石（2.91）・のぞみが丘（2.89）が高く、味坂（2.46）・東野（2.58）が低い。

赤枠：高い値
青枠：低い値

無回答

設問番号	カテゴリ	Well-Being因子	設問文	全体	小学校区別							
					小郡	大原	三国	立石	御原	味坂	東野	のぞみが丘
E6	自分らしい生き方	教育機会の豊かさ	住んでいる地域では、学びたいことを学べる機会がある	2.78 	2.80 	2.79 	2.84 	2.90 	2.70 	2.46 	2.58 	2.89 
E7	自分らしい生き方	雇用・所得	住んでいる地域では、やりたい仕事を見つけやすい	2.10 	2.22 	2.28 	2.14 	1.95 	1.92 	1.58 	1.97 	2.19 
E8	自分らしい生き方	雇用・所得	住んでいる地域では、適切な収入を得るための機会がある	2.14 	2.30 	2.20 	2.13 	2.02 	2.05 	1.81 	1.90 	2.21 
E9	自分らしい生き方	事業創造	住んでいる地域には、新たな事に挑戦・成長するための機会がある	2.21 	2.30 	2.29 	2.20 	2.21 	2.17 	1.83 	1.98 	2.32 

8件
(1%)

15件
(2%)

15件
(2%)

13件
(2%)

第5章：Well-Being設問（属性別集計【小学校区別】）

本章では8つの小学校区で分析を実施する。小学校区によっては標本数が少ないため、傾向の読み取りには留意が必要である。

5.1 小学校区ごとのWell-Being（小郡小学校区）

- C1（医療・福祉：3.49）・C3（買物・飲食：3.64）が全体を上回り、中心市街地としての生活利便性の高さが数値に表れている。また、C8（移動・交通：3.31）も高く、鉄道駅を有する立地の優位性もうかがえる。
- 一方でC22（自然の恵み：3.19）は全体（3.44）を下回り、8校区中でも下位に位置する。アパートやマンションが多い市街地特有の環境が背景にあると考えられる。
- 都市機能の充実により生活利便性は高く保たれている一方、自然環境や公共空間の評価は相対的に低い。住民の満足度の高い利便性を維持しつつ、身近な緑や居心地の良い空間をどう確保するかが今後の課題となる。

設問番号	カテゴリ	Well-Being因子	設問文	全体	小学校区別							
					小郡	大原	三国	立石	御原	味坂	東野	のぞみが丘
C1	生活環境	医療・福祉	住んでいる地域は、医療機関が充実している	3.15	3.49	3.31	3.14	2.79	3.00	2.29	2.86	3.28
C3	生活環境	買物・飲食	住んでいる地域は、日常の買い物にまったく不便がない	3.31	3.64	3.89	3.28	3.19	2.62	1.96	3.47	3.31
C8	生活環境	移動・交通	住んでいる地域では、公共交通機関で、好きな時に好きなところへ移動ができる	3.01	3.31	3.30	3.32	2.53	2.37	2.00	2.93	2.85
C19	生活環境	公共空間	住んでいる地域には、まちなか、公園、川沿いなどで、心地よく歩ける場所がある	3.31	3.22	3.19	3.48	3.24	3.38	3.06	2.77	3.71
C22	生活環境	自然の恵み	住んでいる地域では、身近に自然を感じることができる	3.44	3.19	3.00	3.72	4.10	3.55	3.91	2.92	3.59

5.2 小学校区ごとのWell-Being（大原小学校区）

- C3（買物・飲食：3.89）が8校区中最も高く、イオン小郡の存在が日常の買い物環境の評価を大きく押し上げている。C8（移動・交通：3.30）も高位にある。
- 一方でB1（幸福度：6.55）は8校区中最も低く、E1（自己効力感：3.22）・E2（健康状態：3.20）・E3（健康状態：3.29）も最下位圏にとどまる。生活の利便性が、必ずしも個人の充実感には結びついていない。
- 買い物環境という「まちの機能」は充実している一方、幸福感や自己効力感といった「個人の状態」の評価が低い点が特徴的である。住宅開発による新住民の増加や外国人居住者の多さといった人口構成の変化を踏まえ、多様な住民が地域とつながり、自分らしさを発揮できる機会づくりが求められる。

設問番号	カテゴリ	Well-Being因子	設問文	全体	小学校区別							
					小郡	大原	三国	立石	御原	味坂	東野	のぞみが丘
B1	幸福度・満足度		現在、あなたはどの程度幸せですか。「とても幸せ」を10点、「とても不幸」を0点とすると、何点くらいになると思いますか。	7.00	7.12	6.55	6.95	6.93	7.27	6.75	7.15	7.21
C3	生活環境	買物・飲食	住んでいる地域は、日常の買い物にまったく不便がない	3.31	3.64	3.89	3.28	3.19	2.62	1.96	3.47	3.31
E1	自分らしい生き方	自己効力感	自分のことを好ましく感じる(好きだと感じる)	3.31	3.29	3.22	3.35	3.40	3.25	3.24	3.20	3.46
E2	自分らしい生き方	健康状態	身体的に健康な状態である	3.42	3.43	3.20	3.51	3.40	3.37	3.42	3.33	3.53
E3	自分らしい生き方	健康状態	精神的に健康な状態である	3.51	3.56	3.29	3.54	3.52	3.55	3.53	3.47	3.57

5.3 小学校区ごとのWell-Being（三国小学校区）

- C6（住宅環境：騒音）・C19（公共空間：歩ける場所）・C21（自然景観）がいずれも2位など、景観・住環境が総じて上位にある。住宅地と田が共存する校区構造が、良い方向に作用していると考えられる。
- C3（買物・飲食：3.28）は全体（3.31）をわずかに下回る。中心的なスーパーが閉店した影響が、日常の買い物環境の評価に一定程度反映されている可能性がある。
- 買い物環境にはやや課題が残るものの、景観・住環境をはじめ多くの設問で全体を上回っており、8校区の中で最も弱みの少ないバランスの取れた校区といえる。一方で、住宅地と農地が共存し、高齢化が進む自治会もあるなど校区内の状況は多様であり、平均値には表れにくい地域差を捉えた支援が求められる。

設問番号	カテゴリ	Well-Being因子	設問文	全体	小学校区別							
					小郡	大原	三国	立石	御原	味坂	東野	のぞみが丘
C3	生活環境	買物・飲食	住んでいる地域は、日常の買い物にまったく不便がない	3.31	3.64	3.89	3.28	3.19	2.62	1.96	3.47	3.31
C6	生活環境	住宅環境	【逆転項目】自宅の近辺では、騒音に悩まされている	3.76	3.59	3.58	4.00	3.07	3.86	3.93	3.62	4.07
C19	生活環境	公共空間	住んでいる地域には、まちなか、公園、川沿いなどで、心地よく歩ける場所がある	3.31	3.22	3.19	3.48	3.24	3.38	3.06	2.77	3.71
C21	生活環境	自然景観	住んでいる地域には、自慢できる自然景観がある	2.76	2.61	2.53	3.01	3.22	2.70	2.78	2.25	2.96
C22	生活環境	自然の恵み	住んでいる地域では、身近に自然を感じることができる	3.44	3.19	3.00	3.72	4.10	3.55	3.91	2.92	3.59

5.4 小学校区ごとのWell-Being（立石小学校区）

- C22（自然の恵み：4.10）が8校区中最も高く、市内唯一の山である花立山を有する環境が明確に評価されている。またD1（地域とのつながり：3.43）・D4（地域とのつながり：3.50）も高く、E5（文化・芸術：4.21）は全設問中でも最高水準にあり、地域への帰属意識と将来世代への思いの強さがうかがえる。
- 一方でC3（買物・飲食：3.19）・C8（移動・交通：2.53）は低く、C6（住宅環境：3.07）は8校区中最も低い。物流倉庫等の開発が進むなかで、騒音などの生活環境への影響が生じている可能性がある。
- 自然環境と地域とのつながりという本校区の強みは、小中一貫校の取組とも重なり、地域ぐるみの教育・まちづくりの土台となっている。一方で、企業立地や住宅開発が進むなかで、生活利便の向上と住環境の保全をどう両立させるかが今後の焦点となる。

設問番号	カテゴリ	Well-Being因子	設問文	全体	小学校区別							
					小郡	大原	三国	立石	御原	味坂	東野	のぞみが丘
C6	生活環境	住宅環境	【逆転項目】自宅の近辺では、騒音に悩まされている	3.76	3.59	3.58	4.00	3.07	3.86	3.93	3.62	4.07
C8	生活環境	移動・交通	住んでいる地域では、公共交通機関で、好きな時に好きなところへ移動ができる	3.01	3.31	3.30	3.32	2.53	2.37	2.00	2.93	2.85
C22	生活環境	自然の恵み	住んでいる地域では、身近に自然を感じることができる	3.44	3.19	3.00	3.72	4.10	3.55	3.91	2.92	3.59
D4	地域の人間関係	地域とのつながり	住んでいる地域の人が困っていたら手助けをする	3.33	3.31	3.30	3.27	3.50	3.50	3.40	3.18	3.36
E5	自分らしい生き方	文化・芸術	将来生まれてくる世代（こども）のために、良い環境や文化を残したい	3.90	3.92	3.66	3.94	4.21	3.97	3.74	3.83	3.95

5.5 小学校区ごとのWell-Being（御原小学校区）

- B1（幸福度：7.27）が8校区中最も高い。温泉施設を併設するあすてらすの存在や、こども家庭支援センターの設置など、身近に多世代が利用できる拠点があることが、生活全体の満足感に寄与している可能性がある。
- 一方で、C3（買物・飲食：2.62）・C8（移動・交通：2.37）はともに低く、D10（多様性と寛容性：2.14）は8校区中最も低い。田が多く人口も少ない地域構造のなかで、日常の生活利便と若い世代の活躍しやすさに課題がみられる。
- 多世代が集う拠点施設の存在が幸福度を支えると思われる一方、日常生活の利便性には課題が残る。また、若い世代にとっての魅力づくりに課題があることが示唆されるため、高い幸福度を将来にわたって維持していくには、あすてらすを核とした多世代交流の中に若い世代の参画の場をつくり、定住につなげる視点が重要となる。

設問番号	カテゴリ	Well-Being因子	設問文	全体	小学校区別							
					小郡	大原	三国	立石	御原	味坂	東野	のぞみが丘
B1	幸福度・満足度		現在、あなたはどの程度幸せですか。「とても幸せ」を10点、「とても不幸」を0点とすると、何点くらいになると思いますか。	7.00	7.12	6.55	6.95	6.93	7.27	6.75	7.15	7.21
C3	生活環境	買物・飲食	住んでいる地域は、日常の買い物にまったく不便がない	3.31	3.64	3.89	3.28	3.19	2.62	1.96	3.47	3.31
C8	生活環境	移動・交通	住んでいる地域では、公共交通機関で、好きな時に好きなところへ移動ができる	3.01	3.31	3.30	3.32	2.53	2.37	2.00	2.93	2.85
D10	地域の人間関係	多様性と寛容性	住んでいる地域には、若者が活躍しやすい雰囲気がある	2.36	2.42	2.41	2.41	2.21	2.14	2.15	2.33	2.42

5.6 小学校区ごとのWell-Being（味坂小学校区）

- C1（医療・福祉：2.29）・C3（買物・飲食：1.96）・C8（移動・交通：2.00）など、生活利便に関わる多くの設問で8校区中最下位となっている。E7（雇用・所得：1.59）も最も低く、就労機会の乏しさも課題である。
- 生活利便性に関する設問の評価が低い一方、D3（地域とのつながり：相談相手）2位（2.84）・D4（手助け）は上位と、人間関係の評価は良好である。
- 生活利便性の低さは地域構造に起因しており、行政サービスのみで解消することは難しい。一方で、相談相手の身近さや助け合いといった人間関係の評価は高く、移動販売の実施はこうした地域の支え合いが具体的に機能している例といえる。市の若手職員の地域参画も進むなか、公的サービスと地域の支え合いをどう組み合わせる生活基盤を維持していくかが、今後の焦点となる。

設問番号	カテゴリ	Well-Being因子	設問文	全体	小学校区別							
					小郡	大原	三国	立石	御原	味坂	東野	のぞみが丘
C1	生活環境	医療・福祉	住んでいる地域は、医療機関が充実している	3.15	3.49	3.31	3.14	2.79	3.00	2.29	2.86	3.28
C3	生活環境	買物・飲食	住んでいる地域は、日常の買い物にまったく不便がない	3.31	3.64	3.89	3.28	3.19	2.62	1.96	3.47	3.31
C8	生活環境	移動・交通	住んでいる地域では、公共交通機関で、好きな時に好きなところへ移動ができる	3.01	3.31	3.30	3.32	2.53	2.37	2.00	2.93	2.85
D3	地域の人間関係	地域とのつながり	住んでいる地域には、困ったときに相談できる人が身近にいる	2.72	2.70	2.59	2.74	2.95	2.80	2.84	2.47	2.83
D4	地域の人間関係	地域とのつながり	住んでいる地域の人困っていたら手助けをする	3.33	3.31	3.30	3.27	3.50	3.50	3.40	3.18	3.36

5.7 小学校区ごとのWell-Being（東野小学校区）

- C3（買物・飲食：3.47）も比較的高い水準にあり、隣接する大原校区の商業施設等を利用しやすい環境がうかがえる。
- D1～D5（地域とのつながり）の全設問で最下位圏にあり、特にD5（地域への愛着：2.93）は全体（3.30）を0.37ポイント下回る。またC18（公共空間：3.12）・C19（公共空間：2.77）・C21（自然景観：2.25）も低く、身近な自然や居場所への評価が課題となっている。
- 地域とのつながりの低さは、自衛隊官舎の存在により数年単位で転出入する住民が多いという構造的な要因が大きいと考えられる。定住性の低さを前提としたうえで、短期間の居住でも地域と接点を持てる仕組みや、日本語学校の留学生を含む多様な住民が交流できる場づくりが求められる。

設問番号	カテゴリ	Well-Being因子	設問文	全体	小学校区別							東野	のぞみが丘
					小郡	大原	三国	立石	御原	味坂			
C3	生活環境	買物・飲食	住んでいる地域は、日常の買い物にまったく不便がない	3.31	3.64	3.89	3.28	3.19	2.62	1.96		3.47	3.31
C18	生活環境	公共空間	住んでいる地域の雰囲気は、自分にとって心地よい	3.47	3.49	3.39	3.55	3.32	3.63	3.25		3.12	3.68
C19	生活環境	公共空間	住んでいる地域には、まちなか、公園、川沿いなどで、心地よく歩ける場所がある	3.31	3.22	3.19	3.48	3.24	3.38	3.06		2.77	3.71
C21	生活環境	自然景観	住んでいる地域には、自慢できる自然景観がある	2.76	2.61	2.53	3.01	3.22	2.70	2.78		2.25	2.96
D5	地域の人間関係	地域とのつながり	住んでいる地域に対して愛着を持っている（好きだと思っている）	3.30	3.27	3.22	3.35	3.40	3.35	3.31		2.93	3.49

5.8 小学校区ごとのWell-Being（のぞみが丘小学校区）

- C12（初等・中等教育：3.71）・C13（3.90）がともに8校区中最も高い。小学校を核とした地域づくりを進め、市内で唯一コミュニティセンターが小学校内にあるという特性が、教育環境の高い評価につながっている。また、C26（事故・犯罪：3.10）・C27（3.50）も高い水準にあり、安全性への評価も高い。
- 一方で、C15（地域行政）など公共施設の使い勝手に関する評価は相対的に低い。約40年前に開発された住宅地であり、今後数年で高齢者が急増することが見込まれるなかで、施設や移動支援のあり方が課題となる。
- 小学校を拠点とした地域づくりが、教育・安全といった子育て世代に関わる評価の高さに結実している。地元出身者が少ないなかで20年近く自治会バスによる移動支援を継続してきた蓄積もあり、こうした地域運営の力を、高齢化の進行という次の局面にどう生かすかが問われる。

設問番号	カテゴリ	Well-Being因子	設問文	全体	小学校区別							
					小郡	大原	三国	立石	御原	味坂	東野	のぞみが丘
C12	生活環境	初等・中等教育	住んでいる地域では、教育環境(小中高校)が整っている	3.30	3.34	3.34	3.36	3.24	2.97	2.67	3.08	3.71
C13	生活環境	初等・中等教育	住んでいる地域では、通学しやすい場所に学校がある	3.42	3.53	3.52	3.28	2.78	3.20	3.06	3.45	3.90
C15	生活環境	地域行政	住んでいる地域の公共施設は使い勝手がよく便利である	2.72	2.84	2.79	2.79	2.66	2.83	2.37	2.62	2.58
C26	生活環境	事故・犯罪	住んでいる地域は、防犯対策(交番・防犯灯・防犯カメラ・住民の見守りなど)が整っており、治安がよい	2.79	2.78	2.68	2.89	2.81	2.76	2.46	2.48	3.10
C27	生活環境	事故・犯罪	住んでいる地域では、歩道や信号機が整備されていて安心である	2.98	3.13	2.76	3.08	2.69	2.97	2.31	2.38	3.50

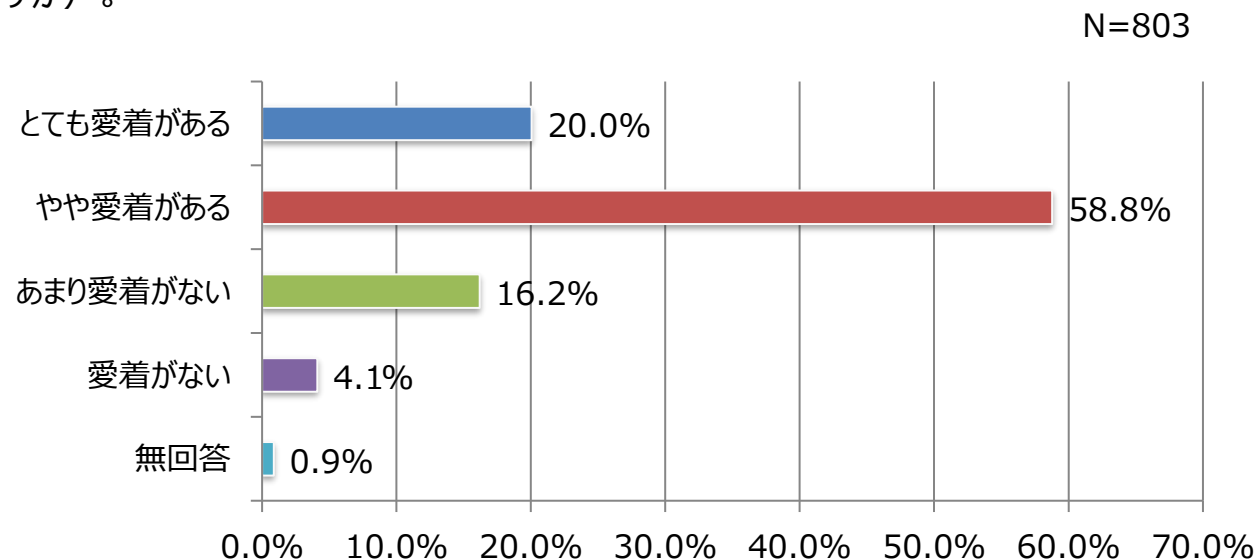
第6章：独自設問（基礎集計）

6.1 F1 小郡市への愛着

- 「やや愛着がある」の割合が58.8%で最も高い。「とても愛着がある」「やや愛着がある」をあわせて、78.8%の回答者が“小郡市に愛着がある”と回答している。

F1. あなたは、小郡市にどの程度愛着がありますか（好きだと思いますか）。

選択肢	件数	割合
とても愛着がある	161	20.0%
やや愛着がある	472	58.8%
あまり愛着がない	130	16.2%
愛着がない	33	4.1%
無回答	7	0.9%



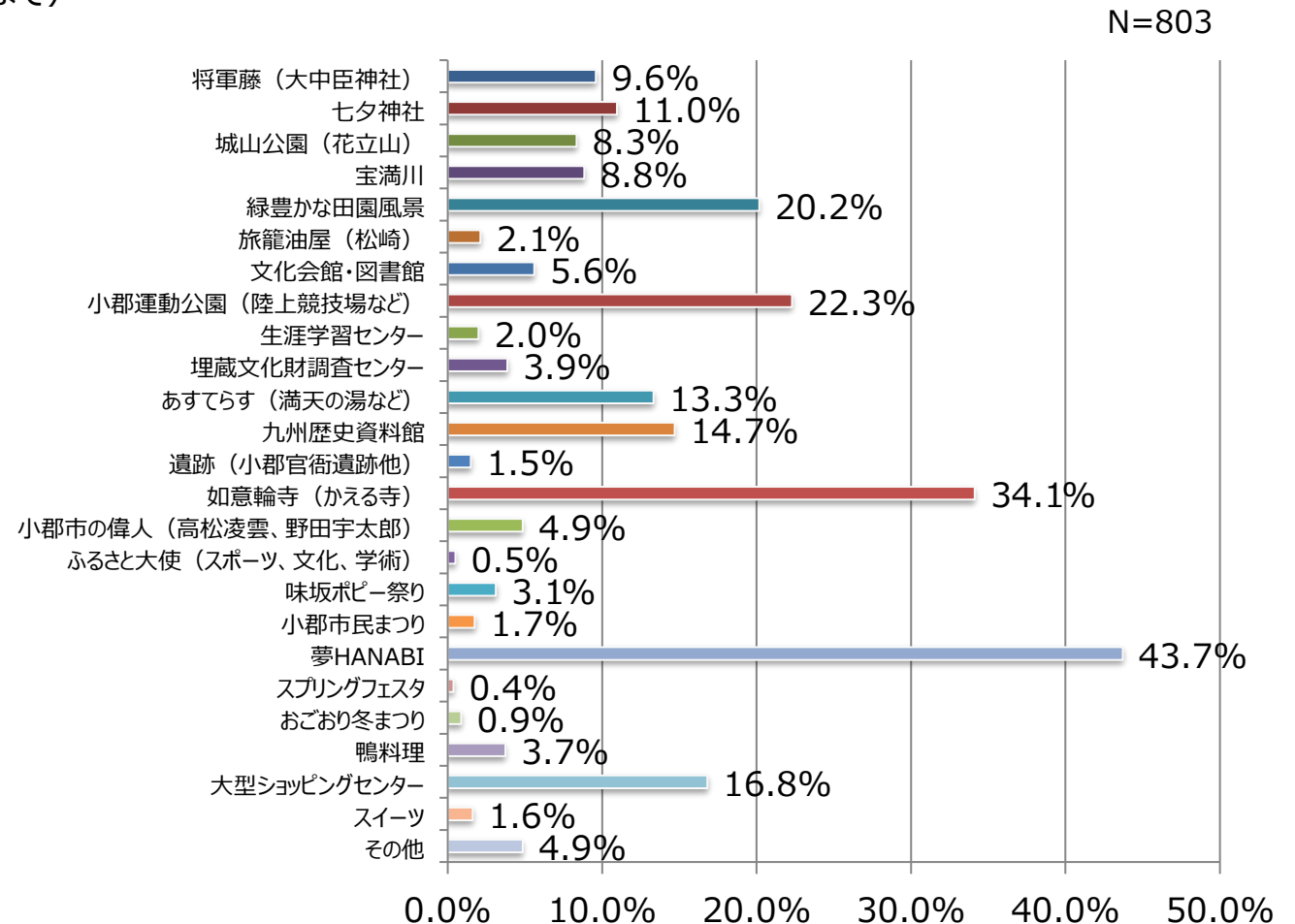
6.2 F2 自慢できるもの・ひと

- 「夢HANABI」と回答した方の割合が43.7%と最も高く、次いで「如意輪寺（かえる寺）」（34.1%）、「小郡運動公園（陸上競技場など）」（22.3%）となっている。

F2. あなたが小郡市で自慢できるもの・ひとは何ですか。（3つまで）

選択肢	件数	割合
将軍藤（大中臣神社）	77	9.6%
七夕神社	88	11.0%
城山公園（花立山）	67	8.3%
宝満川	71	8.8%
緑豊かな田園風景	162	20.2%
旅籠油屋（松崎）	17	2.1%
文化会館・図書館	45	5.6%
小郡運動公園（陸上競技場など）	179	22.3%
生涯学習センター	16	2.0%
埋蔵文化財調査センター	31	3.9%
あすてらす（満天の湯など）	107	13.3%
九州歴史資料館	118	14.7%
遺跡（小郡官衙遺跡他）	12	1.5%
如意輪寺（かえる寺）	274	34.1%
小郡市の偉人（高松凌雲、野田宇太郎）	39	4.9%
ふるさと大使（スポーツ、文化、学術）	4	0.5%
味坂ポピー祭り	25	3.1%
小郡市民まつり	14	1.7%
夢HANABI	351	43.7%
スプリングフェスタ	3	0.4%
おごおり冬まつり	7	0.9%
鴨料理	30	3.7%
大型ショッピングセンター	135	16.8%
スイーツ	13	1.6%
その他	39	4.9%

※「その他」の回答：「コストコ」「志波まんじゅう」「特に無し」など

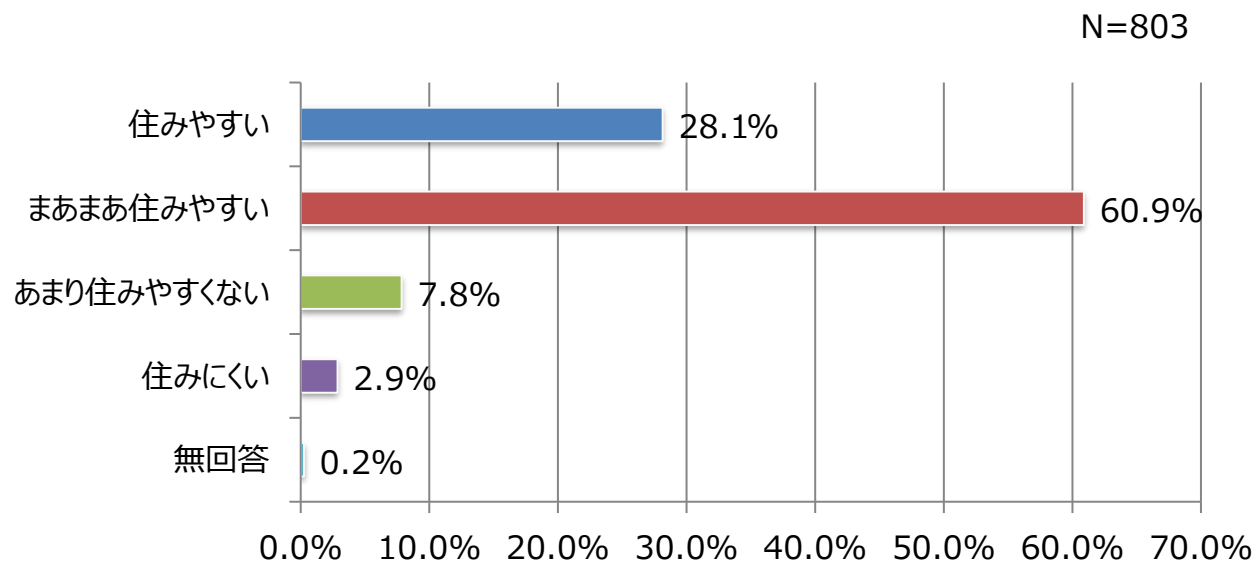


6.3 F3 住みやすさ

- 「まあまあ住みやすい」の割合が60.9%で最も高い。「住みやすい」「まあまあ住みやすい」をあわせて、89.0%の回答者が“小郡市は住みやすい”と回答している。

F3．小郡市は「住みやすい」と思いますか。

選択肢	件数	割合
住みやすい	226	28.1%
まあまあ住みやすい	489	60.9%
あまり住みやすくない	63	7.8%
住みにくい	23	2.9%
無回答	2	0.2%

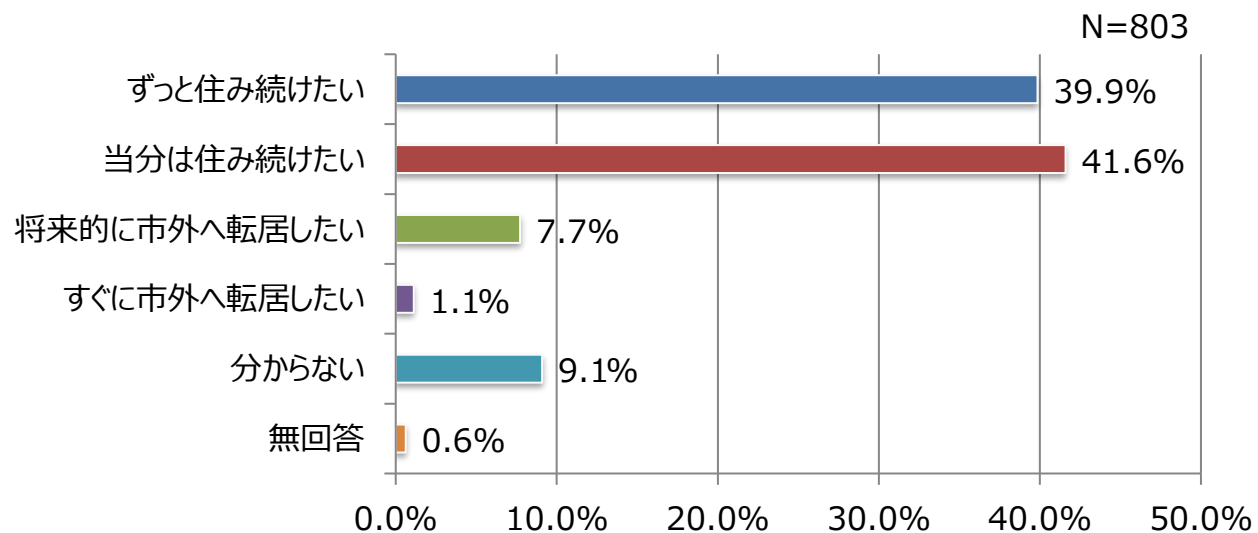


6.4 F4 定住意向

- 「当分は住み続けたい」の割合が41.6%で最も高い。「ずっと住み続けたい」「当分は住み続けたい」をあわせて、81.4%の回答者が“小郡市に住み続けたい”と回答している。

F4．あなたは、これからも小郡市に「住み続けたい」と思いますか。

選択肢	件数	割合
ずっと住み続けたい	320	39.9%
当分は住み続けたい	334	41.6%
将来的に市外へ転居したい	62	7.7%
すぐに市外へ転居したい	9	1.1%
分からない	73	9.1%
無回答	5	0.6%



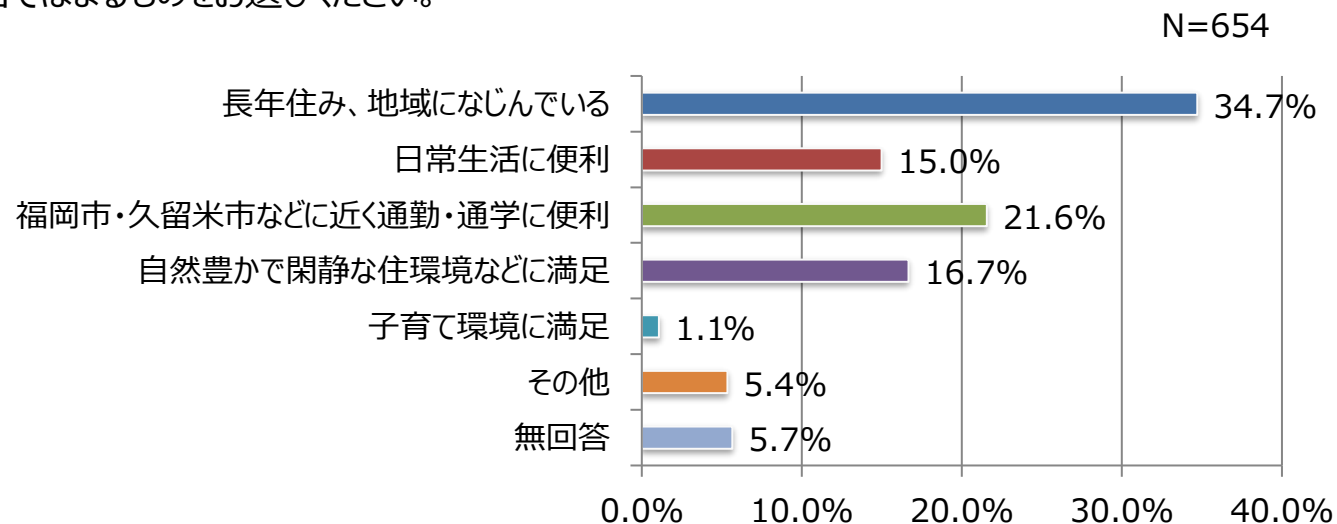
6.5 F5 住み続けたい理由（分岐設問）

- 「住み続けたい」と回答した理由として、「長年住み、地域になじんでいる」の割合が34.7%で最も高い。次いで、「福岡市・久留米市などに近く通勤・通学に便利」（21.6%）、「自然豊かで閑静な住環境などに満足」（16.7%）となっている。

F5. 【F4で①②と回答した方】住み続けたい理由として最も当てはまるものをお選びください。

選択肢	件数	割合
長年住み、地域になじんでいる	227	34.7%
日常生活に便利	98	15.0%
福岡市・久留米市などに近く通勤・通学に便利	141	21.6%
自然豊かで閑静な住環境などに満足	109	16.7%
子育て環境に満足	7	1.1%
その他	35	5.4%
無回答	37	5.7%

※「その他」の回答：「持ち家がある」「親の介護が必要」など



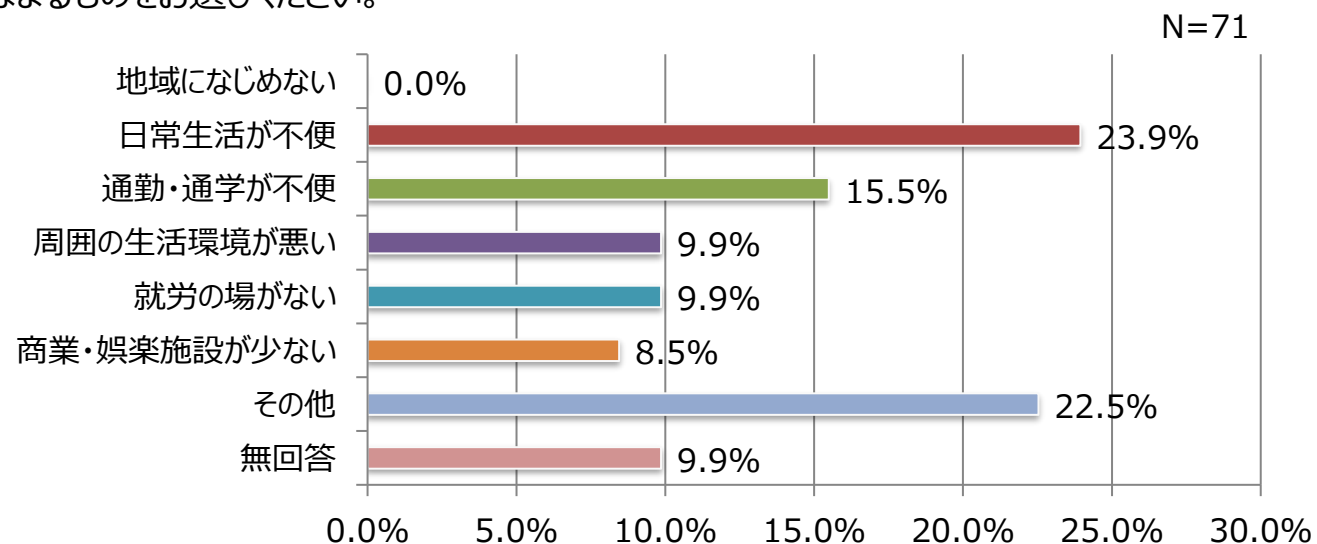
6.6 F5 転居したい理由（分岐設問）

- 「転居したい」と回答した理由として、「日常生活が不便」の割合が23.9%で最も高い。次いで、「その他」（22.5%）、「通勤・通学が不便」（15.5%）となっている。

F5. 【F4で③④と回答した方】転居したい理由として最も当てはまるものをお選びください。

選択肢	件数	割合
地域になじめない	0	0.0%
日常生活が不便	17	23.9%
通勤・通学が不便	11	15.5%
周囲の生活環境が悪い	7	9.9%
就労の場がない	7	9.9%
商業・娯楽施設が少ない	6	8.5%
その他	16	22.5%
無回答	7	9.9%

※「その他」の回答：「公共交通が利用しづらい」「実家が遠い」「行政サービスへの不満」など

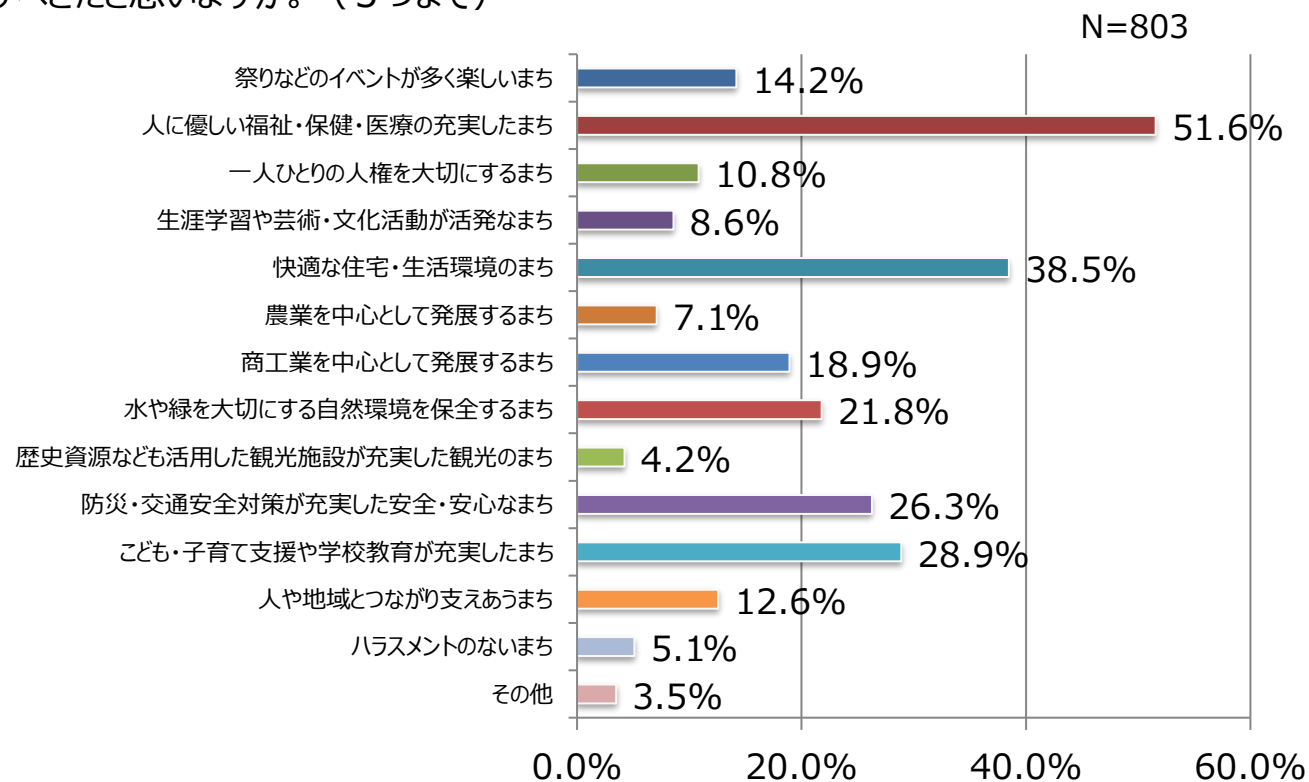


6.7 F6 今後のまちづくり

- 「人に優しい福祉・保健・医療の充実したまち」の割合が51.6%で最も高い。次いで「快適な住宅・生活環境のまち」（38.5%）、「こども・子育て支援や学校教育が充実したまち」（28.9%）となっている。

F6．今後のまちづくりについて、小郡市をどのような特色のあるまちにすべきだと思いますか。（3つまで）

選択肢	件数	割合
祭りなどのイベントが多く楽しいまち	114	14.2%
人に優しい福祉・保健・医療の充実したまち	414	51.6%
一人ひとりの人権を大切にするまち	87	10.8%
生涯学習や芸術・文化活動が活発なまち	69	8.6%
快適な住宅・生活環境のまち	309	38.5%
農業を中心として発展するまち	57	7.1%
商工業を中心として発展するまち	152	18.9%
水や緑を大切にする自然環境を保全するまち	175	21.8%
歴史資源なども活用した観光施設が充実した観光のまち	34	4.2%
防災・交通安全対策が充実した安全・安心なまち	211	26.3%
こども・子育て支援や学校教育が充実したまち	232	28.9%
人や地域とつながり支えあうまち	101	12.6%
ハラスメントのないまち	41	5.1%
その他	28	3.5%



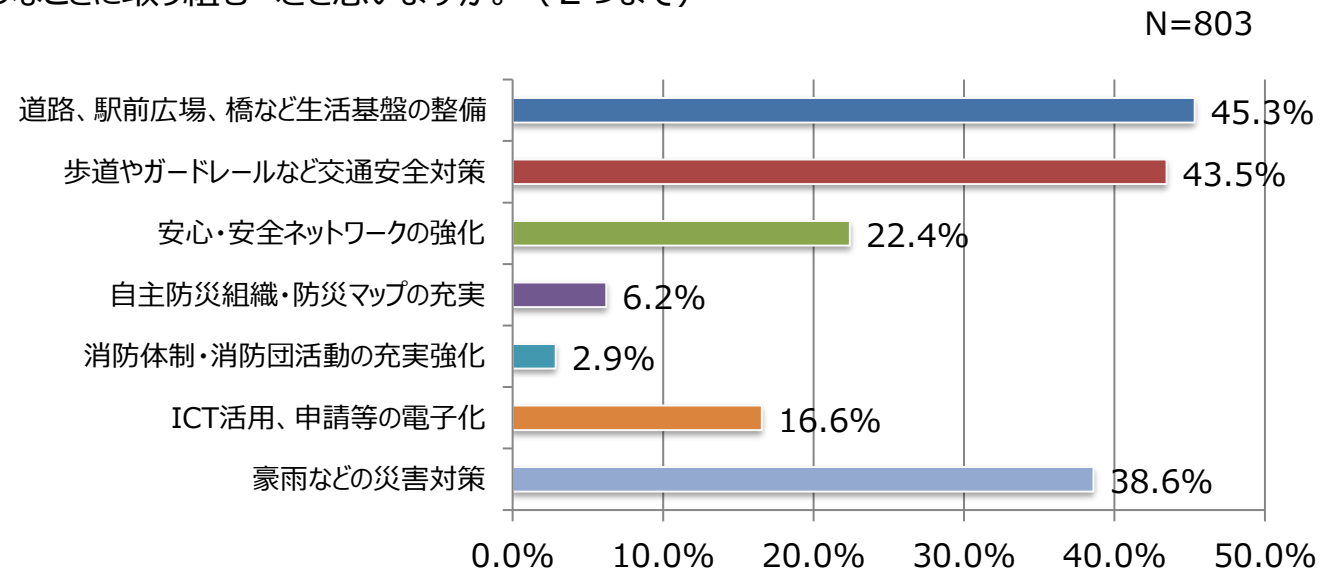
※「その他」の回答：「バス等の公共交通機関の充実」「マイカーがなくても移動に不便がないまち」「飲食店や娯楽施設の充実」など

6.8 F7 都市機能・都市基盤

- 「道路、駅前広場、橋など生活基盤の整備」の割合が45.3%で最も高い。次いで「歩道やガードレールなど交通安全対策」（43.5%）、「豪雨などの災害対策」（38.6%）となっている。

F7. 小都市の都市機能・都市基盤整備に向けて、今後どのようなことに取り組むべきと思いますか。（2つまで）

選択肢	件数	割合
道路、駅前広場、橋など生活基盤の整備	364	45.3%
歩道やガードレールなど交通安全対策	349	43.5%
安心・安全ネットワークの強化	180	22.4%
自主防災組織・防災マップの充実	50	6.2%
消防体制・消防団活動の充実強化	23	2.9%
ICT活用、申請等の電子化	133	16.6%
豪雨などの災害対策	310	38.6%

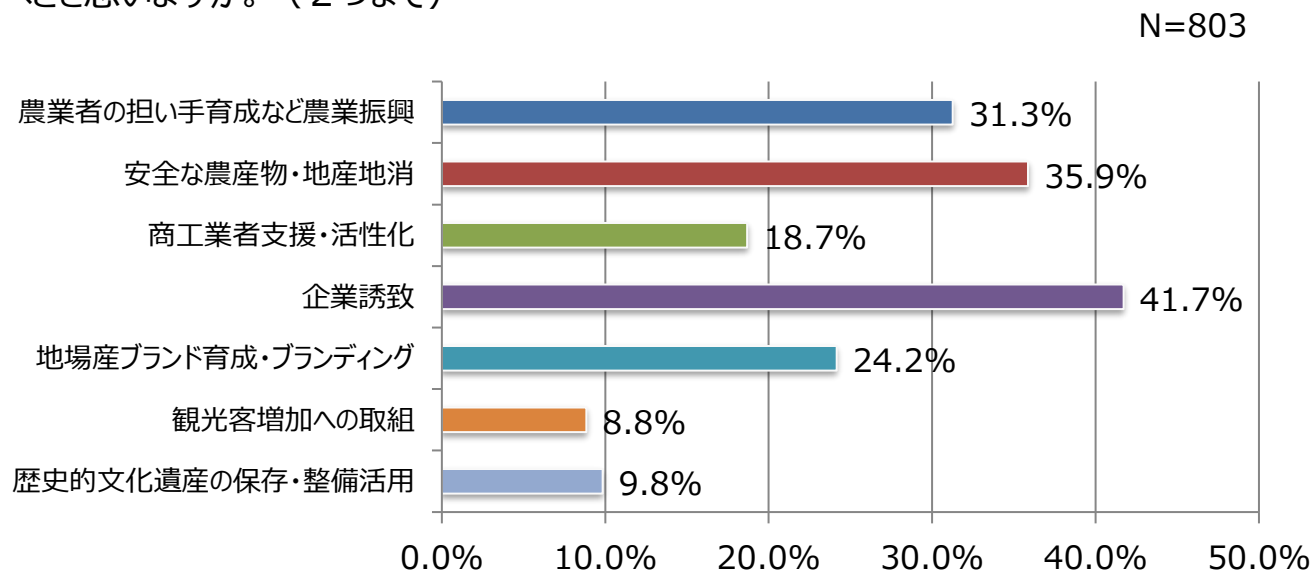


6.9 F8 産業振興

- 「企業誘致」の割合が41.7%で最も高い。次いで「安全な農産物・地産地消」（35.9%）、「農業者の担い手育成など農業振興」（31.3%）となっている。

F8．小都市の産業振興に向けて、今後どのようなことに取り組むべきと思いますか。（2つまで）

選択肢	件数	割合
農業者の担い手育成など農業振興	251	31.3%
安全な農産物・地産地消	288	35.9%
商工業者支援・活性化	150	18.7%
企業誘致	335	41.7%
地場産ブランド育成・ブランディング	194	24.2%
観光客増加への取組	71	8.8%
歴史的文化遺産の保存・整備活用	79	9.8%



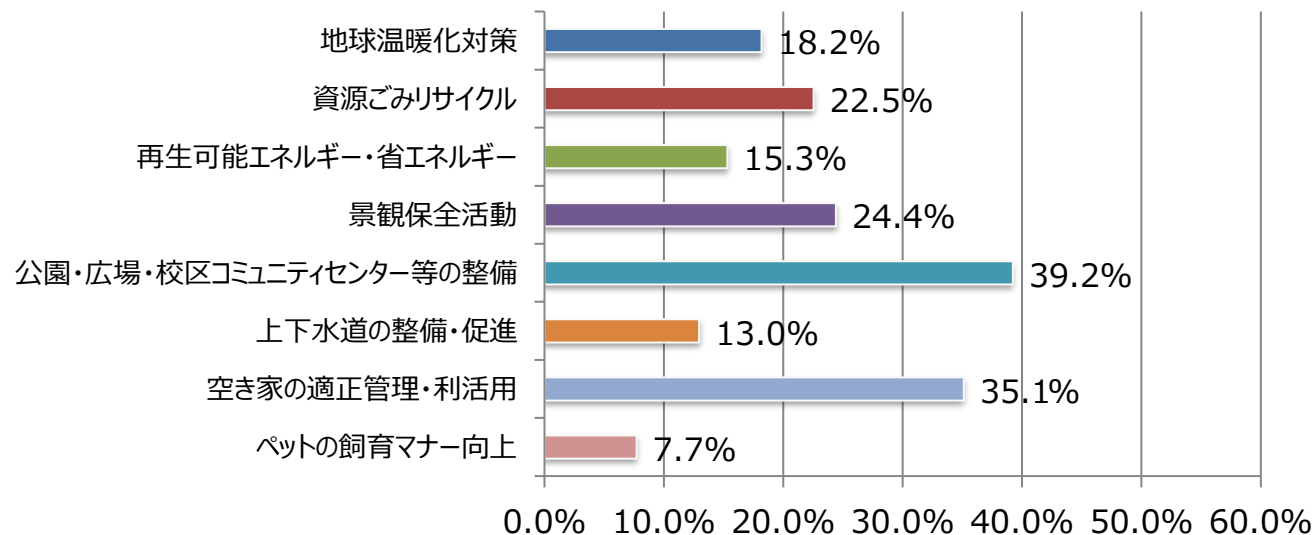
6.10 F9 居住環境

- 「公園・広場・校区コミュニティセンター等の整備」の割合が39.2%で最も高い。次いで「空き家の適正管理・利活用」（35.1%）、「景観保全活動」（24.4%）となっている。

F9．小都市の居住環境の充実に向けて、今後どのようなことに取り組むべきと思いますか。（2つまで）

N=803

選択肢	件数	割合
地球温暖化対策	146	18.2%
資源ごみリサイクル	181	22.5%
再生可能エネルギー・省エネルギー	123	15.3%
景観保全活動	196	24.4%
公園・広場・校区コミュニティセンター等の整備	315	39.2%
上下水道の整備・促進	104	13.0%
空き家の適正管理・利活用	282	35.1%
ペットの飼育マナー向上	62	7.7%

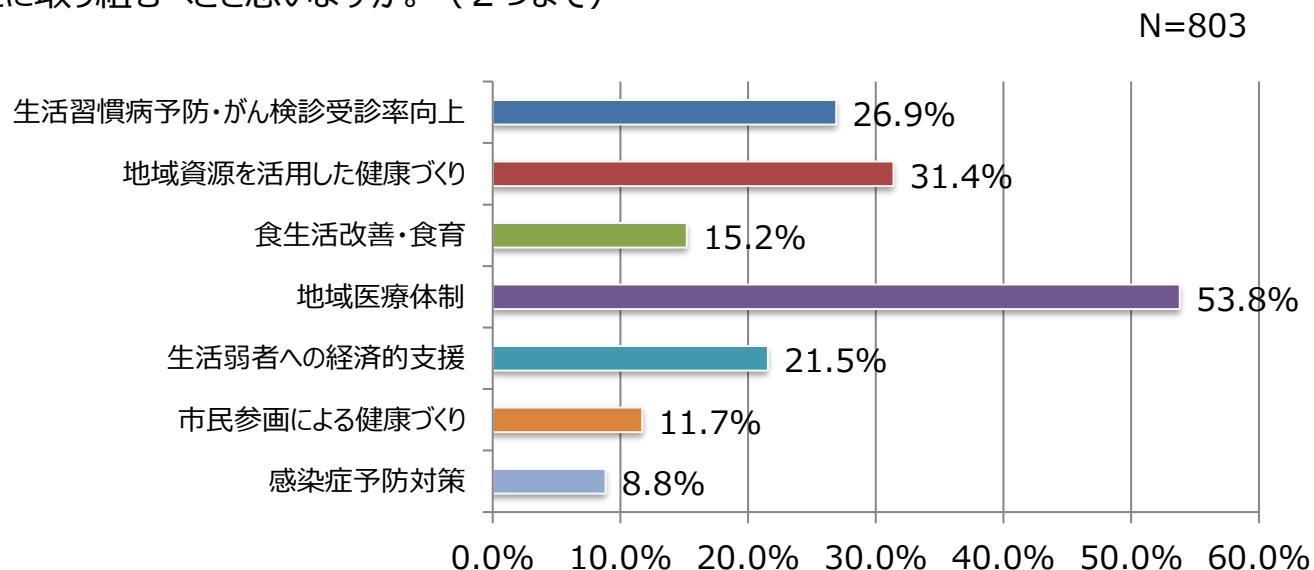


6.11 F10 健康・医療

- 「地域医療体制」の割合が53.8%で最も高い。次いで「地域資源を活用した健康づくり」（31.4%）、「生活習慣病予防・がん検診受診率向上」（26.9%）となっている。

F10. 小郡市の健康・医療の充実に向けて、今後どのようなことに取り組むべきと思いますか。（2つまで）

選択肢	件数	割合
生活習慣病予防・がん検診受診率向上	216	26.9%
地域資源を活用した健康づくり	252	31.4%
食生活改善・食育	122	15.2%
地域医療体制	432	53.8%
生活弱者への経済的支援	173	21.5%
市民参画による健康づくり	94	11.7%
感染症予防対策	71	8.8%

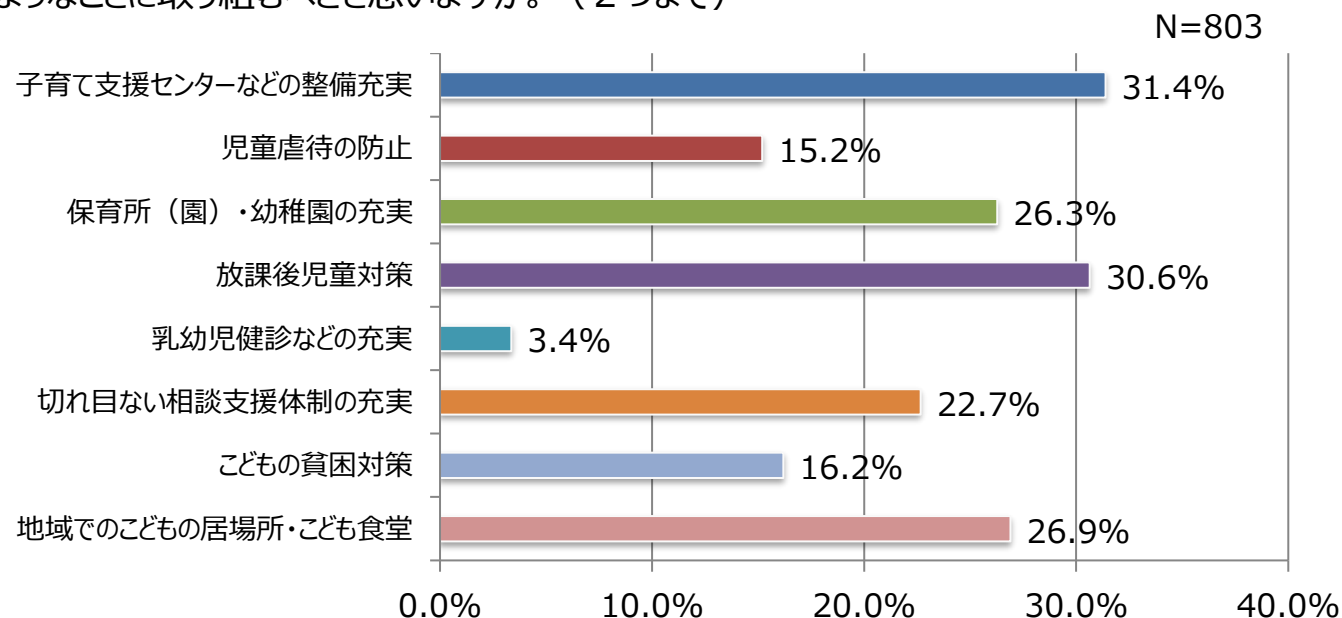


6.12 F11 こども・子育て支援

- 「子育て支援センターなどの整備充実」の割合が31.4%で最も高い。次いで「放課後児童対策」（30.6%）、「地域でのこどもの居場所・こども食堂」（26.9%）となっている。

F11 小郡市のこども・子育て支援の充実に向けて、今後どのようなことに取り組むべきと思いますか。（2つまで）

選択肢	件数	割合
子育て支援センターなどの整備充実	252	31.4%
児童虐待の防止	122	15.2%
保育所（園）・幼稚園の充実	211	26.3%
放課後児童対策	246	30.6%
乳幼児健診などの充実	27	3.4%
切れ目ない相談支援体制の充実	182	22.7%
こどもの貧困対策	130	16.2%
地域でのこどもの居場所・こども食堂	216	26.9%



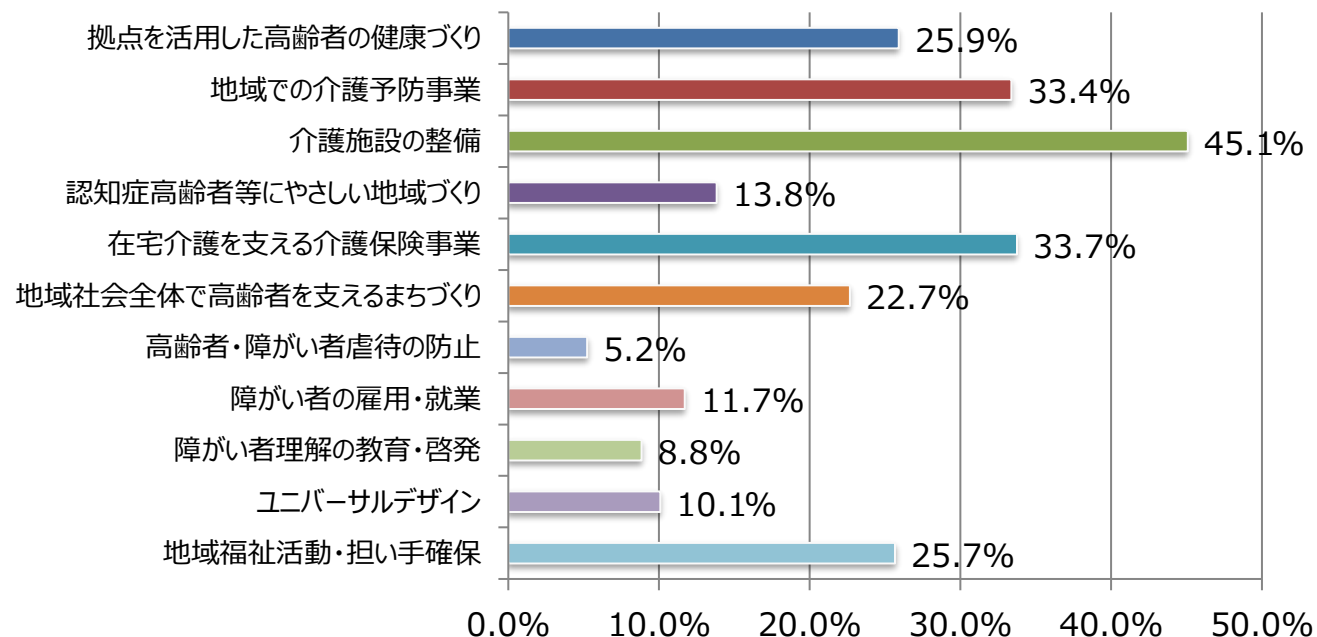
6.13 F12 高齢者・障がい者・地域福祉

- 「介護施設の整備」の割合が45.1%で最も高い。次いで「在宅介護を支える介護保険事業」（33.7%）、「地域での介護予防事業」（33.4%）となっている。

F 1 2．小都市の高齢者・障がい者・地域福祉の充実に向けて、今後どのようなことに取り組むべきと思いますか。（3つまで）

N=803

選択肢	件数	割合
拠点を活用した高齢者の健康づくり	208	25.9%
地域での介護予防事業	268	33.4%
介護施設の整備	362	45.1%
認知症高齢者等にやさしい地域づくり	111	13.8%
在宅介護を支える介護保険事業	271	33.7%
地域社会全体で高齢者を支えるまちづくり	182	22.7%
高齢者・障がい者虐待の防止	42	5.2%
障がい者の雇用・就業	94	11.7%
障がい者理解の教育・啓発	71	8.8%
ユニバーサルデザイン	81	10.1%
地域福祉活動・担い手確保	206	25.7%



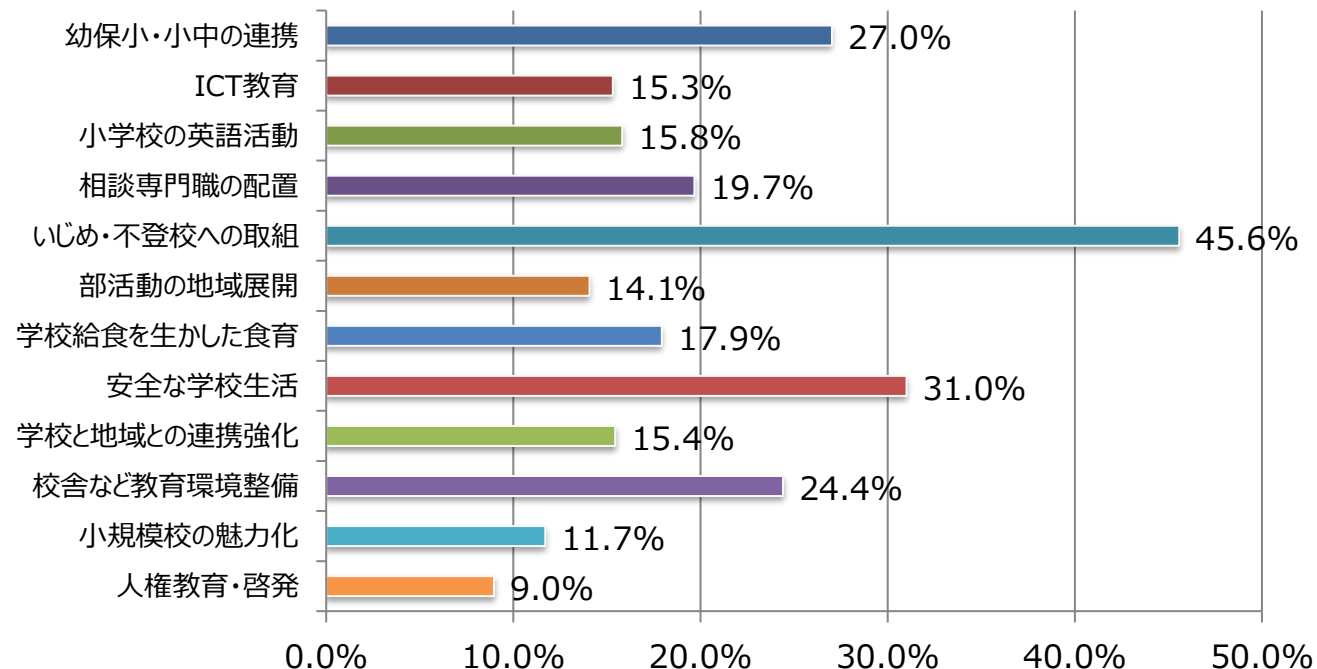
6.14 F13 学校教育

- 「いじめ・不登校への取組」の割合が45.6%で最も高い。次いで「安全な学校生活」（31.0%）、「幼保小・小中の連携」（27.0%）となっている。

F13．小郡市の学校教育の充実に向けて、今後どのようなことに取り組むべきと思いますか。（3つまで）

N=803

選択肢	件数	割合
幼保小・小中の連携	217	27.0%
ICT教育	123	15.3%
小学校の英語活動	127	15.8%
相談専門職の配置	158	19.7%
いじめ・不登校への取組	366	45.6%
部活動の地域展開	113	14.1%
学校給食を生かした食育	144	17.9%
安全な学校生活	249	31.0%
学校と地域との連携強化	124	15.4%
校舎など教育環境整備	196	24.4%
小規模校の魅力化	94	11.7%
人権教育・啓発	72	9.0%

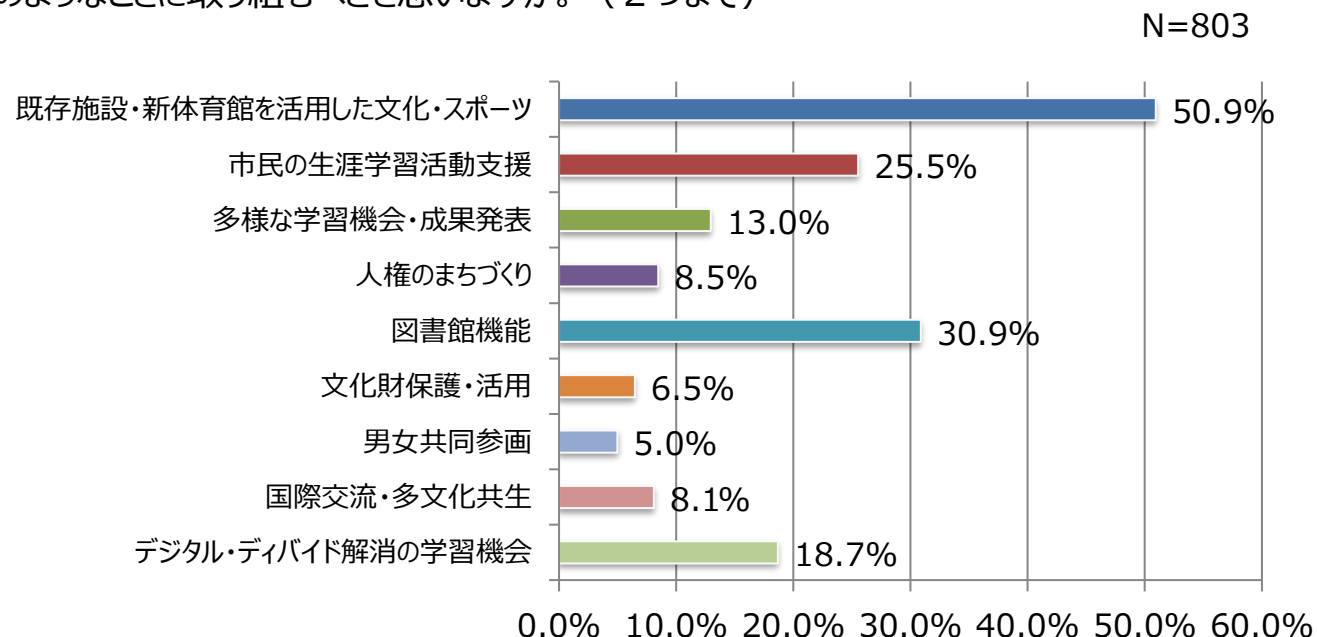


6.15 F14 生涯学習・地域文化

- 「既存施設・新体育館を活用した文化・スポーツ」の割合が50.9%で最も高い。次いで「図書館機能」（30.9%）、「市民の生涯学習活動支援」（25.5%）となっている。

F14 小郡市の生涯学習・地域文化の充実に向けて、今後どのようなことに取り組むべきと思いますか。（2つまで）

選択肢	件数	割合
既存施設・新体育館を活用した文化・スポーツ	409	50.9%
市民の生涯学習活動支援	205	25.5%
多様な学習機会・成果発表	104	13.0%
人権のまちづくり	68	8.5%
図書館機能	248	30.9%
文化財保護・活用	52	6.5%
男女共同参画	40	5.0%
国際交流・多文化共生	65	8.1%
デジタル・ディバイド解消の学習機会	150	18.7%



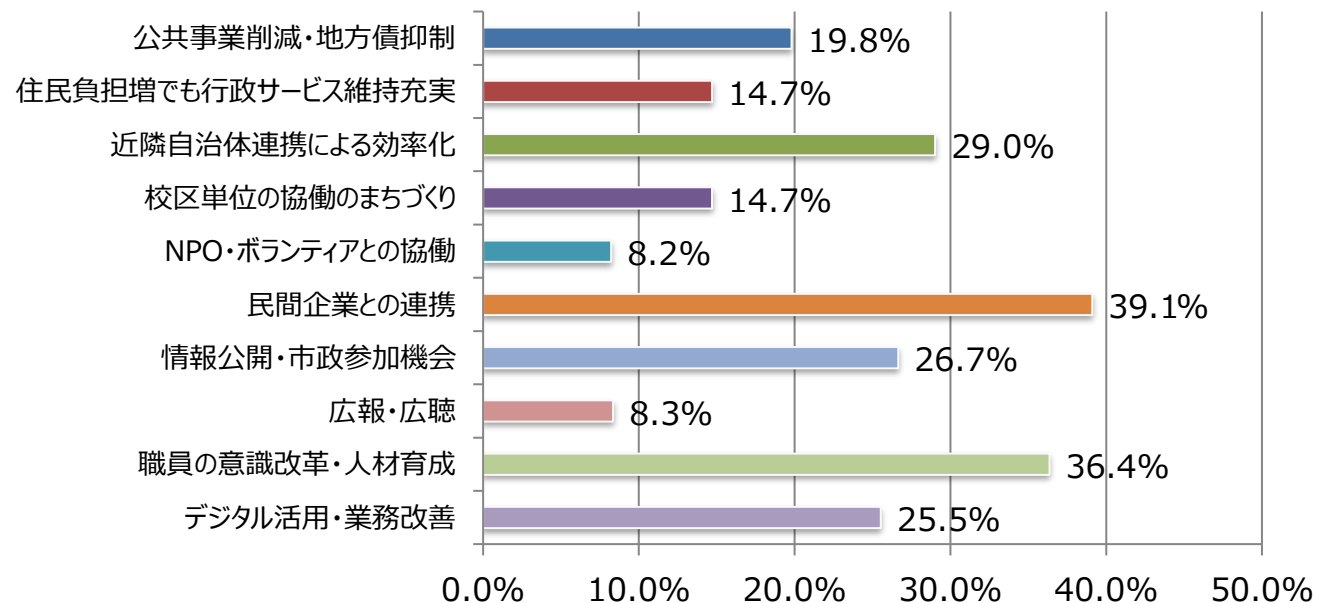
6.16 F15 行財政運営

- 「民間企業との連携」の割合が39.1%で最も高い。次いで「職員の意識改革・人材育成」（36.4%）、「近隣自治体連携による効率化」（29.0%）となっている。

F15．小郡市の行財政運営や地方自治体制について、今後どのようなことに取り組むべきと思いますか。（3つまで）

N=803

選択肢	件数	割合
公共事業削減・地方債抑制	159	19.8%
住民負担増でも行政サービス維持充実	118	14.7%
近隣自治体連携による効率化	233	29.0%
校区単位の協働のまちづくり	118	14.7%
NPO・ボランティアとの協働	66	8.2%
民間企業との連携	314	39.1%
情報公開・市政参加機会	214	26.7%
広報・広聴	67	8.3%
職員の意識改革・人材育成	292	36.4%
デジタル活用・業務改善	205	25.5%

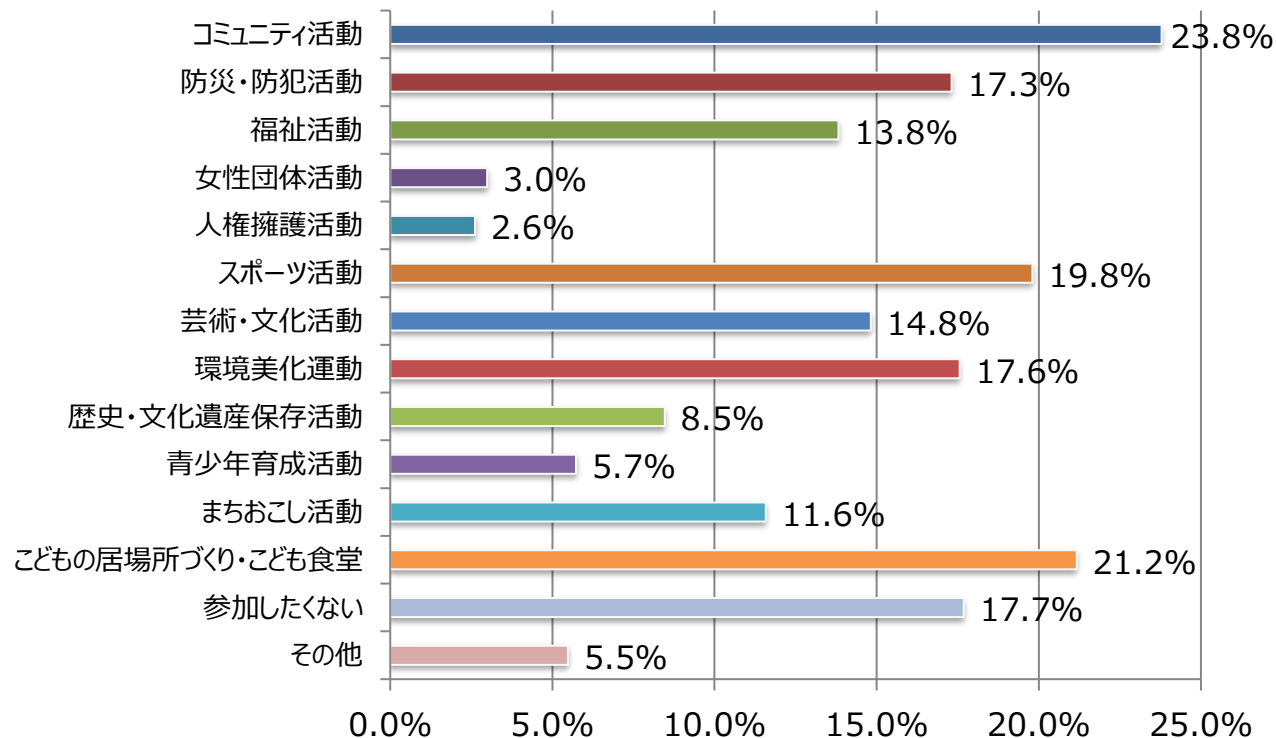


6.17 F16 地域活動参加

- 「コミュニティ活動」の割合が23.8%で最も高い。次いで「こどもの居場所づくり・こども食堂」（21.2%）、「スポーツ活動」（19.8%）となっている。

F16．あなたは、市内や地域でどのような活動に参加し、協力したいと思いますか。今後参加したいものをお選びください。（当てはまるものすべて）
N=803

選択肢	件数	割合
コミュニティ活動	191	23.8%
防災・防犯活動	139	17.3%
福祉活動	111	13.8%
女性団体活動	24	3.0%
人権擁護活動	21	2.6%
スポーツ活動	159	19.8%
芸術・文化活動	119	14.8%
環境美化運動	141	17.6%
歴史・文化遺産保存活動	68	8.5%
青少年育成活動	46	5.7%
まちおこし活動	93	11.6%
こどもの居場所づくり・こども食堂	170	21.2%
参加したくない	142	17.7%
その他	44	5.5%



6.18 G1 自由記述

- 自由記述をカテゴリ別に分類すると、交通・公共交通（38件）、道路整備（32件）、市役所・行政運営（31件）の3分野の回答が特に多く、日常の移動と生活基盤に関する関心が最も高い。
- 住みやすさを評価する声がある一方で、「住みやすいが交通が不便」との声もあり、公共交通への改善要望が多い。

G1. 小郡市の行政やまちづくりに関して、ご意見がありましたらご記入ください。

カテゴリ	件数	割合
交通・公共交通	38	14.6%
道路整備	32	12.3%
市役所・行政運営	31	11.9%
住宅・まちづくり	28	10.8%
子育て・教育	25	9.6%
商業施設・飲食店	20	7.7%
外国人共生	15	5.8%
地域コミュニティ	14	5.4%
防犯・防災	12	4.6%
観光・歴史・地域活性化	11	4.2%
高齢者福祉	8	3.1%
スポーツ・文化施設	7	2.7%
企業誘致・雇用	7	2.7%
自然環境・景観	5	1.9%
税金・財政	4	1.5%
医療・健康	2	0.8%
その他	5	1.9%

■ 市民から評価されている点

1. のるーと（オンデマンド交通）の導入
 - ・ 高齢者の移動手段として「のるーと」への感謝の声が複数寄せられている。特に免許返納後の生活を支える重要なサービスとして認識されており、継続を望む声が多い。
2. 市職員の親身な対応
 - ・ 「頼る人がいない私に親身に寄り添っていただき感謝している」「小郡に引っ越して来て良かった」など、市職員の対応を高く評価する声がある。職員対応の改善が見られるとの指摘もあり、行政サービスの質向上が評価されている。
3. 住環境・治安の良さ
 - ・ 「治安が良く、静かで住みやすい」「自然豊かで子育てに良い環境」との評価が多数あり、小郡市の基本的な住環境は高く評価されている。福岡市へのアクセスの良さも利点として挙げられている。

■ 市民から改善要望が多い点

1. 公共交通の充実
 - ・ 「のるーと」は評価される一方で、「待ち時間が長い（2時間待ち等）」「予約が取りづらい」「台数を増やしてほしい」との声が多数。また、コミュニティバスの復活を求める声や、路線バスがないことへの不満も根強い。免許返納後の移動手段確保は市民の最大の不安要素となっている。
2. 市役所庁舎の建て替え
 - ・ 「古くてみすばらしい」「災害時に大丈夫か心配」「駐車場が狭い」「別館が分散してわかりにくい」など、庁舎建て替えを求める声が非常に多い。
3. 道路・歩道の整備
 - ・ 歩道が狭い・段差がある、道路に穴がある、草刈りが不十分、夜間の街灯不足など、道路環境に関する要望が多数。特に通学路の安全確保、踏切周辺の危険性解消を求める声が顕著である。

第7章：独自設問（クロス集計）

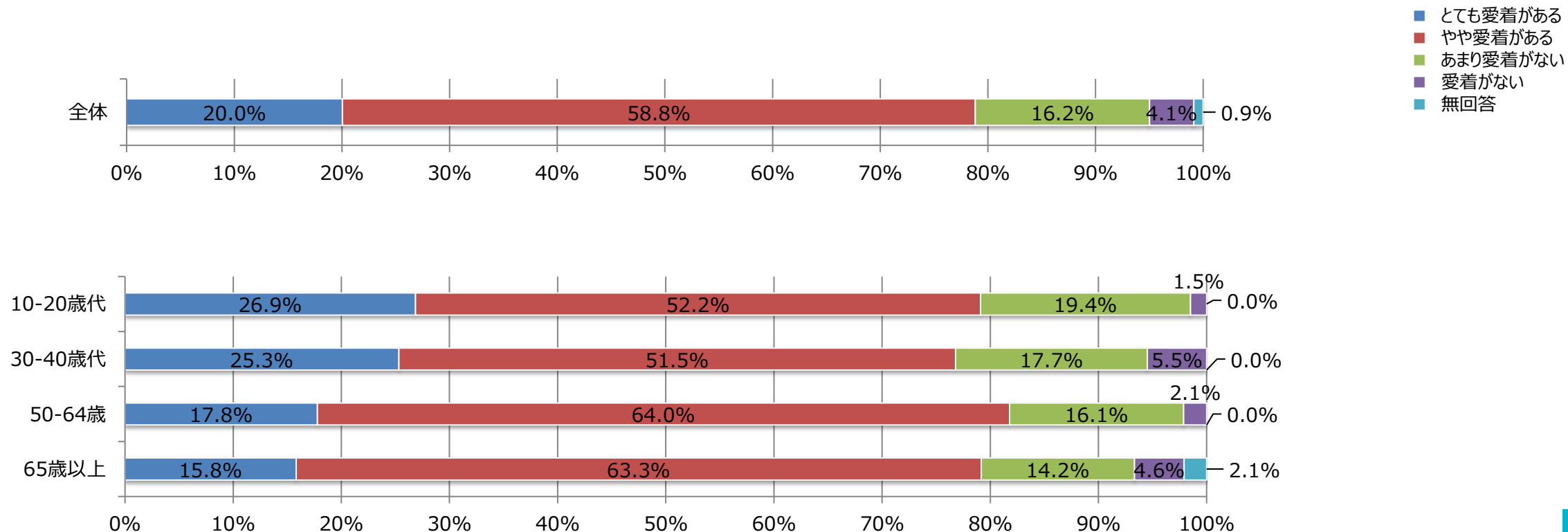
7.1.1 F1 小郡市への愛着（年代別）

- 「とても愛着がある」と回答した割合が一番高いのは10-20歳代の26.9%であり、年齢が高くなるほど「とても愛着がある」と回答する割合は低くなっている。
- 「どちらかといえば愛着がある」と回答した割合について、年代による大きな違いは見られない。

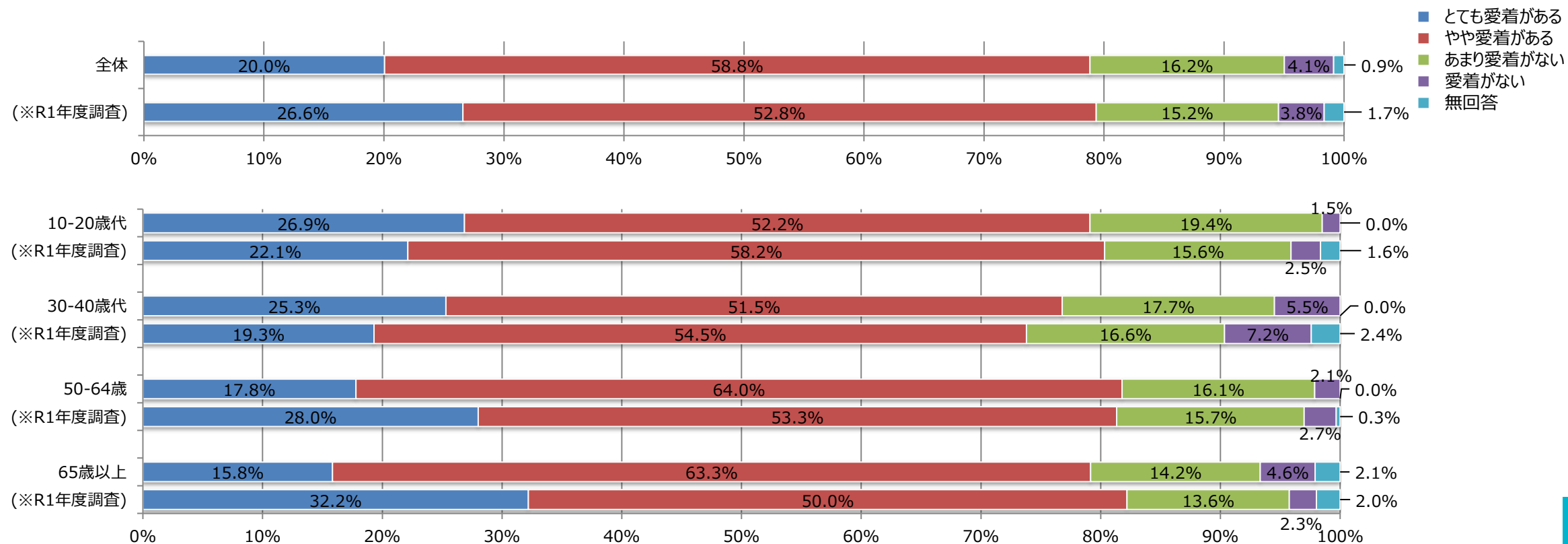
F1．あなたは、小郡市にどの程度愛着がありますか（好きだと思いますか）。

	計	件数（人）					割合（％）					割合（％） 合算	
		とても 愛着がある	やや 愛着がある	あまり 愛着がない	愛着が ない	無回答	とても 愛着がある	やや 愛着がある	あまり 愛着がない	愛着が ない	無回答	どちらかとい えば愛着が ある	どちらかとい えば愛着が ない
全体	803	161	472	130	33	7	20.0%	58.8%	16.2%	4.1%	0.9%	78.8%	20.3%
年代別	10-20歳代	67	18	35	13	0	26.9%	52.2%	19.4%	1.5%	0.0%	79.1%	20.9%
	30-40歳代	237	60	122	42	0	25.3%	51.5%	17.7%	5.5%	0.0%	76.8%	23.2%
	50-64歳	236	42	151	38	0	17.8%	64.0%	16.1%	2.1%	0.0%	81.8%	18.2%
	65歳以上	240	38	152	34	5	15.8%	63.3%	14.2%	4.6%	2.1%	79.2%	18.8%
	無回答	23	3	12	3	2	13.0%	52.2%	13.0%	13.0%	8.7%	65.2%	26.1%

7.1.2 F1 小都市への愛着（年代別グラフ）



7.1.3 F1 小都市への愛着（年代別グラフ、経年比較）



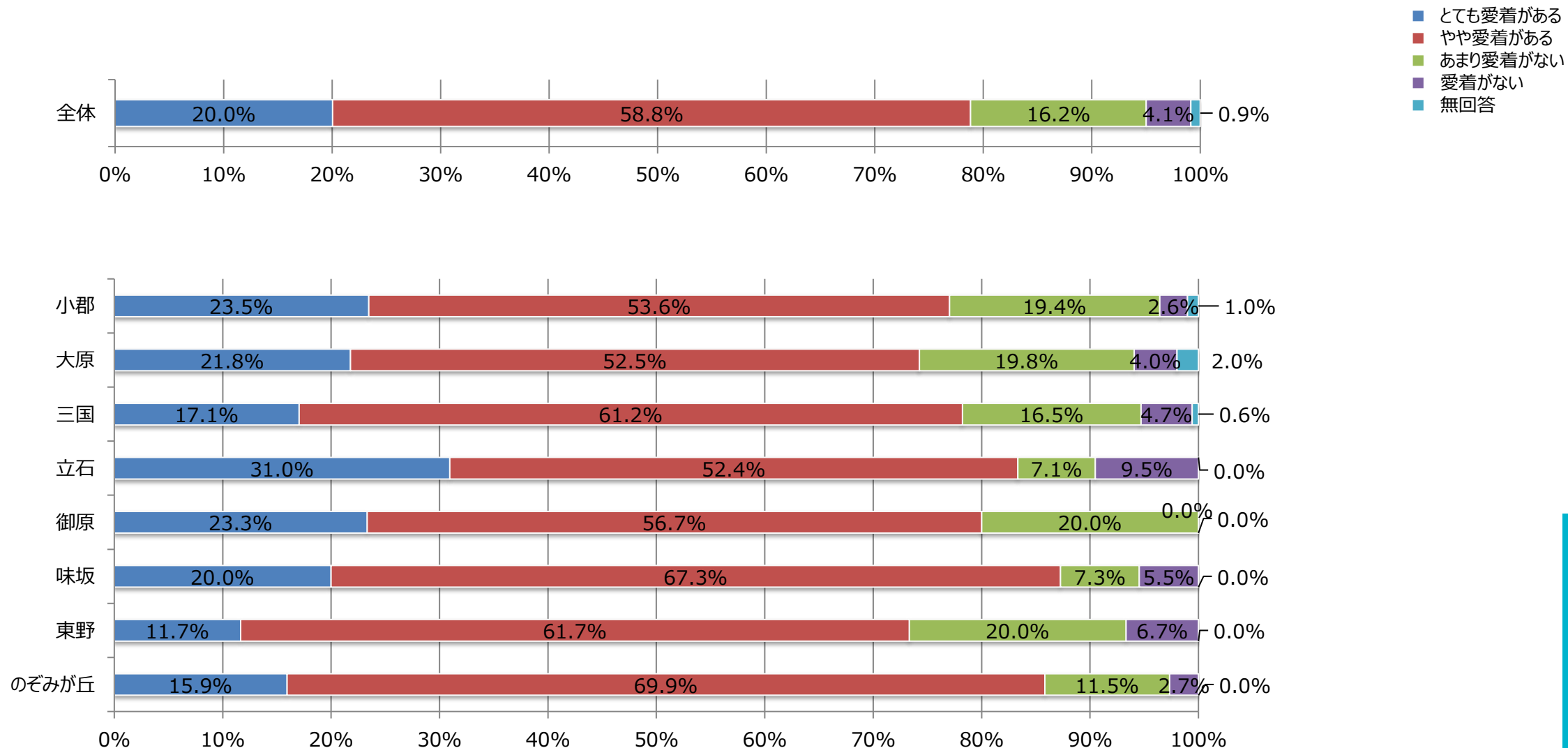
7.1.4 F1 小郡市への愛着（小学校区別）

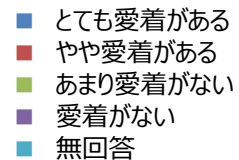
- 「とても愛着がある」と回答した割合が一番高いのは立石小学校区の31.0%である。
- 「どちらかといえば愛着がある」と回答した割合は味坂小学校区が87.3%で最も高く、東野小学校区が73.3%で最も低い。

F1．あなたは、小郡市にどの程度愛着がありますか（好きだと思いますか）。

	計	件数（人）					割合（％）					割合（％） 合算	
		とても 愛着がある	やや 愛着がある	あまり 愛着がない	愛着が ない	無回答	とても 愛着がある	やや 愛着がある	あまり 愛着がない	愛着が ない	無回答	どちらかとい えば愛着が ある	どちらかとい えば愛着が ない
全体	803	161	472	130	33	7	20.0%	58.8%	16.2%	4.1%	0.9%	78.8%	20.3%
小学校区別	小郡	196	46	105	38	2	23.5%	53.6%	19.4%	2.6%	1.0%	77.0%	21.9%
	大原	101	22	53	20	2	21.8%	52.5%	19.8%	4.0%	2.0%	74.3%	23.8%
	三国	170	29	104	28	1	17.1%	61.2%	16.5%	4.7%	0.6%	78.2%	21.2%
	立石	42	13	22	3	0	31.0%	52.4%	7.1%	9.5%	0.0%	83.3%	16.7%
	御原	60	14	34	12	0	23.3%	56.7%	20.0%	0.0%	0.0%	80.0%	20.0%
	味坂	55	11	37	4	0	20.0%	67.3%	7.3%	5.5%	0.0%	87.3%	12.7%
	東野	60	7	37	12	0	11.7%	61.7%	20.0%	6.7%	0.0%	73.3%	26.7%
	のぞみが丘	113	18	79	13	0	15.9%	69.9%	11.5%	2.7%	0.0%	85.8%	14.2%
	無回答	6	1	1	0	2	16.7%	16.7%	0.0%	33.3%	33.3%	33.3%	33.3%

7.1.5 F1 小郡市への愛着（小学校区別グラフ）





7.2.1 F2 自慢できるもの・ひと（年代別）

- 小郡市で自慢できるもの・ひとについて年代別に見ると、いずれの年代も1位は「夢HANABI」、2位は「如意輪寺（かえる寺）」となっている。
- 各年代の上位5項目については、順位に違いはあるものの、65歳以上を除いて同一である。

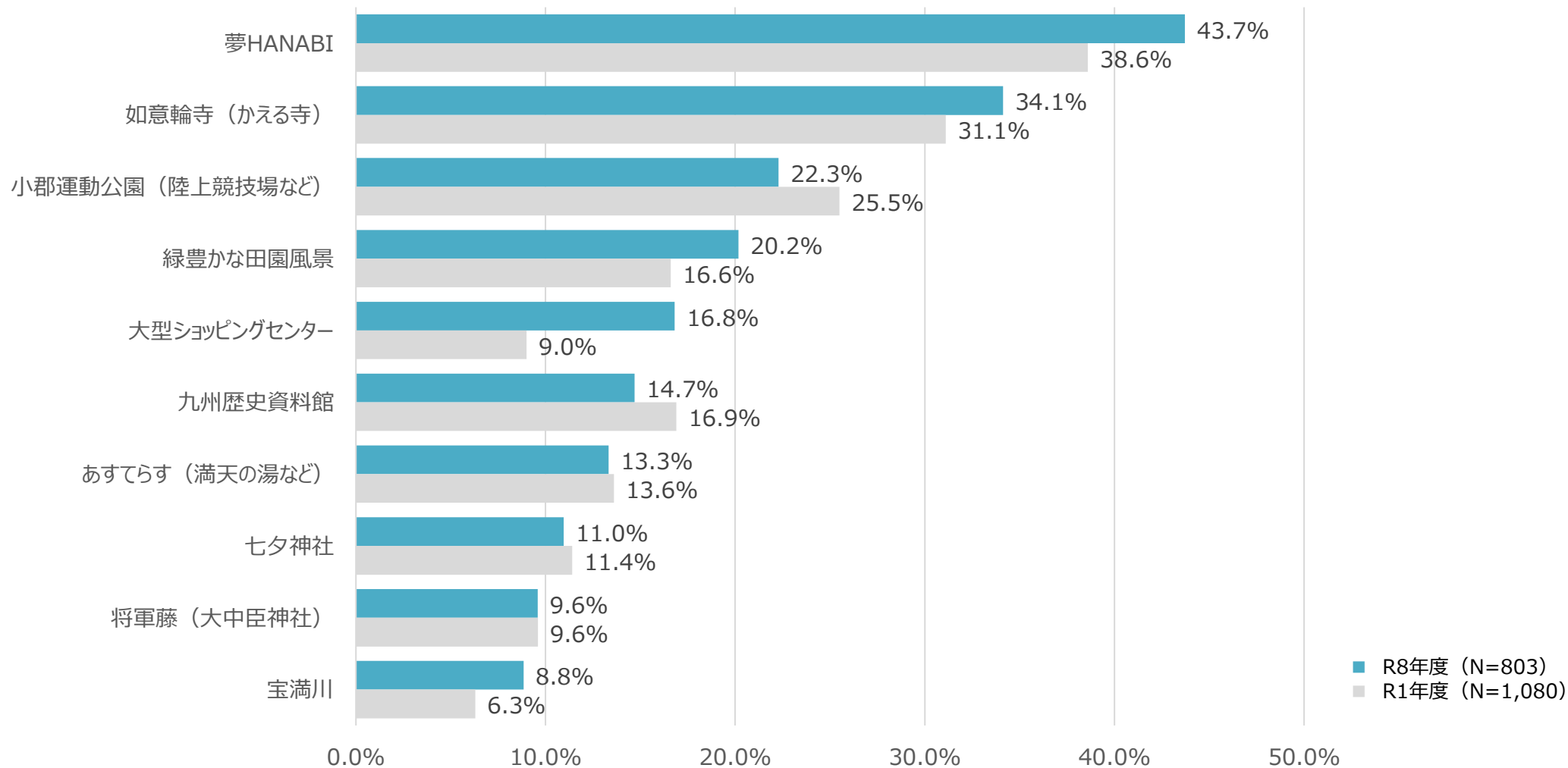
F2. あなたが小郡市で自慢できるもの・ひとは何ですか。（3つまで）

：上位5項目

	全体		10-20歳代		30-40歳代		50-64歳		65歳以上	
	件数（人）	割合（%）	件数（人）	割合（%）	件数（人）	割合（%）	件数（人）	割合（%）	件数（人）	割合（%）
将軍藤（大中臣神社）	77	9.6%	4	6.0%	12	5.1%	26	11.0%	33	13.8%
七夕神社	88	11.0%	5	7.5%	21	8.9%	26	11.0%	28	11.7%
城山公園（花立山）	67	8.3%	2	3.0%	16	6.8%	20	8.5%	28	11.7%
宝満川	71	8.8%	3	4.5%	16	6.8%	20	8.5%	30	12.5%
緑豊かな田園風景	162	20.2%	12	17.9%	40	16.9%	52	22.0%	55	22.9%
旅籠油屋（松崎）	17	2.1%	1	1.5%	2	0.8%	8	3.4%	6	2.5%
文化会館・図書館	45	5.6%	2	3.0%	10	4.2%	11	4.7%	21	8.8%
小郡運動公園（陸上競技場など）	179	22.3%	14	20.9%	49	20.7%	55	23.3%	55	22.9%
生涯学習センター	16	2.0%	1	1.5%	4	1.7%	5	2.1%	6	2.5%
埋蔵文化財調査センター	31	3.9%	4	6.0%	6	2.5%	5	2.1%	14	5.8%
あすてらす（満天の湯など）	107	13.3%	2	3.0%	35	14.8%	29	12.3%	38	15.8%
九州歴史資料館	118	14.7%	5	7.5%	24	10.1%	38	16.1%	48	20.0%
遺跡（小郡官衙遺跡他）	12	1.5%	2	3.0%	1	0.4%	4	1.7%	5	2.1%
如意輪寺（かえる寺）	274	34.1%	34	50.7%	90	38.0%	74	31.4%	68	28.3%
小郡市の偉人（高松凌雲、野田宇太郎）	39	4.9%	0	0.0%	3	1.3%	11	4.7%	25	10.4%
ふるさと大使（スポーツ、文化、学術）	4	0.5%	0	0.0%	0	0.0%	3	1.3%	1	0.4%
味坂ポピー祭り	25	3.1%	1	1.5%	8	3.4%	11	4.7%	5	2.1%
小郡市民まつり	14	1.7%	1	1.5%	3	1.3%	5	2.1%	4	1.7%
夢HANABI	351	43.7%	37	55.2%	125	52.7%	107	45.3%	75	31.3%
スプリングフェスタ	3	0.4%	0	0.0%	2	0.8%	0	0.0%	1	0.4%
おごおり冬まつり	7	0.9%	1	1.5%	6	2.5%	0	0.0%	0	0.0%
鴨料理	30	3.7%	0	0.0%	9	3.8%	8	3.4%	10	4.2%
大型ショッピングセンター	135	16.8%	16	23.9%	40	16.9%	43	18.2%	36	15.0%
スイーツ	13	1.6%	2	3.0%	7	3.0%	3	1.3%	1	0.4%
その他	39	4.9%	3	4.5%	16	6.8%	14	5.9%	6	2.5%

7.2.2 F2 自慢できるもの・ひと（経年比較）

＜R8年度調査（上位10項目）とR1年度調査との比較＞



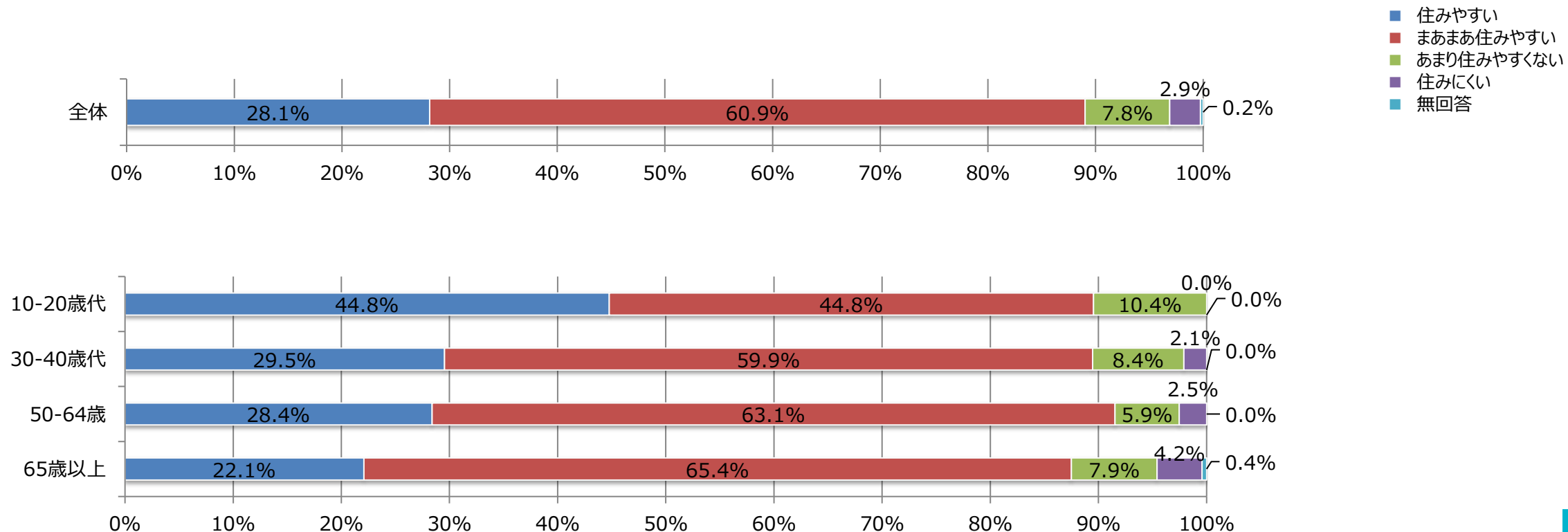
7.3.1 F3 住みやすさ（年代別）

- 「住みやすい」と回答した割合が一番高いのは10-20歳代の44.8%であり、年齢が高くなるほど「住みやすい」と回答する割合は低くなっている。
- 「どちらかといえば住みやすい」と回答した割合について、年代による大きな違いは見られない。

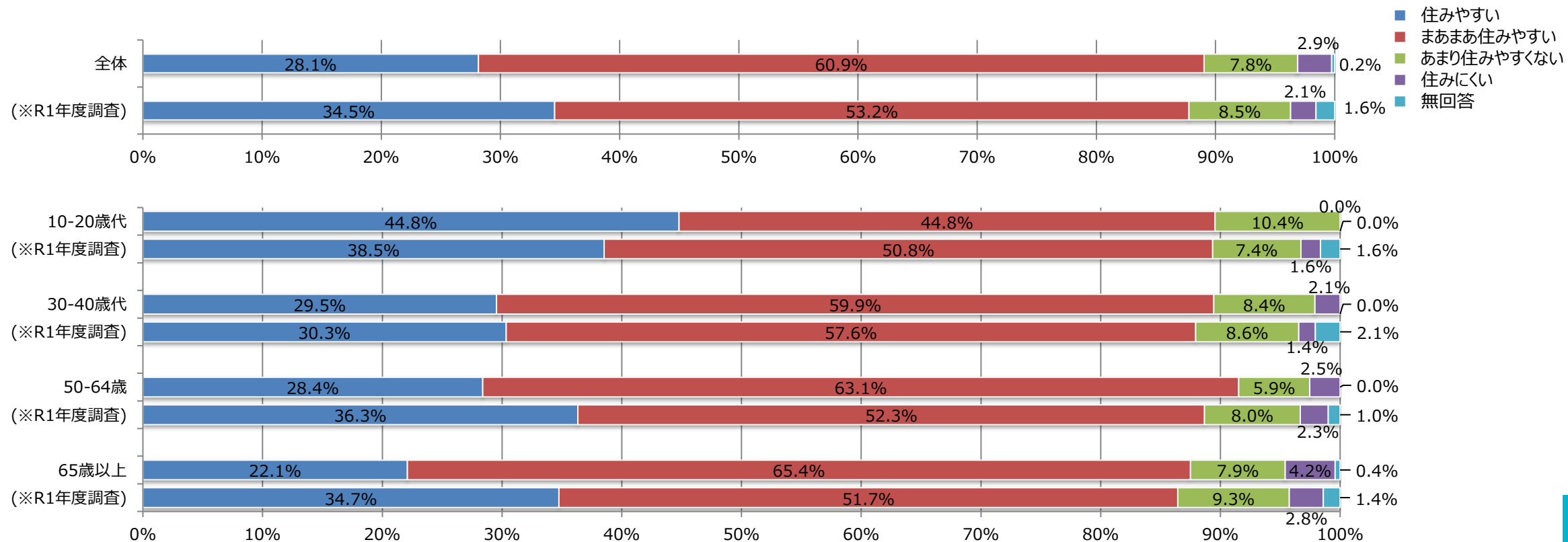
F3．小都市は「住みやすい」と思いますか。

	計	件数（人）					割合（％）					割合（％） 合算	
		住みやすい	まあまあ 住みやすい	あまり 住みやすくない	住みにくい	無回答	住みやすい	まあまあ 住みやすい	あまり 住みやすくない	住みにくい	無回答	どちらかとい えば住みや すい	どちらかとい えば住みに くい
全体	803	226	489	63	23	2	28.1%	60.9%	7.8%	2.9%	0.2%	89.0%	10.7%
年代別	10-20歳代	67	30	30	7	0	44.8%	44.8%	10.4%	0.0%	0.0%	89.6%	10.4%
	30-40歳代	237	70	142	20	0	29.5%	59.9%	8.4%	2.1%	0.0%	89.5%	10.5%
	50-64歳	236	67	149	14	0	28.4%	63.1%	5.9%	2.5%	0.0%	91.5%	8.5%
	65歳以上	240	53	157	19	1	22.1%	65.4%	7.9%	4.2%	0.4%	87.5%	12.1%
	無回答	23	6	11	3	1	26.1%	47.8%	13.0%	8.7%	4.3%	73.9%	21.7%

7.3.2 F3 住みやすさ（年代別グラフ）



7.3.3 F3 住みやすさ（年代別グラフ、経年比較）



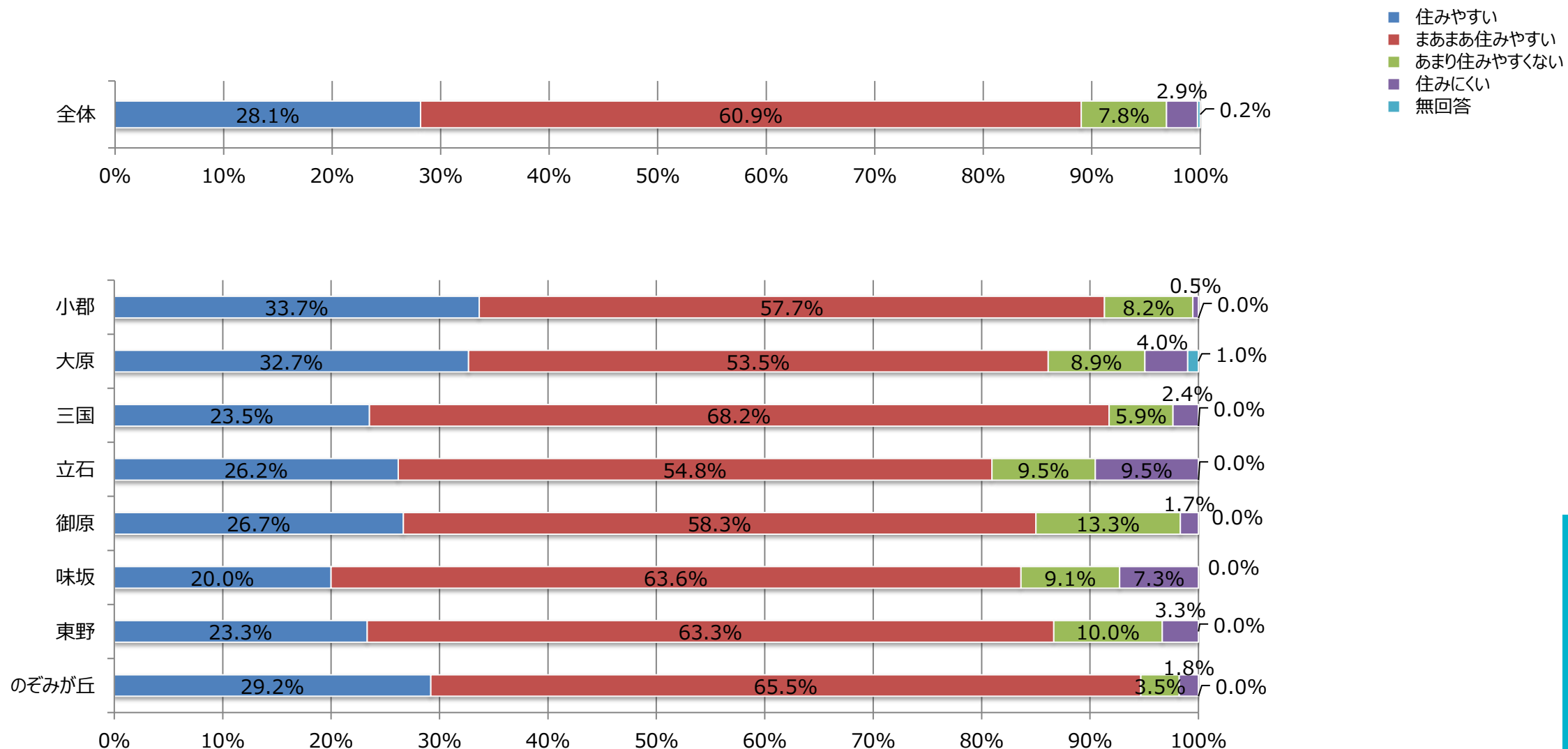
7.3.4 F3 住みやすさ（小学校区別）

- 「住みやすい」と回答した割合が一番高いのは小郡小学校区の33.7%である。
- 「どちらかといえば住みやすい」と回答した割合はのぞみが丘小学校区が94.7%で最も高く、立石小学校区が81.0%で最も低い。

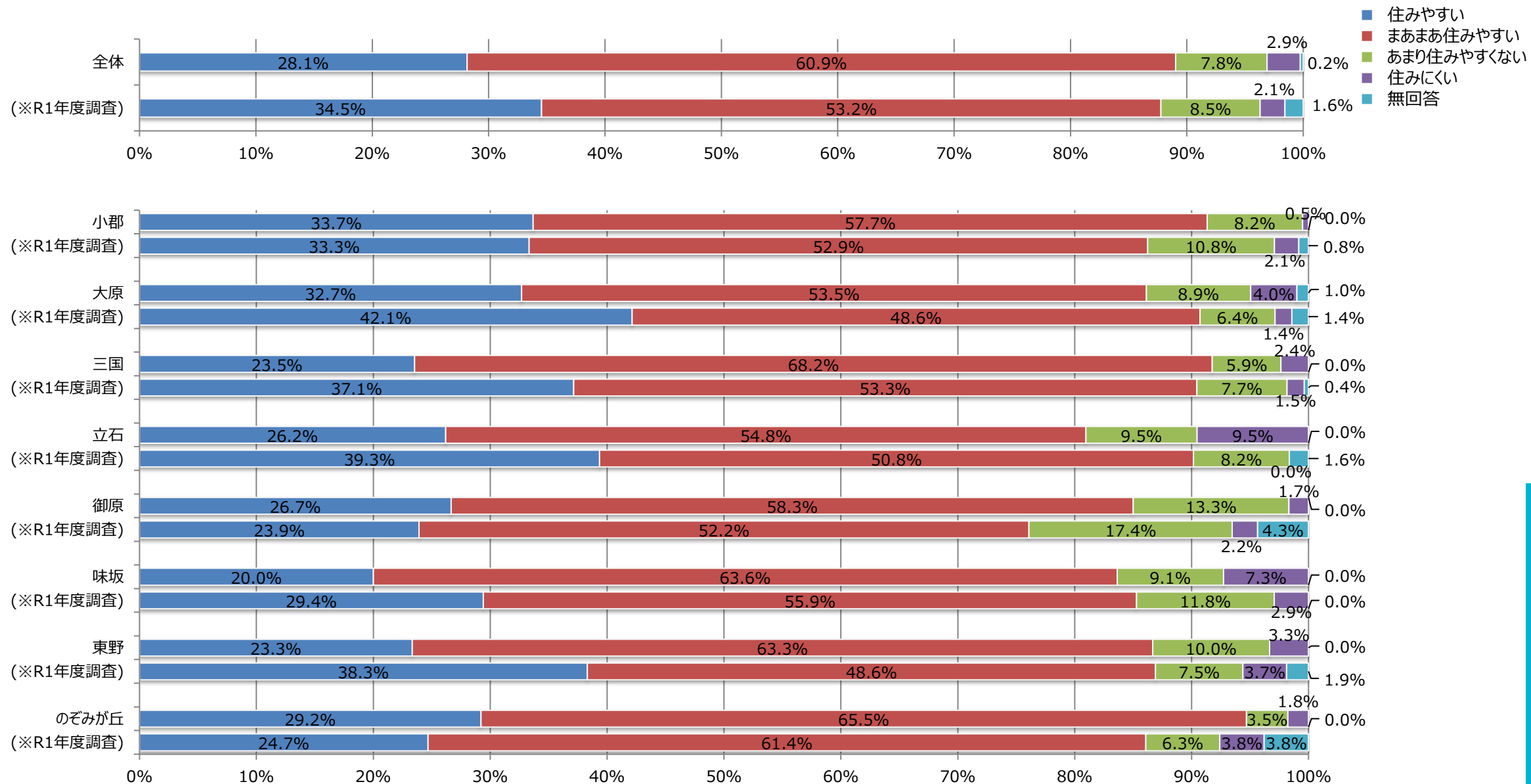
F3．小郡市は「住みやすい」と思いますか。

	計	件数（人）					割合（％）					割合（％） 合算	
		住みやすい	まあまあ 住みやすい	あまり 住みやすくない	住みにくい	無回答	住みやすい	まあまあ 住みやすい	あまり 住みやすくない	住みにくい	無回答	どちらかとい えば住みや すい	どちらかとい えば住みに くい
全体	803	226	489	63	23	2	28.1%	60.9%	7.8%	2.9%	0.2%	89.0%	10.7%
小学校区別	小郡	196	66	113	16	1	33.7%	57.7%	8.2%	0.5%	0.0%	91.3%	8.7%
	大原	101	33	54	9	4	32.7%	53.5%	8.9%	4.0%	1.0%	86.1%	12.9%
	三国	170	40	116	10	4	23.5%	68.2%	5.9%	2.4%	0.0%	91.8%	8.2%
	立石	42	11	23	4	4	26.2%	54.8%	9.5%	9.5%	0.0%	81.0%	19.0%
	御原	60	16	35	8	1	26.7%	58.3%	13.3%	1.7%	0.0%	85.0%	15.0%
	味坂	55	11	35	5	4	20.0%	63.6%	9.1%	7.3%	0.0%	83.6%	16.4%
	東野	60	14	38	6	2	23.3%	63.3%	10.0%	3.3%	0.0%	86.7%	13.3%
	のぞみが丘	113	33	74	4	2	29.2%	65.5%	3.5%	1.8%	0.0%	94.7%	5.3%
	無回答	6	2	1	1	1	33.3%	16.7%	16.7%	16.7%	16.7%	50.0%	33.3%

7.3.5 F3 住みやすさ（小学校区別グラフ）



7.3.6 F3 住みやすさ（小学校区別グラフ、経年比較）



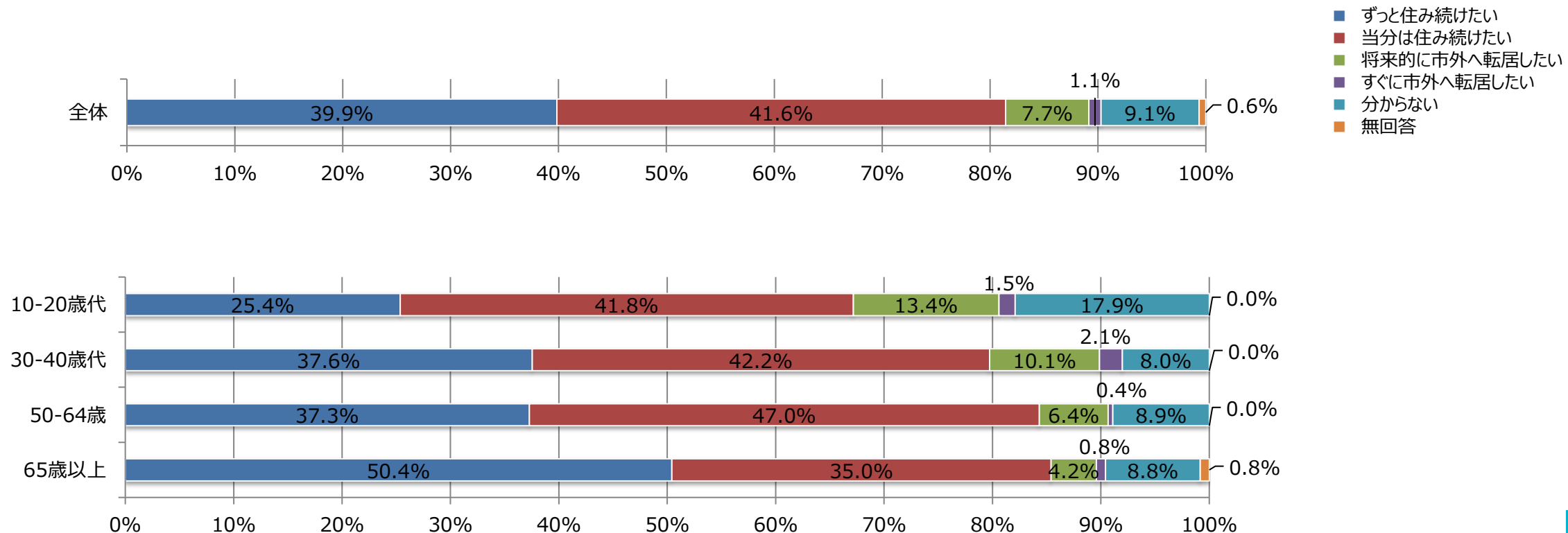
7.4.1 F4 定住意向（年代別）

- 「ずっと住み続けたい」と回答した割合が一番高いのは65歳以上の50.4%である。
- 「どちらかといえば住み続けたい」と回答した割合は65歳以上が85.4%で最も高く、10-20歳代が67.2%で最も低い。10-20歳代は「分からない」と回答した割合が17.9%と他の年代に比べて高い。

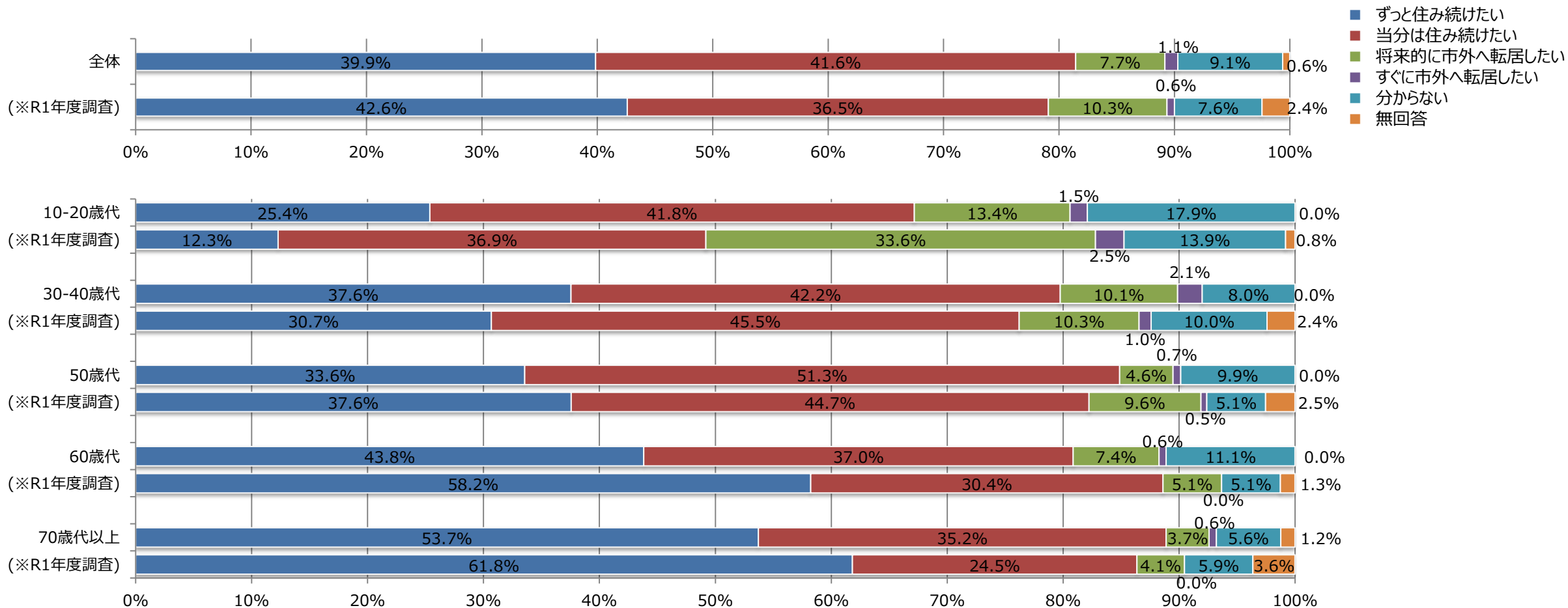
F4．あなたは、これからも小郡市に「住み続けたい」と思いますか。

		計	件数（人）						割合（％）						割合（％） 合算	
			ずっと住み 続けたい	当分は住み 続けたい	将来的に 市外へ転居 したい	すぐに 市外へ転居 したい	分からない	無回答	ずっと住み 続けたい	当分は住み 続けたい	将来的に 市外へ転居 したい	すぐに 市外へ転居 したい	分からない	無回答	どちらかとい えば住み続 けたい	どちらかとい えば市外へ 転居したい
全体		803	320	334	62	9	73	5	39.9%	41.6%	7.7%	1.1%	9.1%	0.6%	81.4%	8.8%
年代別	10-20歳代	67	17	28	9	1	12	0	25.4%	41.8%	13.4%	1.5%	17.9%	0.0%	67.2%	14.9%
	30-40歳代	237	89	100	24	5	19	0	37.6%	42.2%	10.1%	2.1%	8.0%	0.0%	79.7%	12.2%
	50-64歳	236	88	111	15	1	21	0	37.3%	47.0%	6.4%	0.4%	8.9%	0.0%	84.3%	6.8%
	65歳以上	240	121	84	10	2	21	2	50.4%	35.0%	4.2%	0.8%	8.8%	0.8%	85.4%	5.0%
	無回答	23	5	11	4	0	0	3	21.7%	47.8%	17.4%	0.0%	0.0%	13.0%	69.6%	17.4%

7.4.2 F4 定住意向（年代別グラフ）



7.4.3 F4 定住意向（年代別グラフ、経年比較）



※R1年度調査の年齢区分に合わせて比較を実施

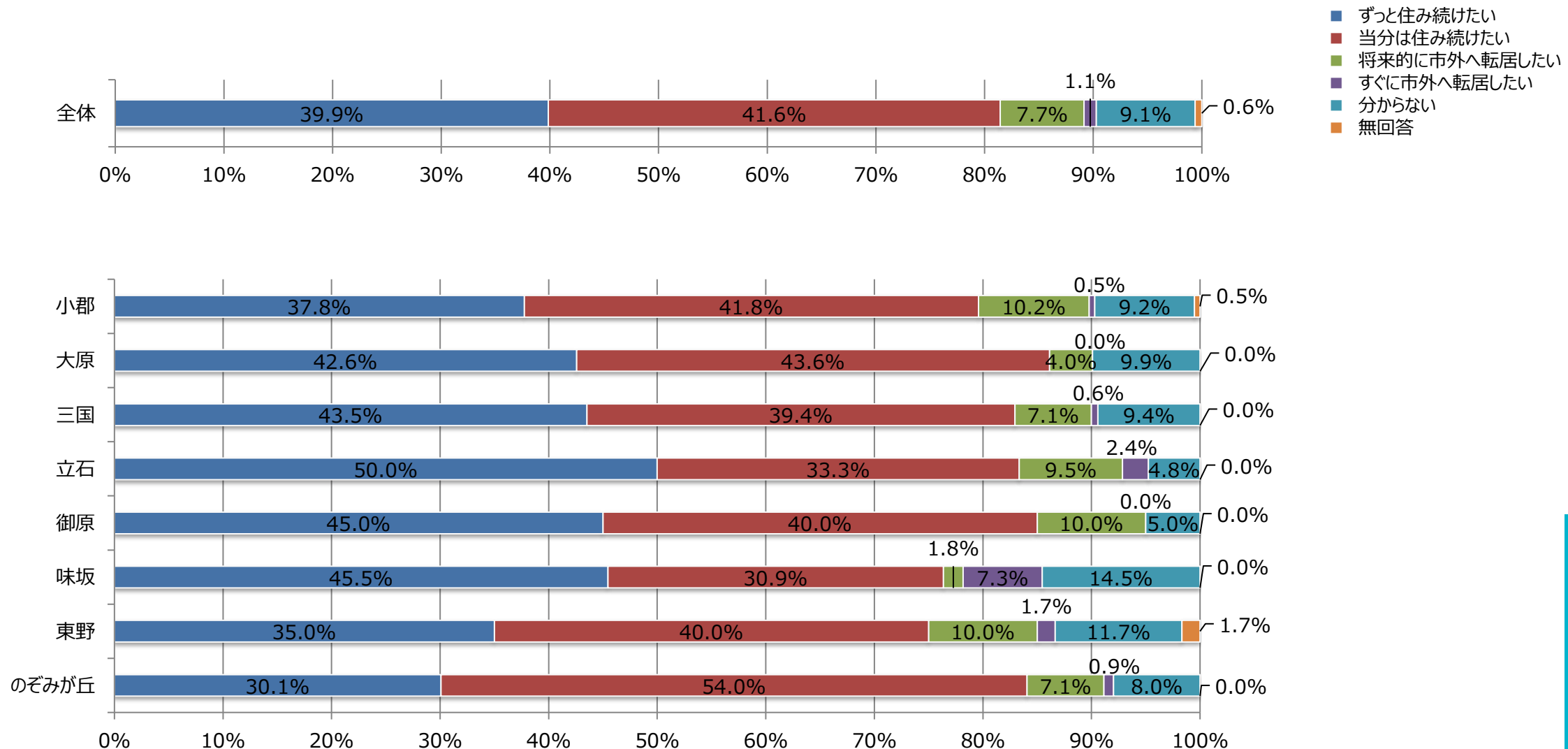
7.4.4 F4 定住意向（小学校区別）

- 「ずっと住み続けたい」と回答した割合が一番高いのは立石小学校区の50.0%である。
- 「どちらかといえば住み続けたい」と回答した割合は大原小学校区が86.1%で最も高く、東野小学校区が75.0%で最も低い。

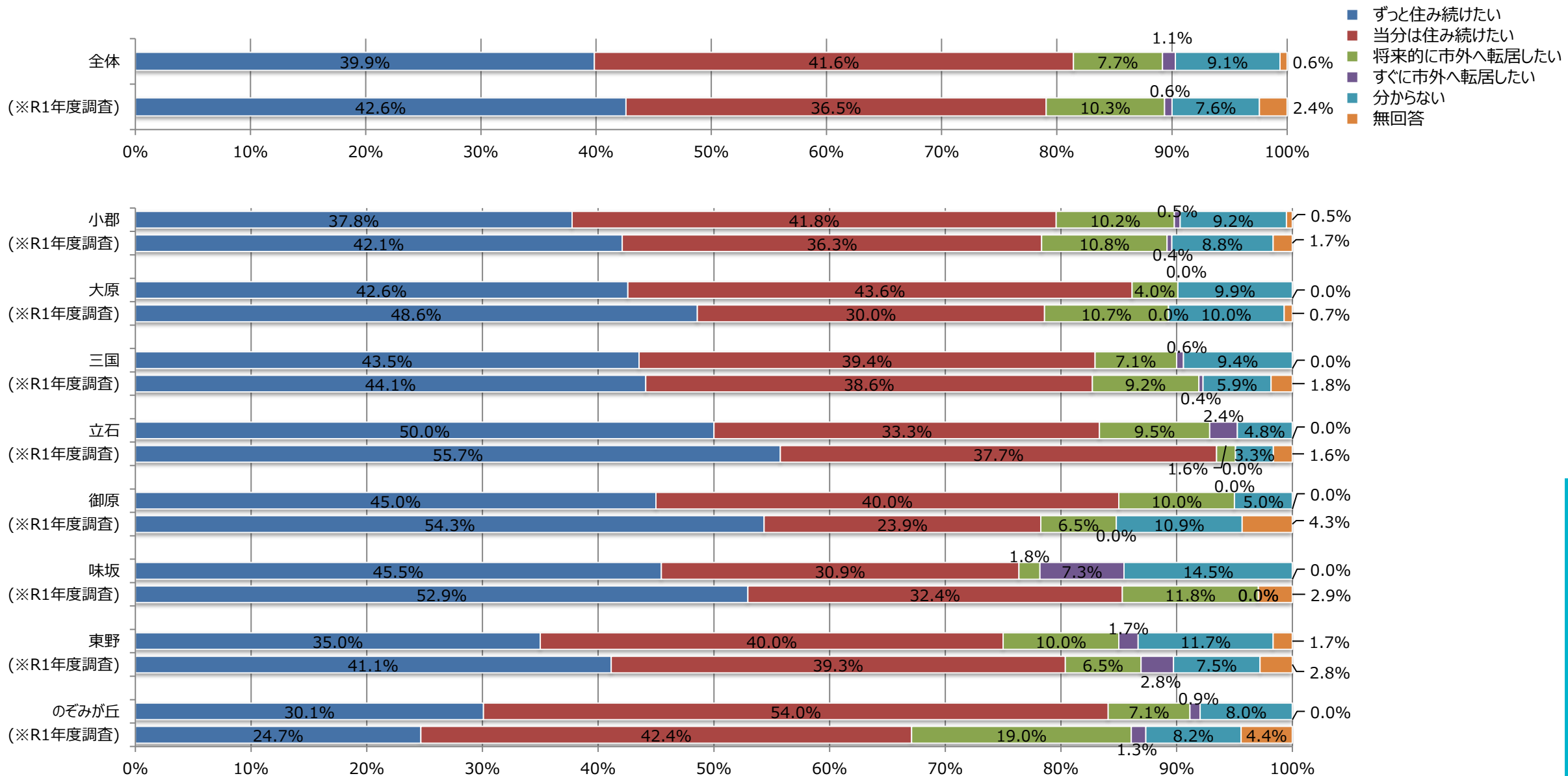
F4．あなたは、これからも小郡市に「住み続けたい」と思いますか。

		計	件数（人）						割合（％）						割合（％） 合算	
			ずっと住み 続けたい	当分は住み 続けたい	将来的に 市外へ転居 したい	すぐに 市外へ転居 したい	分からない	無回答	ずっと住み 続けたい	当分は住み 続けたい	将来的に 市外へ転居 したい	すぐに 市外へ転居 したい	分からない	無回答	どちらかとい えば住み続 けたい	どちらかとい えば市外へ 転居したい
全体		803	320	334	62	9	73	5	39.9%	41.6%	7.7%	1.1%	9.1%	0.6%	81.4%	8.8%
小学校区別	小郡	196	74	82	20	1	18	1	37.8%	41.8%	10.2%	0.5%	9.2%	0.5%	79.6%	10.7%
	大原	101	43	44	4	0	10	0	42.6%	43.6%	4.0%	0.0%	9.9%	0.0%	86.1%	4.0%
	三国	170	74	67	12	1	16	0	43.5%	39.4%	7.1%	0.6%	9.4%	0.0%	82.9%	7.6%
	立石	42	21	14	4	1	2	0	50.0%	33.3%	9.5%	2.4%	4.8%	0.0%	83.3%	11.9%
	御原	60	27	24	6	0	3	0	45.0%	40.0%	10.0%	0.0%	5.0%	0.0%	85.0%	10.0%
	味坂	55	25	17	1	4	8	0	45.5%	30.9%	1.8%	7.3%	14.5%	0.0%	76.4%	9.1%
	東野	60	21	24	6	1	7	1	35.0%	40.0%	10.0%	1.7%	11.7%	1.7%	75.0%	11.7%
	のぞみが丘	113	34	61	8	1	9	0	30.1%	54.0%	7.1%	0.9%	8.0%	0.0%	84.1%	8.0%
無回答		6	1	1	1	0	0	3	16.7%	16.7%	16.7%	0.0%	0.0%	50.0%	33.3%	16.7%

7.4.5 F4 定住意向（小学校区別グラフ）



7.4.6 F4 定住意向（小学校区別グラフ、経年比較）



7.5.1 F6 今後のまちづくり（年代別）

- 今後のまちづくりについて年代別に見ると、50歳以上では「人に優しい福祉・保健・医療の充実したまち」が1位、「快適な住宅・生活環境のまち」が2位である。これら2項目については、10-40歳代においても順位は異なるものの上位3項目に入っており、その他に「こども・子育て支援や学校教育が充実したまち」が選ばれている。

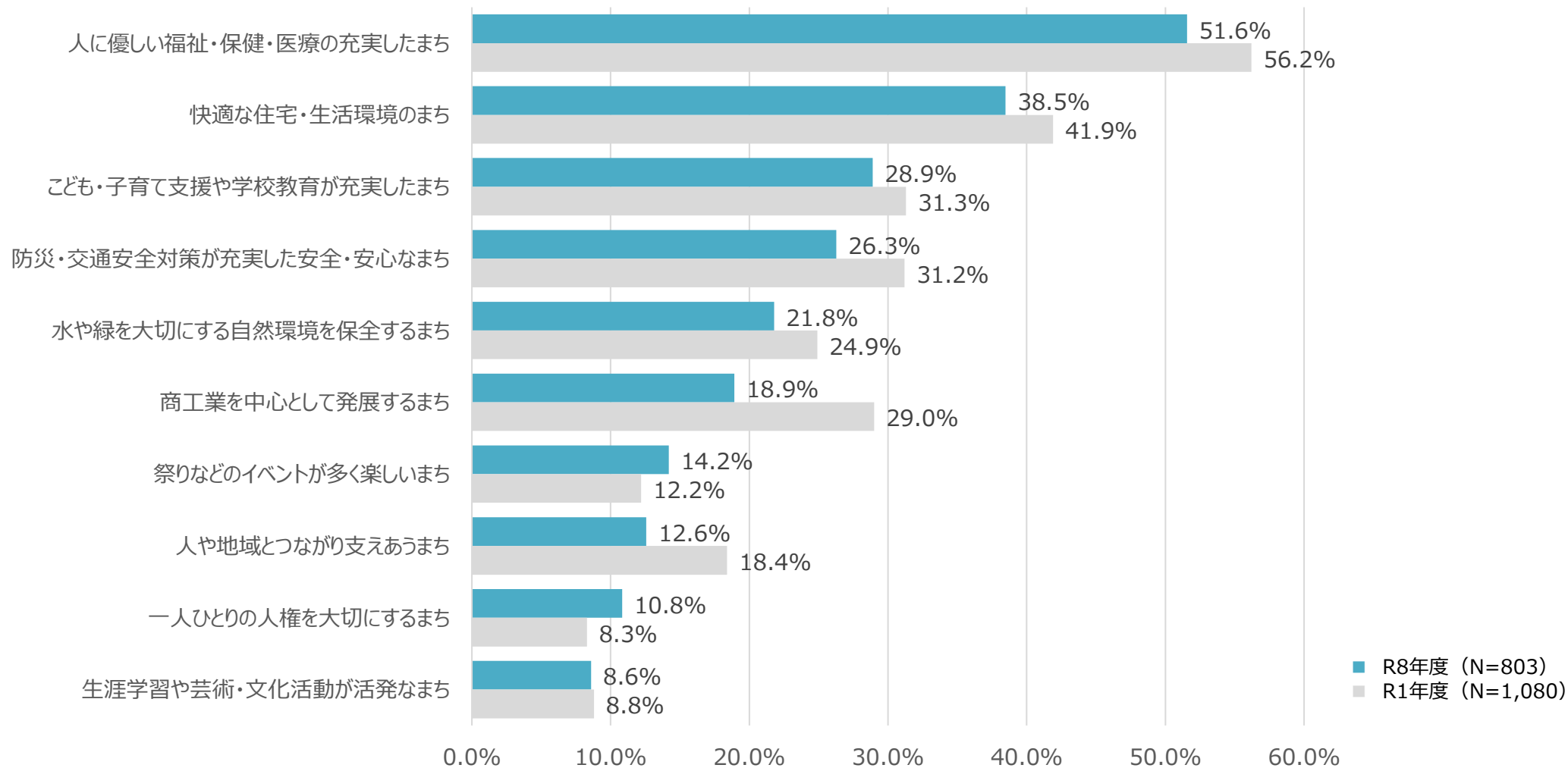
F6．今後のまちづくりについて、小郡市をどのような特色のあるまちにすべきだと思いますか。（3つまで）

：上位5項目

	全体		10-20歳代		30-40歳代		50-64歳		65歳以上	
	件数（人）	割合（％）	件数（人）	割合（％）	件数（人）	割合（％）	件数（人）	割合（％）	件数（人）	割合（％）
祭りなどのイベントが多く楽しいまち	114	14.2%	19	28.4%	51	21.5%	24	10.2%	16	6.7%
人に優しい福祉・保健・医療の充実したまち	414	51.6%	26	38.8%	99	41.8%	123	52.1%	157	65.4%
一人ひとりの人権を大切にするまち	87	10.8%	5	7.5%	20	8.4%	20	8.5%	40	16.7%
生涯学習や芸術・文化活動が活発なまち	69	8.6%	6	9.0%	9	3.8%	25	10.6%	29	12.1%
快適な住宅・生活環境のまち	309	38.5%	33	49.3%	94	39.7%	96	40.7%	79	32.9%
農業を中心として発展するまち	57	7.1%	2	3.0%	22	9.3%	18	7.6%	15	6.3%
商工業を中心として発展するまち	152	18.9%	8	11.9%	41	17.3%	53	22.5%	44	18.3%
水や緑を大切にする自然環境を保全するまち	175	21.8%	11	16.4%	43	18.1%	53	22.5%	65	27.1%
歴史資源なども活用した観光施設が充実した観光のまち	34	4.2%	4	6.0%	6	2.5%	11	4.7%	12	5.0%
防災・交通安全対策が充実した安全・安心なまち	211	26.3%	8	11.9%	60	25.3%	68	28.8%	69	28.8%
こども・子育て支援や学校教育が充実したまち	232	28.9%	24	35.8%	117	49.4%	53	22.5%	33	13.8%
人や地域とつながり支えあうまち	101	12.6%	4	6.0%	23	9.7%	25	10.6%	46	19.2%
ハラスメントのないまち	41	5.1%	6	9.0%	13	5.5%	10	4.2%	11	4.6%
その他	28	3.5%	2	3.0%	11	4.6%	9	3.8%	6	2.5%

7.5.2 F6 今後のまちづくり（経年比較）

＜R8年度調査（上位10項目）とR1年度調査との比較＞



7.6.1 F7 都市機能・都市基盤（小学校区別）

- 「道路、駅前広場、橋など生活基盤の整備」「歩道やガードレールなど交通安全対策」が広く重要視されているが、御原小学校区と味坂小学校区では「豪雨などの災害対策」が1位、「歩道やガードレールなど交通安全対策」が2位となっており、災害対策や安全対策が特に重要視されている。

F7. 小郡市の都市機能・都市基盤整備に向けて、今後どのようなことに取り組むべきと思いますか。（2つまで）

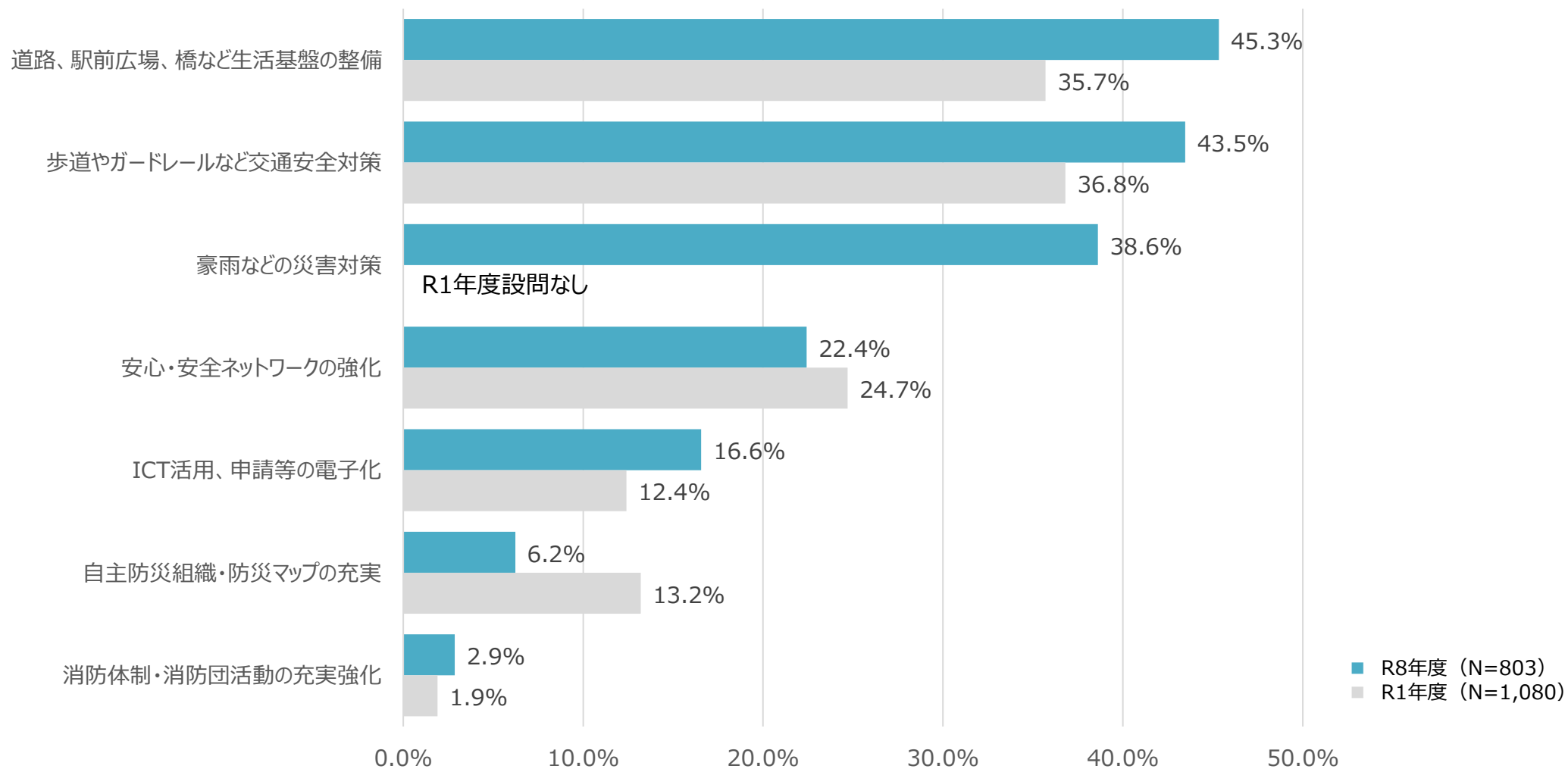
：上位2項目

	全体		小郡		大原		三国		立石		御原		味坂		東野		のぞみが丘	
	件数 (人)	割合 (%)	件数 (人)	割合 (%)	件数 (人)	割合 (%)	件数 (人)	割合 (%)	件数 (人)	割合 (%)	件数 (人)	割合 (%)	件数 (人)	割合 (%)	件数 (人)	割合 (%)	件数 (人)	割合 (%)
道路、駅前広場、橋など生活基盤の整備	364	45.3%	90	45.9%	51	50.5%	86	50.6%	17	40.5%	20	33.3%	19	34.5%	24	40.0%	54	47.8%
歩道やガードレールなど交通安全対策	349	43.5%	82	41.8%	46	45.5%	74	43.5%	17	40.5%	29	48.3%	23	41.8%	34	56.7%	42	37.2%
安心・安全ネットワークの強化	180	22.4%	44	22.4%	26	25.7%	36	21.2%	12	28.6%	10	16.7%	9	16.4%	11	18.3%	31	27.4%
自主防災組織・防災マップの充実	50	6.2%	13	6.6%	5	5.0%	12	7.1%	1	2.4%	5	8.3%	4	7.3%	3	5.0%	7	6.2%
消防体制・消防団活動の充実強化	23	2.9%	6	3.1%	2	2.0%	2	1.2%	1	2.4%	1	1.7%	2	3.6%	3	5.0%	6	5.3%
ICT活用、申請等の電子化	133	16.6%	26	13.3%	12	11.9%	36	21.2%	12	28.6%	9	15.0%	4	7.3%	7	11.7%	27	23.9%
豪雨などの災害対策	310	38.6%	84	42.9%	40	39.6%	56	32.9%	12	28.6%	34	56.7%	31	56.4%	21	35.0%	32	28.3%

※小学校区を回答していない人数を省略しているため、合計は一致しない。

7.6.2 F7 都市機能・都市基盤（経年比較）

＜R8年度調査とR1年度調査との比較＞



7.7.1 F8 産業振興（小学校区別）

- 「安全な農産物・地産地消」「企業誘致」が広く重要視されているが、立石小学校区と味坂小学校区では「農業者の担い手育成など農業振興」が1位となっている。

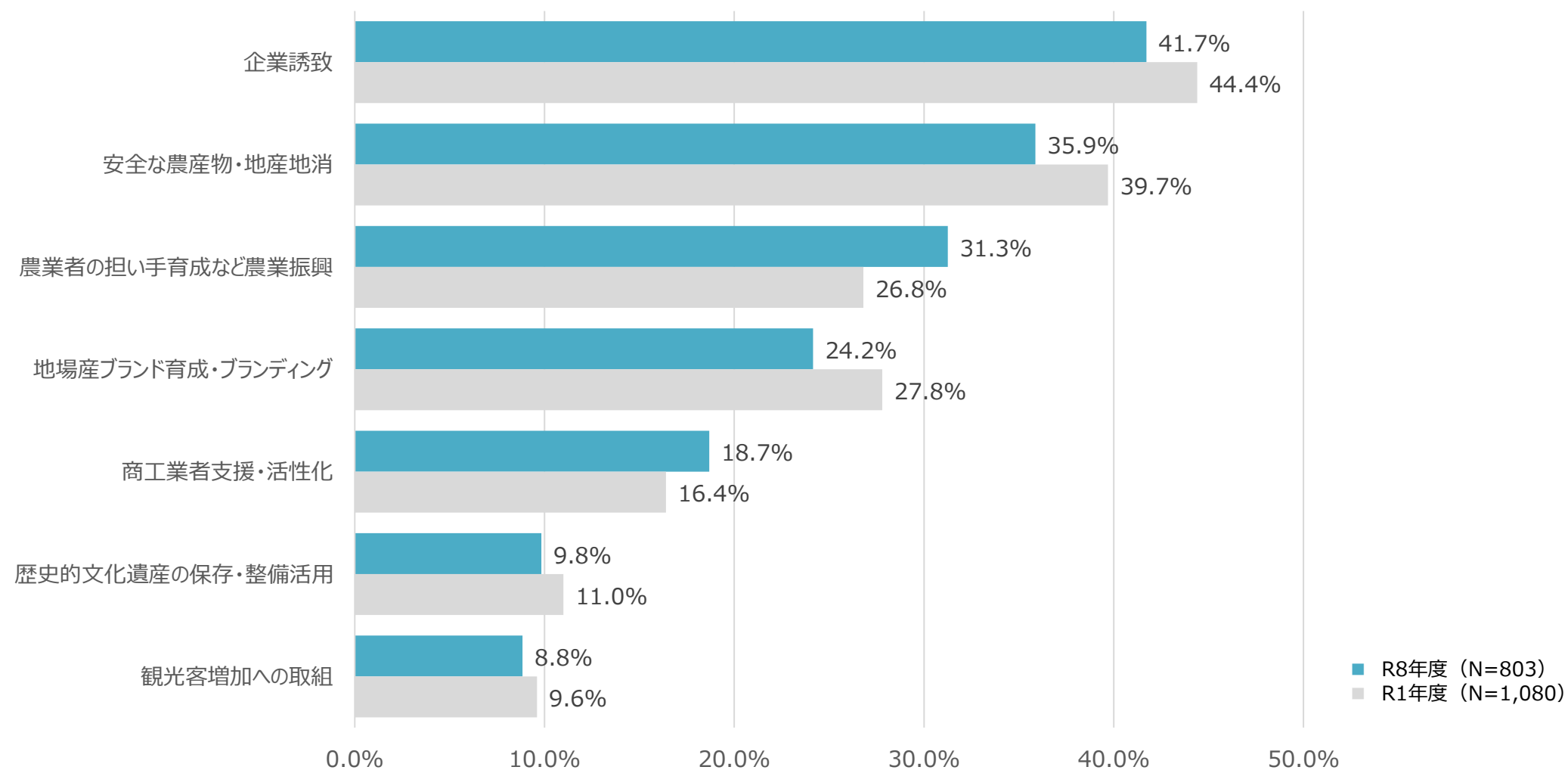
F8．小郡市の産業振興に向けて、今後どのようなことに取り組むべきと思いますか。（2つまで）

：上位2項目

	全体		小郡		大原		三国		立石		御原		味坂		東野		のぞみが丘	
	件数 (人)	割合 (%)	件数 (人)	割合 (%)	件数 (人)	割合 (%)	件数 (人)	割合 (%)	件数 (人)	割合 (%)	件数 (人)	割合 (%)	件数 (人)	割合 (%)	件数 (人)	割合 (%)	件数 (人)	割合 (%)
農業者の担い手育成など農業振興	251	31.3%	60	30.6%	37	36.6%	49	28.8%	21	50.0%	16	26.7%	23	41.8%	12	20.0%	31	27.4%
安全な農産物・地産地消	288	35.9%	70	35.7%	39	38.6%	53	31.2%	19	45.2%	22	36.7%	22	40.0%	24	40.0%	37	32.7%
商工業者支援・活性化	150	18.7%	41	20.9%	14	13.9%	35	20.6%	7	16.7%	13	21.7%	10	18.2%	9	15.0%	20	17.7%
企業誘致	335	41.7%	74	37.8%	46	45.5%	73	42.9%	16	38.1%	23	38.3%	23	41.8%	27	45.0%	53	46.9%
地場産ブランド育成・ブランディング	194	24.2%	53	27.0%	20	19.8%	47	27.6%	5	11.9%	15	25.0%	9	16.4%	17	28.3%	28	24.8%
観光客増加への取組	71	8.8%	18	9.2%	5	5.0%	14	8.2%	3	7.1%	4	6.7%	7	12.7%	7	11.7%	13	11.5%
歴史的文化遺産の保存・整備活用	79	9.8%	16	8.2%	8	7.9%	19	11.2%	1	2.4%	9	15.0%	4	7.3%	5	8.3%	17	15.0%

※小学校区を回答していない人数を省略しているため、合計は一致しない。

＜R8年度調査とR1年度調査との比較＞



7.8.1 F9 居住環境（小学校区別）

- 「公園・広場・校区コミュニティセンター等の整備」「空き家の適正管理・利活用」が広く重要視されている。特に、「空き家の適正管理・利活用」はすべての小学校区で上位2項目に入っている上に、立石小学校区・御原小学校区・味坂小学校区では1位となっており、課題感が表れている。

F9. 小都市の居住環境の充実に向けて、今後どのようなことに取り組むべきと思いますか。（2つまで）

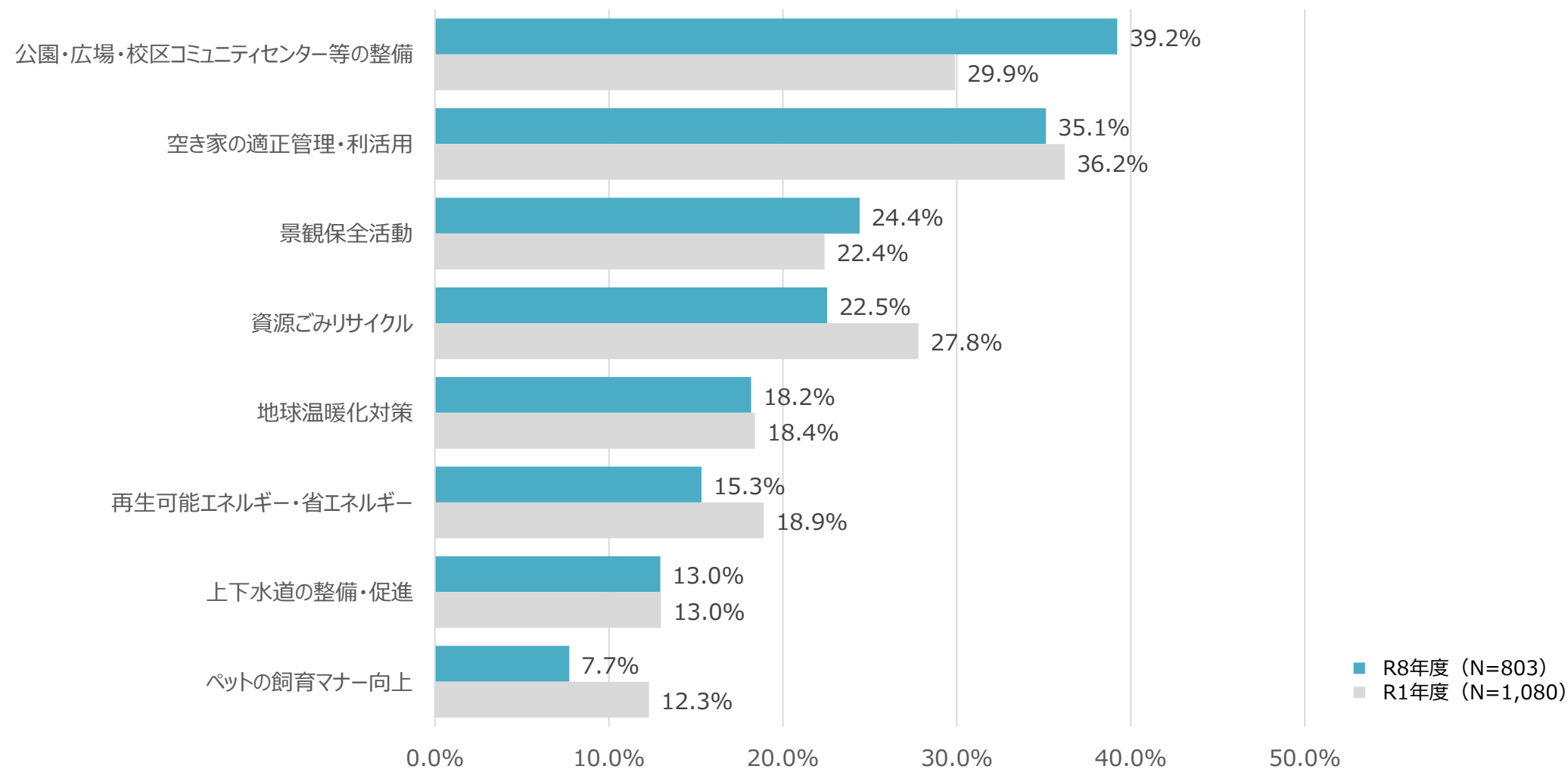
：上位2項目

	全体		小郡		大原		三国		立石		御原		味坂		東野		のぞみが丘	
	件数 (人)	割合 (%)	件数 (人)	割合 (%)	件数 (人)	割合 (%)	件数 (人)	割合 (%)	件数 (人)	割合 (%)	件数 (人)	割合 (%)	件数 (人)	割合 (%)	件数 (人)	割合 (%)	件数 (人)	割合 (%)
地球温暖化対策	146	18.2%	37	18.9%	19	18.8%	29	17.1%	12	28.6%	11	18.3%	9	16.4%	7	11.7%	22	19.5%
資源ごみリサイクル	181	22.5%	46	23.5%	22	21.8%	32	18.8%	10	23.8%	20	33.3%	15	27.3%	8	13.3%	26	23.0%
再生可能エネルギー・省エネルギー	123	15.3%	26	13.3%	16	15.8%	30	17.6%	2	4.8%	14	23.3%	7	12.7%	7	11.7%	21	18.6%
景観保全活動	196	24.4%	47	24.0%	26	25.7%	51	30.0%	13	31.0%	11	18.3%	12	21.8%	11	18.3%	25	22.1%
公園・広場・校区コミュニティセンター等の整備	315	39.2%	76	38.8%	37	36.6%	71	41.8%	13	31.0%	19	31.7%	17	30.9%	27	45.0%	54	47.8%
上下水道の整備・促進	104	13.0%	24	12.2%	11	10.9%	22	12.9%	9	21.4%	4	6.7%	6	10.9%	15	25.0%	12	10.6%
空き家の適正管理・利活用	282	35.1%	68	34.7%	36	35.6%	56	32.9%	16	38.1%	21	35.0%	30	54.5%	24	40.0%	29	25.7%
ペットの飼育マナー向上	62	7.7%	13	6.6%	6	5.9%	14	8.2%	3	7.1%	3	5.0%	2	3.6%	7	11.7%	14	12.4%

※小学校区を回答していない人数を省略しているため、合計は一致しない。

7.8.2 F9 居住環境（経年比較）

＜R8年度調査とR1年度調査との比較＞



7.9.1 F10 健康・医療（小学校区別）

- 「地域医療体制」「地域資源を活用した健康づくり」「生活習慣病予防・がん検診受診率向上」などが広く重要視されているが、特に「地域医療体制」は全ての小学校区で1位となっており、課題感が表れている。

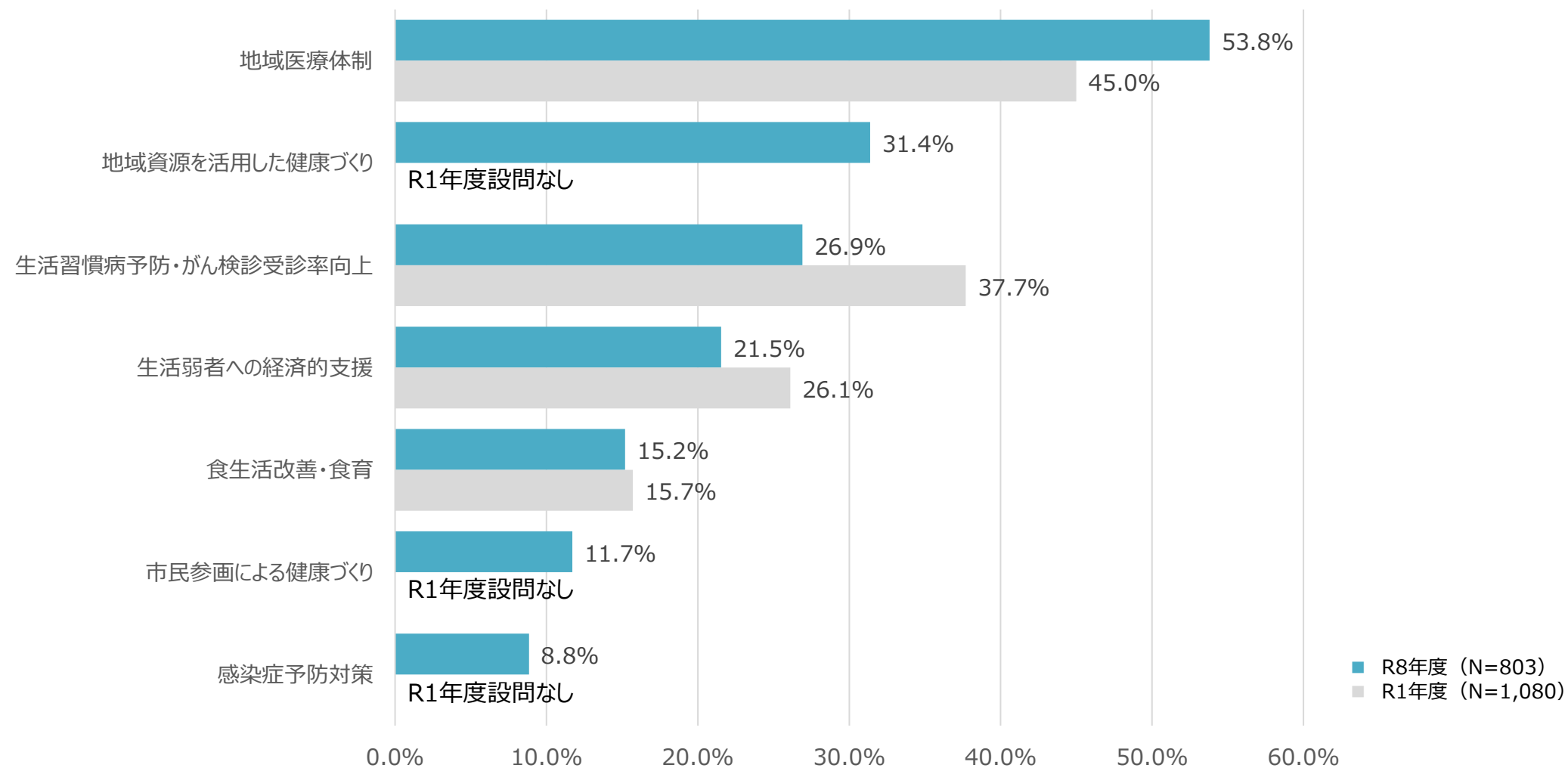
F10. 小郡市の健康・医療の充実に向けて、今後どのようなことに取り組むべきと思いますか。（2つまで）

：上位2項目

	全体		小郡		大原		三国		立石		御原		味坂		東野		のぞみが丘	
	件数 (人)	割合 (%)	件数 (人)	割合 (%)	件数 (人)	割合 (%)	件数 (人)	割合 (%)	件数 (人)	割合 (%)	件数 (人)	割合 (%)	件数 (人)	割合 (%)	件数 (人)	割合 (%)	件数 (人)	割合 (%)
生活習慣病予防・がん検診受診率向上	216	26.9%	58	29.6%	30	29.7%	36	21.2%	15	35.7%	15	25.0%	13	23.6%	18	30.0%	31	27.4%
地域資源を活用した健康づくり	252	31.4%	54	27.6%	39	38.6%	58	34.1%	8	19.0%	15	25.0%	19	34.5%	15	25.0%	43	38.1%
食生活改善・食育	122	15.2%	42	21.4%	14	13.9%	21	12.4%	10	23.8%	5	8.3%	8	14.5%	8	13.3%	14	12.4%
地域医療体制	432	53.8%	96	49.0%	43	42.6%	108	63.5%	20	47.6%	36	60.0%	33	60.0%	32	53.3%	62	54.9%
生活弱者への経済的支援	173	21.5%	45	23.0%	21	20.8%	36	21.2%	9	21.4%	15	25.0%	11	20.0%	11	18.3%	25	22.1%
市民参画による健康づくり	94	11.7%	21	10.7%	16	15.8%	18	10.6%	4	9.5%	9	15.0%	7	12.7%	11	18.3%	8	7.1%
感染症予防対策	71	8.8%	21	10.7%	3	3.0%	13	7.6%	2	4.8%	8	13.3%	4	7.3%	4	6.7%	15	13.3%

※小学校区を回答していない人数を省略しているため、合計は一致しない。

＜R8年度調査とR1年度調査との比較＞



7.10.1 F11 こども・子育て支援（小学校区別）

- 「子育て支援センターなどの整備充実」「放課後児童対策」が広く重要視されているが、小学校区によってばらつきがあり、「切れ目ない相談支援体制の充実」や「地域でのこどもの居場所・こども食堂」なども重要視されている。

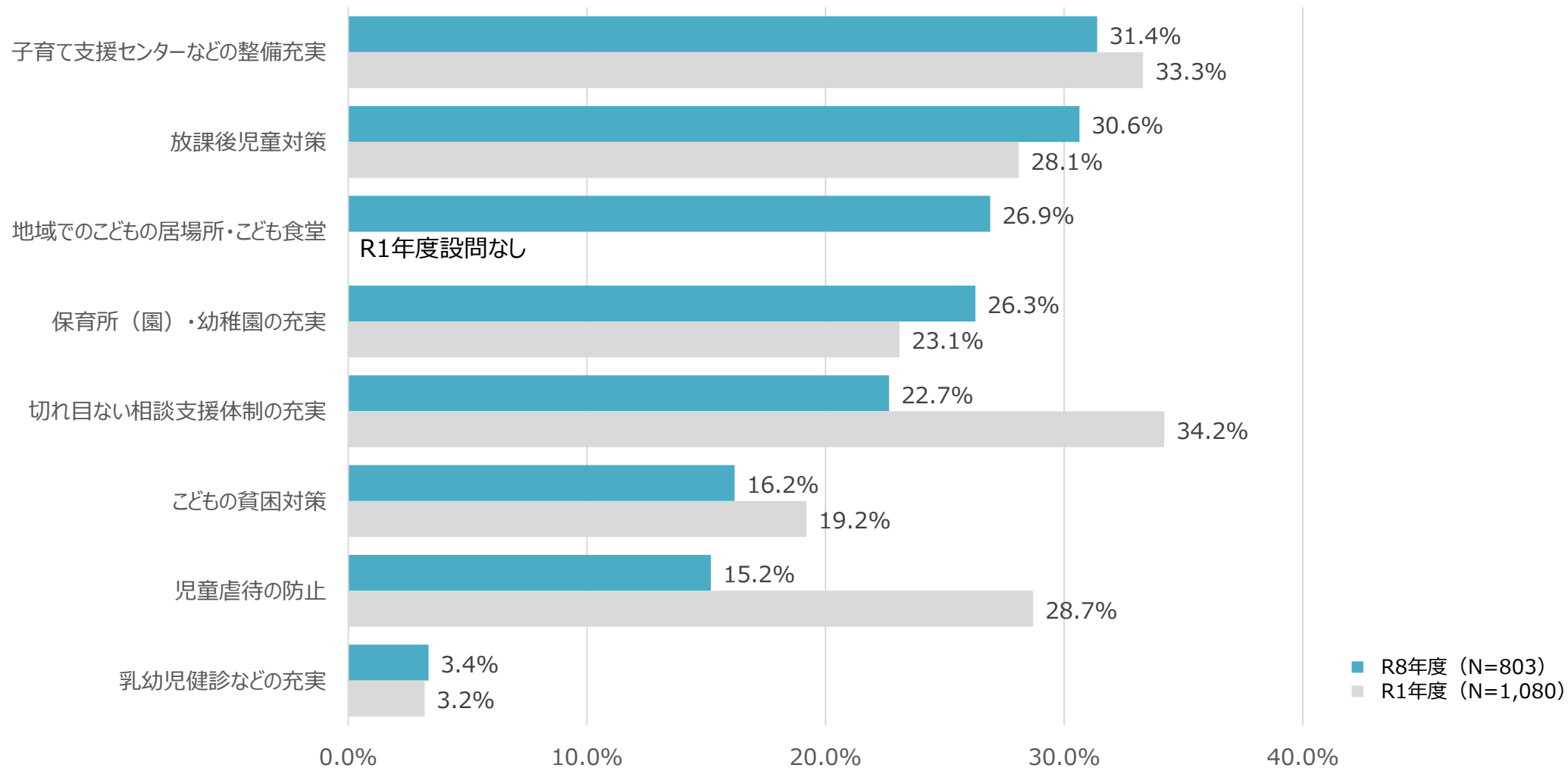
F11 小郡市のこども・子育て支援の充実に向けて、今後どのようなことに取り組むべきと思いますか。（2つまで）

：上位2項目

	全体		小郡		大原		三国		立石		御原		味坂		東野		のぞみが丘	
	件数 (人)	割合 (%)	件数 (人)	割合 (%)	件数 (人)	割合 (%)	件数 (人)	割合 (%)	件数 (人)	割合 (%)	件数 (人)	割合 (%)	件数 (人)	割合 (%)	件数 (人)	割合 (%)	件数 (人)	割合 (%)
子育て支援センターなどの整備充実	252	31.4%	65	33.2%	36	35.6%	53	31.2%	9	21.4%	19	31.7%	16	29.1%	10	16.7%	44	38.9%
児童虐待の防止	122	15.2%	38	19.4%	20	19.8%	17	10.0%	5	11.9%	9	15.0%	10	18.2%	9	15.0%	14	12.4%
保育所（園）・幼稚園の充実	211	26.3%	57	29.1%	24	23.8%	43	25.3%	10	23.8%	18	30.0%	15	27.3%	14	23.3%	29	25.7%
放課後児童対策	246	30.6%	53	27.0%	22	21.8%	59	34.7%	13	31.0%	20	33.3%	14	25.5%	23	38.3%	39	34.5%
乳幼児健診などの充実	27	3.4%	6	3.1%	1	1.0%	8	4.7%	4	9.5%	2	3.3%	2	3.6%	1	1.7%	3	2.7%
切れ目ない相談支援体制の充実	182	22.7%	36	18.4%	26	25.7%	40	23.5%	14	33.3%	13	21.7%	10	18.2%	18	30.0%	25	22.1%
こどもの貧困対策	130	16.2%	29	14.8%	23	22.8%	26	15.3%	9	21.4%	5	8.3%	11	20.0%	13	21.7%	13	11.5%
地域でのこどもの居場所・こども食堂	216	26.9%	57	29.1%	26	25.7%	45	26.5%	10	23.8%	18	30.0%	17	30.9%	14	23.3%	28	24.8%

※小学校区を回答していない人数を省略しているため、合計は一致しない。

＜R8年度調査とR1年度調査との比較＞



7.11.1 F12 高齢者・障がい者・地域福祉（小学校区別）

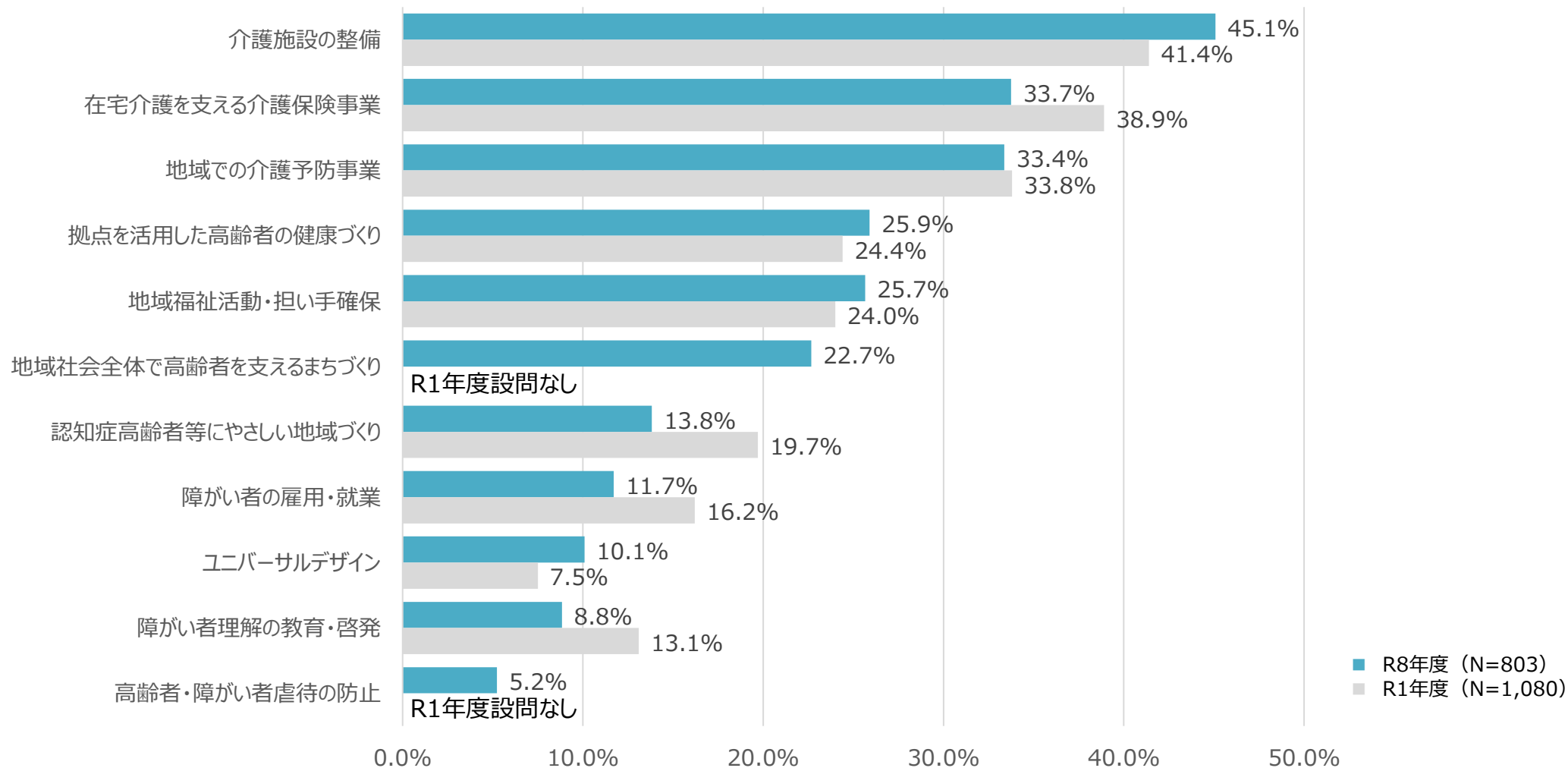
- 「地域での介護予防事業」「介護施設の整備」「在宅介護を支える介護保険事業」が広く重要視されているが、小郡小学校区と大原小学校区では「地域福祉活動・担い手確保」が3位に入り、御原小学校区と味坂小学校区では「拠点を活用した高齢者の健康づくり」が2位に入っており、多様な取組が求められている。

F12. 小郡市の高齢者・障がい者・地域福祉の充実に向けて、今後どのようなことに取り組むべきと思いますか。（3つまで）

：上位3項目

	全体		小郡		大原		三国		立石		御原		味坂		東野		のぞみが丘	
	件数 (人)	割合 (%)	件数 (人)	割合 (%)	件数 (人)	割合 (%)	件数 (人)	割合 (%)	件数 (人)	割合 (%)	件数 (人)	割合 (%)	件数 (人)	割合 (%)	件数 (人)	割合 (%)	件数 (人)	割合 (%)
拠点を活用した高齢者の健康づくり	208	25.9%	53	27.0%	28	27.7%	37	21.8%	9	21.4%	23	38.3%	21	38.2%	9	15.0%	28	24.8%
地域での介護予防事業	268	33.4%	68	34.7%	46	45.5%	52	30.6%	20	47.6%	13	21.7%	14	25.5%	17	28.3%	37	32.7%
介護施設の整備	362	45.1%	91	46.4%	41	40.6%	80	47.1%	17	40.5%	24	40.0%	22	40.0%	26	43.3%	59	52.2%
認知症高齢者等にやさしい地域づくり	111	13.8%	26	13.3%	15	14.9%	16	9.4%	7	16.7%	8	13.3%	14	25.5%	8	13.3%	16	14.2%
在宅介護を支える介護保険事業	271	33.7%	58	29.6%	27	26.7%	65	38.2%	15	35.7%	19	31.7%	16	29.1%	23	38.3%	48	42.5%
地域社会全体で高齢者を支えるまちづくり	182	22.7%	31	15.8%	25	24.8%	45	26.5%	8	19.0%	14	23.3%	13	23.6%	14	23.3%	32	28.3%
高齢者・障がい者虐待の防止	42	5.2%	13	6.6%	1	1.0%	9	5.3%	0	0.0%	2	3.3%	3	5.5%	6	10.0%	8	7.1%
障がい者の雇用・就業	94	11.7%	19	9.7%	16	15.8%	22	12.9%	4	9.5%	5	8.3%	3	5.5%	10	16.7%	14	12.4%
障がい者理解の教育・啓発	71	8.8%	18	9.2%	12	11.9%	11	6.5%	3	7.1%	7	11.7%	5	9.1%	10	16.7%	5	4.4%
ユニバーサルデザイン	81	10.1%	24	12.2%	9	8.9%	20	11.8%	5	11.9%	3	5.0%	4	7.3%	4	6.7%	12	10.6%
地域福祉活動・担い手確保	206	25.7%	60	30.6%	29	28.7%	47	27.6%	11	26.2%	15	25.0%	12	21.8%	14	23.3%	17	15.0%

＜R8年度調査とR1年度調査との比較＞



7.12.1 F13 学校教育（小学校区別）

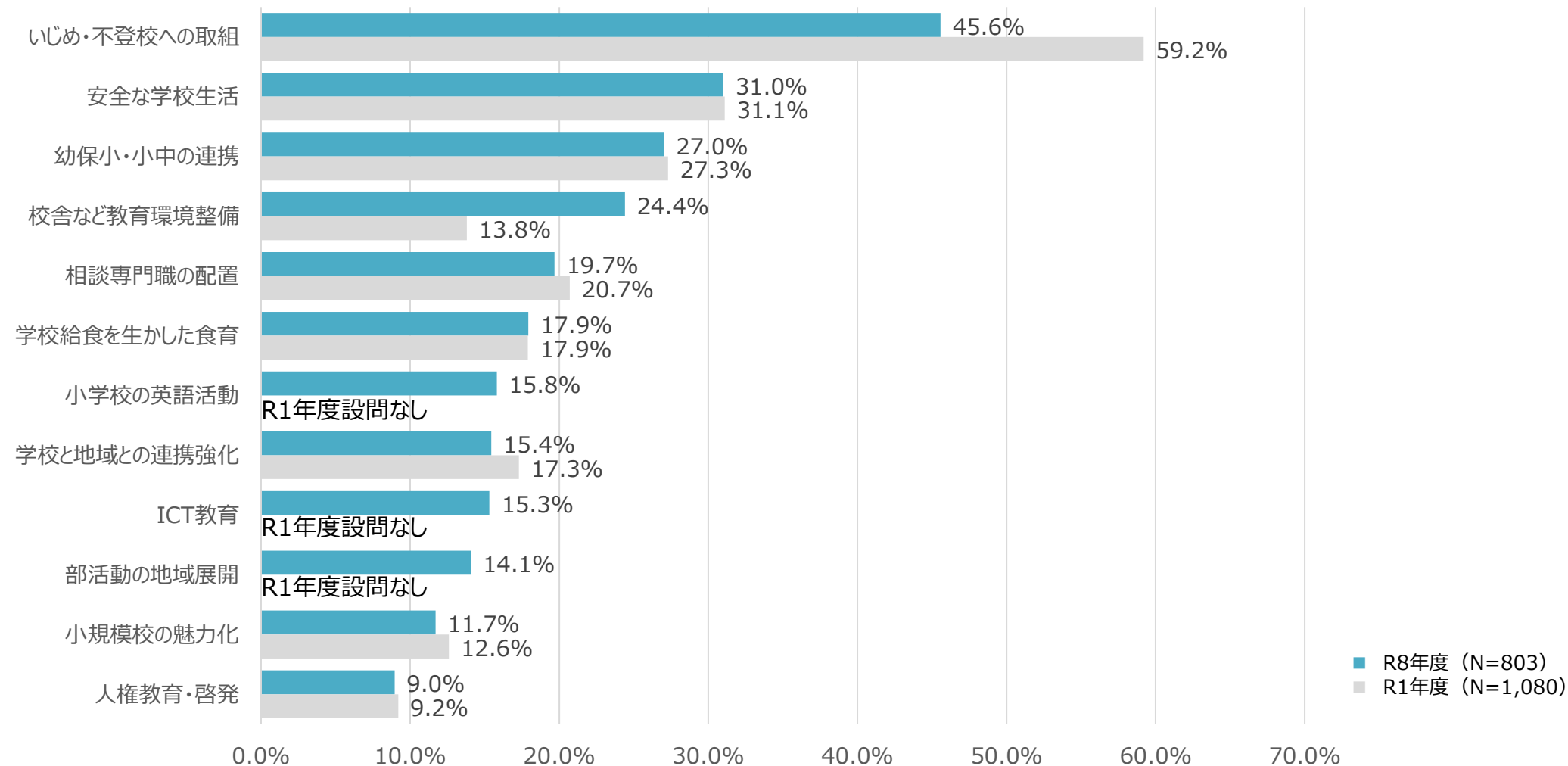
- 小学校区により少しばらつきがあるが、「いじめ・不登校への取組」「安全な学校生活」は全ての小学校区で上位3項目に入っている。特に、「いじめ・不登校への取組」は立石小学校区以外の全ての小学校区で1位となっており、課題感が表れている。

F13. 小郡市の学校教育の充実に向けて、今後どのようなことに取り組むべきと思いますか。（3つまで）

：上位3項目

	全体		小郡		大原		三国		立石		御原		味坂		東野		のぞみが丘	
	件数 (人)	割合 (%)	件数 (人)	割合 (%)	件数 (人)	割合 (%)	件数 (人)	割合 (%)	件数 (人)	割合 (%)	件数 (人)	割合 (%)	件数 (人)	割合 (%)	件数 (人)	割合 (%)	件数 (人)	割合 (%)
幼保小・小中の連携	217	27.0%	49	25.0%	25	24.8%	44	25.9%	13	31.0%	18	30.0%	13	23.6%	19	31.7%	35	31.0%
ICT教育	123	15.3%	28	14.3%	14	13.9%	31	18.2%	5	11.9%	8	13.3%	6	10.9%	9	15.0%	22	19.5%
小学校の英語活動	127	15.8%	26	13.3%	16	15.8%	28	16.5%	5	11.9%	10	16.7%	6	10.9%	13	21.7%	23	20.4%
相談専門職の配置	158	19.7%	46	23.5%	19	18.8%	35	20.6%	5	11.9%	7	11.7%	14	25.5%	10	16.7%	22	19.5%
いじめ・不登校への取組	366	45.6%	88	44.9%	50	49.5%	77	45.3%	13	31.0%	26	43.3%	29	52.7%	29	48.3%	52	46.0%
部活動の地域展開	113	14.1%	30	15.3%	15	14.9%	22	12.9%	3	7.1%	10	16.7%	5	9.1%	9	15.0%	19	16.8%
学校給食を生かした食育	144	17.9%	33	16.8%	18	17.8%	30	17.6%	14	33.3%	10	16.7%	10	18.2%	9	15.0%	20	17.7%
安全な学校生活	249	31.0%	60	30.6%	27	26.7%	53	31.2%	15	35.7%	20	33.3%	17	30.9%	19	31.7%	38	33.6%
学校と地域との連携強化	124	15.4%	30	15.3%	25	24.8%	22	12.9%	7	16.7%	6	10.0%	7	12.7%	4	6.7%	23	20.4%
校舎など教育環境整備	196	24.4%	49	25.0%	24	23.8%	54	31.8%	12	28.6%	15	25.0%	8	14.5%	14	23.3%	19	16.8%
小規模校の魅力化	94	11.7%	20	10.2%	11	10.9%	9	5.3%	10	23.8%	12	20.0%	12	21.8%	12	20.0%	7	6.2%
人権教育・啓発	72	9.0%	23	11.7%	5	5.0%	15	8.8%	3	7.1%	4	6.7%	4	7.3%	5	8.3%	13	11.5%

＜R8年度調査とR1年度調査との比較＞



7.13.1 F14 生涯学習・地域文化（小学校区別）

- 全ての小学校区で「既存施設・新体育館を活用した文化・スポーツ」が1位、「図書館機能」が2位となっている。特に、「既存施設・新体育館を活用した文化・スポーツ」は半数の小学校区で50%以上となっており、強く重要視されていることが分かる。

F14 小郡市の生涯学習・地域文化の充実に向けて、今後どのようなことに取り組むべきと思いますか。（2つまで）

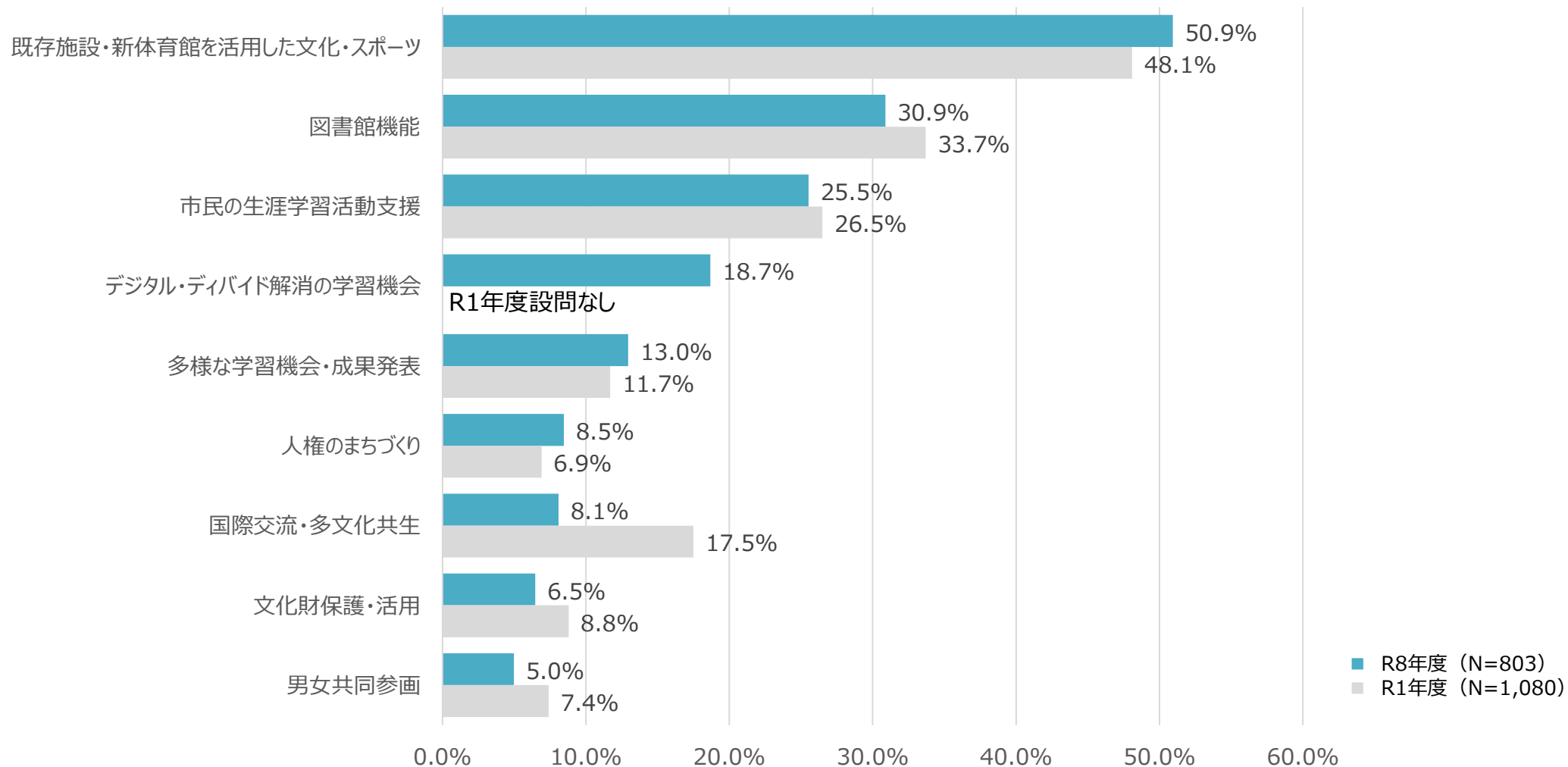
：上位2項目

	全体		小郡		大原		三国		立石		御原		味坂		東野		のぞみが丘	
	件数 (人)	割合 (%)	件数 (人)	割合 (%)	件数 (人)	割合 (%)	件数 (人)	割合 (%)	件数 (人)	割合 (%)	件数 (人)	割合 (%)	件数 (人)	割合 (%)	件数 (人)	割合 (%)	件数 (人)	割合 (%)
既存施設・新体育館を活用した文化・スポーツ	409	50.9%	92	46.9%	63	62.4%	90	52.9%	18	42.9%	33	55.0%	27	49.1%	26	43.3%	57	50.4%
市民の生涯学習活動支援	205	25.5%	45	23.0%	21	20.8%	55	32.4%	8	19.0%	12	20.0%	12	21.8%	15	25.0%	36	31.9%
多様な学習機会・成果発表	104	13.0%	31	15.8%	8	7.9%	25	14.7%	6	14.3%	6	10.0%	4	7.3%	7	11.7%	17	15.0%
人権のまちづくり	68	8.5%	19	9.7%	9	8.9%	7	4.1%	2	4.8%	4	6.7%	11	20.0%	7	11.7%	9	8.0%
図書館機能	248	30.9%	57	29.1%	24	23.8%	60	35.3%	10	23.8%	21	35.0%	13	23.6%	19	31.7%	44	38.9%
文化財保護・活用	52	6.5%	14	7.1%	10	9.9%	9	5.3%	4	9.5%	5	8.3%	3	5.5%	1	1.7%	6	5.3%
男女共同参画	40	5.0%	11	5.6%	9	8.9%	2	1.2%	3	7.1%	2	3.3%	6	10.9%	4	6.7%	3	2.7%
国際交流・多文化共生	65	8.1%	20	10.2%	5	5.0%	10	5.9%	6	14.3%	1	1.7%	5	9.1%	9	15.0%	9	8.0%
デジタル・ディバイド解消の学習機会	150	18.7%	43	21.9%	18	17.8%	25	14.7%	10	23.8%	11	18.3%	11	20.0%	13	21.7%	19	16.8%

※小学校区を回答していない人数を省略しているため、合計は一致しない。

7.13.2 F14 生涯学習・地域文化（経年比較）

＜R8年度調査とR1年度調査との比較＞



7.14.1 F15 行財政運営（小学校区別）

- 小学校区により少しばらつきがあるが、「職員の意識改革・人材育成」が全ての小学校区で上位3項目に入り、「民間企業との連携」が御原小学校区を除き全ての小学校区で上位3項目に入っており、広く重要視されていることが分かる。

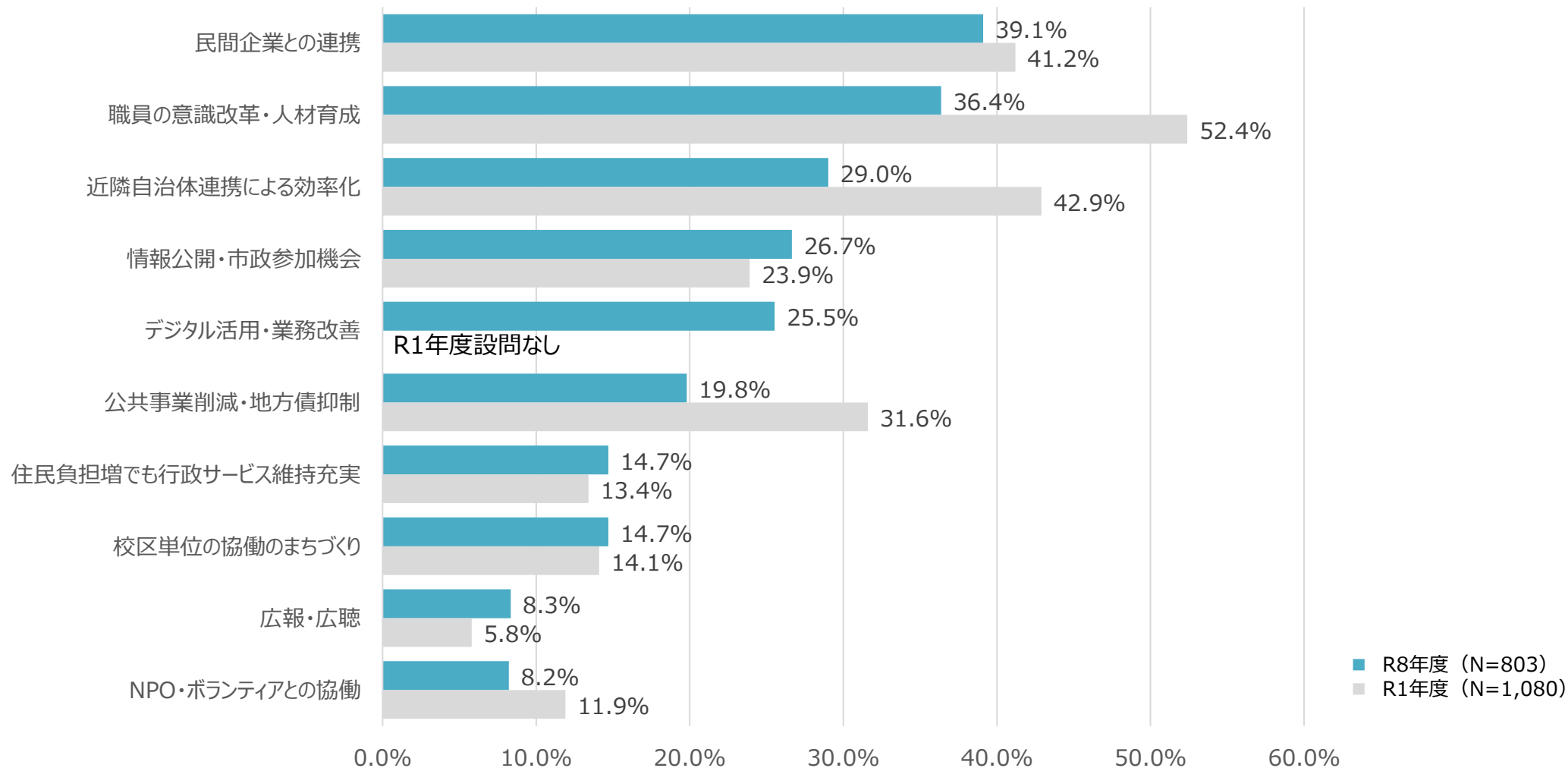
F15. 小都市の行財政運営や地方自治体制について、今後どのようなことに取り組むべきと思いますか。（3つまで）

：上位3項目

	全体		小郡		大原		三国		立石		御原		味坂		東野		のぞみが丘	
	件数 (人)	割合 (%)	件数 (人)	割合 (%)	件数 (人)	割合 (%)	件数 (人)	割合 (%)	件数 (人)	割合 (%)	件数 (人)	割合 (%)	件数 (人)	割合 (%)	件数 (人)	割合 (%)	件数 (人)	割合 (%)
公共事業削減・地方債抑制	159	19.8%	42	21.4%	25	24.8%	25	14.7%	5	11.9%	15	25.0%	15	27.3%	9	15.0%	23	20.4%
住民負担増でも行政サービス維持充実	118	14.7%	24	12.2%	21	20.8%	23	13.5%	1	2.4%	9	15.0%	9	16.4%	8	13.3%	23	20.4%
近隣自治体連携による効率化	233	29.0%	57	29.1%	25	24.8%	50	29.4%	12	28.6%	21	35.0%	15	27.3%	14	23.3%	37	32.7%
校区単位の協働のまちづくり	118	14.7%	23	11.7%	21	20.8%	25	14.7%	8	19.0%	9	15.0%	10	18.2%	10	16.7%	12	10.6%
NPO・ボランティアとの協働	66	8.2%	14	7.1%	8	7.9%	13	7.6%	6	14.3%	4	6.7%	6	10.9%	4	6.7%	11	9.7%
民間企業との連携	314	39.1%	70	35.7%	36	35.6%	79	46.5%	21	50.0%	15	25.0%	18	32.7%	29	48.3%	46	40.7%
情報公開・市政参加機会	214	26.7%	56	28.6%	28	27.7%	40	23.5%	15	35.7%	13	21.7%	12	21.8%	19	31.7%	30	26.5%
広報・広聴	67	8.3%	22	11.2%	11	10.9%	11	6.5%	2	4.8%	3	5.0%	8	14.5%	3	5.0%	7	6.2%
職員の意識改革・人材育成	292	36.4%	74	37.8%	38	37.6%	62	36.5%	12	28.6%	26	43.3%	19	34.5%	20	33.3%	40	35.4%
デジタル活用・業務改善	205	25.5%	44	22.4%	19	18.8%	54	31.8%	11	26.2%	19	31.7%	10	18.2%	18	30.0%	28	24.8%

※小学校区を回答していない人数を省略しているため、合計は一致しない。

＜R8年度調査とR1年度調査との比較＞



7.15.1 F16 地域活動参加（年代別）

- 地域活動参加について年代別に見ると、10-20歳代は「スポーツ活動」、30-40歳代は「こどもの居場所づくり・こども食堂」、50歳以上は「コミュニティ活動」が1位であり、年代により違いが見られる。

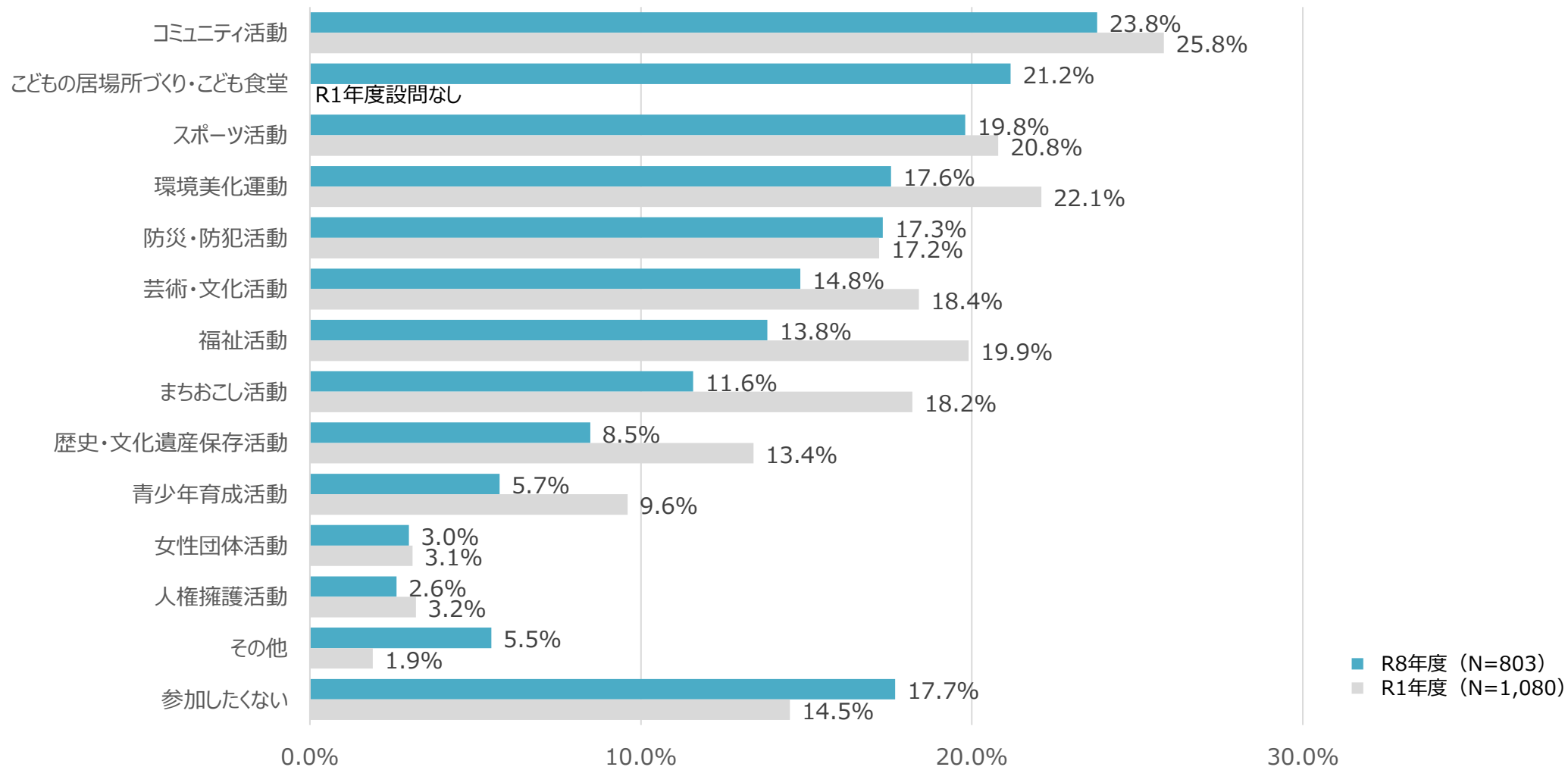
F16．あなたは、市内や地域でどのような活動に参加し、協力したいと思いますか。今後参加したいものをお選びください。（当てはまるものすべて）

：上位5項目

	全体		10-20歳代		30-40歳代		50-64歳		65歳以上	
	件数（人）	割合（%）	件数（人）	割合（%）	件数（人）	割合（%）	件数（人）	割合（%）	件数（人）	割合（%）
コミュニティ活動	191	23.8%	9	13.4%	50	21.1%	57	24.2%	71	29.6%
防災・防犯活動	139	17.3%	8	11.9%	37	15.6%	42	17.8%	51	21.3%
福祉活動	111	13.8%	5	7.5%	21	8.9%	38	16.1%	44	18.3%
女性団体活動	24	3.0%	2	3.0%	6	2.5%	9	3.8%	7	2.9%
人権擁護活動	21	2.6%	3	4.5%	6	2.5%	9	3.8%	2	0.8%
スポーツ活動	159	19.8%	21	31.3%	62	26.2%	47	19.9%	25	10.4%
芸術・文化活動	119	14.8%	13	19.4%	25	10.5%	40	16.9%	39	16.3%
環境美化運動	141	17.6%	7	10.4%	30	12.7%	45	19.1%	55	22.9%
歴史・文化遺産保存活動	68	8.5%	6	9.0%	14	5.9%	24	10.2%	24	10.0%
青少年育成活動	46	5.7%	3	4.5%	14	5.9%	14	5.9%	14	5.8%
まちおこし活動	93	11.6%	4	6.0%	29	12.2%	35	14.8%	24	10.0%
こどもの居場所づくり・こども食堂	170	21.2%	7	10.4%	74	31.2%	50	21.2%	38	15.8%
参加したくない	142	17.7%	14	20.9%	50	21.1%	34	14.4%	40	16.7%
その他	44	5.5%	5	7.5%	12	5.1%	14	5.9%	12	5.0%

7.15.2 F16 地域活動参加（経年比較）

＜R8年度調査とR1年度調査との比較＞



第8章：属性・独自設問×Well-Beingの傾向分析

8.1.1 通勤・通学先×Well-Being指標

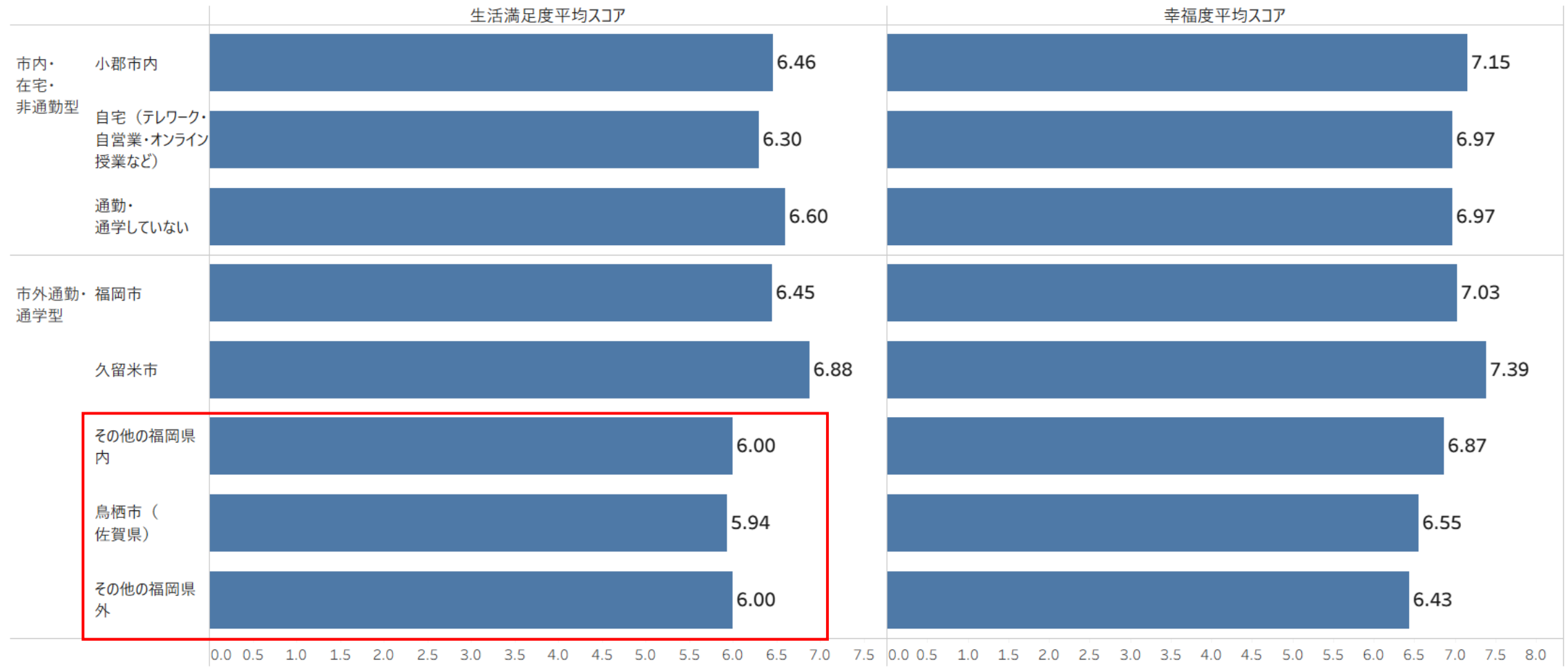
8.1 通勤・通学先×Well-Being指標

因子（分野）と設問の定義

以下スライドで使用する因子（分野）	対応設問
通勤・通学先	設問No.A6
生活満足度	設問No.B3
幸福度	設問No.B1
小学校区	設問No.A5
地域とのつながり	設問No.D1~D5
生活環境（16因子）	設問No.C1~C27

8.1.2 通勤・通学先×Well-Being指標（生活満足度・幸福度）

- 「市内・在宅・非通勤」層が「市外通勤・通学」層と比較して生活満足度・幸福度の平均スコアがやや高い。
- 「その他の福岡県内」・「鳥栖市」・「その他の福岡県外に通勤・通学している」層では生活満足度が相対的に低い傾向にある。



8.1.3 通勤・通学先×Well-Being指標（地域とのつながり）

- 「相談できる人が身近にいる」の平均スコアは全体的に低い傾向にあるが、特に市外へ通勤・通学している層でその傾向が強くみられる。
- 日中は市外にいるため、住んでいる地域の人々とコミュニケーションを図る機会が少ないことが予測される。

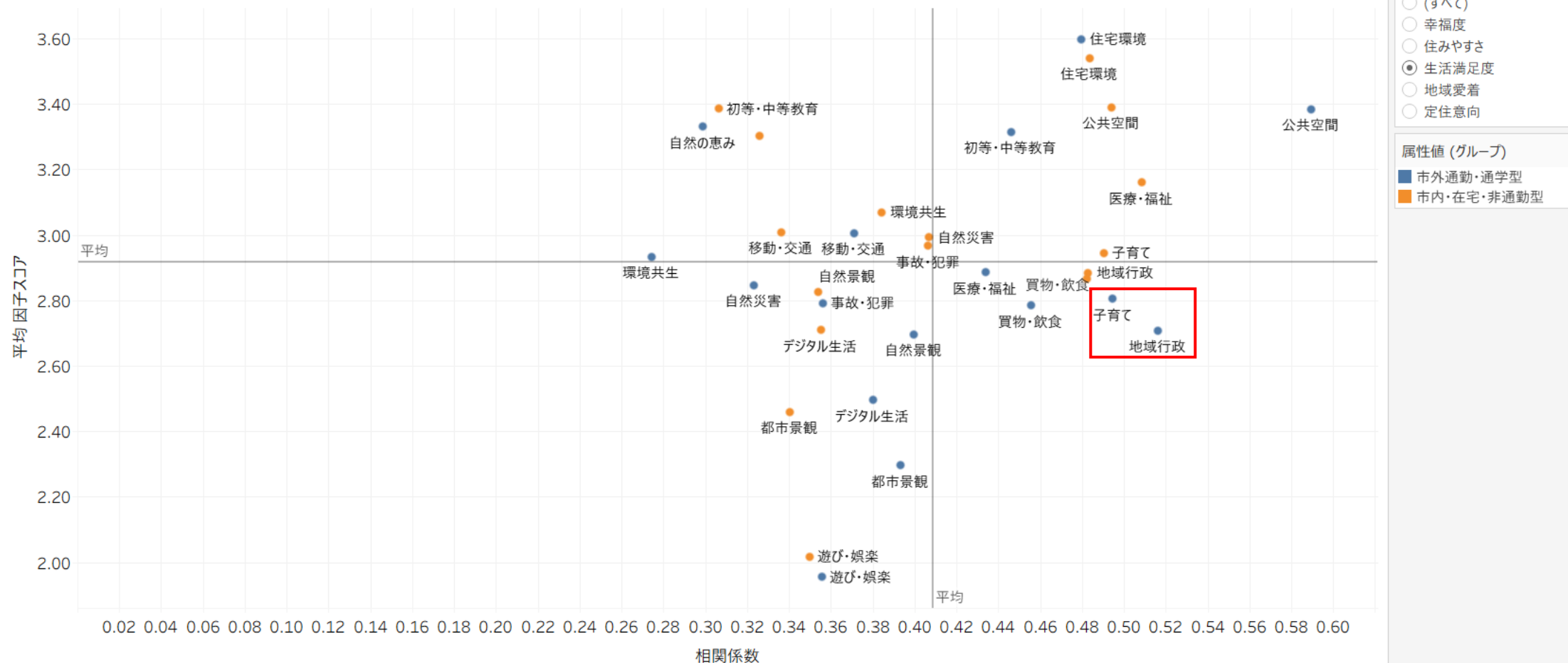
		手助けをする	地域の人たちを信頼している	市民参加が盛んである	相談できる人が身近にいる	愛着を持っている
市内・在宅・非通勤型	小郡市内	3.41	3.30	3.10	2.69	3.30
	自宅（テレワーク・自営業・オンライン授業など）	3.57	3.30	3.32	2.95	3.51
	通勤・通学していない	3.33	3.32	3.12	2.88	3.30
市外通勤・通学型	福岡市	3.20	3.14	3.08	2.48	3.19
	久留米市	3.40	3.39	3.20	2.85	3.45
	その他の福岡県内	3.40	3.09	2.98	2.80	3.25
	鳥栖市（佐賀県）	2.91	3.06	2.66	2.38	3.17
	その他の福岡県外	3.00	3.09	2.83	2.26	3.30



8.1.4 通勤・通学先×Well-Being指標（生活満足度と生活環境因子の相関）

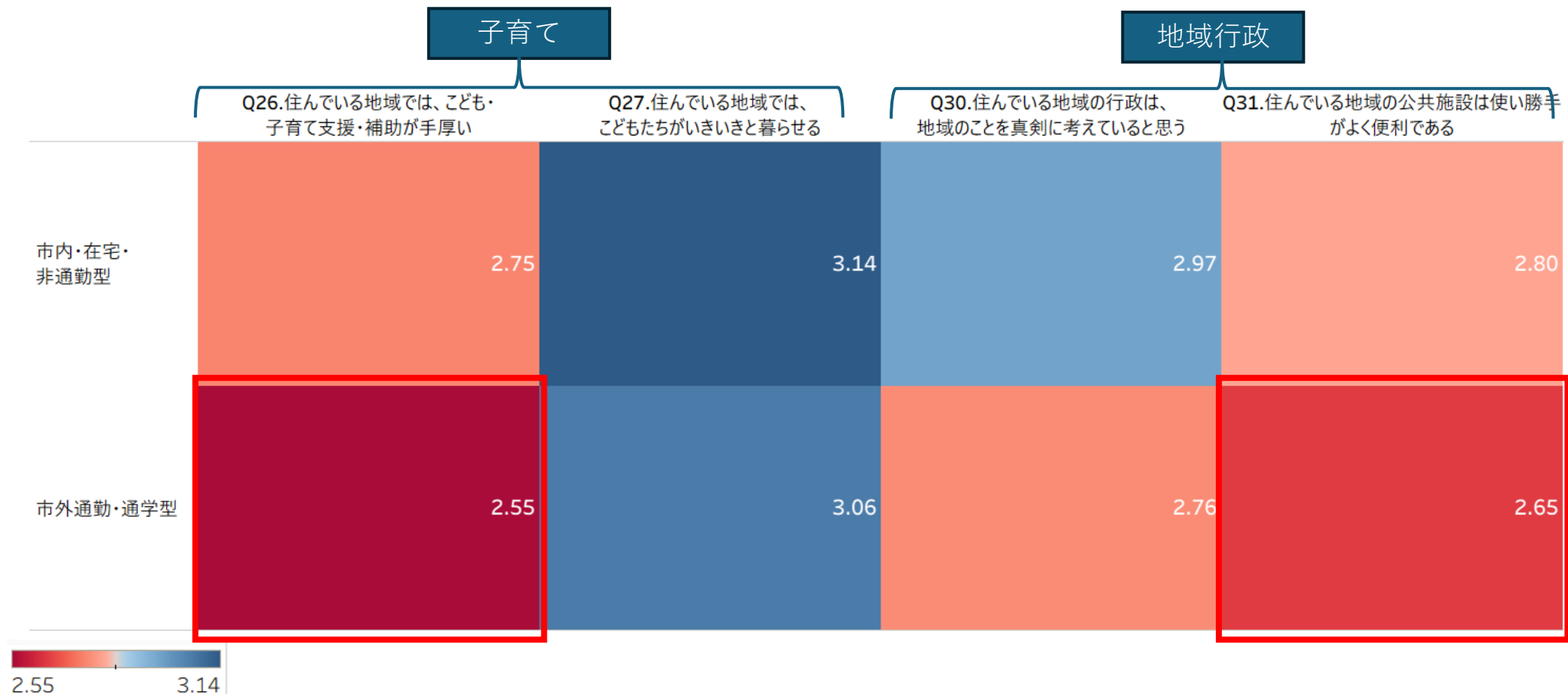
- 公共空間、住宅環境、子育て、地域行政の4因子について、市内・在宅・非通勤層と市外通勤・通学層のいずれも生活満足度との相関が高い。
- 特に、子育てと地域行政は市外通勤・通学層のスコアが市内・在宅非通勤層に比べて低く、課題意識が高い傾向にある。

相関係数（生活環境×生活満足度）



8.1.5 通勤・通学先×Well-Being指標（子育て・地域行政）

- 「子育て」において、市外通勤・通学層では「子育て支援・援助」に関する項目への評価が相対的に低く、子育て支援に課題を感じている傾向がみられる。
- 「地域行政」において、市外通勤・通学層では「公共施設の使いやすさ」に関する項目への評価が相対的に低く、公共施設の利便性に課題を感じている傾向がみられる。



8.2.1 居住年数×Well-Being指標

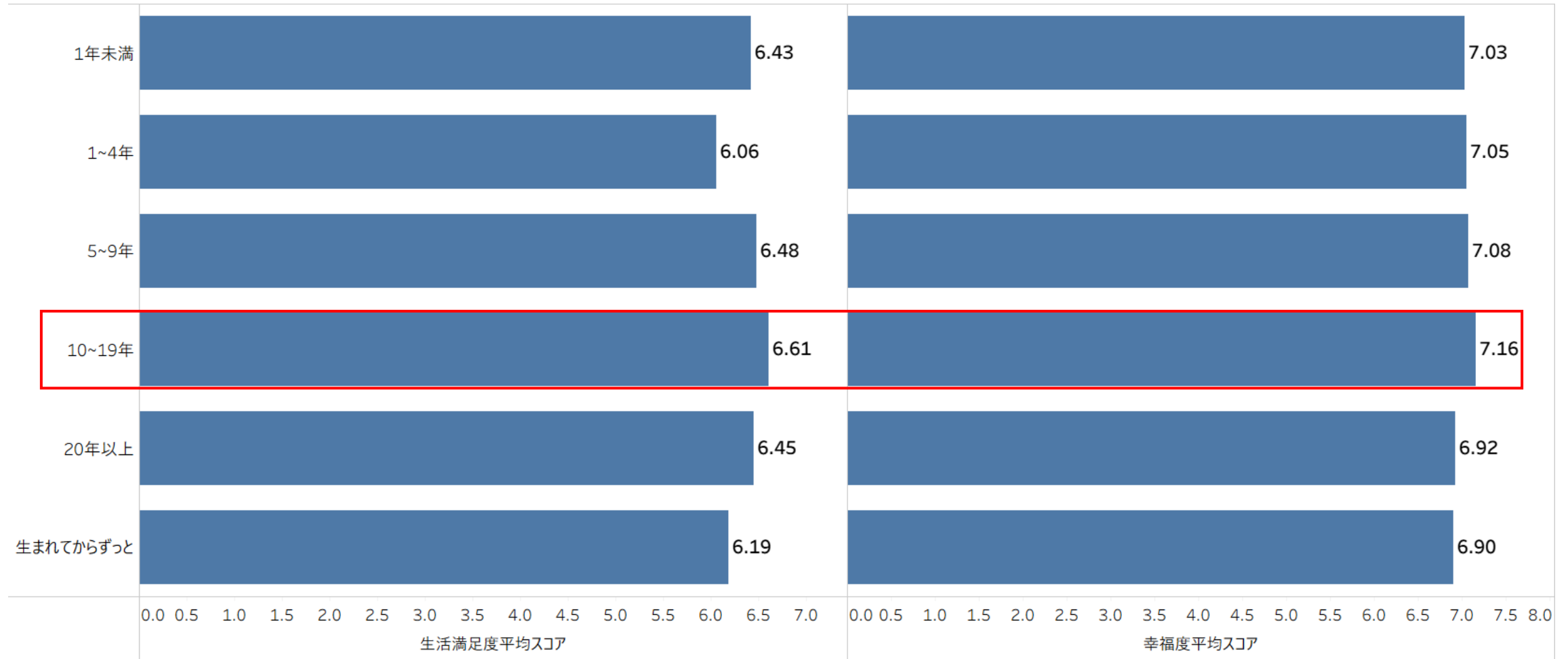
8.2 居住年数×Well-Being指標

因子（分野）と設問の定義

以下スライドで使用する因子（分野）	対応設問
居住年数	設問No.A9
生活満足度	設問No.B3
幸福度	設問No.B1
地域とのつながり	設問No.D1～D5
生活環境（16因子）	設問No.C1～C27
定住意向	設問No.F4

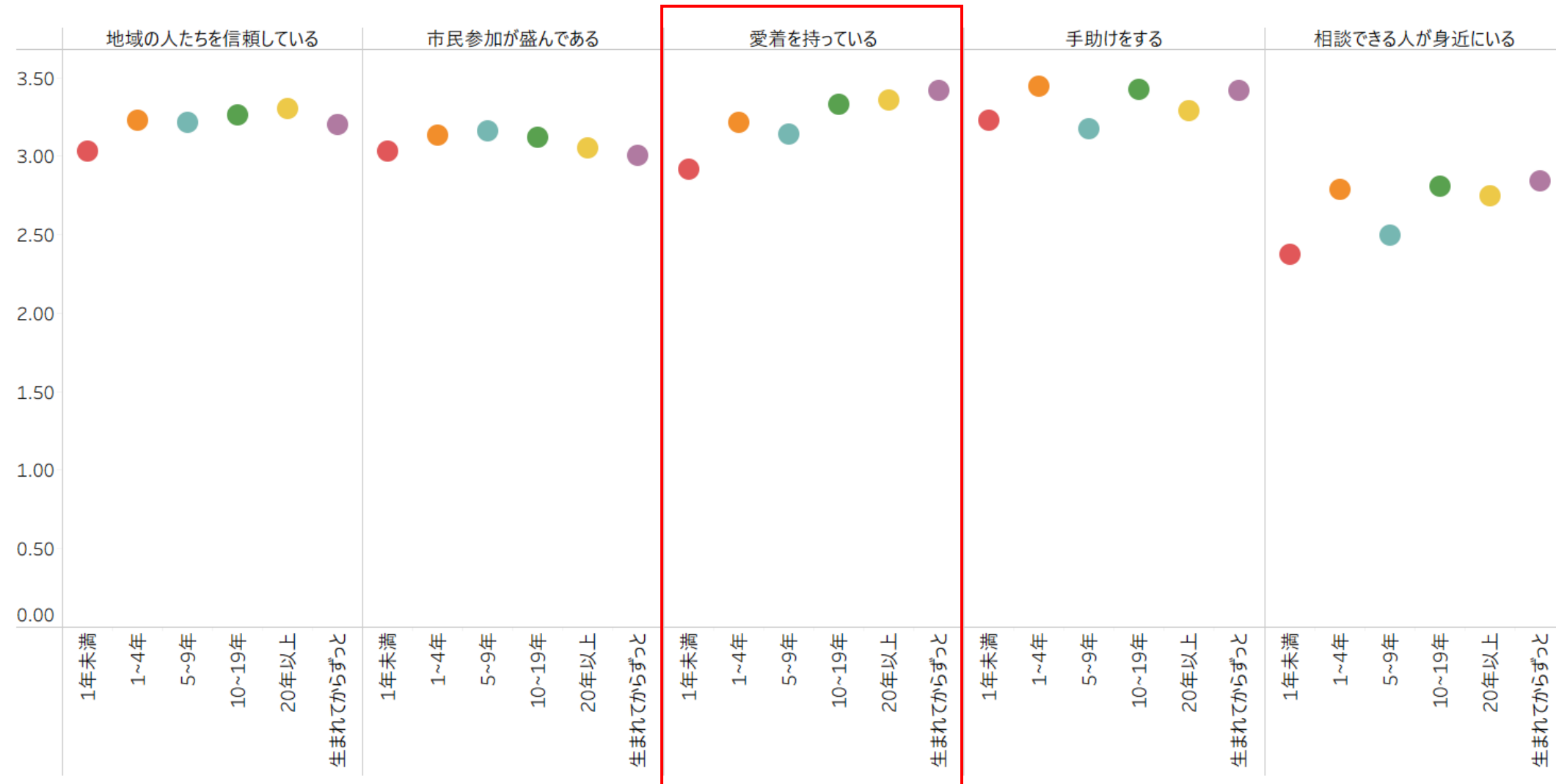
8.2.2 居住年数×Well-Being指標（生活満足度・幸福度）

- 居住年数によって生活満足度・幸福度に顕著な差は見られないが、生活満足度・幸福度ともに居住年数が「10～19年」層のスコアが最も高い。



8.2.3 居住年数×Well-Being指標（地域とのつながり）

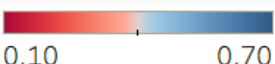
➤ 居住年数が長い住民ほど、地域への愛着度が高い傾向にある。



8.2.4 居住年数×Well-Being指標（生活満足度と生活環境因子の相関）

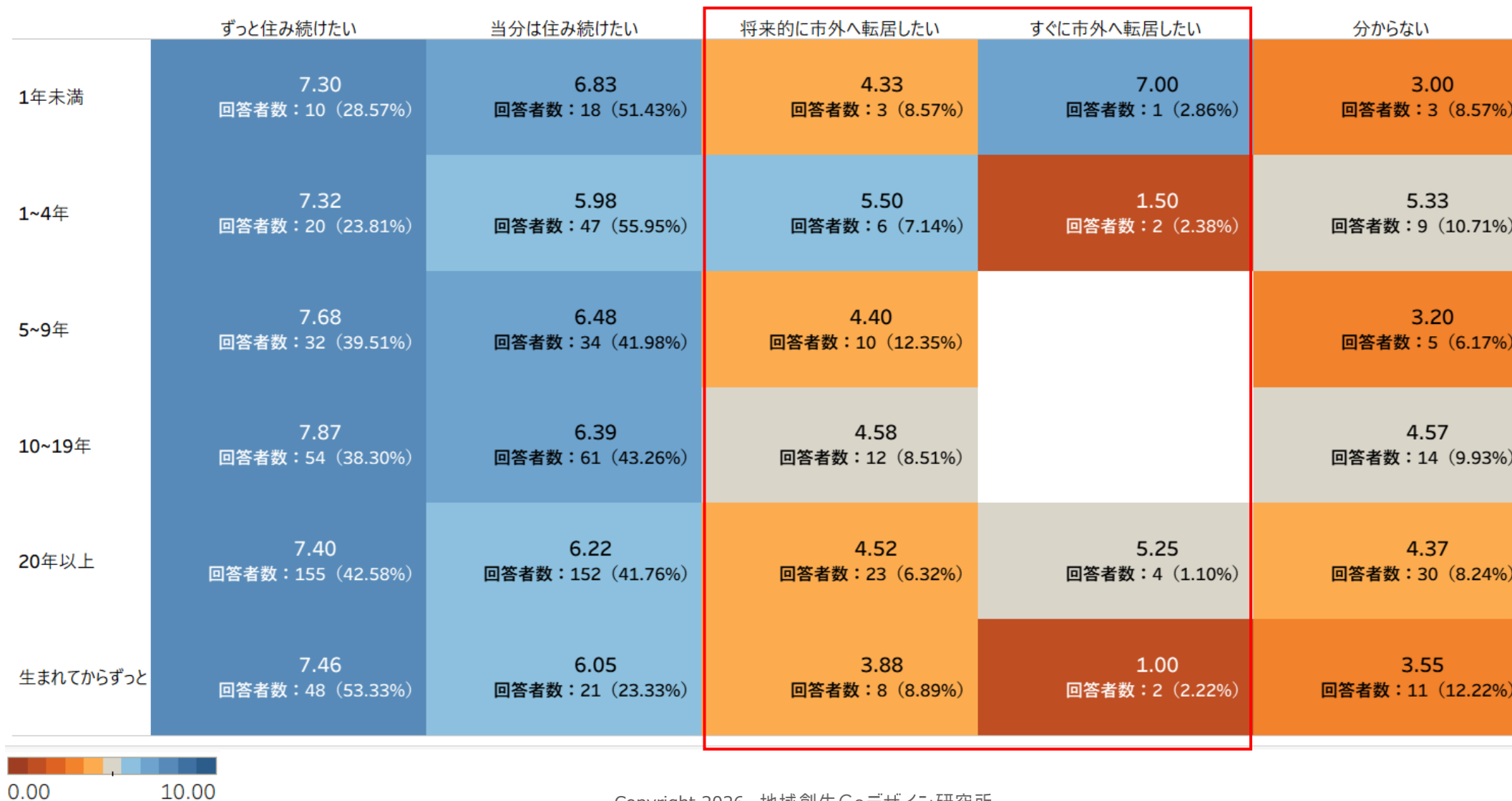
- 居住年数により相関の高い因子に違いが見られ、生活満足度との関係性が居住年数により変化する可能性が考えられる。
- 特に、「初等・中等教育」は最大相関と最小相関の差分が大きく、1年未満の層が相関が最大であることから、教育環境は特に転居の際に重視される可能性が考えられる。

因子名	最大相関	最小相関	差分	1年未満	1~4年	5~9年	10~19年	20年以上	生まれてからずっと
医療・福祉	0.58	0.43	0.15	0.58	0.45	0.45	0.51	0.43	0.55
買物・飲食	0.63	0.42	0.21	0.47	0.50	0.63	0.53	0.42	0.44
住宅環境	0.55	0.39	0.17	0.49	0.55	0.39	0.53	0.50	0.42
移動・交通	0.55	0.28	0.26	0.48	0.46	0.55	0.33	0.28	0.42
遊び・娯楽	0.52	0.13	0.38	0.37	0.13	0.52	0.44	0.33	0.38
子育て	0.65	0.39	0.26	0.65	0.43	0.65	0.53	0.39	0.61
初等・中等教育	0.66	0.27	0.39	0.66	0.35	0.44	0.42	0.27	0.54
地域行政	0.58	0.34	0.24	0.56	0.34	0.58	0.58	0.49	0.52
デジタル生活	0.58	0.23	0.35	0.58	0.23	0.47	0.44	0.34	0.31
公共空間	0.70	0.47	0.23	0.53	0.47	0.70	0.64	0.52	0.49
都市景観	0.50	0.21	0.28	0.49	0.22	0.45	0.50	0.37	0.21
事故・犯罪	0.64	0.29	0.35	0.64	0.29	0.32	0.48	0.34	0.42
自然景観	0.50	0.19	0.30	0.49	0.19	0.50	0.47	0.38	0.30
自然の恵み	0.46	0.10	0.35	0.45	0.10	0.31	0.46	0.33	0.22
環境共生	0.52	0.25	0.27	0.52	0.34	0.25	0.27	0.35	0.30
自然災害	0.52	0.27	0.25	0.39	0.27	0.52	0.42	0.31	0.44

8.2.5 居住年数×Well-Being指標（生活満足度）×定住意向

➤ 居住年数によって定住意向の大きな差はないが、どの層においても転居したい層の生活満足度は低い傾向がある。



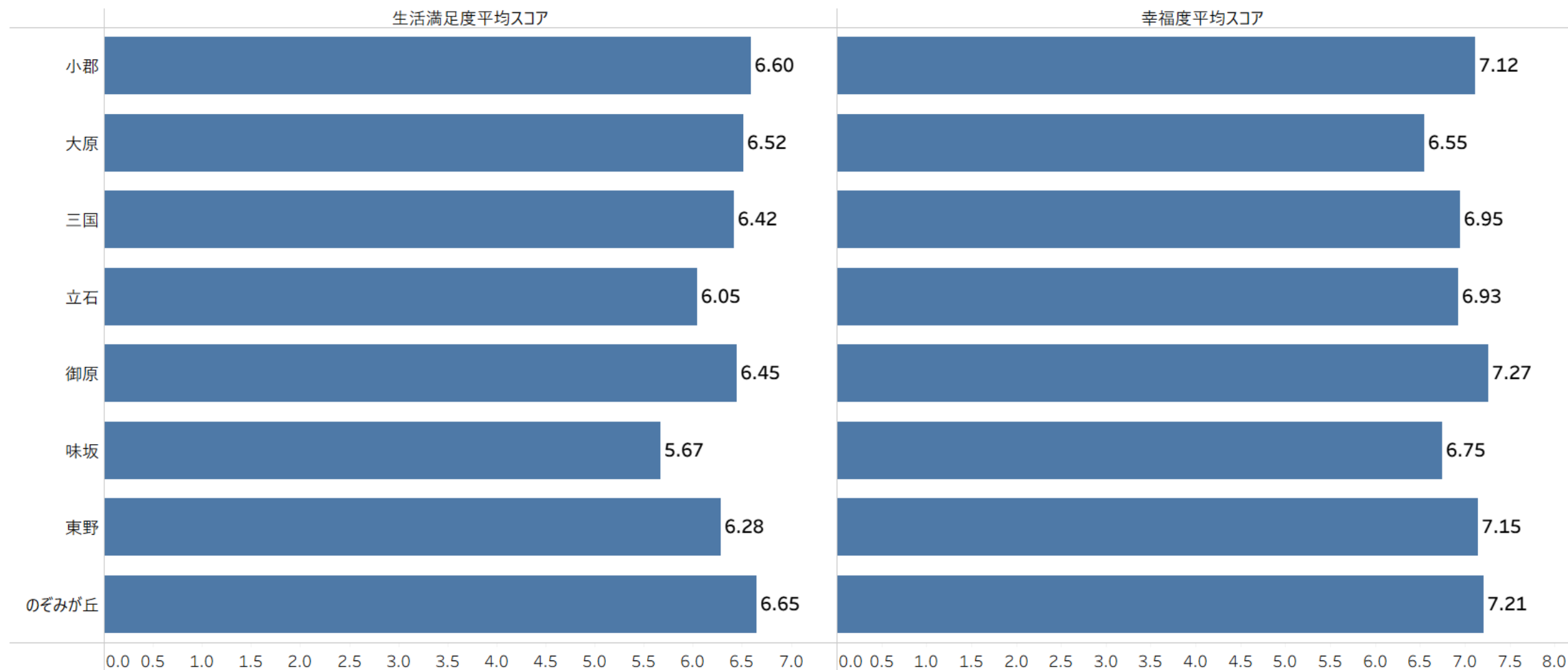
8.3 小学校区×Well-Being指標

因子（分野）と設問の定義

以下スライドで使用する因子（分野）	対応設問
小学校区	設問No.A5
生活満足度	設問No.B3
幸福度	設問No.B1
定住意向	設問No.F4

8.3.2 小学校区×Well-Being指標（生活満足度・幸福度）

➤ 生活満足度・幸福度ともに小学校区間でスコアの違いがみられる。



8.3.3 小学校区×Well-Being指標（生活満足度と生活環境因子との相関）

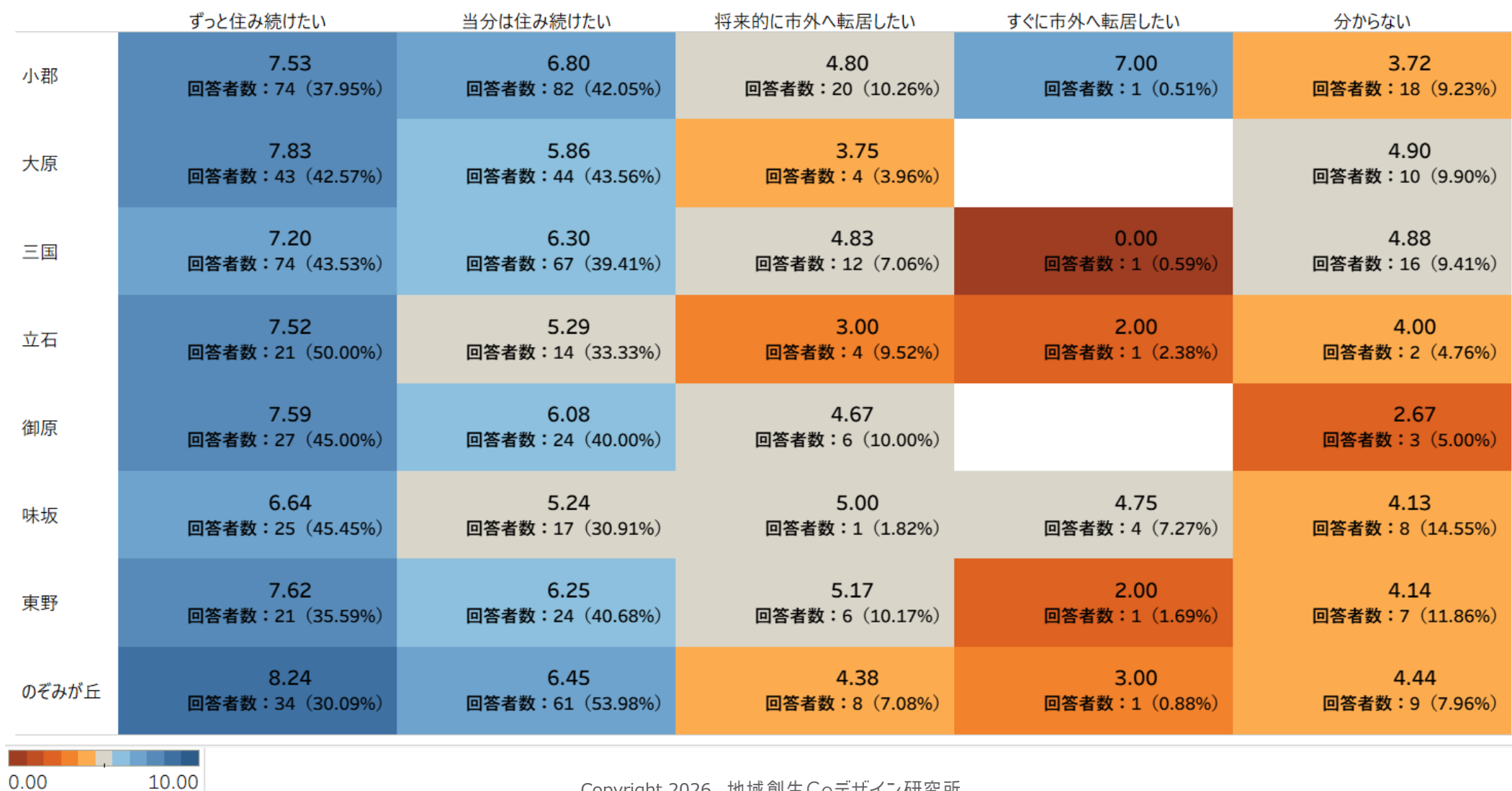
- 小学校区によって各因子との相関係数にばらつきがあり、小学区ごとに生活満足度を左右する要因が異なる。
- 公共空間や住宅環境は小学校区によらず生活満足度との相関が高い。

	小郡	大原	三国	立石	御原	味坂	東野	のぞみが丘
医療・福祉	0.45	0.39	0.57	0.59	0.60	0.36	0.26	0.46
買物・飲食	0.38	0.48	0.60	0.57	0.50	0.23	0.48	0.47
住宅環境	0.47	0.46	0.44	0.51	0.39	0.62	0.57	0.46
移動・交通	0.32	0.35	0.40	0.43	0.31	0.26	0.51	0.29
遊び・娯楽	0.32	0.35	0.50	0.31	0.37	0.04	0.43	0.28
子育て	0.36	0.51	0.51	0.62	0.66	0.34	0.49	0.56
初等・中等教育	0.27	0.47	0.31	0.43	0.54	0.38	0.44	0.36
地域行政	0.38	0.52	0.58	0.54	0.63	0.30	0.62	0.51
デジタル生活	0.31	0.29	0.43	0.50	0.40	0.11	0.50	0.35
公共空間	0.42	0.58	0.59	0.63	0.56	0.48	0.56	0.62
都市景観	0.31	0.46	0.47	0.34	0.39	0.09	0.44	0.29
事故・犯罪	0.34	0.42	0.45	0.54	0.46	0.10	0.44	0.28
自然景観	0.35	0.54	0.45	0.40	0.36	0.30	0.41	0.34
自然の恵み	0.31	0.50	0.35	0.32	0.24	0.18	0.33	0.43
環境共生	0.33	0.42	0.38	0.28	0.41	0.13	0.29	0.25
自然災害	0.23	0.45	0.41	0.39	0.62	0.06	0.43	0.35


 0.04 0.66

8.3.4 小学校区×Well-Being指標（生活満足度）×定住意向

- 定住意向において小学校区ごとに大きな差はないが、住み続けたい層と転居したい層の生活満足度に差があるため、生活環境が生活満足度に影響を及ぼすことが考えられる。



8.4.1 世帯構成・子どもの有無×Well-Being指標

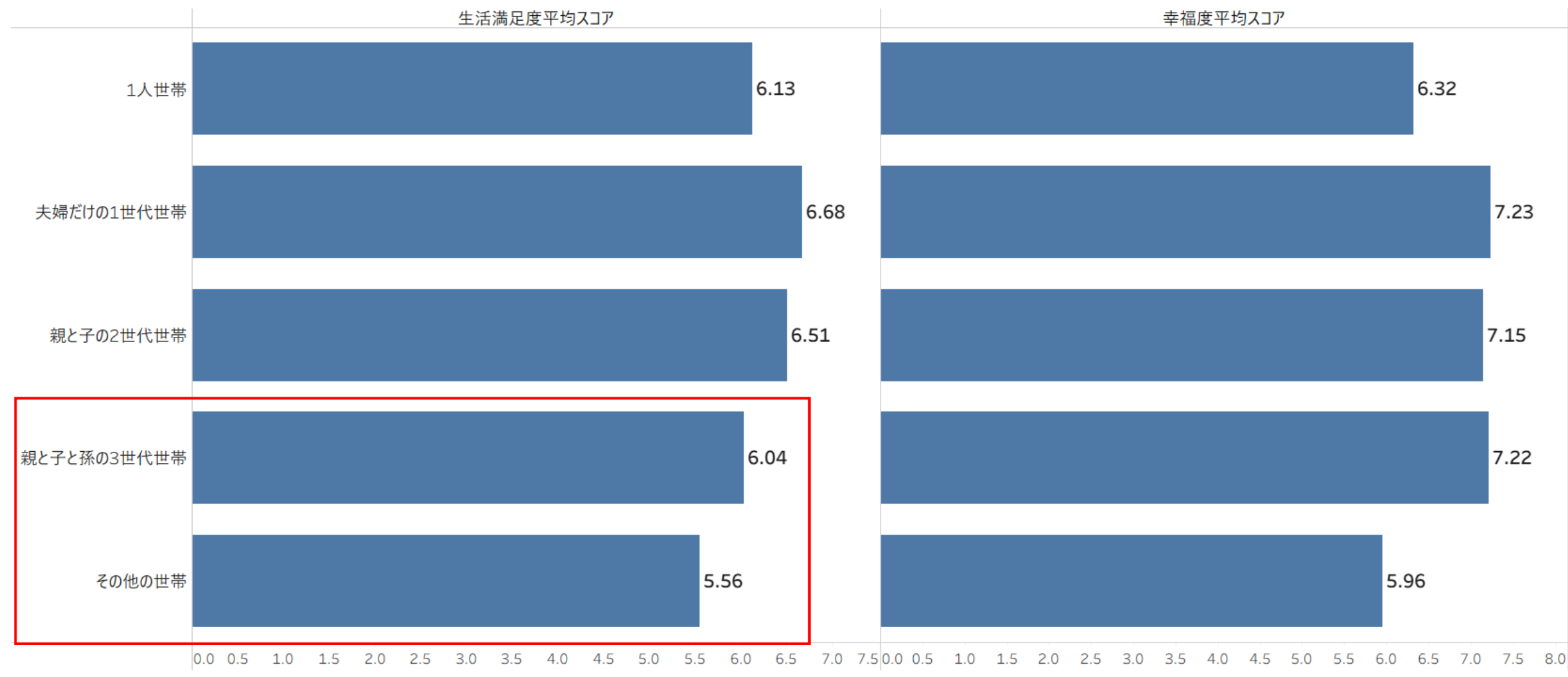
8.4 世帯構成・子どもの有無×Well-Being指標

因子（分野）と設問の定義

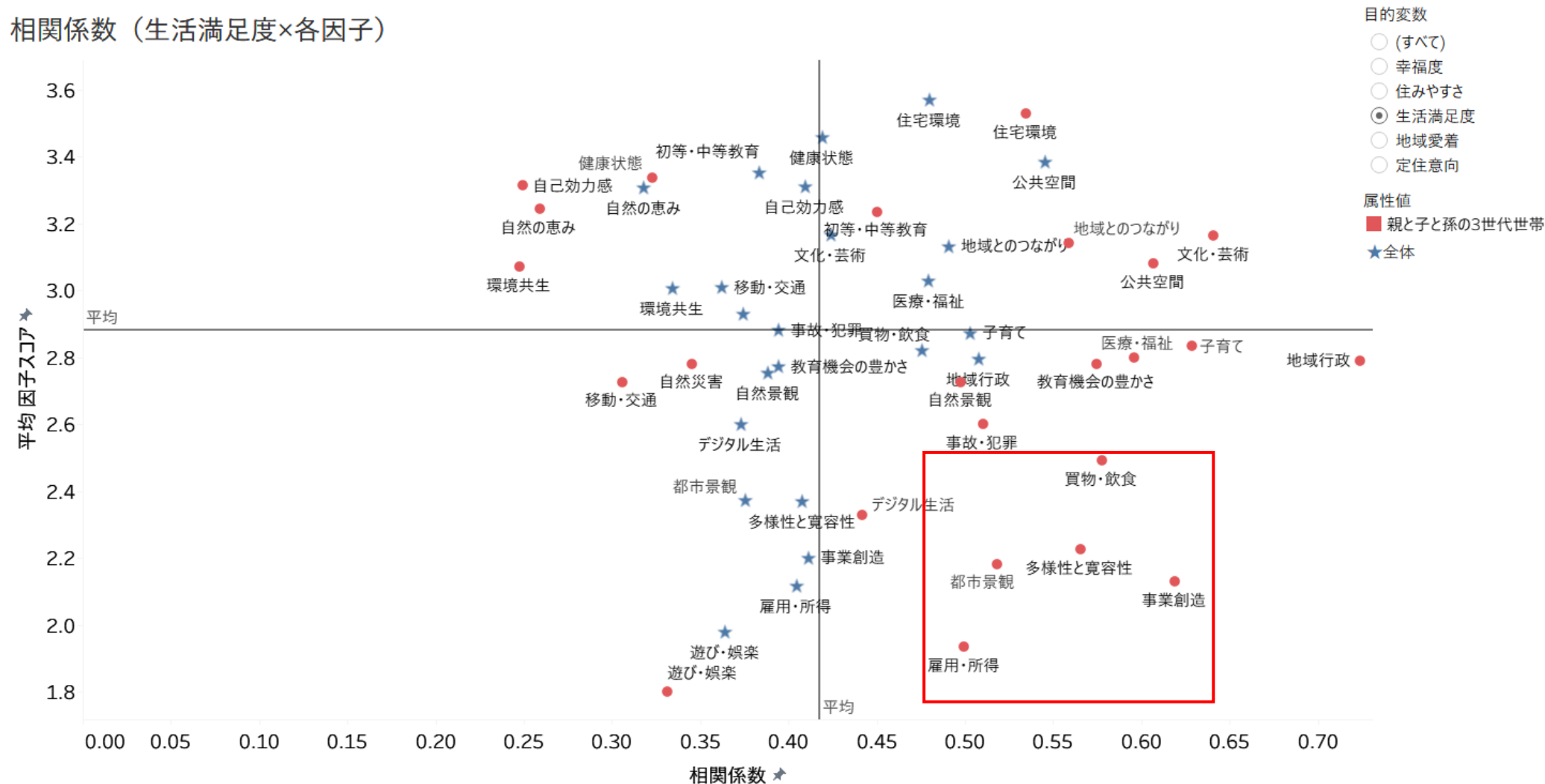
以下スライドで使用する因子（分野）	対応設問
世帯構成	設問No.A7
子どもの有無	設問No.A8
生活満足度	設問No.B3
幸福度	設問No.B1
生活環境（16因子）	設問No.C1~C27
地域の人間関係（2因子）	設問No.D1~D10
自分らしい生き方（6因子）	設問No.E1~E9

8.4.2 世帯構成×Well-Being指標（生活満足度と幸福度）

➤ 生活満足度について、「親と子と孫の3世代世帯」と「その他の世帯」が相対的に低い。



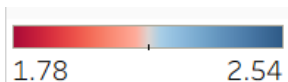
➤ 3世代世帯において買物・飲食、都市景観、事業創造、多様性と寛容性、雇用・所得の因子の課題感が高い。



8.4.4 世帯構成×Well-Being指標（重要因子）

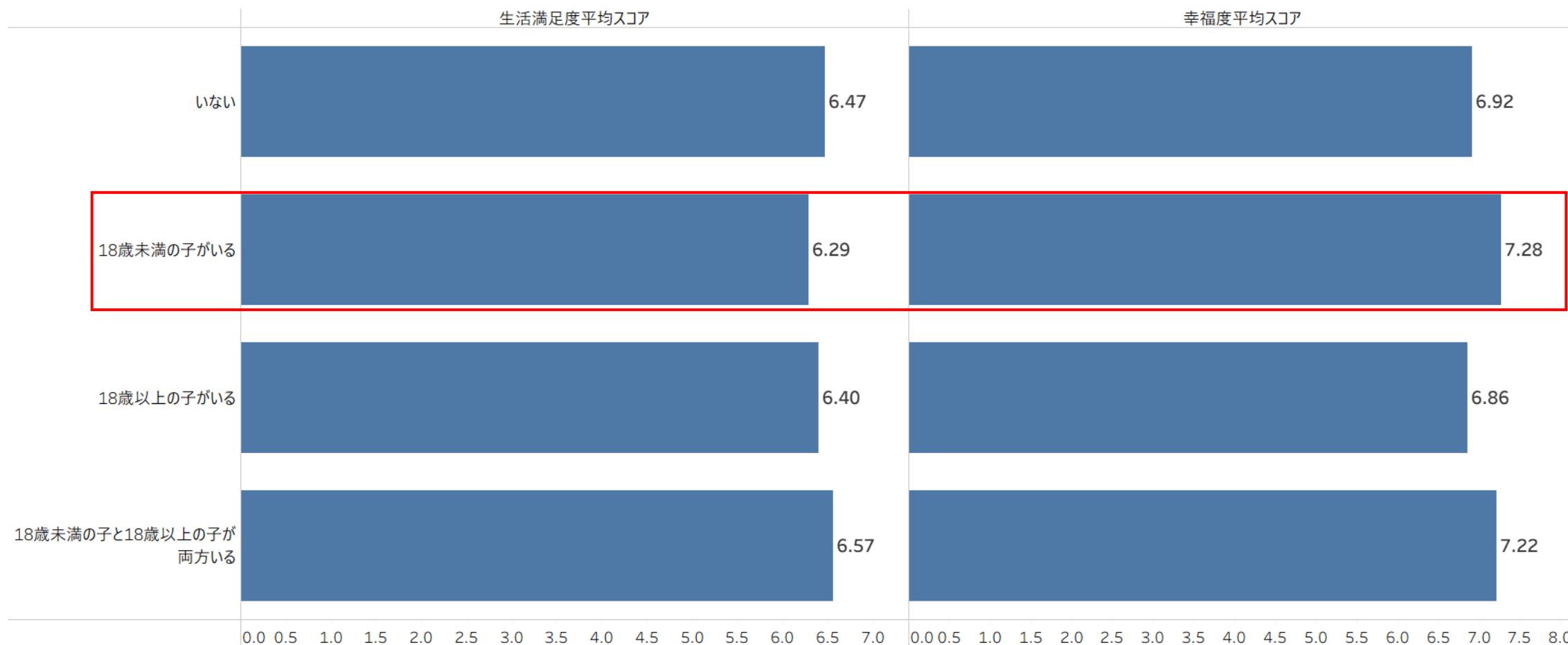
- 「多様性と寛容性」において、3世代世帯では「見知らぬ他者であっても信頼する」の評価が相対的に低いため、地域における他者への信頼度が低い傾向がある。
- 「買物・飲食」において、3世代世帯では「飲食を楽しめる場所の充実さ」に関する評価が相対的に低く、飲食を楽しめる場所の充実に課題を感じている傾向がみられる。

	買物・飲食	都市景観	多様性と寛容性			雇用・所得		事業創造
	Q20.住んでいる地域では、飲食を楽しめる場所が充実している	Q36.住んでいる地域には、自慢できる都市景観がある	Q50.あなたは、見知らぬ他者（知らない人）であっても信頼する	Q51.住んでいる地域の人が自分をどう思っているかが気になる	Q53.住んでいる地域に、若者が活躍しやすい雰囲気がある	Q60.住んでいる地域で、やりたい仕事を見つけやすい	Q61.住んでいる地域で、適切な収入を得るための機会がある	Q62.住んでいる地域には、新たな事に挑戦・成長するための機会がある
1人世帯	2.53	2.39	1.91	2.41	2.29	2.11	2.09	2.17
夫婦だけの1世代世帯	2.33	2.48	2.06	2.44	2.41	2.17	2.12	2.20
親と子の2世代世帯	2.32	2.35	1.92	2.20	2.37	2.07	2.17	2.21
親と子と孫の3世代世帯	2.07	2.18	1.78	2.29	2.15	1.89	1.98	2.13
その他の世帯	2.24	2.18	2.22	2.54	2.30	2.18	2.29	2.27



8.4.5 子どもの有無×Well-Being指標（生活満足度・幸福度）

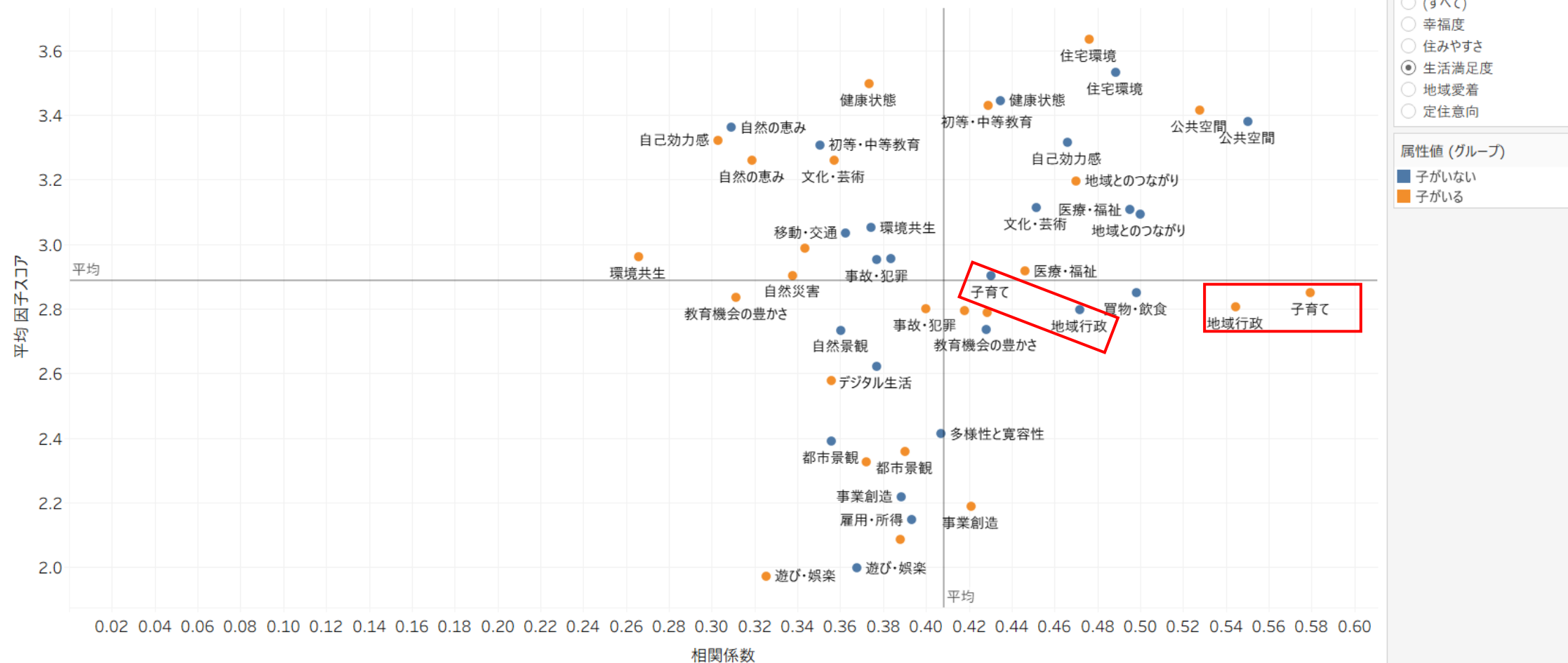
➤ 18歳未満の子どものみがいる世帯において、幸福度は最も高いが、生活満足度は最も低い。



8.4.6 子どもの有無×Well-Being指標（生活満足度と各因子の相関）

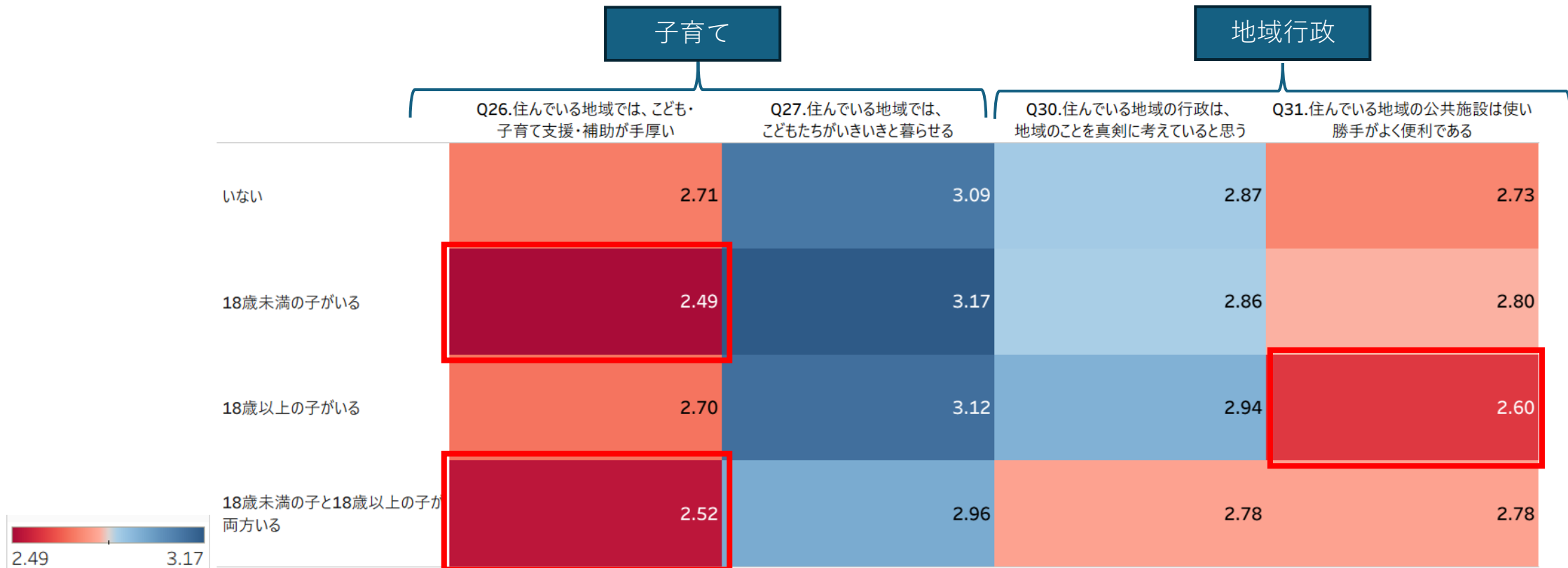
- 子育てと地域行政において、子どもがいる世帯は子どもがいない世帯よりも生活満足度との相関が高い一方でスコアが低い傾向があり、課題が見られる。

相関係数（生活満足度×各因子）



8.4.7 子どもの有無×Well-Being指標（子育て・地域行政）

- 「子育て」において、18歳未満の子どもがいる層では、「子育て支援・援助」に関する項目への評価が相対的に低く、子育て支援に課題を感じている傾向がみられる。
- 「地域行政」において、18歳以上の子どもがいる層では、「公共施設の使いやすさ」に関する項目への評価が相対的に低く、公共施設の利便性に課題を感じている傾向がみられる。
- また、通勤・通学の「市外通勤・通学」においても同様の傾向がみられたことから、子どもがいる世帯のうち、市外へ通勤・通学している層では、子育て支援や公共施設の利便性に関する満足度が相対的に低く、これらの分野に課題を感じている可能性がある。



8.5.1 地域愛着×Well-Being指標

8.5 地域愛着×Well-Being指標

因子（分野）と設問の定義

以下スライドで使用する因子（分野）	対応設問
地域愛着	設問No.F1
生活環境（16因子）	設問No.C1～C27
地域の人間関係（2因子）	設問No.D1～D10
自分らしい生き方（6因子）	設問No.E1～E9
居住年数	設問No.A9
小学校区	設問No.A5

8.5.2 居住年数×地域愛着のクロス集計

➤ 居住年数が長い人ほど地域愛着が高まる傾向がみられる。

	とても愛着がある	やや愛着がある	あまり愛着がない	愛着がない	総計
1年未満	6 (17.14%)	16 (45.71%)	10 (28.57%)	3 (8.57%)	35 (100.00%)
1~4年	12 (14.12%)	46 (54.12%)	22 (25.88%)	5 (5.88%)	85 (100.00%)
5~9年	13 (16.05%)	51 (62.96%)	10 (12.35%)	7 (8.64%)	81 (100.00%)
10~19年	29 (20.42%)	80 (56.34%)	30 (21.13%)	3 (2.11%)	142 (100.00%)
20年以上	66 (18.08%)	233 (63.84%)	49 (13.42%)	12 (3.29%)	365 (100.00%)
生まれてからずっと	33 (36.67%)	46 (51.11%)	8 (8.89%)	3 (3.33%)	90 (100.00%)

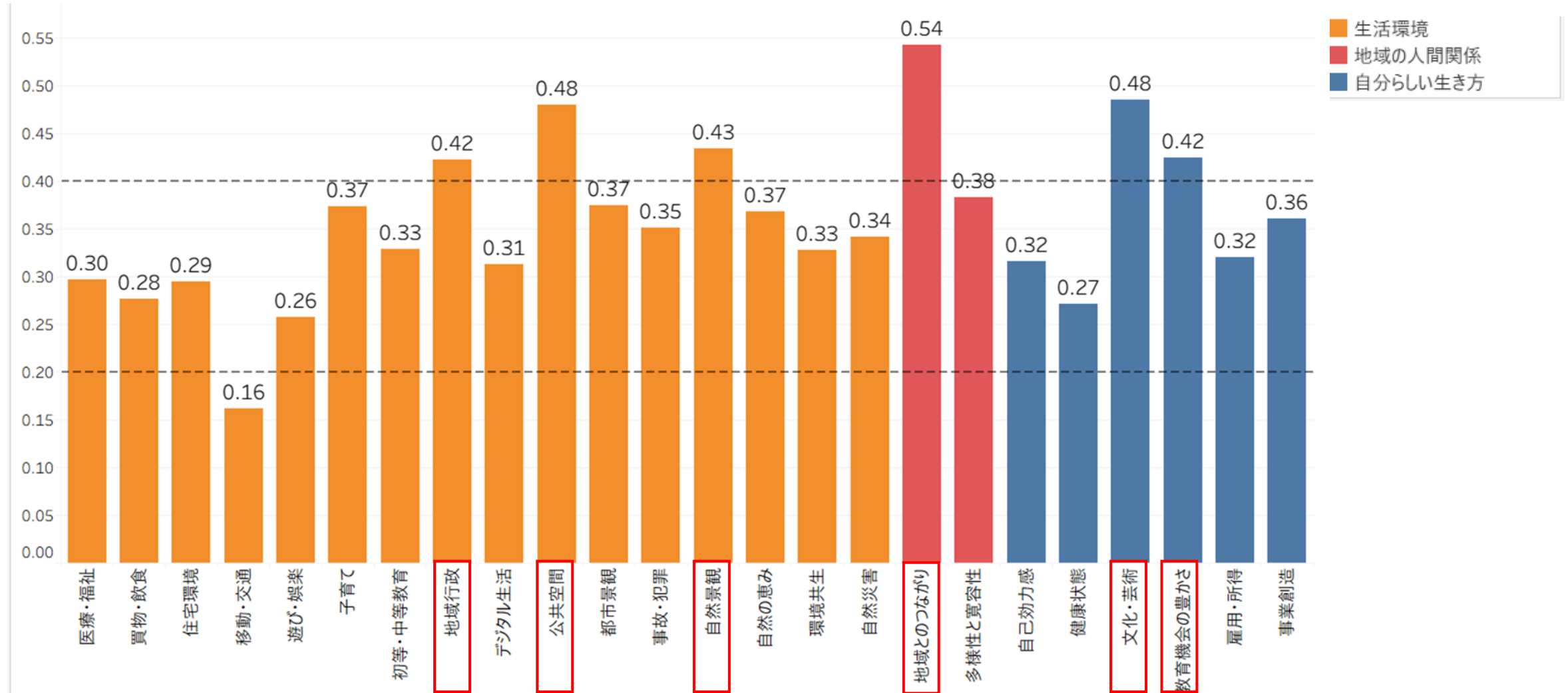
8.5.3 小学校区×地域愛着のクロス集計

➤ 小学校区による愛着の違いは見受けられず、いずれの地区も「やや愛着がある」の割合が高い傾向にある。

	とても愛着がある	やや愛着がある	あまり愛着がない	愛着がない	総計
小郡	46 (23.47%)	105 (53.57%)	38 (19.39%)	5 (2.55%)	196 (100.00%)
大原	22 (21.78%)	53 (52.48%)	20 (19.80%)	4 (3.96%)	101 (100.00%)
三国	29 (17.06%)	104 (61.18%)	28 (16.47%)	8 (4.71%)	170 (100.00%)
立石	13 (30.95%)	22 (52.38%)	3 (7.14%)	4 (9.52%)	42 (100.00%)
御原	14 (23.33%)	34 (56.67%)	12 (20.00%)		60 (100.00%)
味坂	11 (20.00%)	37 (67.27%)	4 (7.27%)	3 (5.45%)	55 (100.00%)
東野	7 (11.67%)	37 (61.67%)	12 (20.00%)	4 (6.67%)	60 (100.00%)
のぞみが丘	18 (15.93%)	79 (69.91%)	13 (11.50%)	3 (2.65%)	113 (100.00%)

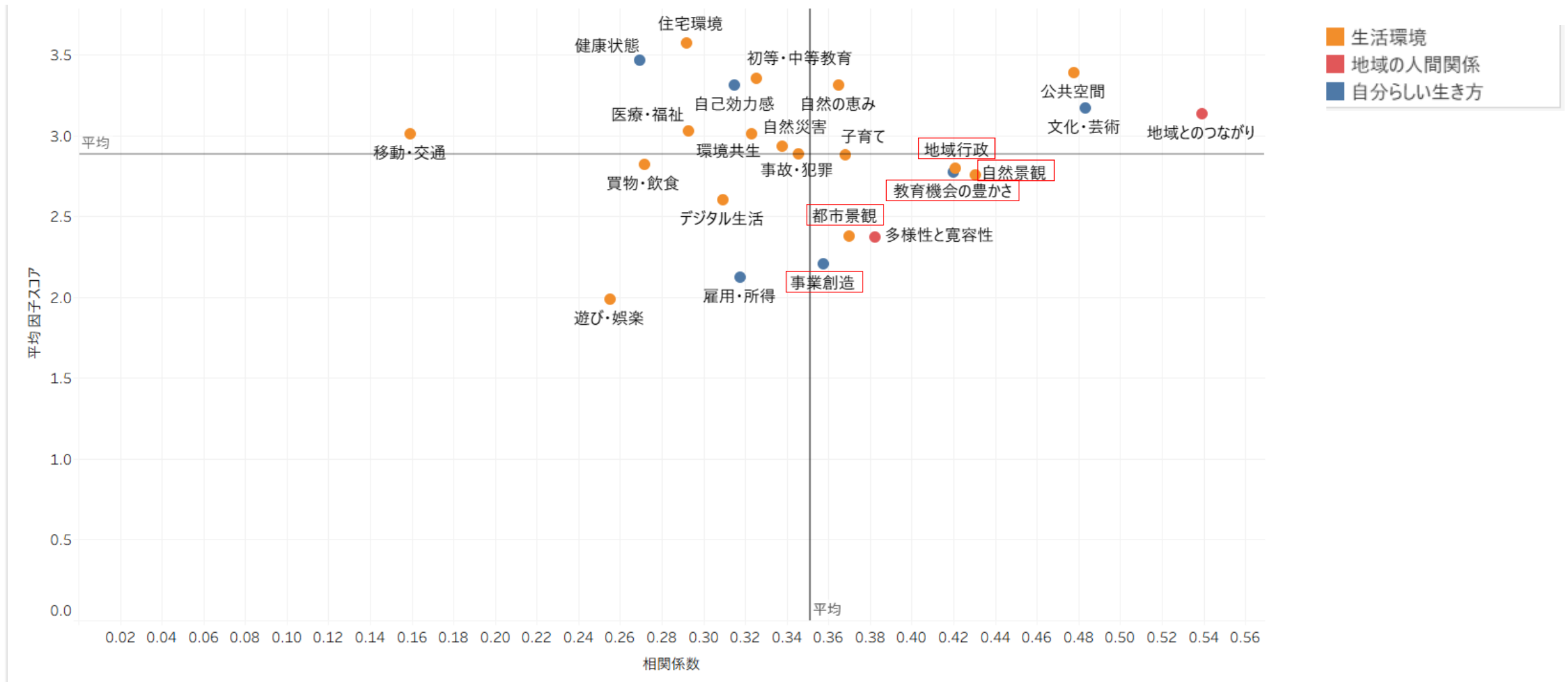
8.5.4 地域愛着と因子の相関係数

- 「地域とのつながり」「文化・芸術」「公共空間」「自然景観」「教育機会の豊かさ」「地域行政」の6つの因子が地域愛着との関連性があるといえる。



8.5.5 地域愛着との相関係数と因子平均の分布

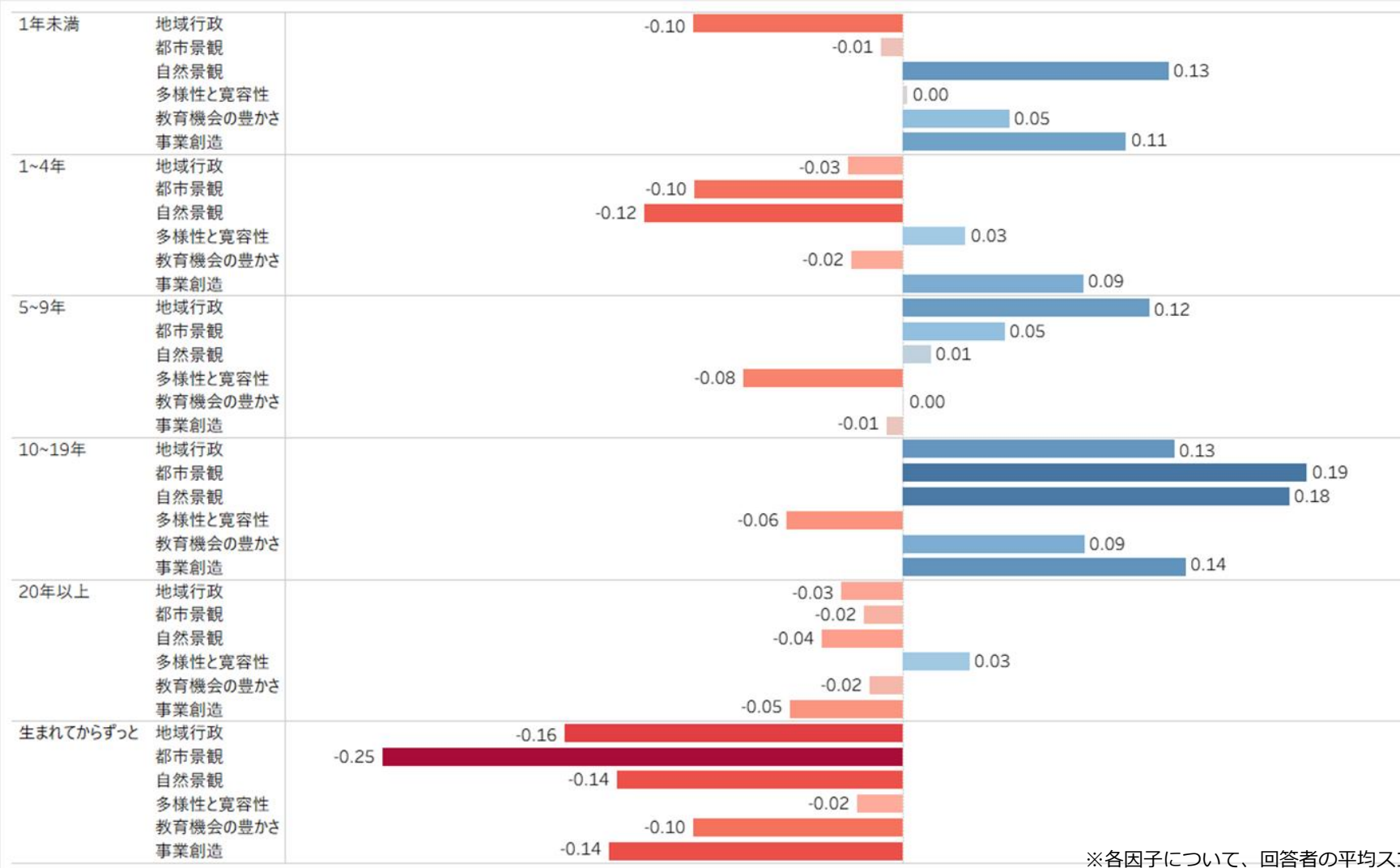
- 地域愛着との関連性が比較的高い一方、評価水準が平均を下回る因子として「教育機会の豊かさ」「地域行政」「自然景観」「都市景観」「事業創造」が見られる。



※横軸は地域愛着との相関係数、縦軸は因子平均スコアを示す
→右側ほど地域愛着との関連が強く、上側ほど評価が高い

8.5.6 地域愛着の重要因子に対する属性別評価のギャップ（居住年数別）

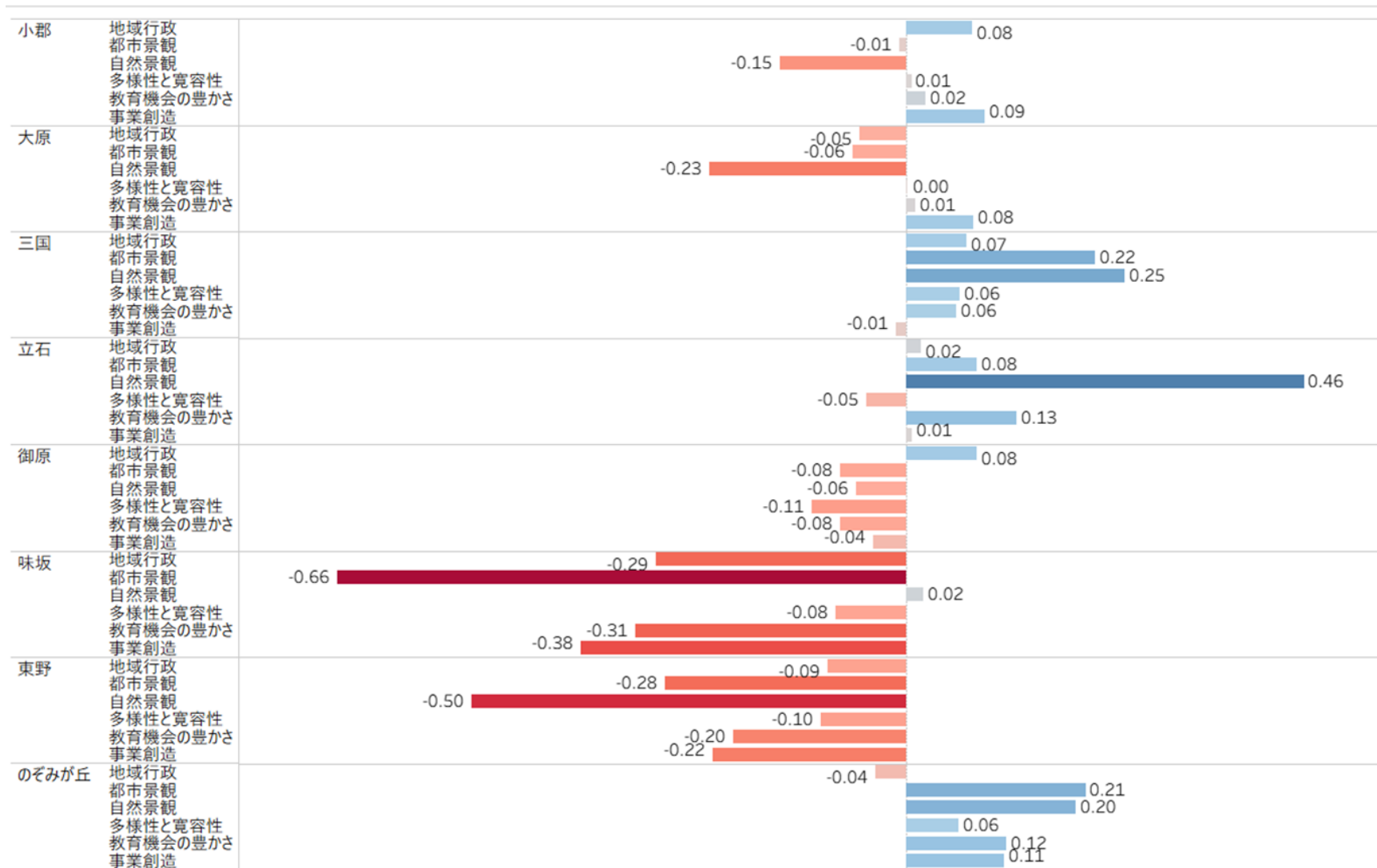
- 重要因子の評価を居住年数別に比較すると、「1年未満」「10～19年」の評価が高い傾向がみられる。
- 一方、居住年数が長い層では各因子の評価が全体平均を下回る傾向にある。



※各因子について、回答者の平均スコアを基準とした属性別の差分を表示している
→マイナス値が大きいほど当該因子の評価を押し下げている傾向を示す

8.5.7 地域愛着の重要因子に対する属性別評価のギャップ（小学校区別）

➤ 重要因子の評価を小学校区別に比較すると、「味坂」「東野」の評価が低い傾向がみられる。



※各因子について、回答者の平均スコアを基準とした属性別の差分を表示している
→マイナス値が大きいほど当該因子の評価を押し下げている傾向を示す

8.6 住みやすさ×Well-Being指標

因子（分野）と設問の定義

以下スライドで使用する因子（分野）	対応設問
住みやすさ	設問No.F3
生活環境（16因子）	設問No.C1～C27
地域の人間関係（2因子）	設問No.D1～D10
自分らしい生き方（6因子）	設問No.E1～E9
居住年数	設問No.A9
小学校区	設問No.A5

8.6.2 居住年数×住みやすさのクロス集計

- 総数においては20年以上の長期居住者が相対的に多いものの、居住年数別にみた「住みやすさ」評価の回答割合に大きな差はみられない。

	住みやすい	まあまあ住みやすい	あまり住みやすくない	住みにくい	総計
1年未満	9 (25.71%)	21 (60.00%)	5 (14.29%)		35 (100.00%)
1~4年	27 (31.76%)	47 (55.29%)	9 (10.59%)	2 (2.35%)	85 (100.00%)
5~9年	26 (32.10%)	47 (58.02%)	5 (6.17%)	3 (3.70%)	81 (100.00%)
10~19年	48 (33.80%)	84 (59.15%)	8 (5.63%)	2 (1.41%)	142 (100.00%)
20年以上	87 (23.84%)	235 (64.38%)	32 (8.77%)	10 (2.74%)	365 (100.00%)
生まれてからずっと	28 (31.11%)	52 (57.78%)	4 (4.44%)	6 (6.67%)	90 (100.00%)

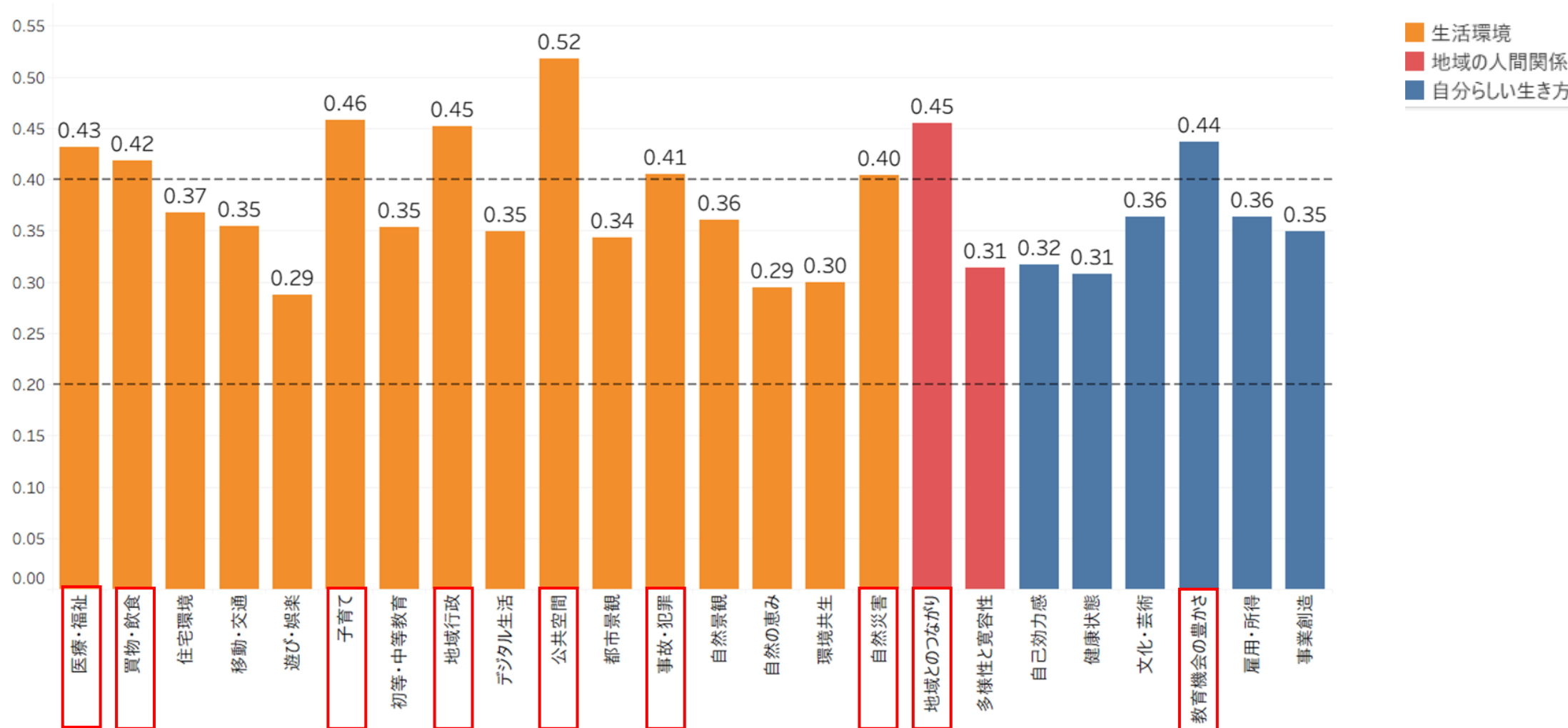
8.6.3 小学校区×住みやすさのクロス集計

- 小郡小学校区、三国小学校区、のぞみが丘小学校区では、肯定的評価が9割を超えており、住みやすさについて比較的高い評価が得られている。

	住みやすい	まあまあ住みやすい	あまり住みやすくない	住みにくい	総計
小郡	66 (33.67%)	113 (57.65%)	16 (8.16%)	1 (0.51%)	196 (100.00%)
大原	33 (32.67%)	54 (53.47%)	9 (8.91%)	4 (3.96%)	101 (100.00%)
三国	40 (23.53%)	116 (68.24%)	10 (5.88%)	4 (2.35%)	170 (100.00%)
立石	11 (26.19%)	23 (54.76%)	4 (9.52%)	4 (9.52%)	42 (100.00%)
御原	16 (26.67%)	35 (58.33%)	8 (13.33%)	1 (1.67%)	60 (100.00%)
味坂	11 (20.00%)	35 (63.64%)	5 (9.09%)	4 (7.27%)	55 (100.00%)
東野	14 (23.33%)	38 (63.33%)	6 (10.00%)	2 (3.33%)	60 (100.00%)
のぞみが丘	33 (29.20%)	74 (65.49%)	4 (3.54%)	2 (1.77%)	113 (100.00%)

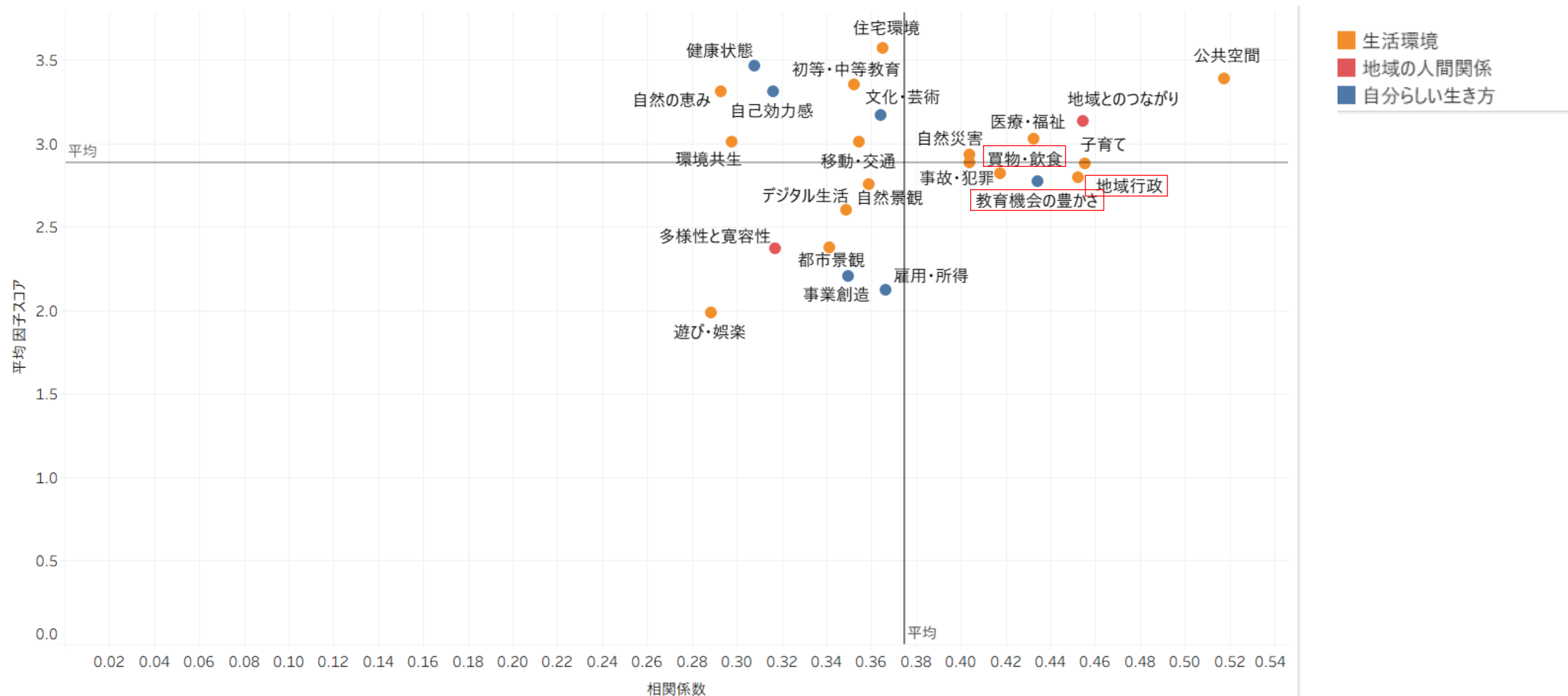
8.6.4 住みやすさと因子の相関係数

- 「公共空間」「子育て」「地域行政」「地域とのつながり」「教育機会の豊かさ」「医療・福祉」「買物・飲食」「事故・犯罪」「自然災害」の9つの因子が住みやすさと関連性があるといえる。



8.6.5 住みやすさとの相関係数と因子平均の分布

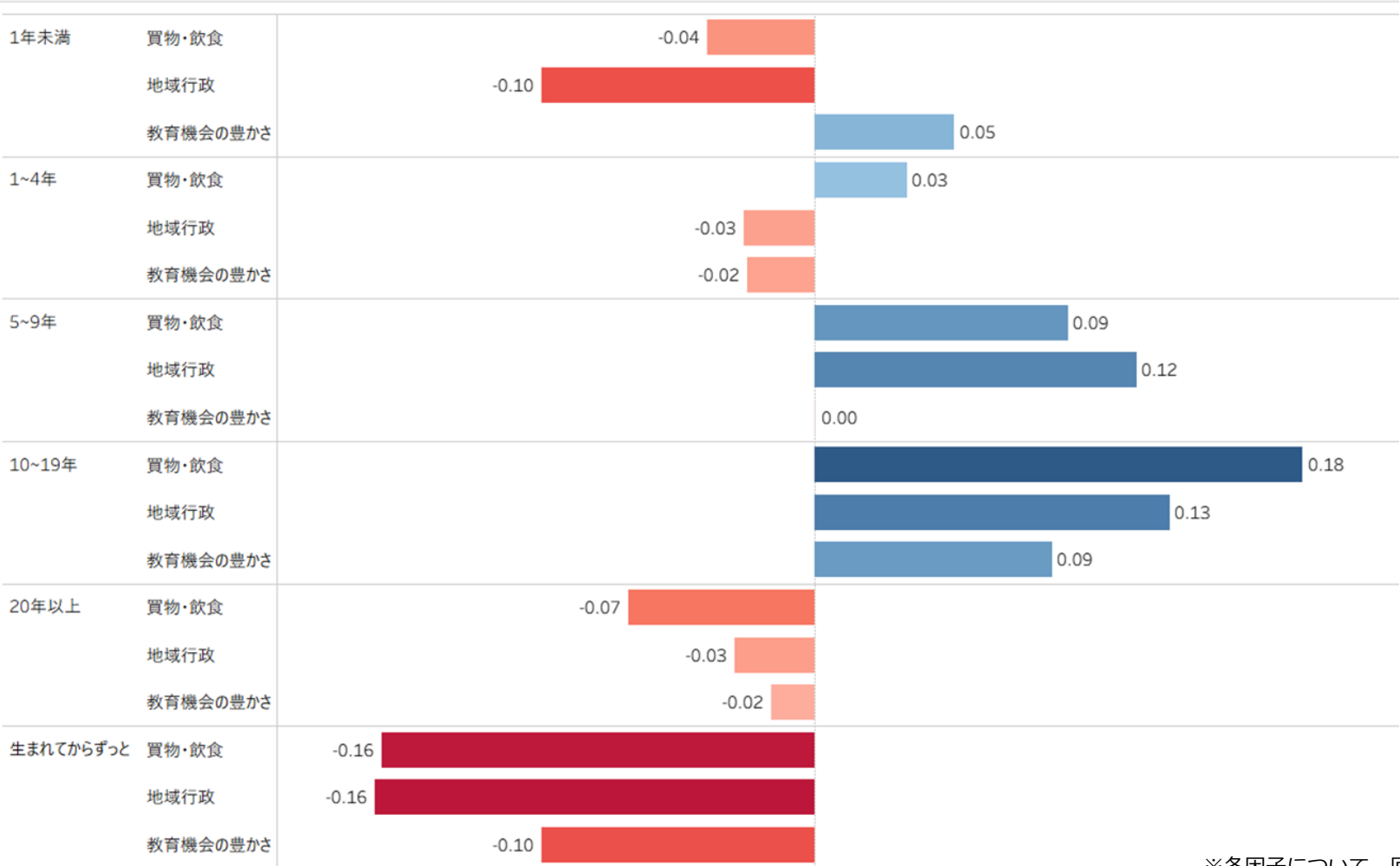
- 住みやすさとの関連性が比較的高い一方、評価水準が平均を下回る因子として「教育機会の豊かさ」「地域行政」「買物・飲食」が見られる。



※横軸は住みやすさとの相関係数、縦軸は因子平均スコアを示す
→右側ほど住みやすさとの関連が強く、上側ほど評価が高い

8.6.6 住みやすさの重要因子に対する属性別評価のギャップ（居住年数別）

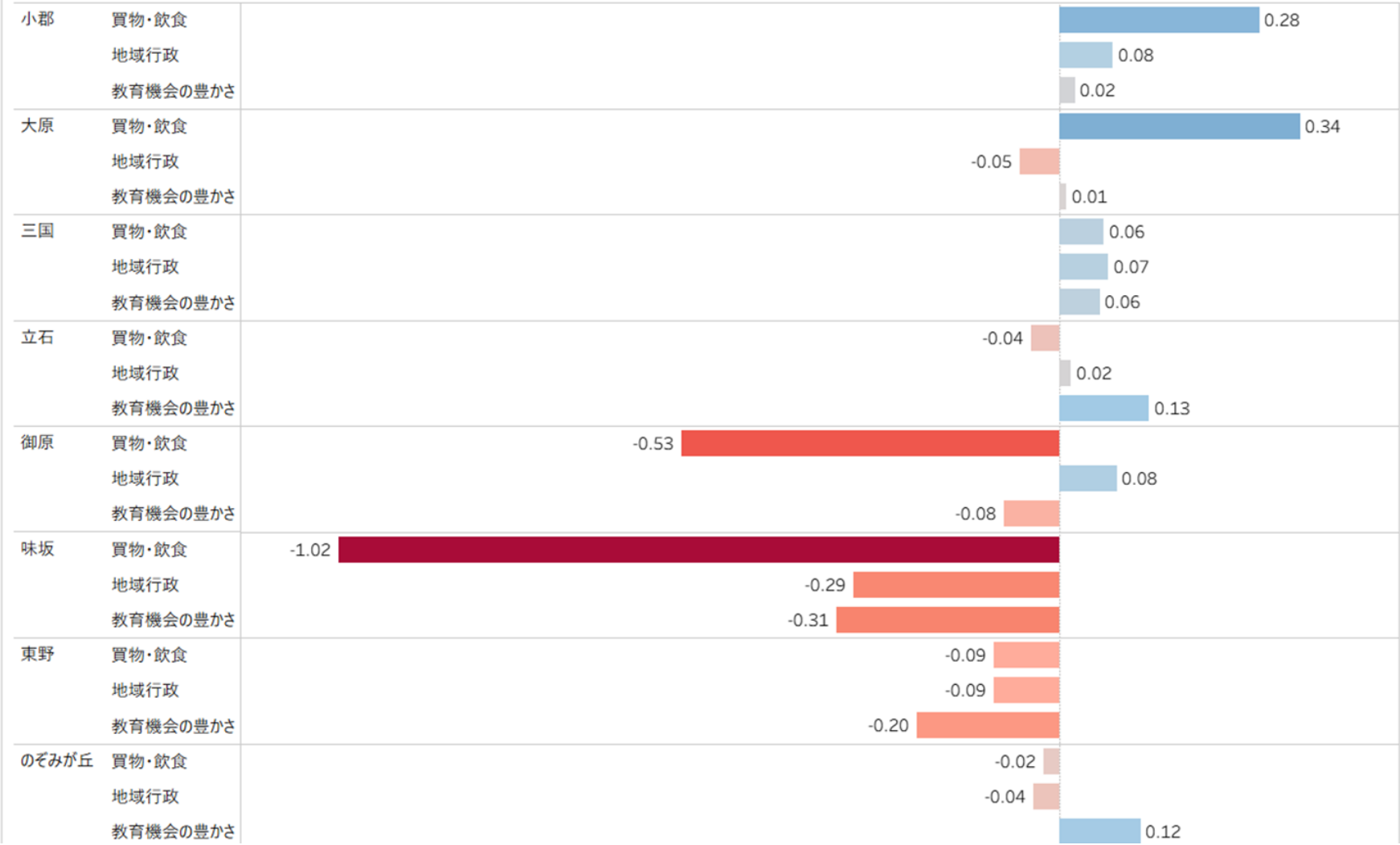
- 重要因子の評価を居住年数別に比較すると、全体的に大きな差は見られないが「10～19年」の評価が高い傾向がみられる。
- 一方、「生まれてからずっと」は評価が低い傾向にある。



※各因子について、回答者の平均スコアを基準とした属性別の差分を表示している
→マイナス値が大きいほど当該因子の評価を押し下げている傾向を示す

8.6.7 住みやすさの重要因子に対する属性別評価のギャップ（小学校区別）

➤ 重要因子の評価を小学校区別に比較すると、「味坂」「御原」の「買物・飲食」の評価が低い傾向がみられる。



※各因子について、回答者の平均スコアを基準とした属性別の差分を表示している
→マイナス値が大きいほど当該因子の評価を押し下げている傾向を示す

8.7.1 定住意向×Well-Being指標

8.7 定住意向×Well-Being指標

因子（分野）と設問の定義

以下スライドで使用する因子（分野）	対応設問
定住意向	設問No.F4
生活環境（16因子）	設問No.C1~C27
地域の人間関係（2因子）	設問No.D1~D10
自分らしい生き方（6因子）	設問No.E1~E9
居住年数	設問No.A9
小学校区	設問No.A5

8.7.2 居住年数×定住意向のクロス集計

➤ 居住年数が長い人ほど定住意向が高まる傾向がみられる。

	ずっと住みたい	当分は住みたい	将来的に市外へ転居したい	すぐに市外へ転居したい	分からない	総計
1年未満	10 (28.57%)	18 (51.43%)	3 (8.57%)	1 (2.86%)	3 (8.57%)	35 (100.00%)
1~4年	20 (23.53%)	47 (55.29%)	6 (7.06%)	2 (2.35%)	9 (10.59%)	85 (100.00%)
5~9年	32 (39.51%)	34 (41.98%)	10 (12.35%)		5 (6.17%)	81 (100.00%)
10~19年	54 (38.03%)	61 (42.96%)	12 (8.45%)		14 (9.86%)	142 (100.00%)
20年以上	155 (42.47%)	152 (41.64%)	23 (6.30%)	4 (1.10%)	30 (8.22%)	365 (100.00%)
生まれてからずっと	48 (53.33%)	21 (23.33%)	8 (8.89%)	2 (2.22%)	11 (12.22%)	90 (100.00%)

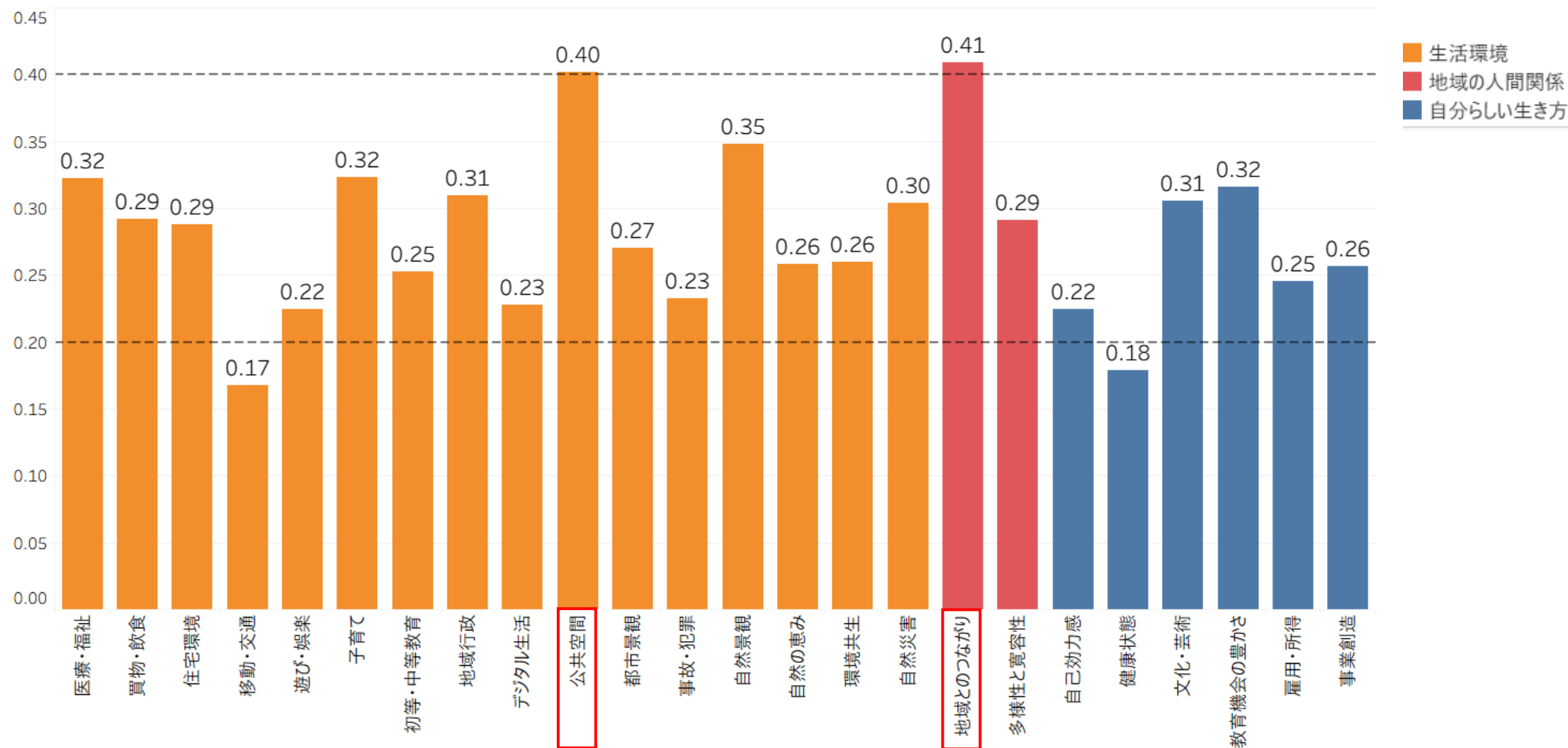
8.7.3 小学校区×定住意向のクロス集計

➤ どの小学校区においても、「住み続けたい」層が多数を占める一方、転居を希望する層も一定数存在する。

	ずっと住み続けたい	当分は住み続けたい	将来的に市外へ転居したい	すぐに市外へ転居したい	分からない	総計
小郡	74 (37.76%)	82 (41.84%)	20 (10.20%)	1 (0.51%)	18 (9.18%)	196 (100.00%)
大原	43 (42.57%)	44 (43.56%)	4 (3.96%)		10 (9.90%)	101 (100.00%)
三国	74 (43.53%)	67 (39.41%)	12 (7.06%)	1 (0.59%)	16 (9.41%)	170 (100.00%)
立石	21 (50.00%)	14 (33.33%)	4 (9.52%)	1 (2.38%)	2 (4.76%)	42 (100.00%)
御原	27 (45.00%)	24 (40.00%)	6 (10.00%)		3 (5.00%)	60 (100.00%)
味坂	25 (45.45%)	17 (30.91%)	1 (1.82%)	4 (7.27%)	8 (14.55%)	55 (100.00%)
東野	21 (35.00%)	24 (40.00%)	6 (10.00%)	1 (1.67%)	7 (11.67%)	60 (100.00%)
のぞみが丘	34 (30.09%)	61 (53.98%)	8 (7.08%)	1 (0.88%)	9 (7.96%)	113 (100.00%)

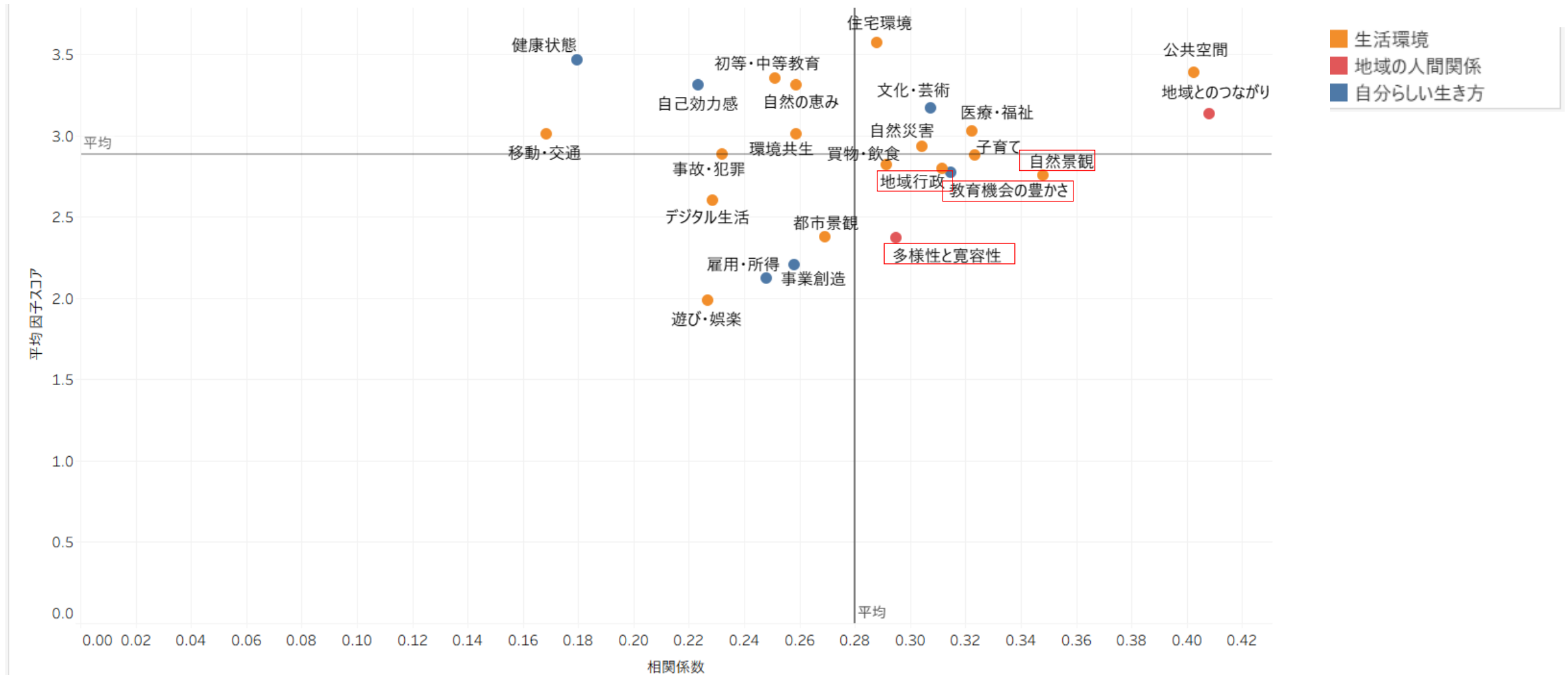
8.7.4 定住意向と因子の相関係数

➤ 「地域とのつながり」「公共空間」の2つの因子が定住意向と関連性があるといえる。



8.7.5 定住意向との相関係数と因子平均の分布

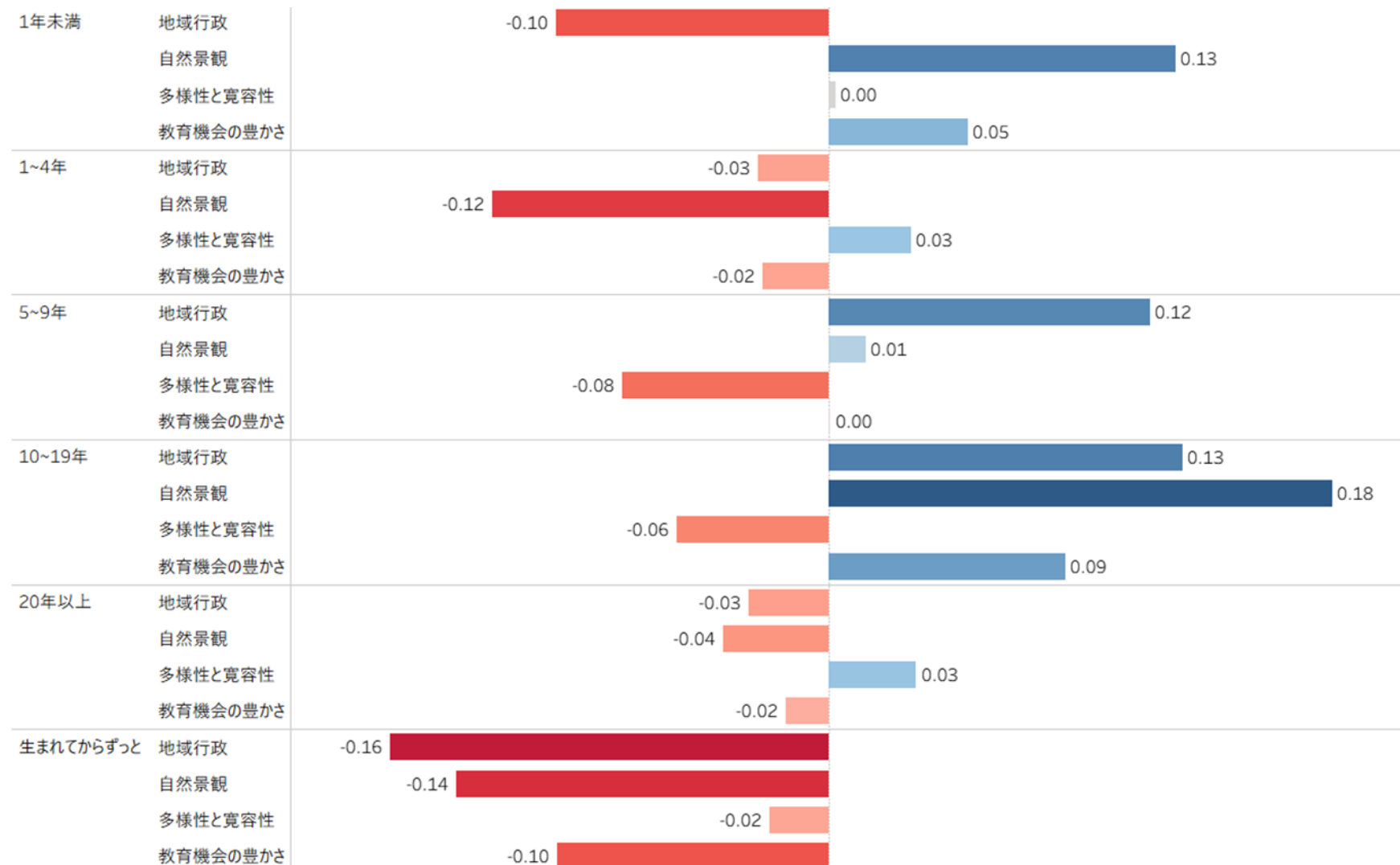
- 定住意向との関連性が比較的高い一方、評価水準が平均を下回る因子として「自然景観」「教育機会の豊かさ」「地域行政」「多様性と寛容性」が見られる。



※横軸は定住意向との相関係数、縦軸は因子平均スコアを示す
→右側ほど定住意向との関連が強く、上側ほど評価が高い

8.7.6 定住意向の重要因子に対する属性別評価のギャップ（居住年数別）

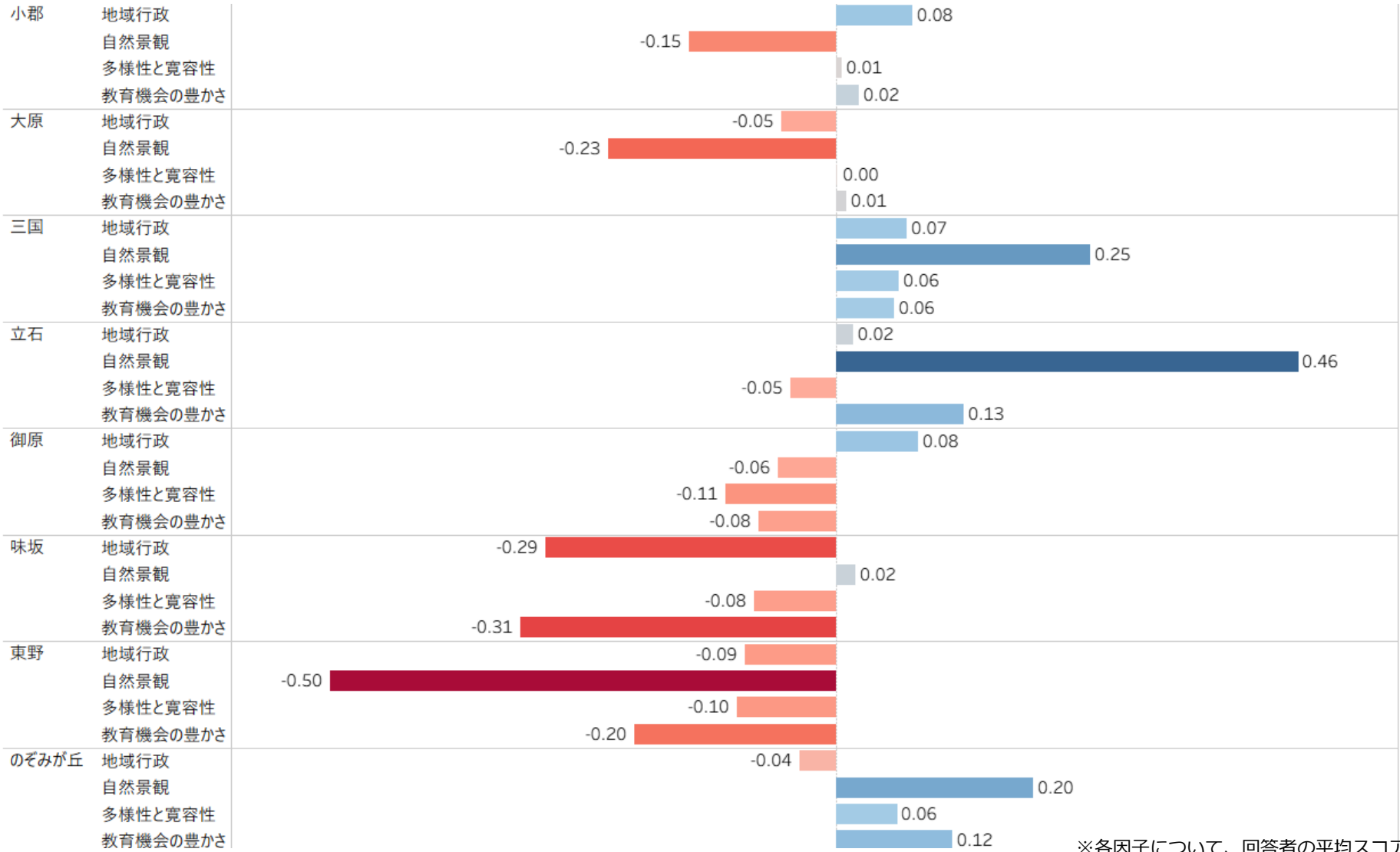
➤ 重要因子の評価を居住年数別に比較すると、「1年未満」「10～19年」の「自然景観」の評価が高い傾向がみられる。



※各因子について、回答者の平均スコアを基準とした属性別の差分を表示している
→マイナス値が大きいほど当該因子の評価を押し下げている傾向を示す

8.7.7 定住意向の重要因子に対する属性別評価のギャップ（小学校区別）

➤ 重要因子の評価を小学校区別に比較すると、「自然景観」の評価は「立石」が高く、「東野」が低い傾向がみられる。



※各因子について、回答者の平均スコアを基準とした属性別の差分を表示している
→マイナス値が大きいほど当該因子の評価を押し下げている傾向を示す

第9章：Well-Being因子分析

本章では、小都市の各分野の状況を全国の他自治体と比較して把握するため、偏差値を用いる。
偏差値とは、全国の自治体の平均値を50として、各自治体はその平均からどれだけ離れているかを数値化したものである。
また、偏差値の水準に応じて以降の章では、以下の通り表現する。

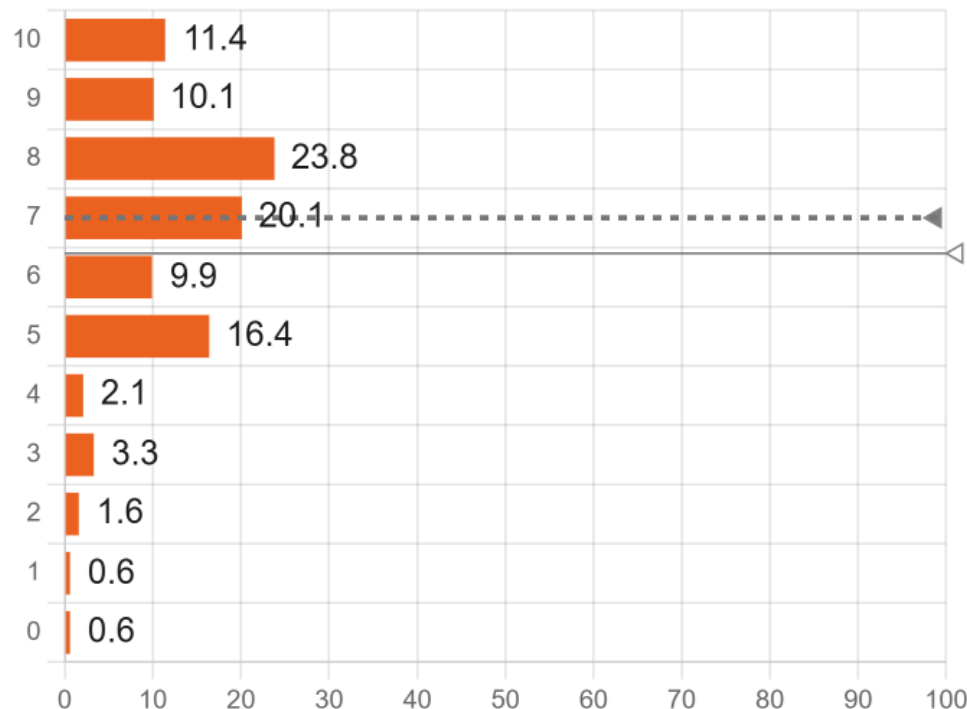
偏差値の水準	表現
60以上	高水準にある
50前後	中位にある
40未満	低水準にある
極端値（30以下/70以上）	最低水準にある／最高水準にある

9.1 Well-Beingの現在地 : 幸福度・生活満足度

- 幸福度は平均7.0と全国（6.4）を上回り、8点が23.2%と高い方に集中する分布である。
- 一方、生活満足度は平均6.4と全国（6.6）をやや下回り、5～8点に集中する分布の傾向が見られる。
- 「自分自身は幸せだが、地域の暮らしにはやや満足しきれていない」という意識が表れている。

幸福度

小都市の平均値 : **7.0** (点線)
全国の平均値 : **6.4** (実線)

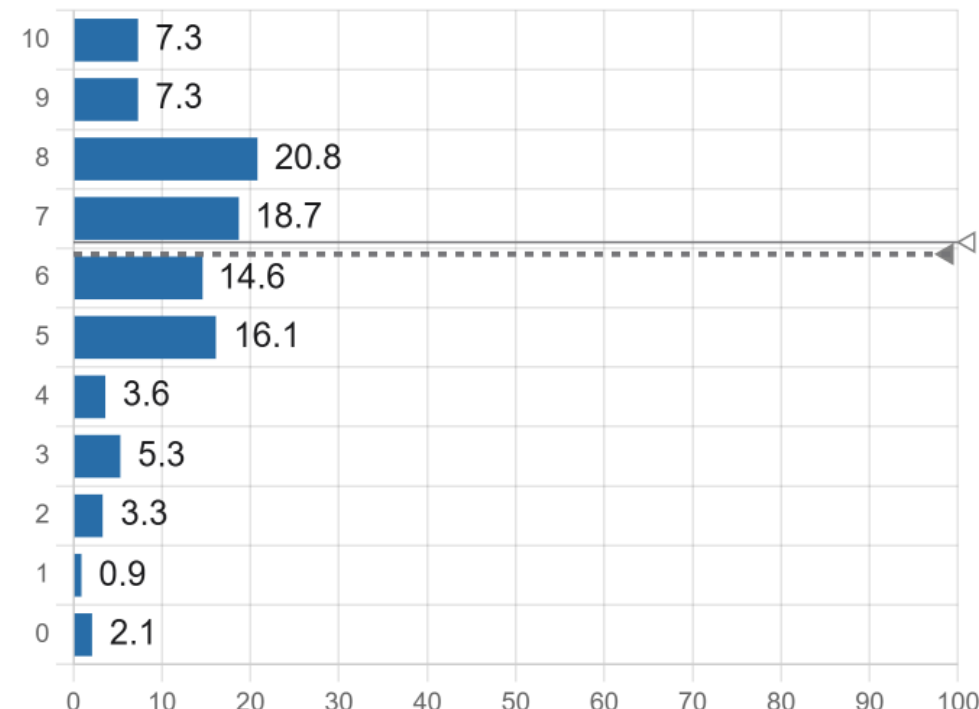


回答割合 %

※本グラフはデジタル庁Well-Beingダッシュボードから引用。目盛りは1点区切りで中央値表示
(例：目盛「7」の位置＝7.0点。目盛「7」と「6」の区切り線の値は6.5点。)

生活満足度

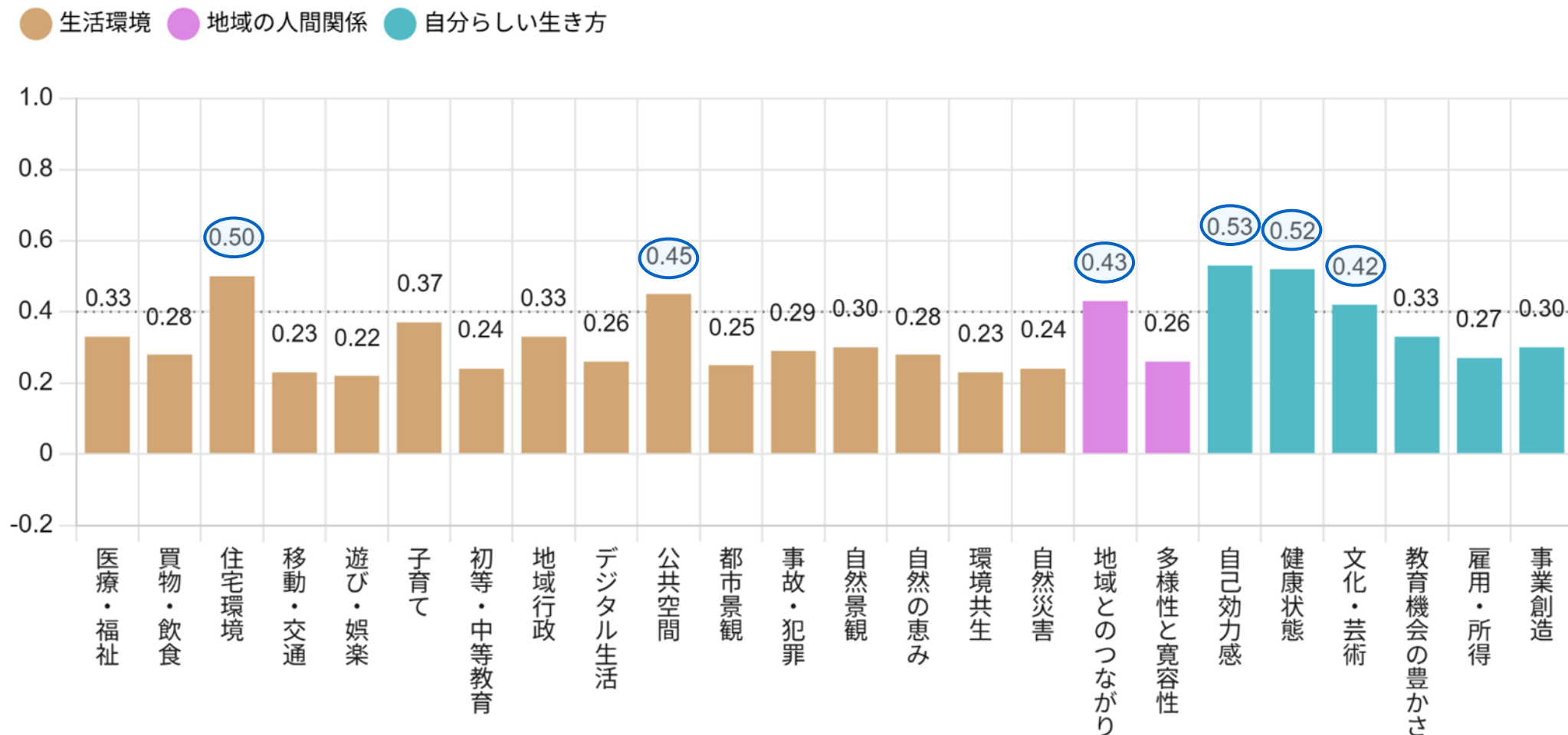
小都市の平均値 : **6.4** (点線)
全国の平均値 : **6.6** (実線)



回答割合 %

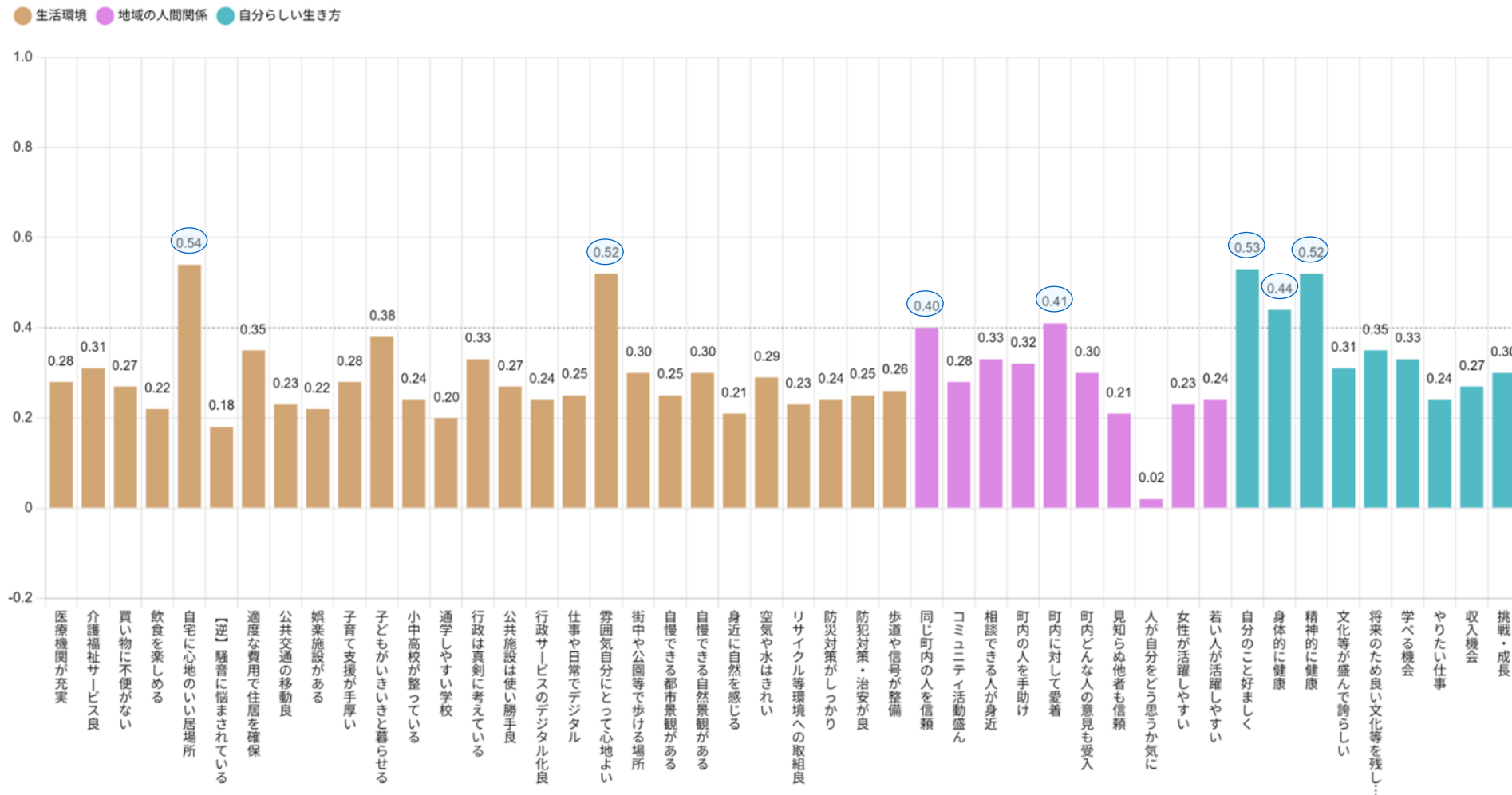
9.2 幸福度と各因子の相関

- 幸福度は「自己効力感（0.53）」との相関が最も高く、次いで「健康状態（0.52）」「住宅環境（0.50）」との相関が高い。
- 「自分らしさや健康」と「暮らしの安定（住環境・公共空間）」が組み合わさり幸福を感じる構造が読み取れる。



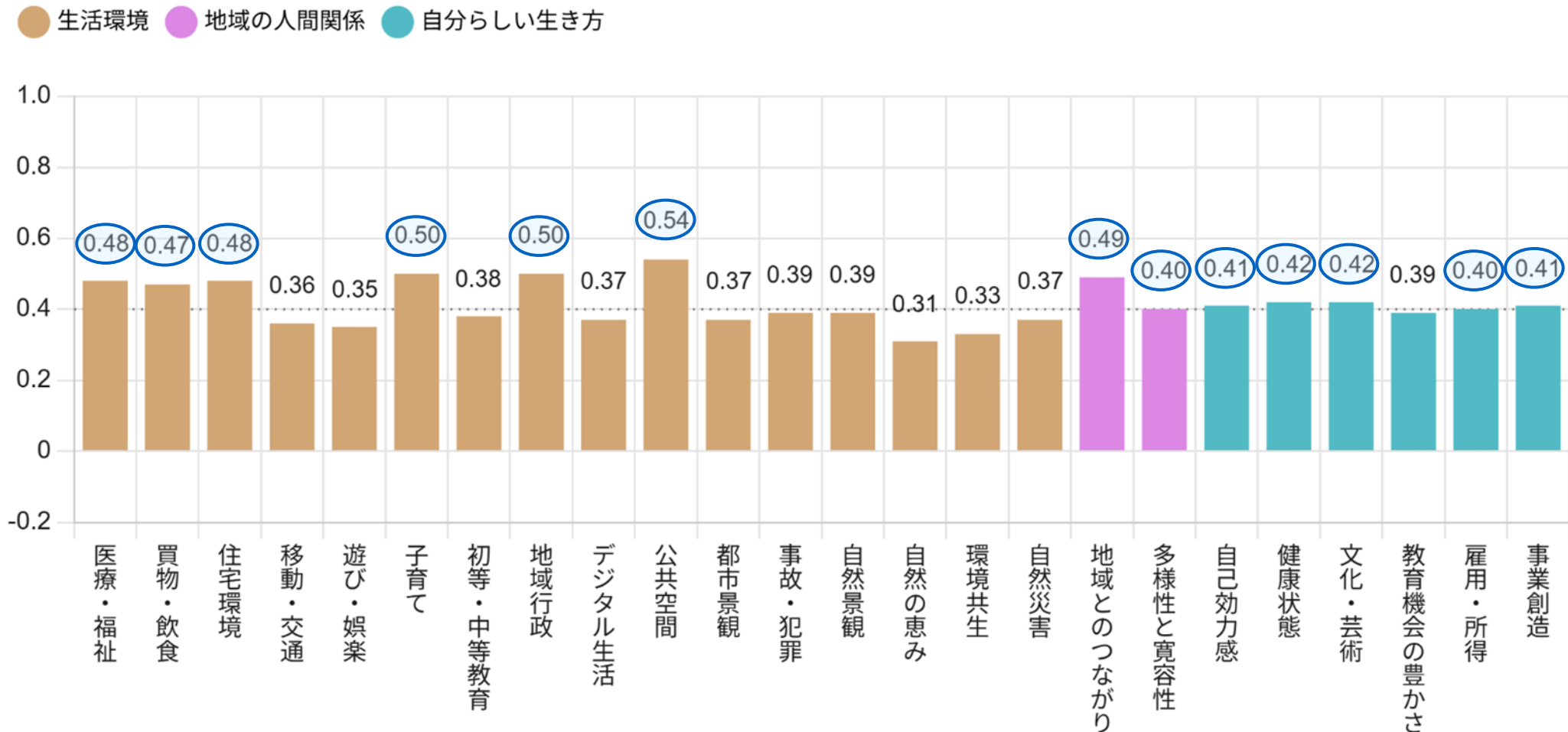
9.3 幸福度と設問の相関

- 幸福度との相関は「自宅に心地いい場所がある（0.54）」 「自分のことを好ましく感じる（0.53）」 「精神的に健康（0.52）」 「地域の雰囲気や心地よい（0.52）」の4項目が突出して高い。小郡市民の幸福度は「心の安定」や「暮らしている環境（住宅、地域）の心地よさ」に強く依存している。



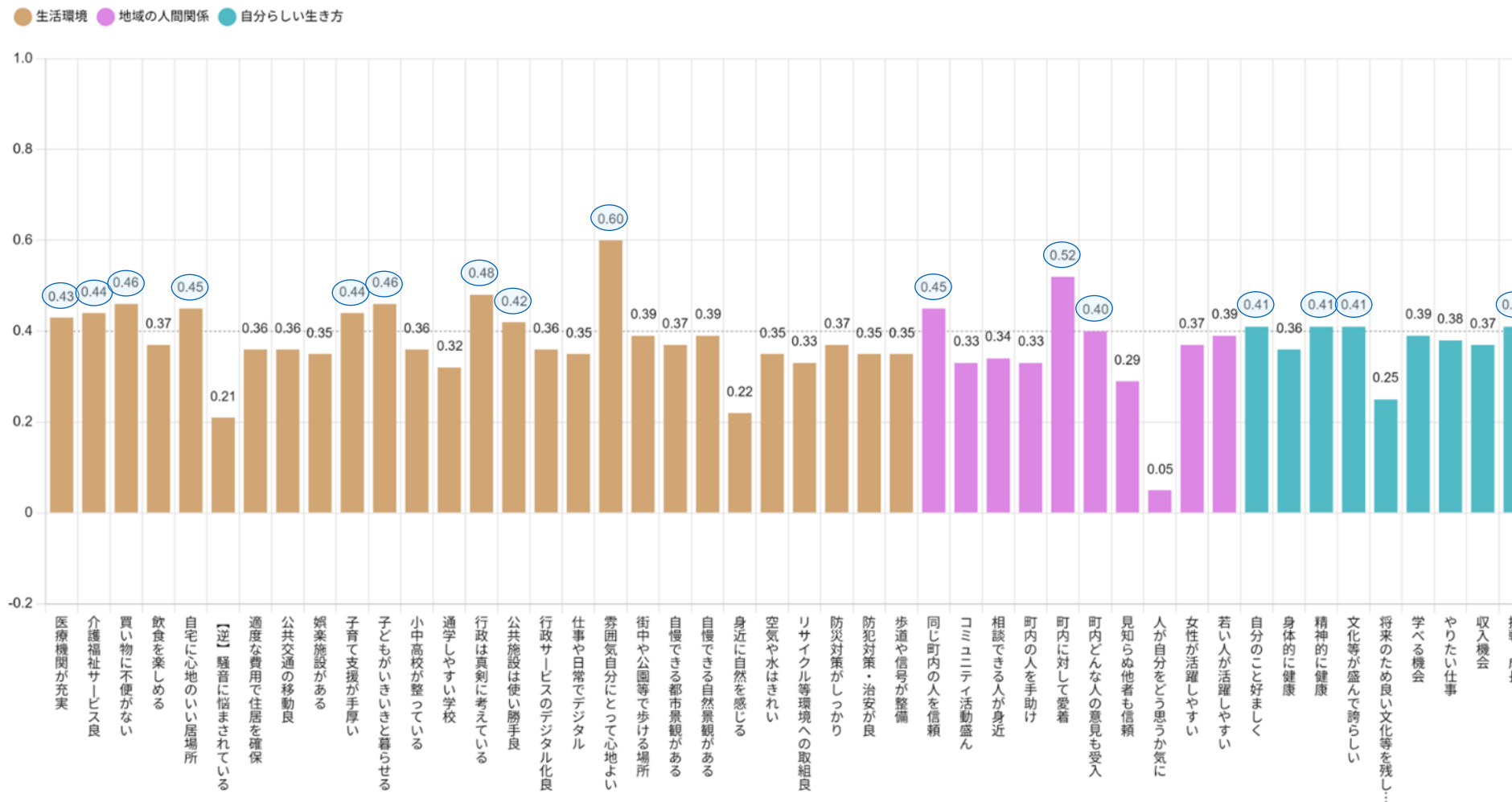
9.4 生活満足度と各因子の相関

- 生活満足度は「公共空間（0.54）」との相関が最も高く、次いで「子育て（0.50）」「地域行政（0.50）」「地域とのつながり（0.49）」との相関が高く、幸福度とはやや異なる構造が見られる。



9.5 生活満足度と設問の相関

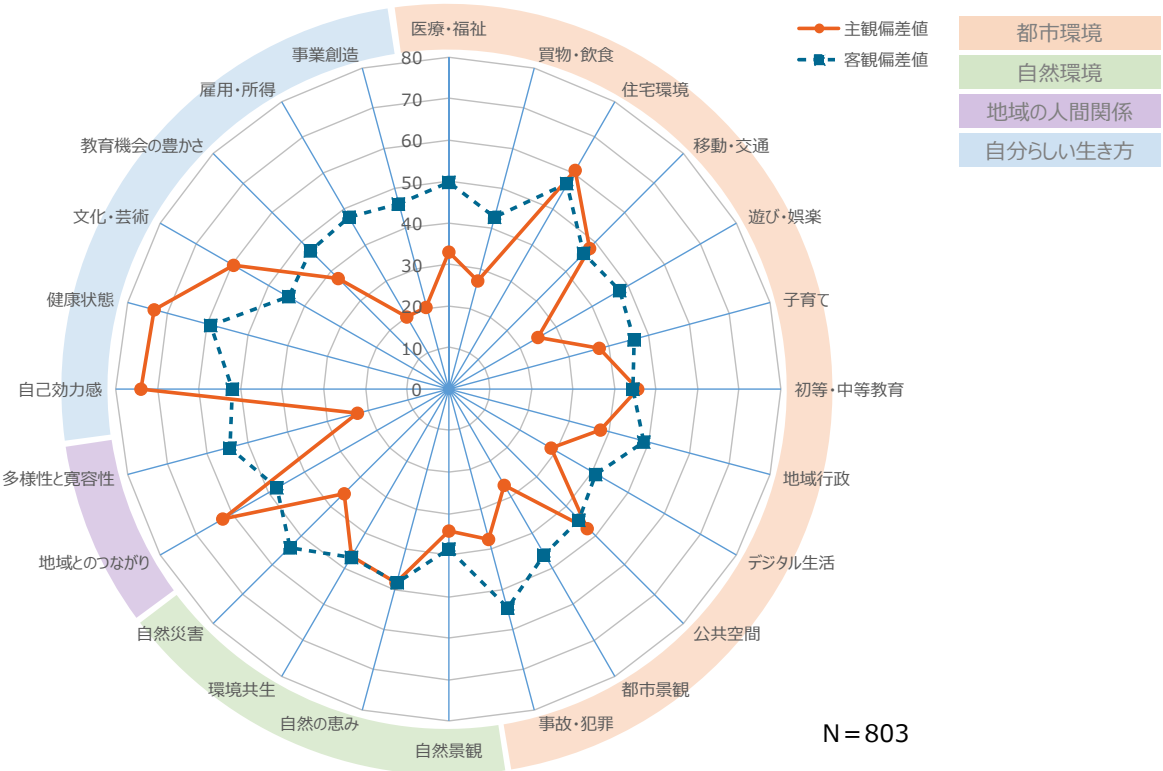
- 生活満足度は「地域の雰囲気心地よい（0.60）」や「地域に対する愛着（0.52）」との相関が特に高く、居住空間と地域への帰属意識との強い関連がみられる。加えて、行政評価や地域の人への信頼、住宅環境などとの相関も高く、生活満足度は「居場所（自宅・地域）+ 地域愛着+ 行政評価」が組み合わさった複雑な構造として捉えられる。



9.6 全体的な特徴の把握

- 都市環境群では客観が主観を上回る因子が大半であるが、自然環境群・地域の人間関係群・自分らしい生き方群はいずれも「主観>客観」「主観<客観」の因子が同数であり、因子ごとに評価が分かれている。
- 「自己効力感」や「健康状態」、「地域とのつながり」や「住宅環境」は、主観偏差値が高く客観偏差値を上回っており、個人の内面的な充足と、住まい・地域コミュニティに対する高い評価が見られる。

Well-Being因子群	Well-Being因子	主観偏差値		客観偏差値	主観－客観
都市環境	医療・福祉	33.1	<	49.8	▲ 16.7
都市環境	買物・飲食	27.0	<	42.7	▲ 15.7
都市環境	住宅環境	60.8	>	57.1	3.7
都市環境	移動・交通	48.0	>	46.1	1.9
都市環境	遊び・娯楽	24.8	<	47.5	▲ 22.7
都市環境	子育て	37.7	<	46.2	▲ 8.5
都市環境	初等・中等教育	45.5	>	44.3	1.2
都市環境	地域行政	38.0	<	48.8	▲ 10.8
都市環境	デジタル生活	28.4	<	40.9	▲ 12.5
都市環境	公共空間	47.4	>	44.5	2.9
都市環境	都市景観	26.9	<	46.1	▲ 19.2
都市環境	事故・犯罪	37.4	<	54.7	▲ 17.3
自然環境	自然景観	34.3	<	38.5	▲ 4.2
自然環境	自然の恵み	48.4	>	48.2	0.2
自然環境	環境共生	46.6	<	46.7	▲ 0.1
自然環境	自然災害	35.6	<	54.0	▲ 18.4
地域の人間関係	地域とのつながり	62.7	>	47.8	14.9
地域の人間関係	多様性と寛容性	22.6	<	54.4	▲ 31.8
自分らしい生き方	自己効力感	74.0	>	51.9	22.1
自分らしい生き方	健康状態	73.4	>	59.2	14.2
自分らしい生き方	文化・芸術	59.6	>	44.4	15.2
自分らしい生き方	教育機会の豊かさ	37.7	<	47.0	▲ 9.3
自分らしい生き方	雇用・所得	20.0	<	47.7	▲ 27.7
自分らしい生き方	事業創造	20.4	<	46.0	▲ 25.6

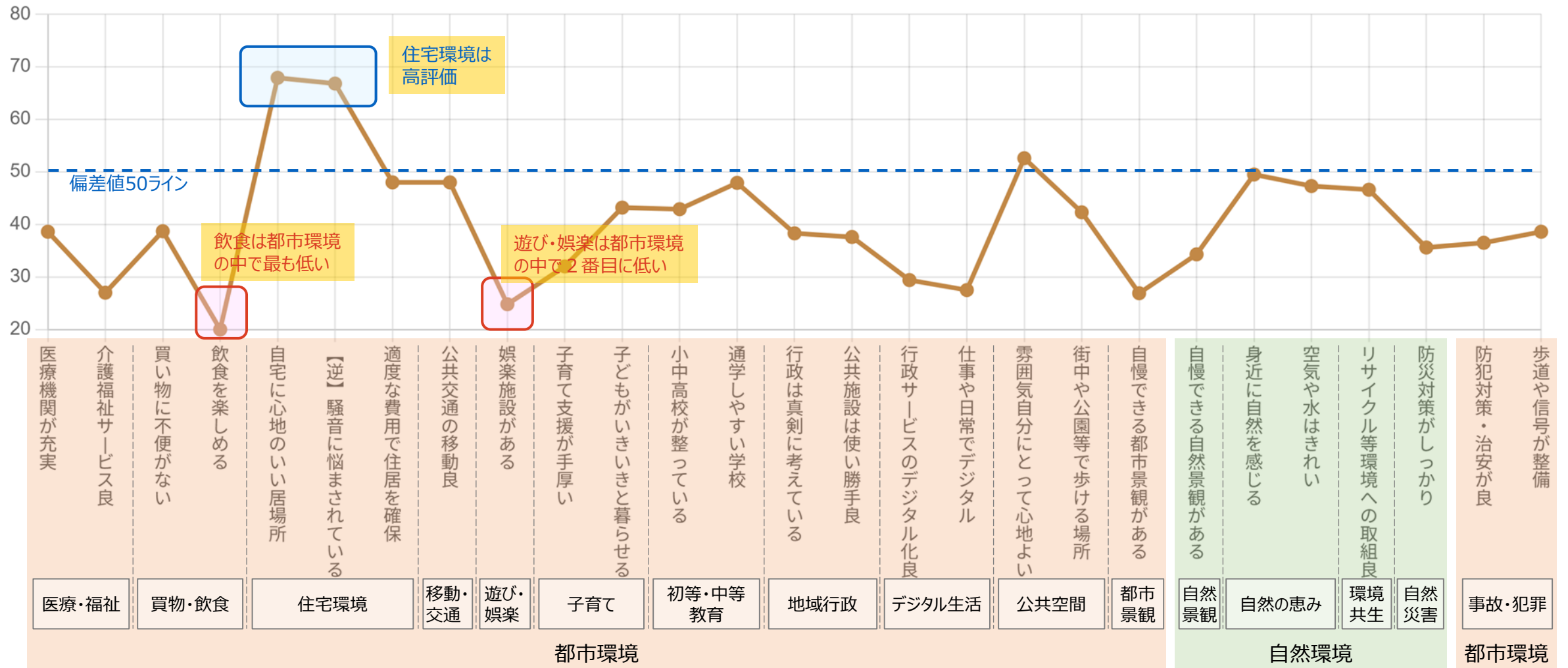


出典 : <https://well-being.digital.go.jp/dashboard/>

平均差分 : ▲6.8

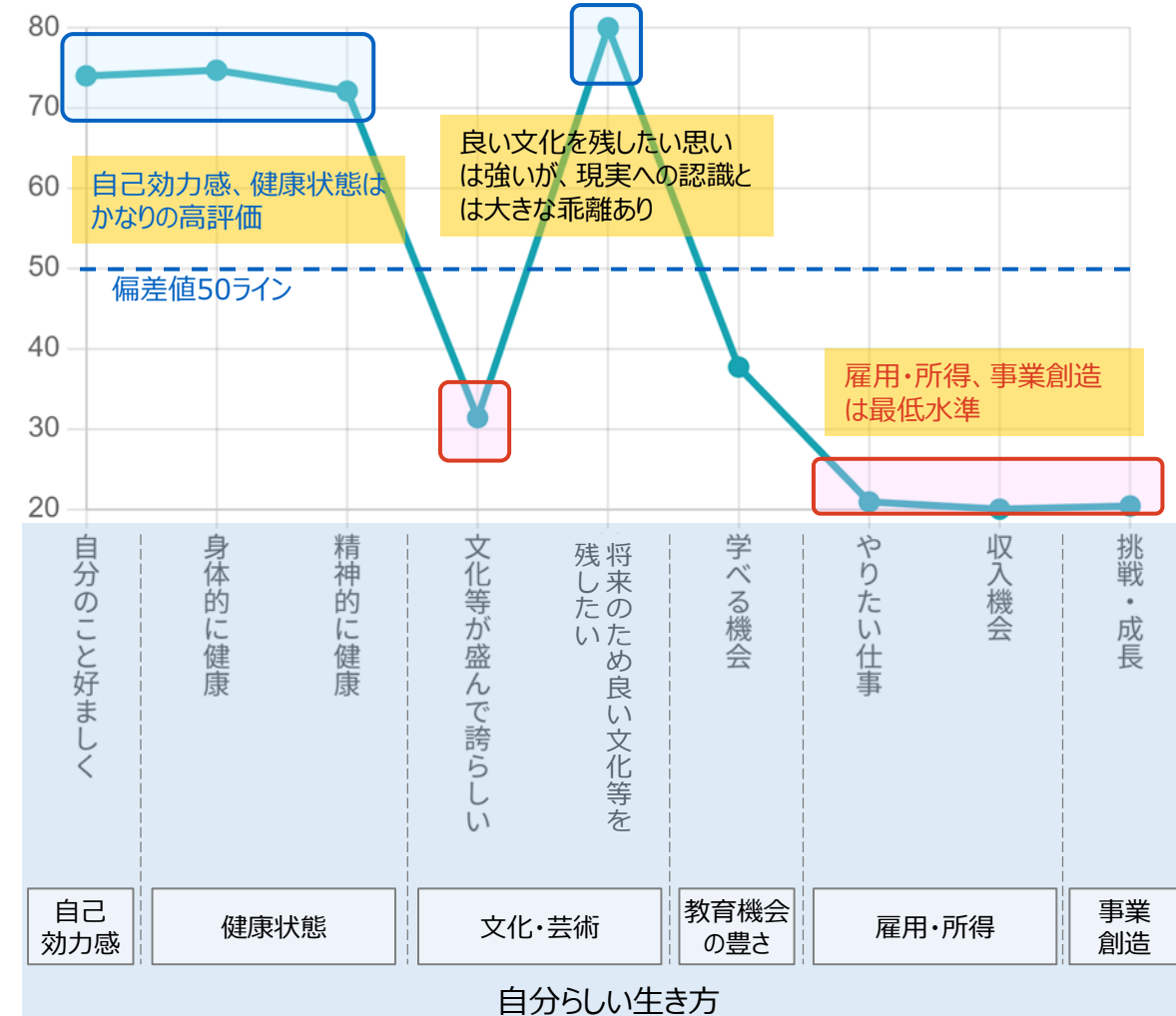
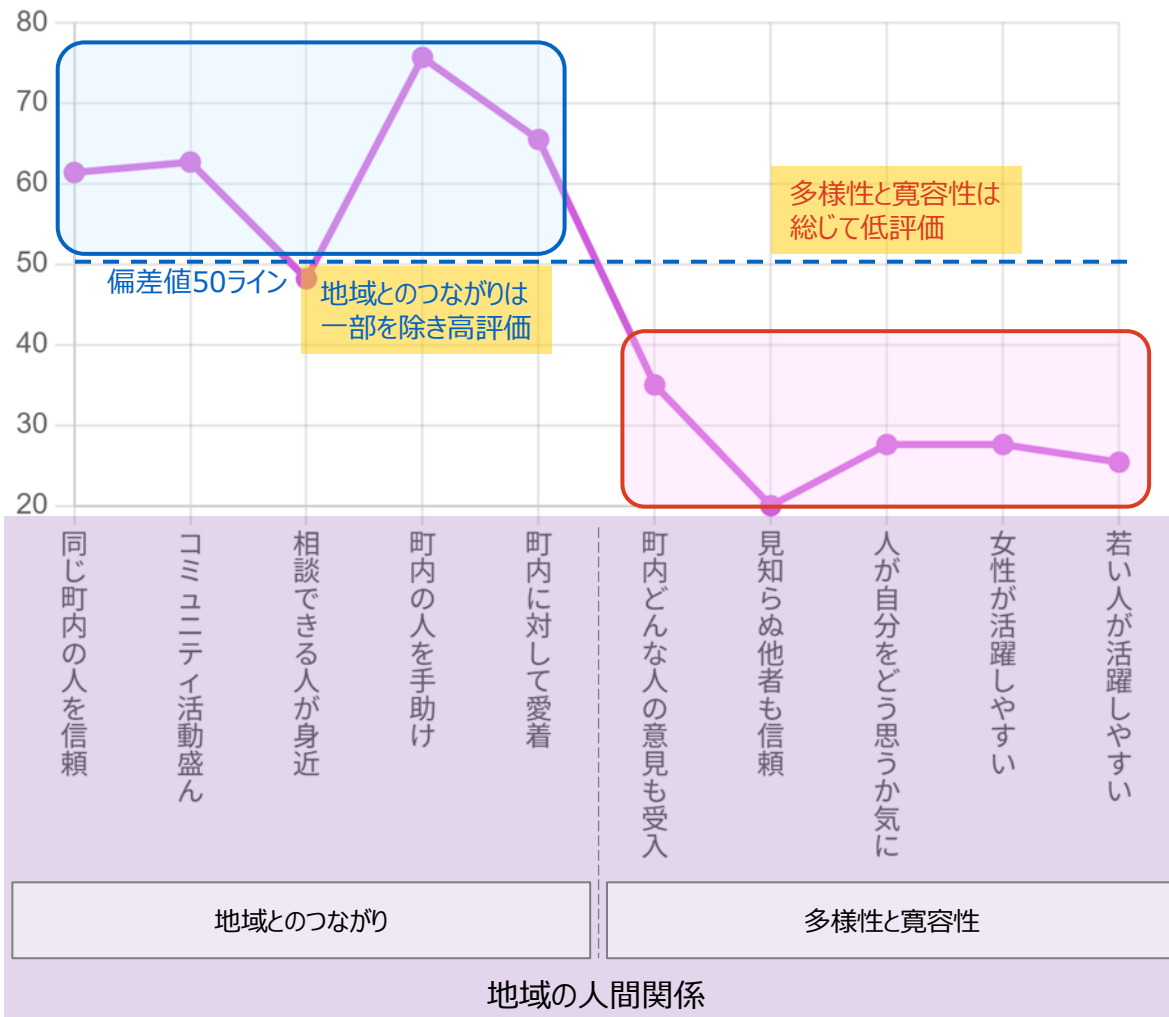
9.7 主観評価：設問別偏差値（都市環境・自然環境）

- 都市環境では住宅環境の「自宅に心地のいい場所がある」「騒音に悩まされていない」が突出して高く、住みやすい住宅環境に対する満足度の高さが見られる。
- 一方で、買物・飲食（特に飲食）や遊び・娯楽が特に低く、生活利便性の課題が鮮明である。



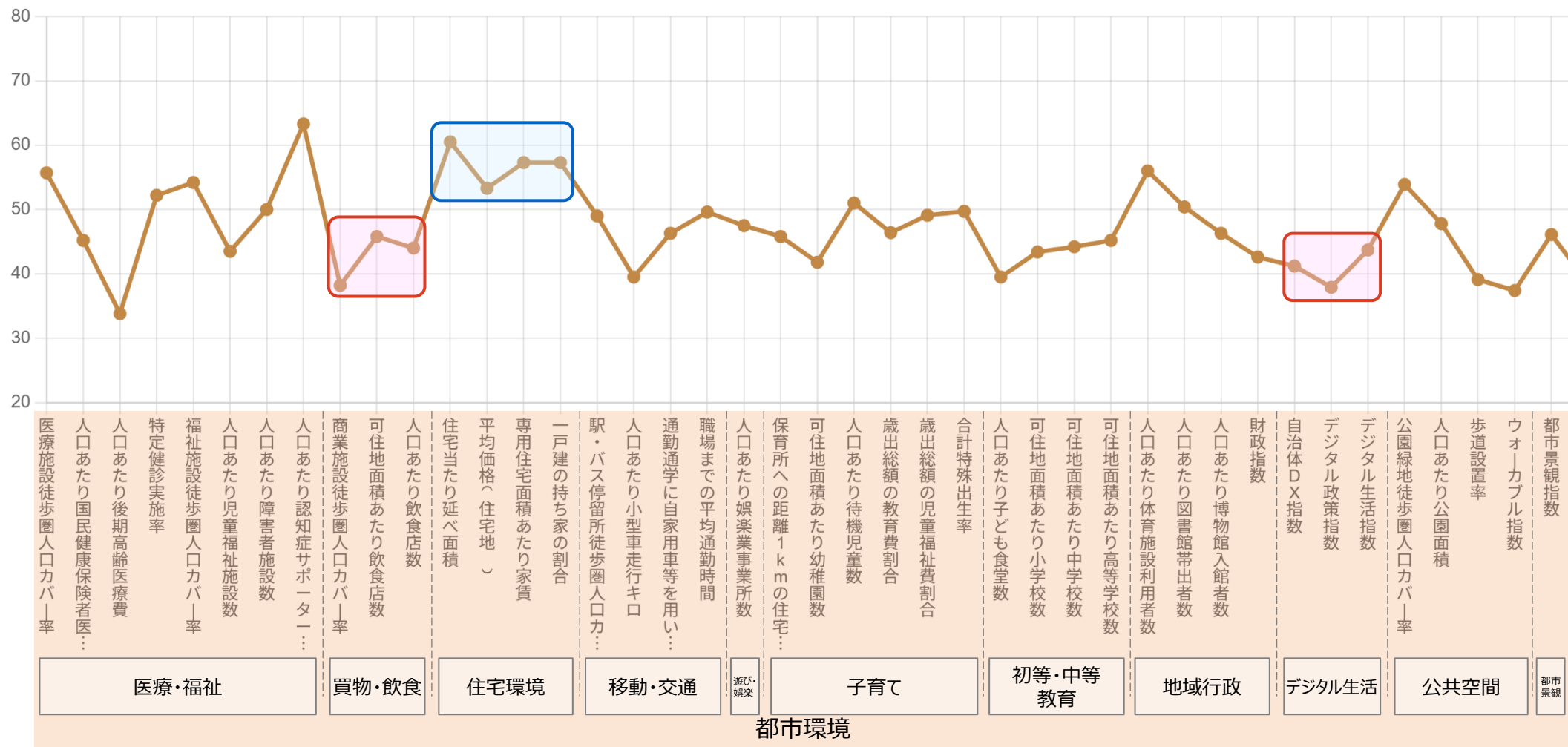
9.8 主観評価：設問別偏差値（地域の人間関係・自分らしい生き方）

- 地域とのつながりは一部を除き高いが、多様性と寛容性は総じて低く、同じ人間関係カテゴリ内で明暗が分かれた。
- 自分らしい生き方では、自己効力感・健康状態が高評価である一方、「文化を残したい思い」と「文化が盛んで誇らしい」の間に大きな乖離があり、雇用・所得、事業創造は最低水準に沈んでいる。



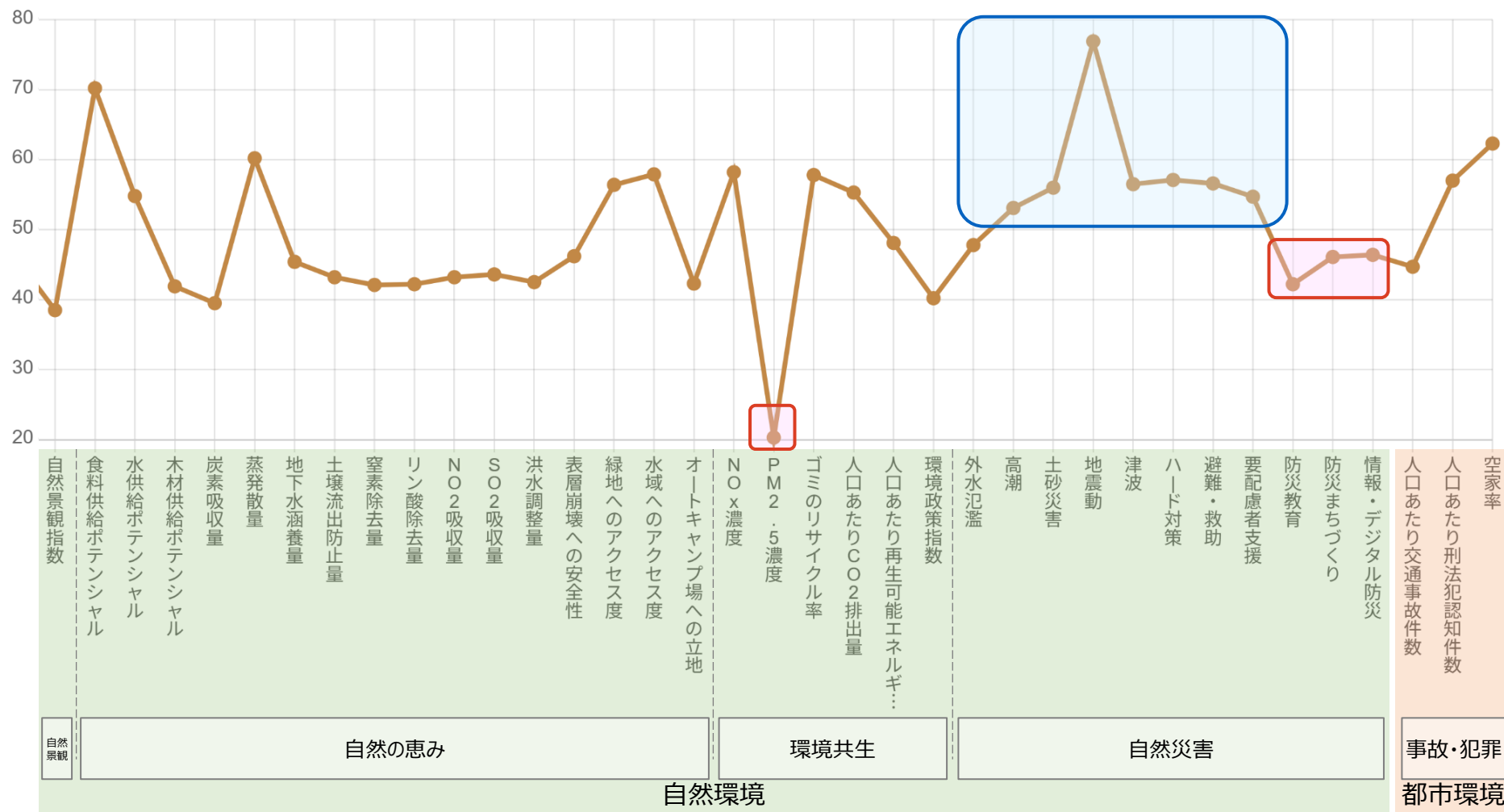
9.9 客観評価：オープンデータ別偏差値（都市環境）

- 都市環境の客観指標は全体的に偏差値40～50台で推移するが、住宅環境はいずれのKPIも50を上回っており、強みである。
- 一方で、買物・飲食やデジタル生活は全体的に低く、インフラ面や行政のDX面で課題が見られる。



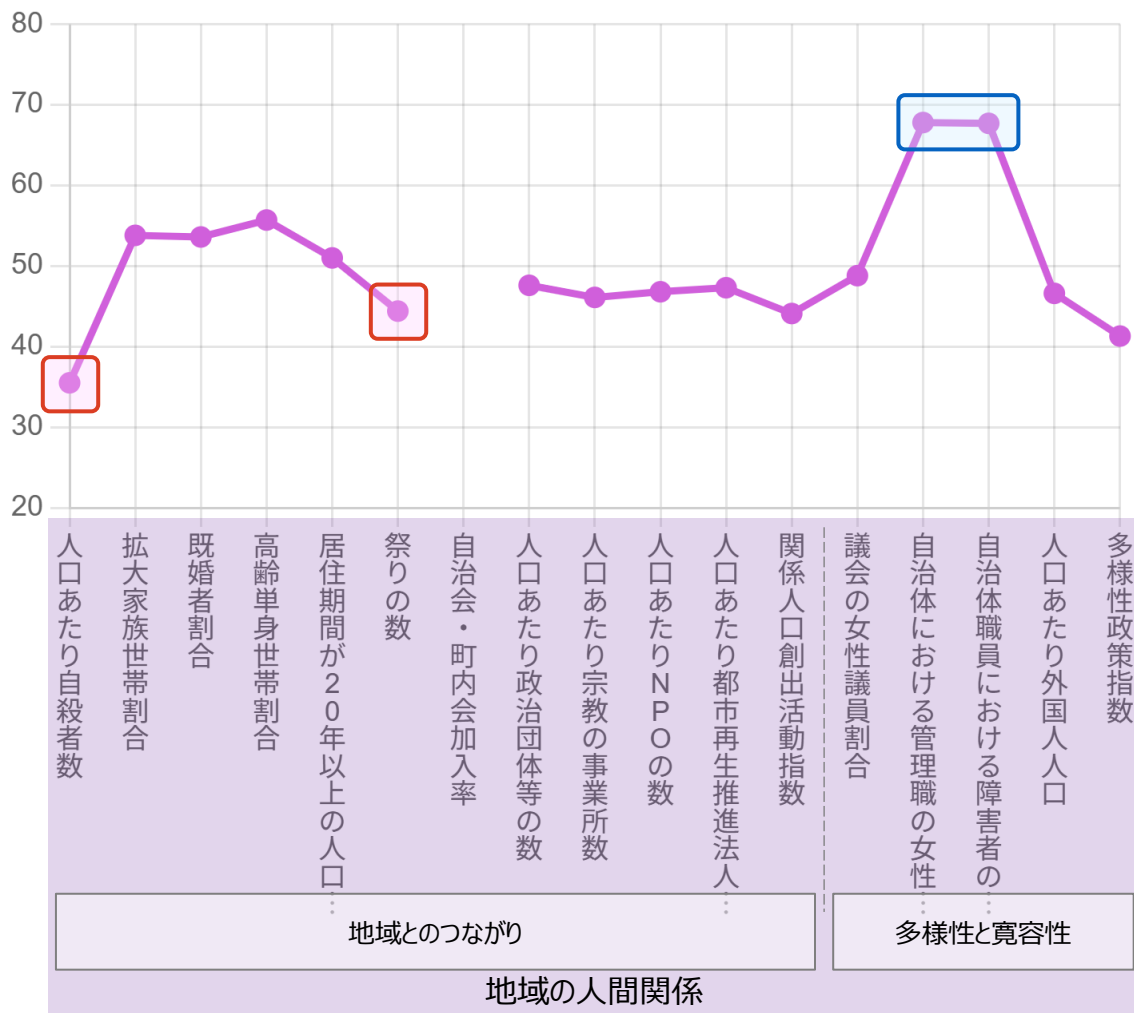
9.10 客観評価：オープンデータ別偏差値（自然環境・都市環境）

- 自然環境は自然災害の因子において、多くのKPIで偏差値50を上回っている一方で、防災教育や情報・デジタル防災など、防災に関する知識や情報の発信において課題が見られる。
- 環境共生はPM2.5濃度が突出して低い。



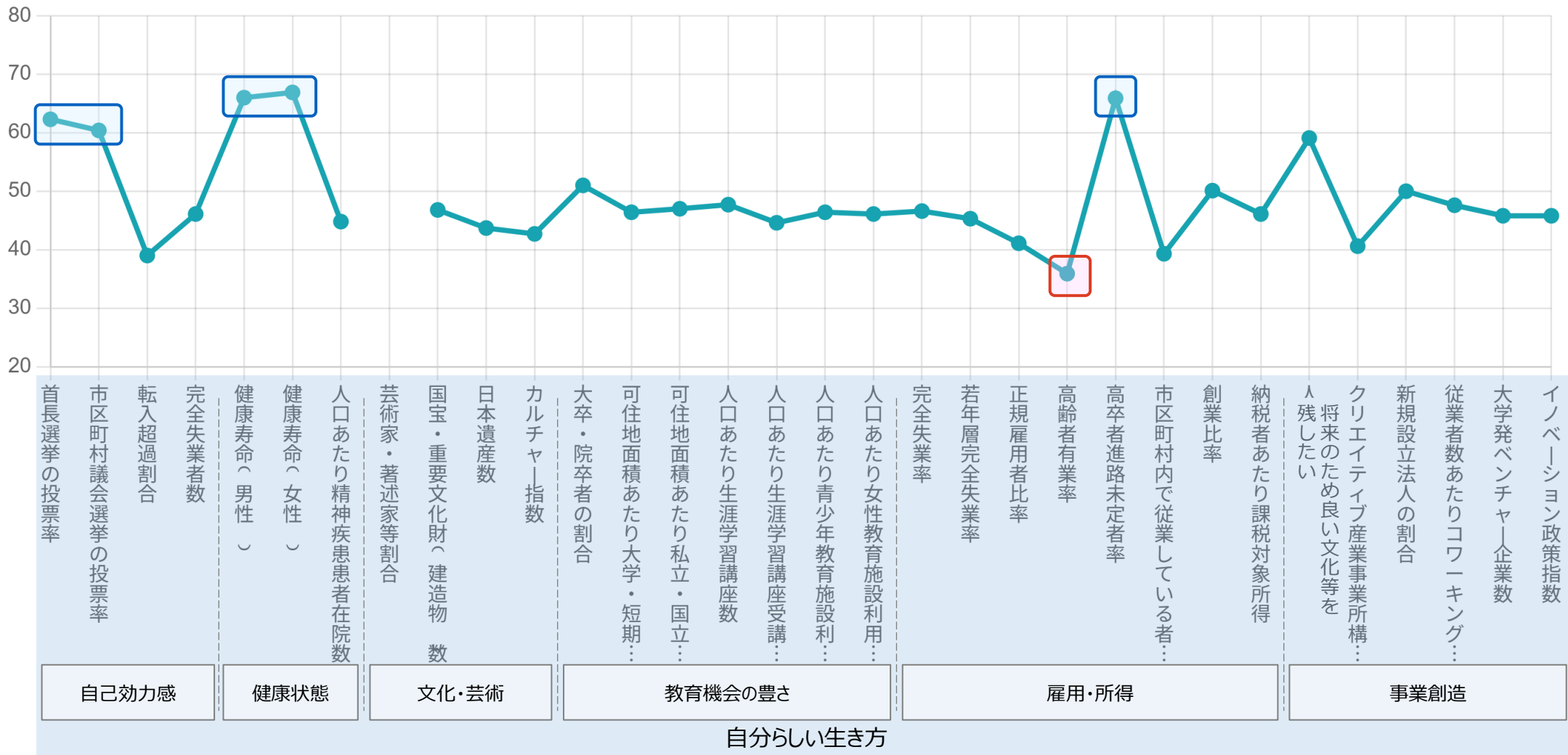
9.11 客観評価：オープンデータ別偏差値（地域の人間関係）

- 地域とのつながりは、多くのKPIで偏差値50付近に集中する一方で、自殺者数や祭りの数の偏差値が低く、地域内での人間関係づくりに伸びしろがあると考えられる。
- 多様性と寛容性は自治体の女性管理職割合や障がい者割合が高く、自治体の取組が進んでいる様子が見られる。



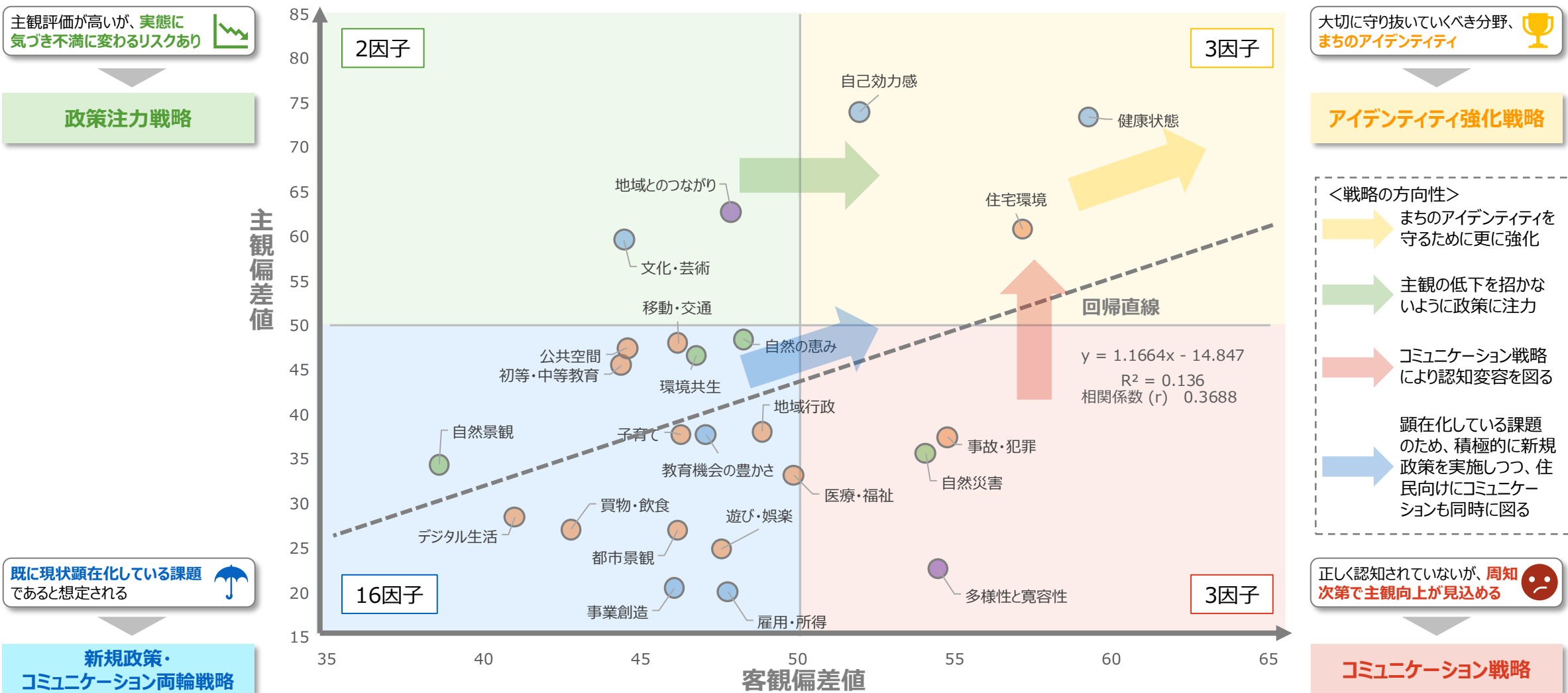
9.12 客観評価：オープンデータ別偏差値（自分らしい生き方）

- 健康寿命は男性・女性ともに高く、自己効力感（投票率）と並び、自分らしい生き方群の中で客観的な強みとなっている。
- 雇用・所得は、高卒者進路未定者率の偏差値が高い一方、高齢者有業率は低く、若者から高齢者まで働ける環境づくりに伸びしろがある。



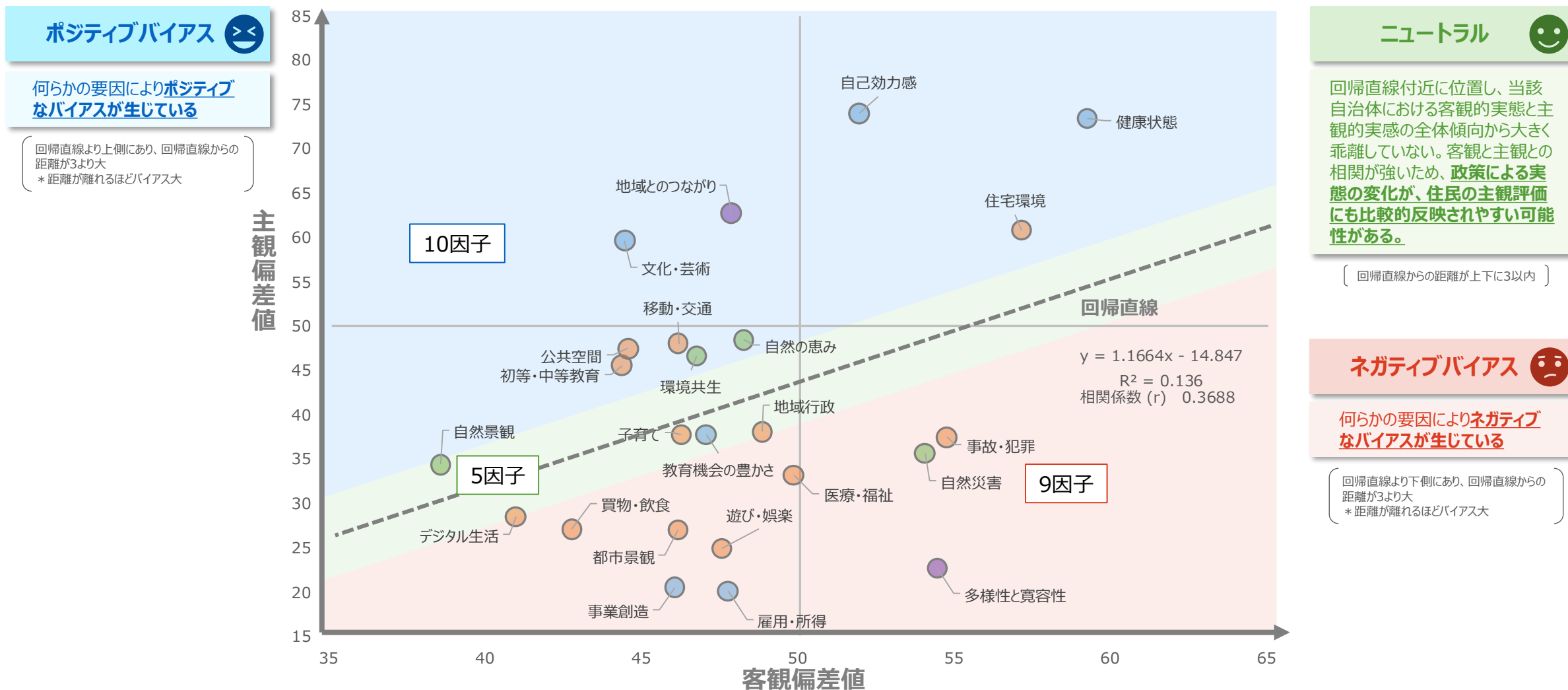
9.13 客観×主観の象限別分析

- 各Well-Being因子を主観偏差値と客観偏差値の偏差値50を区切りとなる基準値として4象限に分類。
- 各分野が位置する象限によって、政策に求められる戦略が異なる。



9.14 主観バイアス分析

- 各Well-Being因子の回帰直線に対する位置により、政策の主観への反映のしやすさを可視化。バイアスの影響が小さい分野を優先的に取り組みながら他の分野との連動を意識すると政策効果を高めることができる。



第10章：因子間相関

本章では、因子間の関係の強さ（因子間相関）を分析し、どの分野とどの分野の関係が強いかを明らかにする。

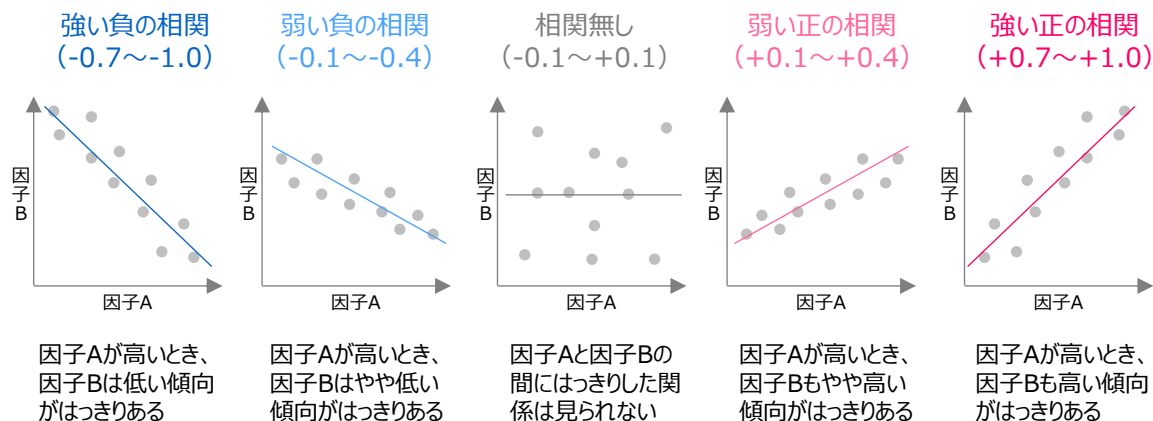
10.0 因子間相関とは

- 本章では、Well-Beingの各因子が互いにどのように関係しているか（因子間相関）を分析し、まちづくりの施策を考えるうえでのヒントを探る。
- 相関の強い因子同士は、片方が変化するともう片方も変化する傾向があることを示す。

相関とは

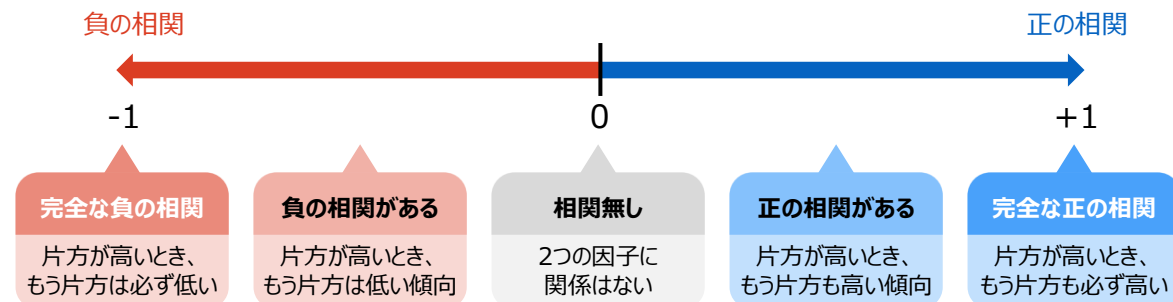
2つの変数について、片方が高いときにもう片方も高い（または低い）、あるいはその逆の関係が、どの程度強いかを数値で表したもの。
今回のアンケートにおいては、例えば「医療・福祉」の回答と「子育て」の回答がどの程度関係しているか、というように因子間の関係性を調べる。

散布図で見る相関のイメージ（例）



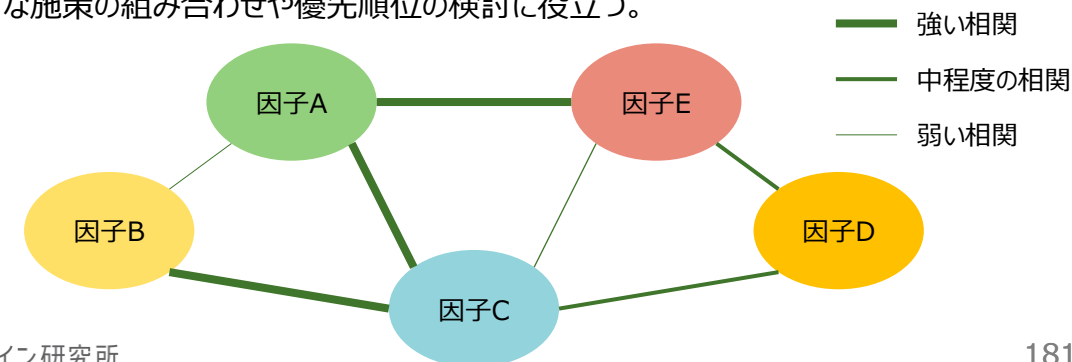
相関係数とは

2つの変数の間の関係の強さと方向を数値で表したもの。



まちづくりへの活用イメージ

相関の強い因子同士は、関連する施策を組み合わせることで、相乗効果が期待できる。どの因子とどの因子がつながっているかを知ること、効果的な施策の組み合わせや優先順位の検討に役立つ。



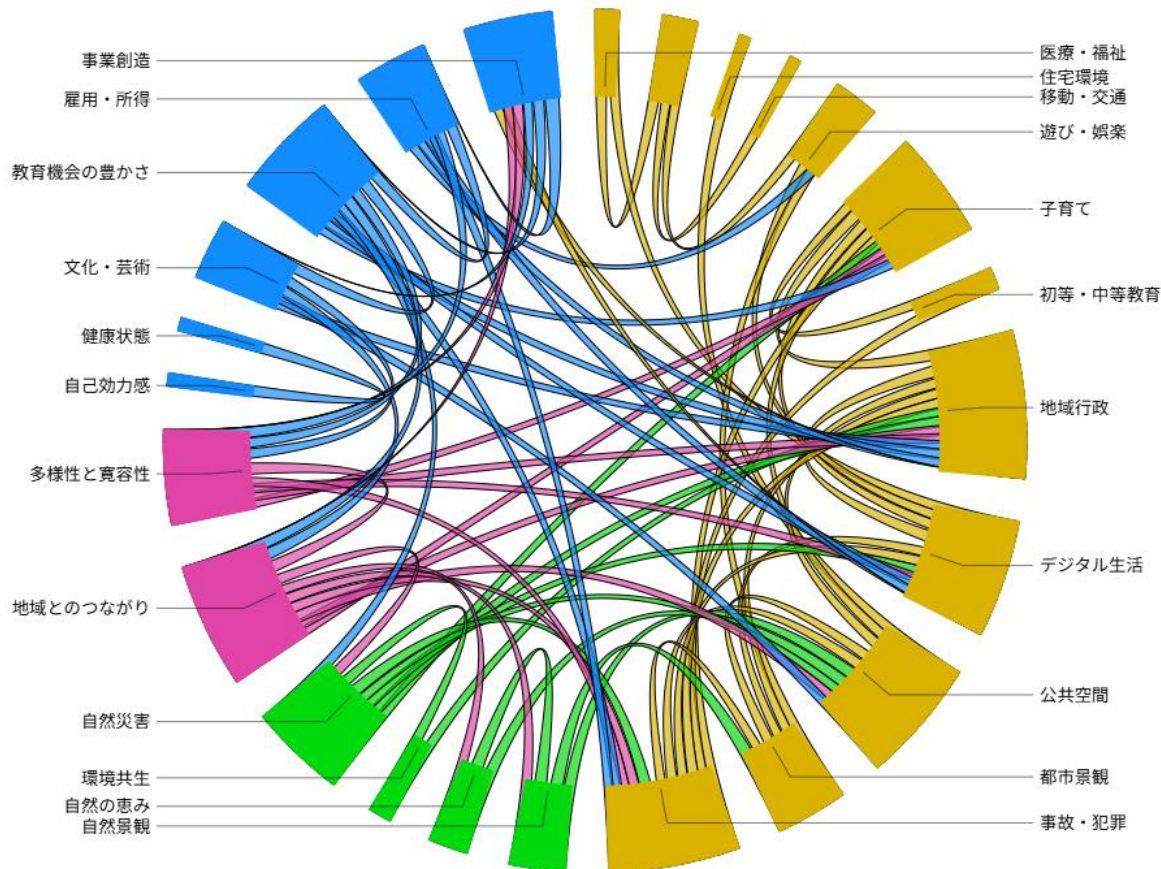
10.1 因子間相関係数（一覧）

- 最も強い相関は雇用・所得と事業創造（0.80）である。次いで、都市景観と自然景観（0.71）、自然景観と自然の恵み（0.68）、地域行政とデジタル生活・地域とのつながりと多様性と寛容性（0.65）の相関が強い。
- 地域行政は様々な因子との相関が高く（相関0.4以上の因子が20）、複数因子をつなぐハブ的な位置にある。
- 一方、自己効力感・健康状態は他因子との相関が比較的低く（大半が0.3未満）、他分野の影響を受けにくい独立性の高い因子である。内面的な充足が他の生活環境要因とは別の経路で高まっている可能性が示唆される。

因子	医療・福祉	買物・飲食	住宅環境	移動・交通	遊び・娯楽	子育て	初等・中等教育	地域行政	デジタル生活	公共空間	都市景観	事故・犯罪	自然景観	自然の恵み	環境共生	自然災害	地域とのつながり	多様性と寛容性	自己効力感	健康状態	文化・芸術	教育機会の豊かさ	雇用・所得	事業創造
01 医療・福祉		0.60	0.29	0.40	0.42	0.48	0.37	0.49	0.51	0.40	0.41	0.45	0.30	0.25	0.40	0.46	0.38	0.42	0.25	0.24	0.37	0.43	0.47	0.44
02 買物・飲食	0.60		0.27	0.52	0.52	0.46	0.36	0.46	0.49	0.39	0.41	0.40	0.26	0.16	0.29	0.38	0.30	0.34	0.20	0.26	0.34	0.43	0.48	0.42
03 住宅環境	0.29	0.27		0.23	0.19	0.38	0.36	0.35	0.26	0.53	0.26	0.36	0.33	0.42	0.30	0.32	0.44	0.25	0.40	0.44	0.38	0.31	0.24	0.26
04 移動・交通	0.40	0.52	0.23		0.46	0.38	0.32	0.40	0.41	0.37	0.32	0.35	0.21	0.15	0.21	0.29	0.26	0.30	0.14	0.21	0.28	0.35	0.37	0.34
05 遊び・娯楽	0.42	0.52	0.19	0.46		0.44	0.32	0.47	0.52	0.38	0.51	0.39	0.37	0.22	0.31	0.40	0.35	0.46	0.18	0.17	0.32	0.46	0.55	0.50
06 子育て	0.48	0.46	0.38	0.38	0.44		0.54	0.64	0.55	0.55	0.48	0.54	0.47	0.37	0.45	0.55	0.52	0.50	0.31	0.32	0.45	0.53	0.48	0.48
07 初等・中等教育	0.37	0.36	0.36	0.32	0.32	0.54		0.50	0.43	0.48	0.38	0.50	0.34	0.30	0.35	0.41	0.43	0.33	0.29	0.26	0.38	0.43	0.34	0.33
08 地域行政	0.49	0.46	0.35	0.40	0.47	0.64	0.50		0.65	0.55	0.53	0.59	0.48	0.43	0.51	0.58	0.55	0.53	0.27	0.30	0.51	0.56	0.54	0.55
09 デジタル生活	0.51	0.49	0.26	0.41	0.52	0.55	0.43	0.65		0.47	0.50	0.55	0.38	0.30	0.48	0.54	0.46	0.51	0.23	0.26	0.42	0.52	0.55	0.53
10 公共空間	0.40	0.39	0.53	0.37	0.38	0.55	0.48	0.55	0.47		0.57	0.58	0.64	0.63	0.45	0.51	0.64	0.45	0.38	0.40	0.51	0.49	0.44	0.44
11 都市景観	0.41	0.41	0.26	0.32	0.51	0.48	0.38	0.53	0.50	0.57		0.51	0.71	0.47	0.44	0.44	0.47	0.50	0.26	0.20	0.48	0.49	0.49	0.48
12 事故・犯罪	0.45	0.40	0.36	0.35	0.39	0.54	0.50	0.59	0.55	0.58	0.51		0.46	0.43	0.48	0.64	0.55	0.51	0.27	0.29	0.47	0.54	0.50	0.50
13 自然景観	0.30	0.26	0.33	0.21	0.37	0.47	0.34	0.48	0.38	0.64	0.71	0.46		0.68	0.46	0.43	0.56	0.47	0.30	0.25	0.50	0.48	0.41	0.40
14 自然の恵み	0.25	0.16	0.42	0.15	0.22	0.37	0.30	0.43	0.30	0.63	0.47	0.43	0.68		0.46	0.38	0.51	0.39	0.34	0.31	0.45	0.41	0.31	0.31
15 環境共生	0.40	0.29	0.30	0.21	0.31	0.45	0.35	0.51	0.48	0.45	0.44	0.48	0.46	0.46		0.56	0.48	0.48	0.26	0.23	0.41	0.44	0.39	0.37
16 自然災害	0.46	0.38	0.32	0.29	0.40	0.55	0.41	0.58	0.54	0.51	0.44	0.64	0.43	0.38	0.56		0.56	0.48	0.24	0.23	0.45	0.52	0.46	0.46
17 地域とのつながり	0.38	0.30	0.44	0.26	0.35	0.52	0.43	0.55	0.46	0.64	0.47	0.55	0.56	0.51	0.48	0.56		0.65	0.40	0.43	0.61	0.59	0.49	0.51
18 多様性と寛容性	0.42	0.34	0.25	0.30	0.46	0.50	0.33	0.53	0.51	0.45	0.50	0.51	0.47	0.39	0.48	0.48	0.65		0.28	0.28	0.55	0.54	0.58	0.58
19 自己効力感	0.25	0.20	0.40	0.14	0.18	0.31	0.29	0.27	0.23	0.38	0.26	0.27	0.30	0.34	0.26	0.24	0.40	0.28		0.61	0.42	0.33	0.28	0.28
20 健康状態	0.24	0.26	0.44	0.21	0.17	0.32	0.26	0.30	0.26	0.40	0.20	0.29	0.25	0.31	0.23	0.23	0.43	0.28	0.61		0.42	0.33	0.25	0.25
21 文化・芸術	0.37	0.34	0.38	0.28	0.32	0.45	0.38	0.51	0.42	0.51	0.48	0.47	0.50	0.45	0.41	0.45	0.61	0.55	0.42	0.42		0.61	0.47	0.50
22 教育機会の豊かさ	0.43	0.43	0.31	0.35	0.46	0.53	0.43	0.56	0.52	0.49	0.49	0.54	0.48	0.41	0.44	0.52	0.59	0.54	0.33	0.33	0.61		0.59	0.60
23 雇用・所得	0.47	0.48	0.24	0.37	0.55	0.48	0.34	0.54	0.55	0.44	0.49	0.50	0.41	0.31	0.39	0.46	0.49	0.58	0.28	0.25	0.47	0.59		0.80
24 事業創造	0.44	0.42	0.26	0.34	0.50	0.48	0.33	0.55	0.53	0.44	0.48	0.50	0.40	0.31	0.37	0.46	0.51	0.58	0.28	0.25	0.50	0.60	0.80	

10.2 因子間相関の弦グラフ

- 本図は、因子間のつながりを可視化したものである。線が多く太い因子ほど、他の多くの因子と連動していることを示す。
- 都市環境群の因子（子育て、地域行政、公共空間など）や地域とのつながりは、群の内外に多数の線を伸ばしており、小郡市のWell-Beingにおける結節点となっている。中でも地域行政と地域とのつながりは接続数が多く、これらの分野への働きかけは他分野へ幅広く波及する可能性が高い。
- まちづくりにおいては結節点となる因子を起点に施策を組み立てることで、相乗効果が期待できる。



※相関係数0.50以上のみを表示

第11章：まちづくりの論点

本章では、アンケート結果およびWell-Being因子分析の結果を踏まえて、まちづくりにおける論点を整理する。

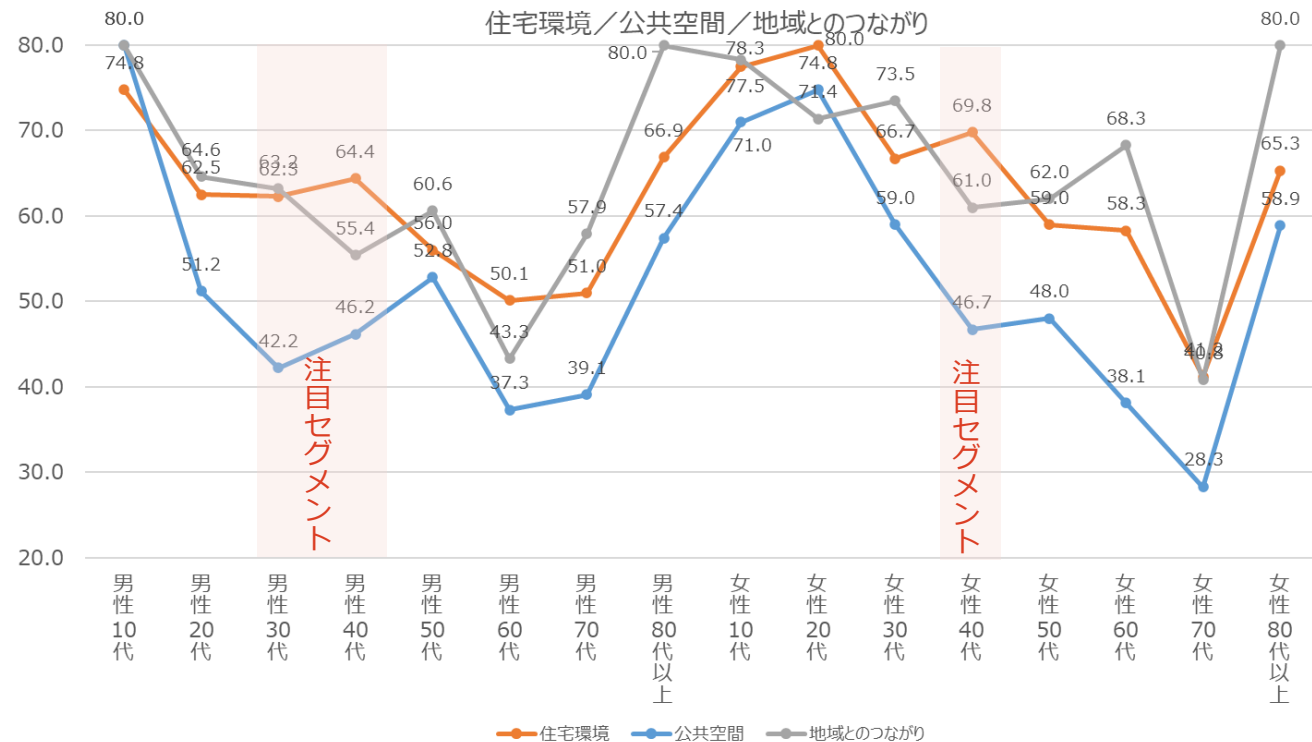
11.1 まちづくりの論点化

- アンケート結果およびWell-Being因子分析の結果を踏まえ、小都市におけるまちづくりの論点を整理する。
- 本分析では、①小都市の強みとして維持・活用すべき因子、②生活満足度との結びつきが強く投資効果が高い因子、という観点から重点的に分析する論点を選定した。

テーマ	① 住宅環境の強みを、定住の流れへ 強みであり、他因子への波及が期待される因子	② 子育て世代の満足度向上に向けて 課題でありながら、投資効果が最も表れやすい因子
特筆すべき分析結果	C5について女性20代が全16セグメント中最高、若年層の暮らしの充足が住まいに表れている 該当スライド：3.1	女性30代でC10が急落、子育て期への移行で生活実感が一斉に沈む 該当スライド：3.2
	今後のまちづくりについて、「快適な住宅・生活環境のまち」が38.5%で2位 該当スライド：6.7	今後のまちづくりについて、「こども・子育て支援や学校教育が充実したまち」が28.9%で3位 該当スライド：6.7
	主観60.8・客観57.1とともに50超は都市環境12因子中で住宅環境のみ、幸福度との相関も0.50と高い 該当スライド：9.2/9.13	主観37.7・客観46.2とともに50未満だが、24因子中で最も回帰直線に近く、政策が主観に反映されやすい 該当スライド：9.13/9.14
	住宅環境は公共空間0.53・地域とのつながり0.44と結び付き、両因子は弦グラフ上の結節点 該当スライド：10.1/10.2	子育ては地域行政0.64・デジタル生活0.55と強く結び付き、地域行政は相関0.4以上が20因子とハブ的存在 該当スライド：10.1/10.2
論点	住宅環境は主観・客観がともに50を上回る唯一の都市環境因子であり、幸福度との相関も0.50と高い、本市の中核的な強みである。一方、この強みは公共空間・地域とのつながりと強く結び付いており、両因子はいずれも客観が50を下回る。象限では「アイデンティティ強化戦略」に該当し、強みをどう維持し、周辺因子へどう広げるかが論点となる。	子育ては主観・客観がともに50を下回るが、生活満足度との相関は0.50と高く、24因子中で最も回帰直線に近い。当事者である30代で評価が急落する一方、同世代が最も強く支援を求めている、期待と実感の乖離が最も大きい分野である。象限では「新規政策・コミュニケーション両輪戦略」に該当し、実態と実感の双方をどう高めるかが論点となる。

11.2.1 論点①：住宅環境の強みを、定住の流れへ（1/5）

- 住宅環境は、主観偏差値60.8・客観偏差値57.1とともに50を上回る「アイデンティティ強化戦略」象限に位置し、幸福度との相関0.50・生活満足度との相関0.48と総合指標との相関も高く、小都市の中核的な強みである。
- 住宅環境、および住宅環境と相関の高い公共空間（0.53）・地域とのつながり（0.44）について性年代別に見ると、3因子とも20代で高く60～70代で低い共通の傾向を示す一方で、男性30代～40代・女性40代では公共空間のみが大きく落ち込む。



※男女ともに10代は母数が少ないため、参考として扱う。

※偏差値は上限を80.0、下限を20.0として補正している。

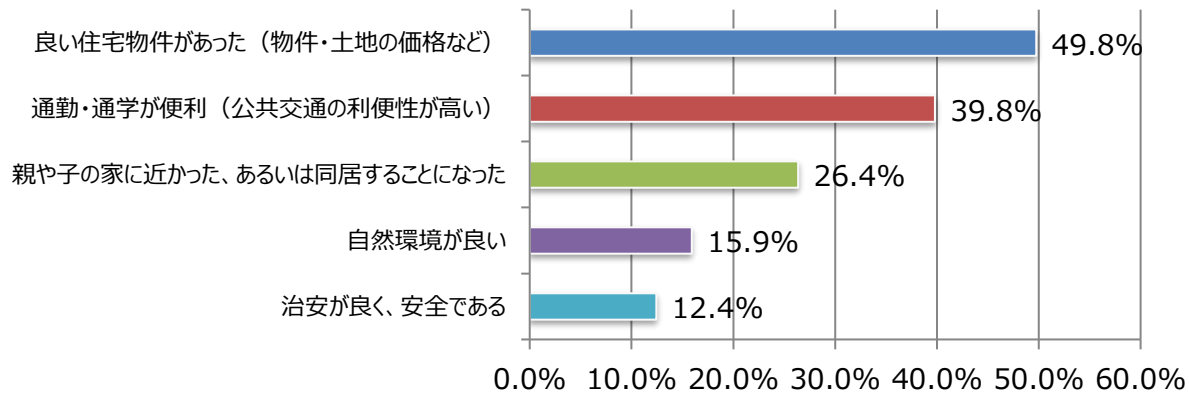
考察

- 3因子とも、20代で高く年代とともに低下し、60～70代で底を打った後に80代以上で反転上昇するという共通の非線形構造を示す。年代による単調な低下ではなく、特定の年代層に谷が存在することが確認できる。
- その谷は、3因子で同一のセグメント（男性60代・女性70代）に現れており、住まい・外出先・地域との関係が、同じ層で同時に希薄化している可能性がある。
- 一方、男性30代～40代・女性40代では、住宅環境が偏差値60台を維持し、地域とのつながりも中位以上にあるにもかかわらず、公共空間のみが偏差値40台前半まで落ち込む。3因子が連動して動く他の年代層とは異なる、この層に固有の傾向である。
- 公共空間は住宅環境（0.53）・地域とのつながり（0.64）との相関が高いにもかかわらず、当該層では両者の水準が乖離している。住まいや地域との関係は一定の水準を保っているが、外で過ごす場所への評価に結びついていない状態にあるといえる。

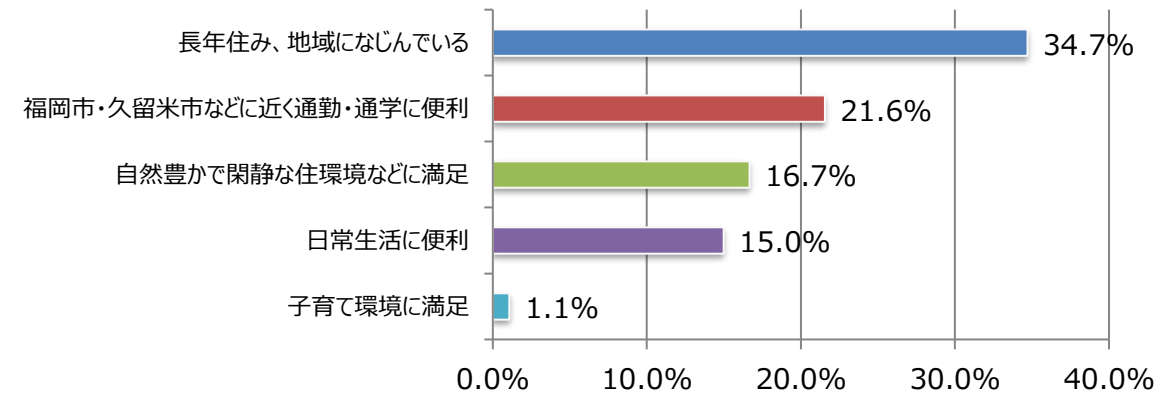
11.2.2 論点①：住宅環境の強みを、定住の流れへ（2/5）

- 転入理由では「良い住宅物件があった」が49.8%と突出し、次いで「通勤・通学が便利」39.8%と続く。住まいそのものの条件と、福岡市・久留米市等への通勤利便性が、転入の主たる動機となっている。
- 一方、定住理由では「長年住み、地域になじんでいる」が34.7%で最も高く、「自然豊かで閑静な住環境などに満足」は16.7%にとどまる。

A10 転入理由（上位5項目 ※その他除く）



F5A 住み続けたい理由（上位5項目 ※その他除く）

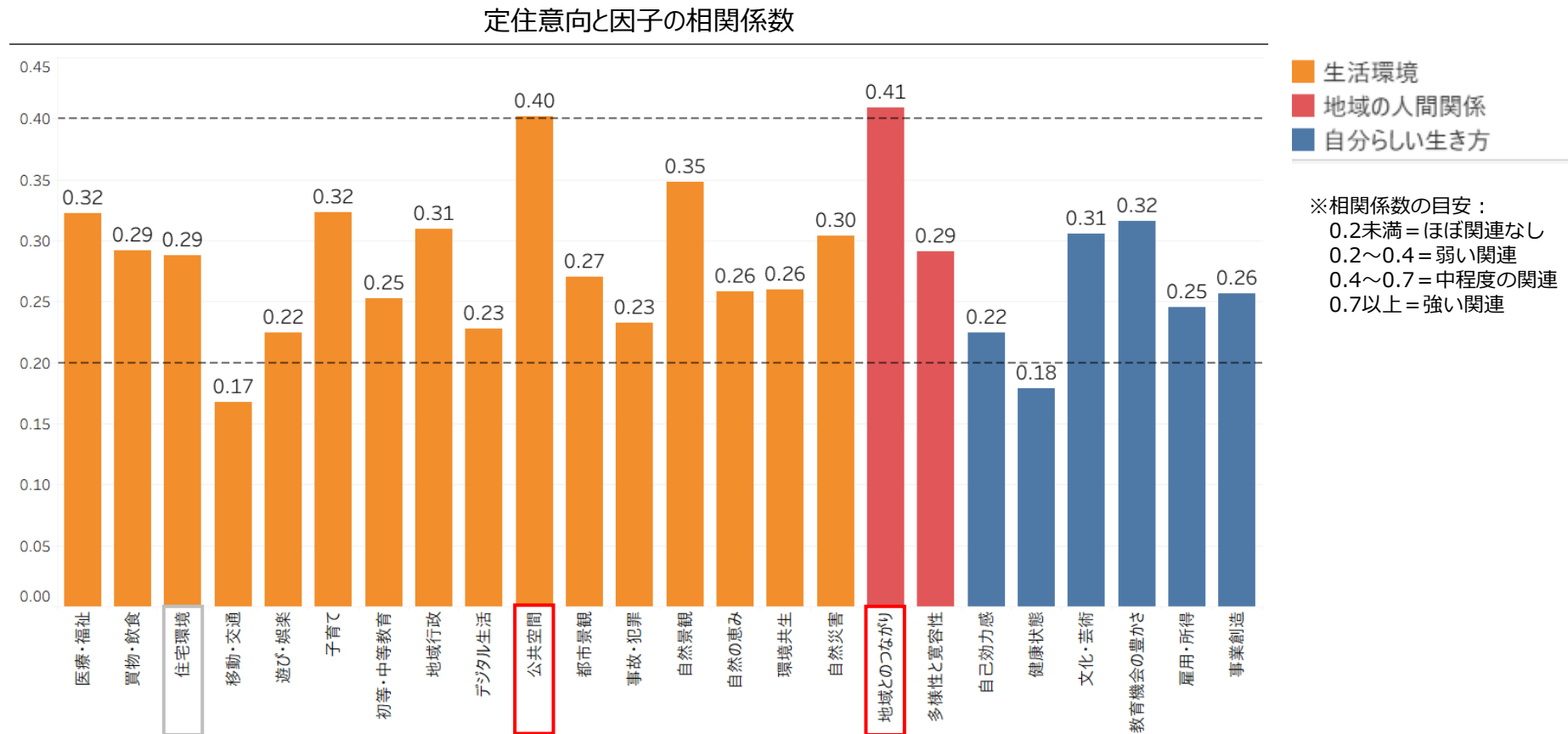


考察

- 転入時に最大の決め手であった住環境は、住み続ける理由としては相対的に比重が下がっている。転入から定住へに移るなかで、住民が小都市に価値を見出す対象が、住まいという個別の条件から、地域とのなじみという関係性へと移行していることがうかがえる。
- 転入理由の上位は住宅物件・通勤利便性・親子の近居と、いずれも転入時点で判断できる条件である一方、定住理由の上位は地域とのなじみと、居住を通じて形成される関係性が中心となっている。両者の性質の違いが、順位の入替わりに表れている。
- なお、「通勤・通学の利便性」は転入理由39.8%・定住理由21.6%と両方の上位に位置しており、福岡市・久留米市への近接性は転入から定住まで一貫して評価されている。

11.2.3 論点①：住宅環境の強みを、定住の流れへ（3/5）

- 定住意向と各因子の相関を見ると、地域とのつながり0.41・公共空間0.40の2因子のみが0.40を超え、24因子の中で最も高い水準にある。一方、住宅環境は0.29と中位にとどまる。転入理由では49.8%と最大の決め手であったにもかかわらず、住み続けるかどうかの判断には直接結びついていない。
- 前段で確認した「転入時の決め手（住まい）から、定住理由（地域とのなじみ）への移行」は、定住意向との相関構造からも裏づけられる。小都市における定住は、住まいの質ではなく、地域との関係性と外で過ごす場所によって支えられているといえる。



11.2.4 論点①：住宅環境の強みを、定住の流れへ（4/5）

- 地域愛着との相関では地域とのつながりが0.54で24因子中1位、住みやすさとの相関では公共空間が0.52で1位となり、それぞれの設問で最も高い水準にある。
- 定住意向（地域とのつながり0.41・公共空間0.40）と合わせ、地域愛着・住みやすさ・定住意向という3つの設問すべてにおいて、この2因子が上位に位置する。小都市での生活への評価を支える中核的な因子であるといえる。
- 地域との関係性が小都市への愛着を生み、公共空間が住みやすさを支え、両者によって小都市への定住意向に結び付いている構造が見て取れる。

地域愛着と因子の相関係数



住みやすさと因子の相関係数

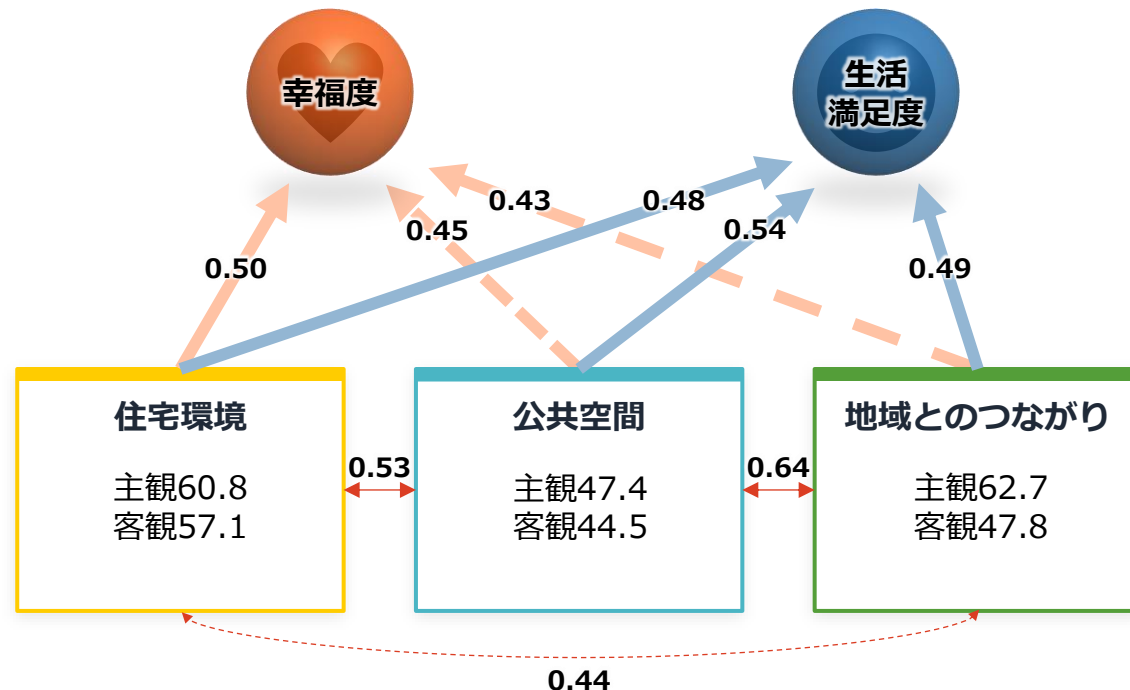


■ 生活環境
■ 地域の人間関係
■ 自分らしい生き方

※相関係数の目安：
 0.2未満＝ほぼ関連なし
 0.2～0.4＝弱い関連
 0.4～0.7＝中程度の関連
 0.7以上＝強い関連

11.2.5 論点①：住宅環境の強みを、定住の流れへ（5/5）

- 住宅環境という強みを転入の受け口として維持しつつ、客観面で課題のある公共空間・地域とのつながりの実態を底上げすることで、定住への流れを確かなものにする。
- 公共空間・地域とのつながりはいずれも生活満足度との結びつきが特に強く、この2因子への投資が小都市のWell-Being向上にも直接的につながる。



起点となる強み

住宅環境（主観60.8・客観57.1）

主観・客観がともに50を上回る強み。

転入理由でも49.8%と最も重視される。

現状・課題認識

- ・強みである住宅環境は転入理由として機能しているが、定住には直接結び付いていない。
- ・定住意向に繋がるのは公共空間・地域とのつながりの2因子だが、いずれも客観偏差値は50を下回り、実態面での投資が必要な領域にある。
- ・男性30代～40代・女性40代は住まい・地域との関係は良好だが、外で心地良い場所が乏しい層である。

取組の方向性

強みを維持する

- ・住宅環境は主観・客観偏差値がともに50を上回る強みであり、転入の受け口として機能している。住宅開発・移住定住策等により、この水準を維持する。

実態を底上げする

- ・公共空間は屋外の居場所づくりを、地域とのつながりは交流機会の充実を通じて、実態を底上げする。
- ・両因子は相関が強く、一方への取組はもう一方にも波及しうる。公共空間を人が集まり交流できる場として整備すること自体が、地域とのつながりを強める機会にもなる。
- ・特に、男性30代～40代・女性40代に対しては、身近に立ち寄れる屋外の居場所を増やすことが、生活実感を大きく引き上げる。

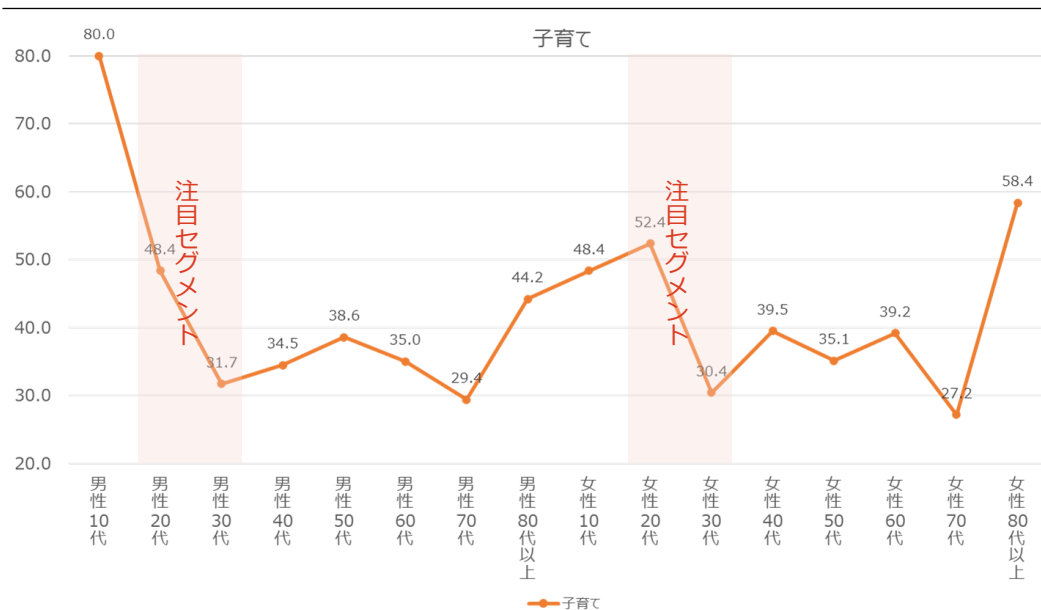
Well-Beingの向上へ

- ・公共空間・地域とのつながりはいずれも生活満足度との結びつきが強く、なかでも公共空間は全24因子中最も強い。この2因子への投資は、暮らしの満足度を最も直接的に押し上げる打ち手といえる。
- ・住宅環境という入口の強みに、公共空間と地域とのつながりという実態の底上げを重ねることで、転入から定住、そして幸福度・生活満足度の向上へとつながる。

11.3.1 論点②：子育て世代の満足度向上に向けて（1/3）

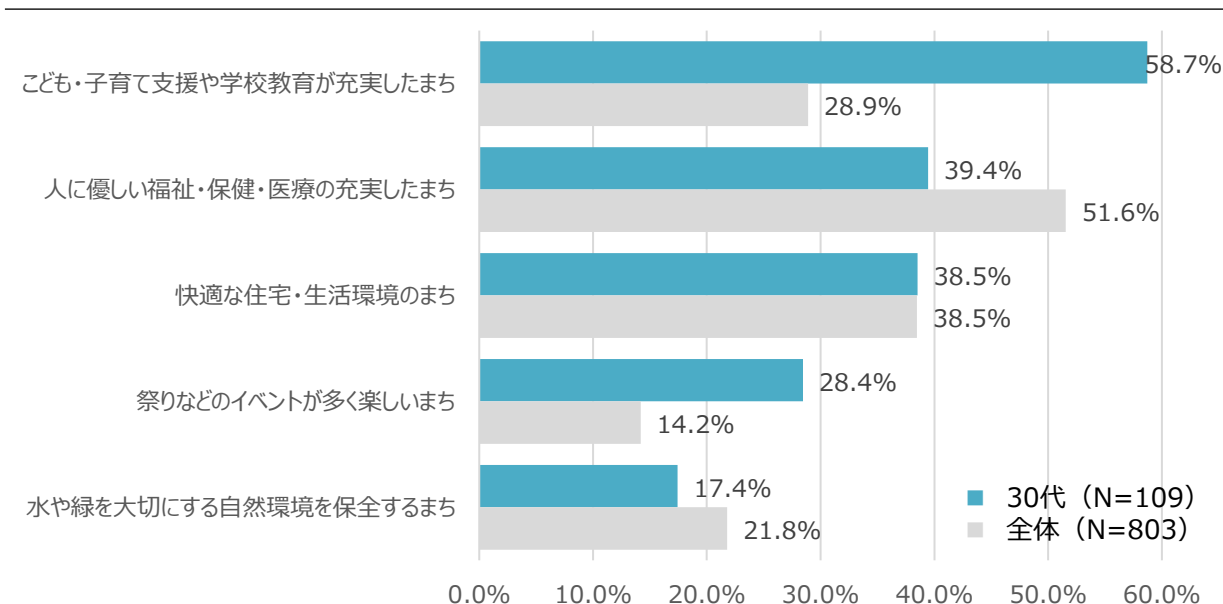
- 子育ては生活満足度との相関が0.50と24因子中上位に入るにもかかわらず、主観偏差値37.7・客観偏差値46.2とともに50を下回っている。一方、主観バイアス分析において回帰直線に最も近く、政策による実態の変化が住民の主観評価にも比較的反映されやすい可能性がある。
- 性年代別では、子育ての主観偏差値は男女とも20代から30代にかけて急落し、当事者世代の評価が突出して厳しい。
- 独自設問F6でも「こども・子育て支援や学校教育が充実したまち」は30代で58.7%と全体28.9%の2倍以上に達しており、当事者世代が子育て環境への課題と期待を強く持っていることがうかがえる。

子育ての主観偏差値（性年代別）



※男女ともに10代は母数が少ないため、参考として扱う。
※偏差値は上限を80.0、下限を20.0として補正している。

F6 今後のまちづくり（30代の上位5項目）



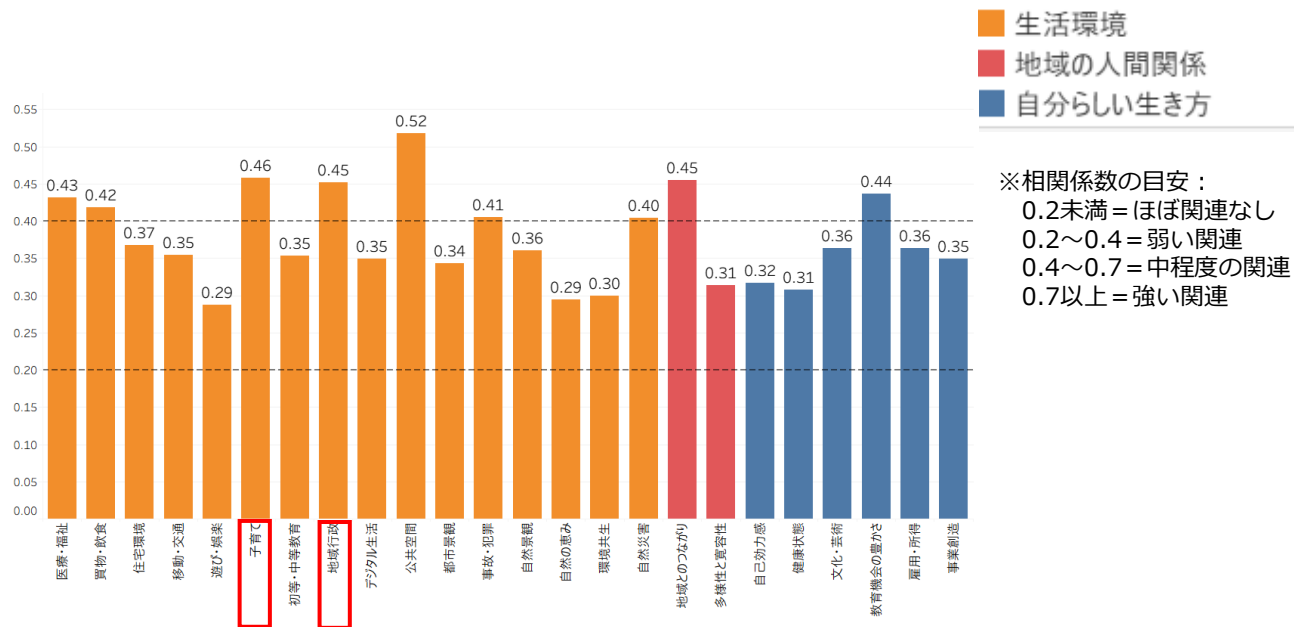
考察

- 子育て因子は20代で高水準にあるが、30代で急落し、同じ30代がF6で子育て支援を最も強く求めている。この急落は結婚や出産前の期待と、実際に子育てを担う段階での負荷とのギャップを反映していると考えられる。

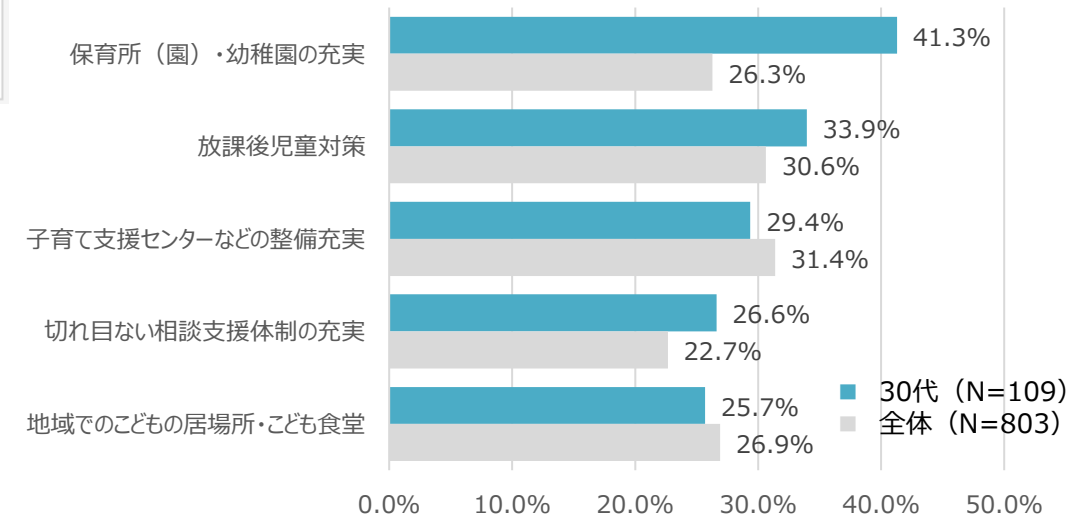
11.3.2 論点②：子育て世代の満足度向上に向けて（2/3）

- 子育て因子は住みやすさとの相関が2番目に高く（0.46）、子育てと相関の高い地域行政（0.64）についても、住みやすさとの相関は3番目に高い（0.45）。
- 独自設問F11では、30代は全体の傾向とは異なり保育施設の充実や放課後児童対策を強く求めている。

住みやすさと因子の相関係数



F11 こども・子育て支援（30代の上位5項目）

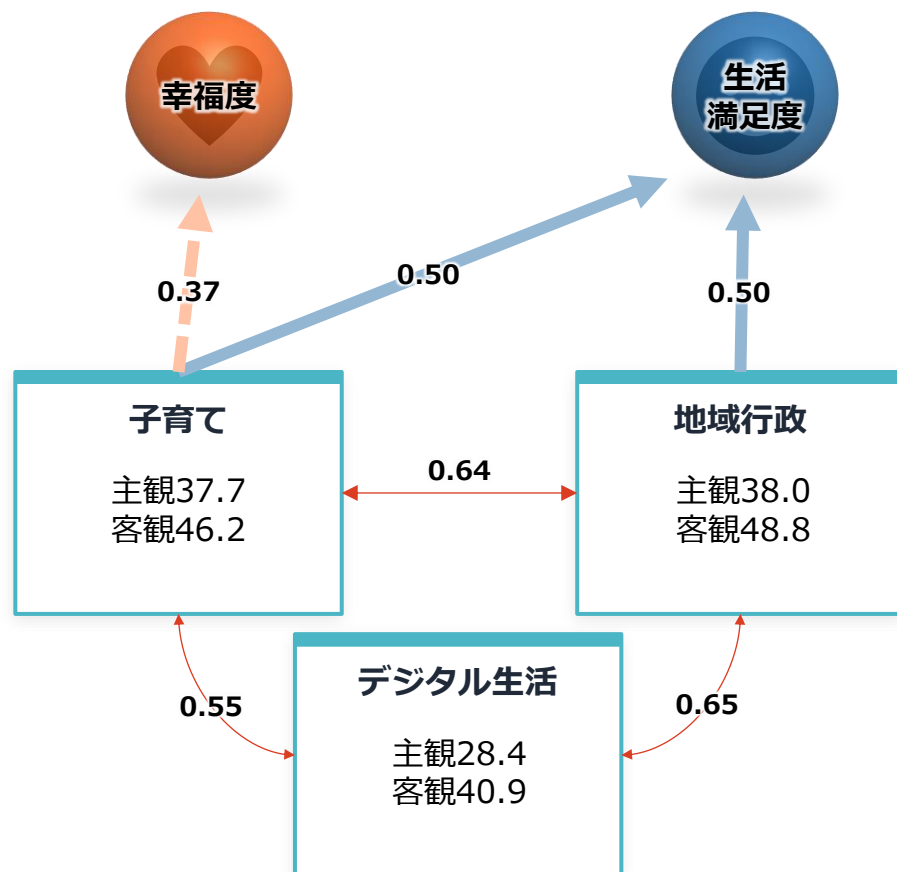


考察

- F11で30代が重視しているのは「保育所（園）・幼稚園の充実」（41.3%、全体比+15.0pt）と「放課後児童対策」（33.9%、同+3.3pt）であり、いずれも共働き世帯が子を預けて働き続けるための施設・体制に関わる項目である。共働き世帯の増加を背景に、保育の受け皿と放課後の居場所が当事者世代にとって切実な課題になっていると考えられる。
- 子育てと地域行政はいずれも住みやすさとの相関が上位に入り（0.46・0.45）、両因子は相関0.64で強く結びついている。子育て支援の内容を検討するだけでなく、「行政が地域のことを真剣に考えているか」「公共施設の使い勝手がよいか」といった地域行政側の取組強化と併せて進めることが、住みやすさの向上に直結すると考えられる。
- また、子育て・地域行政はいずれもデジタル生活との相関が高い（0.55・0.65）。保育・放課後対策の申込や相談を含め、行政サービスのデジタル化を並行して進めることが、子育て世代の負担軽減と評価の向上の両面で効果を持つと考えられる。

11.3.3 論点②：子育て世代の満足度向上に向けて（3/3）

- 子育ては主観・客観ともに50を下回っているが、生活満足度との相関が0.50と24因子中2位であり、かつ主観バイアスの影響が小さいため、投資効果が子育ての主観評価や生活満足度に跳ね返りやすい領域である。
- 子育て・地域行政・デジタル生活は相互に相関が強く、地域行政・デジタル生活を底上げすることが子育て評価の向上にも波及するため、3因子を一体で底上げすることが小郡市のWell-Being向上につながる。



出発点となる課題

子育て（主観37.7・客観46.2）

生活満足度との相関0.50で24因子中2位。
24因子中回帰直線に最も近い。

現状・課題認識

- ・ 子育ては生活満足度との相関が0.50と上位に入るにもかかわらず、主観・客観ともに50を下回る。
- ・ 性年代別では男女とも20代から30代にかけて急落し、当事者世代の評価が特に厳しい。
- ・ 子育てと地域行政はいずれも住みやすさとの相関が上位に入り、両因子への取組は住みやすさの向上にも直結する。

取組の方向性

子育ての具体的なニーズに応える

- ・ 当事者世代が最も求めているのは保育所・幼稚園の充実（41.3%）と放課後児童対策（33.9%）であり、働きながら子育てをするための受け皿整備が急務である。

行政運営・デジタル化と両輪で取り組む

- ・ 子育て環境の充実に加えて、行政サービスの手続きのしやすさや相談・情報提供の質、申込・相談窓口のデジタル化を併せて進めることが、子育て世代の評価向上に直結する。
- ・ 子育て・地域行政・デジタル生活は相関が強く、いずれか一つへの取組は他の2因子にも波及する。地域行政・デジタル生活を底上げすること自体が、子育て世代が実際に施策へアクセスしやすくなる環境づくりにもなる。

Well-Beingの向上へ

- ・ 子育て・地域行政はいずれも生活満足度との相関が高く、かつ因子同士の相関も高いため、あわせて取り組むことで住民の生活満足度向上へ直結しやすいと言える。
- ・ 子育て・地域行政・デジタル生活はいずれも客観偏差値が50を下回っており、実態面での政策的な投資が必要な領域である。3因子を一体で底上げすることが、当事者世代の実感を引き上げ、住みやすさ、そして生活満足度・幸福度の向上へとつながる。

おわりに

- これまでの分析と論点を踏まえ、小郡市のWell-Being向上に向けた今後の方向性を示す。
- 小郡市は住まい・個人の充実という強みと、まちの機能に関する構造的な課題を併せ持つ。強みを核に分野横断で取り組み、市民とともに継続的にWell-Beingを高めていくことが求められる。

■ 本調査から見た小郡市の姿

本調査を通じて、小郡市は「住宅環境」「自己効力感」「健康状態」など私的領域で高い水準の強みを有する一方、「子育て」「公共空間」などまちの機能面に構造的な課題を抱えることが明らかになった。転入理由では住まいが最も重視される一方、定住理由では地域とのなじみが重視されるなど、住民が小郡市に見出す価値は、住まいから地域との関係性へと移行している。

■ まちづくりへの活かし方

本報告書で示した2つの論点は、いずれも単一因子ではなく複数因子の相関構造を踏まえ、政策の縦割りを越えて分野横断的に取り組むことの重要性を示している。論点①は住宅環境という強みを公共空間・地域とのつながりを通じて定住につなげること、論点②は子育てを地域行政・デジタル生活とあわせて底上げすることであり、いずれも後期基本計画の検討材料として活用が期待される。なお、両論点は相関関係から効果が期待されるものであり、因果関係を直接示すものではない点に留意されたい。

■ 継続的な取組に向けて

Well-Beingの向上は、一度の調査や単発の施策で達成されるものではない。本調査はWell-Being指標を用いた初回調査であり、次回調査以降は経年変化の把握が可能になる。継続的な調査により変化を捉え、施策の効果を検証していくことが求められる。



地域創生Coデザイン研究所